諏 訪 ノ 木 遺 跡

―工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

２００５

安中市埋蔵文化財発掘調査団

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、碓氷川の流れに沿って存在する緑豊かな田園都市です。諏訪ノ木遺跡のある大竹地区は柳瀬川流域に広がる水田地帯とこんにゃくを中心とした台地部の畑地帯をもつ農業地帯であると共に、近年、宅地化も進んだ地域であります。

諏訪ノ木遺跡の周辺に縄文時代から中世に至るまでは多数の集落遺跡が発見されており、太古より人々の営みがあった地域として知られています。

今回の発掘調査は民間開発による工場建設工事に伴うものであり、弥生時代と古墳時代を中心とした集落跡が発見されました。特に弥生時代から古墳時代にかけての土器では地元の樽式土器とともに埼玉県北部を中心とする地域で分布する吉ヶ谷式土器と東海地方、北陸地方に分布する土器といった他地域の土器も認められ、ヒト、モノ、情報が広範囲に及んでいることが分かりました。まさに諏訪ノ木遺跡の集落は、弥生時代の伝統をもつとともに次の時代へと進む新たな文化を育む時期を生きた人々の痕跡を残した姿と言えます。

古墳時代では中期から後期にかけて再び集落が営まれます。この頃はすでに稲作を主体とした生業活動が中心となり、農耕社会が形成されゆく時期となります。本遺跡では多数の住居址が発見れ、なかでも住居址の一端に張り出しをもつ珍しい形をしたものも確認されました。

こうした歴史の遺産は、私たちの祖先の歩んできた姿を映すものであり、郷土の歴史として将来へと残していく必要があります。そのためにも今回の成果が、郷土の歴史を学習するために活用されることを願う次第であります。

最後に、発掘調査に協力していただきました須藤電機工業株式会社様をはじめ、発掘調査に従事していただいた方々、調査に際して有益なご助言、ご指導をいただいた多くの方々には厚く御礼申し上げたいと存じます。

平成17年３月

安中市埋蔵文化財発掘調査団

団長　高　橋　重　治

例　　言

1．本書は須藤電機工業株式会社が実施した工場建設に伴う諏訪ノ木遺跡（略称Ｆ－４）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．諏訪ノ木遺跡は安中市大竹字諏訪ノ木1505-１外９筆

3．確認調査、本調査及び遺物整理は原因者負担による委託金により安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　安中市教育長）が実施した。

3．調査期間

確認調査　平成元年10月26日～平成元年11月10日

本調査　　平成２年５月７日～平成２年７月18日

整理期間　調査終了後、平成17年３月31日までの間、断続的に実施した。

4．確認調査は大工原　豊（当時安中市教育委員会社会教育課文化財係主事）、千田茂雄（同）が担当し、本調査を大工原が担当した。遺物整理は大工原、井上慎也（安中市教育委員会文化振興課文化財係主事）が担当した。なお、遺物整理及び図版作成、観察表作成等の一部については、市史編さん事業において実施し、弥生時代については若狭　徹氏（当時市史編さん専門委員）、古墳時代については外山政子氏（当時市史編さん調査委員）の協力を得た。

5．本書の編集は井上が行った。なお、本文については、『安中市史』第４巻で執筆した大工原、若狭氏、外山氏の内容を掲載し、井上が一部加筆訂正、再編集した。文責は井上にある。

6．遺物整理全般及び図面作成は、大工原、若狭氏、外山氏、金井京子、氏家敏子、古立真理子、井上が行った。遺物実測・トレースについては、石器は大工原、弥生土器は若狭氏、古墳時代の土器は外山氏が中心となって行った。弥生土器の観察表は若狭氏の所見をもとに井上が作成した。古墳時代の土器については外山氏が作成した。

7．遺構の写真撮影は、大工原、千田が行った。遺構の航空写真は㈲青高館が行った。遺物の写真撮影は井上が行った。

8．土層の自然化学分析はパリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

8．発掘調査における記録、出土遺物等は安中市教育委員会で保管している。

9．発掘調査及び遺物整理では多くの方々のご協力とご指導をいただきました。心より感謝申し上げます。

10．発掘調査・遺物整理従事者（平成２年度）

新井幸介　新井真弓　小野　始　金井京子　金井武司　清水　正　下マスエ　白石俊子　須藤ダイ　田島かつ子
田島元治　田中利策　田村悦子　多胡　静　多胡　操　中川京子　長岡政江　古立　京　松原鬼長　松本恭子
丸岡民子　宮口卓司　森　由一　山田きの江　山村ヨネ子　湯川光子　和田宏子

目　　次

序
例言
凡例

Ⅰ　調査の経過…… 1
Ⅱ　調査の方法…… 3
Ⅲ　遺跡の地理的・歴史的環境…… 3
Ⅳ　遺構と遺物…… 9
　1　弥生時代の遺構と遺物…… 9
　2　古墳時代の遺構と遺物 …… 56
Ⅴ　成果と問題点 ……126
Ⅵ　諏訪ノ木遺跡の火山灰分析 ……129
写真図版

凡　　例

1．遺構の実測図は１／80を基本としたが、遺構の大きさにより、１／40としたものもある。
2．遺構図のトーンは炉跡及び焼土跡を示す。
2．遺構図中の北マークは磁北である。
3．遺物実測図の縮尺は次のとおりである。
　弥生土器・土師器・須恵器：１／４　土製品・石製品・砥石：１／４
　●は須恵器を示す。トーンは赤色塗彩を示す。
4．土層説明中での記号、略称は次のとおりである。
　土層名称及び量の基準：新版標土色帖による。
　色調＜：より明るい方向を示す（暗＜明）
　しまり、粘性　◎：あり　○：ややあり　△：あまりない　×：なし
　混入物の量　◎：大量（30～50％）　○：多量（15～25％）　△：少量（５～10％）
　　※：若干（１～３％）
　混入物　RP：ローム粒子（溶け込んだ状態）　RB：ロームブロック（固まりの状態）
　　YP：板鼻黄色軽石
7．ピットの深さ　○ ０～19cm　20～30cm　40～59cm　60cm以上
8．住居址番号については時期に関係なく百番台から通番としている。

Ⅰ　調査の経過

1　調査に至る経過

平成元年７月、安中市地域開発対策委員会を通じて須藤電機工業株式会社から安中市大竹字諏訪ノ木地内において工場建設の照会があった。該当地域は周知の埋蔵文化財包蔵地であるため、その旨の回答を行った。その後、建設予定地内の埋蔵文化財の取り扱いについて事業主と市教育委員会で協議を行い、工事に先立ち遺跡の確認調査を実施することになった。同年９月、事業主からの依頼を受け、確認調査を実施し、予定地内全域に弥生時代～平安時代の住居址が多数存在することが確認された。確認調査の結果から、再度協議を行なったが、諸般の事情により計画変更は困難であるとのことから、遺跡が影響を受ける部分について、発掘調査を実施し、記録保存の措置を講ずることになった。

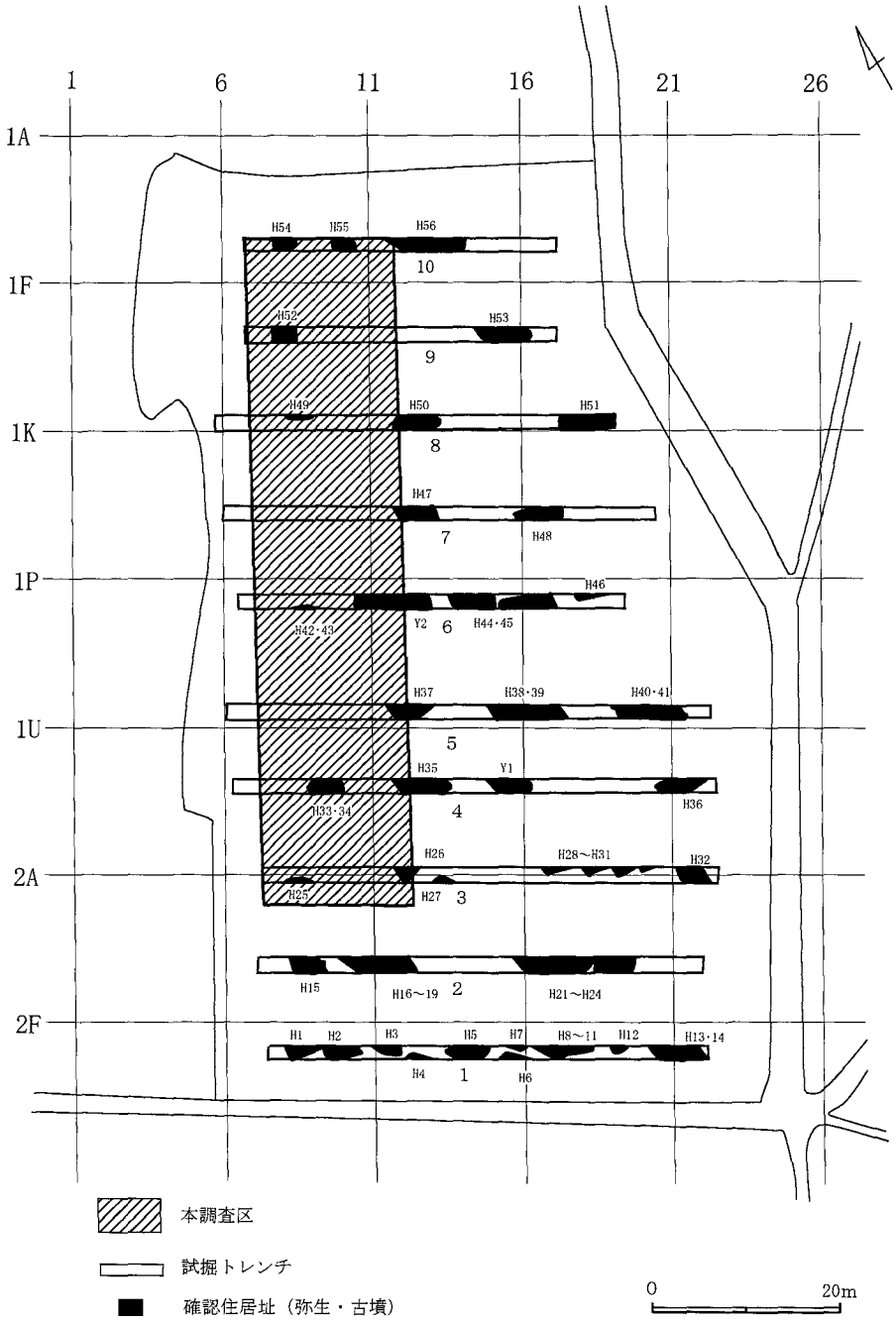
発掘調査は安中市教育委員会が組織する安中市埋蔵文化財発掘調査団（団長　安中市教育長）が実施することになり、平成２年４月、事業主と埋蔵文化財発掘調査委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

2　調査の経過

確認調査は平成元年10月26日から11月10日までの間実施した。確認調査は事業区域内に２ｍ幅のトレンチを10本設定した。調査の結果、計画予定地内で弥生時代から平安時代の住居址が多数検出され、集落跡が存在することが判明した。本調査については工事の影響を受ける建物部分を対象とし、調査区を設定した（第１図）。

本調査は平成２年５月７日から７月18日までの間実施した。調査区全域で弥生時代と古墳時代の遺構が多数検出され、住居址同士の重複関係も認められ、大規模な集落遺跡であることが判明した。遺物整理及び報告書作成は発掘調査終了後から平成17年３月31日まで断続的に実施した。また、遺物整理及び図版作成の一部については市史編さん事業（平成11・12年度）において実施した。

（井上慎也）


1
6
11
16
21
26
1A
1F
1K
1P
1U
2A
2F
H54
H55
H56
10
H52
H53
9
H49
H50
H51
8
H47
7
H48
H46
H42・43
Y2
6
H44・45
H37
H38・39
H40・41
5
H35
Y1
H36
H33・34
4
H26
H28～H31
H32
H25
H27
3
H15
H16～19
2
H21～H24
H1
H2
H3
H5
H7
H8～11
H12
H13・14
H4
1
H6
本調査区
試掘トレンチ
確認住居址（弥生・古墳）
0
20m

第１図　調査区設定図

II　調査の方法

調査区の設定は、工事によって遺跡が影響を被るとされる建物予定地を対象とした。グリッドはバックホーにより表土を掘削した後、試掘トレンチ及び建物位置を基準として設定した。１グリッドは４ｍ×４ｍで北西隅を基点とし、北から南へアルファベットでＡ、Ｂ、Ｃ……、西から東へ算用数字で１、２、３……と呼称することにした。

発掘調査は、まず、バックホーにより表土を掘削し、その後、人力により遺構、遺物の確認作業を実施した。確認された遺構については順次精査を行った。遺構の記録では平板測量による遺構平面図を作成した。各遺構の土層堆積状況は通常の方法で作成した。出土した遺物は遺構、層位毎に記録して取り上げ、住居址については遺物分布図及び微細図を作成し、層位毎に台帳に記録して取り上げた。検出された遺構の土層断面及び全景については必要に応じて写真撮影を行い、遺跡の全景は航空写真により撮影した。

遺物整理では各種遺構の平面図、遺物分布図、土層断面図、遺構断面図、観察表を作成した。各種遺物については実測図と観察表を作成した。遺物の写真撮影はデジタルカメラを使用して行った。また、各種トレース及び図版、写真編集の一部にはパソコン、スキャナー等のデジタル情報処理機器を利用して作業を行った（OS：Microsoft Windouws XP　主な使用ソフト：㈱ジャストシステム一太郎12・花子９・三四郎９及び Adobe Illustrator9.0・Photoshop Elements）。

（井上慎也）

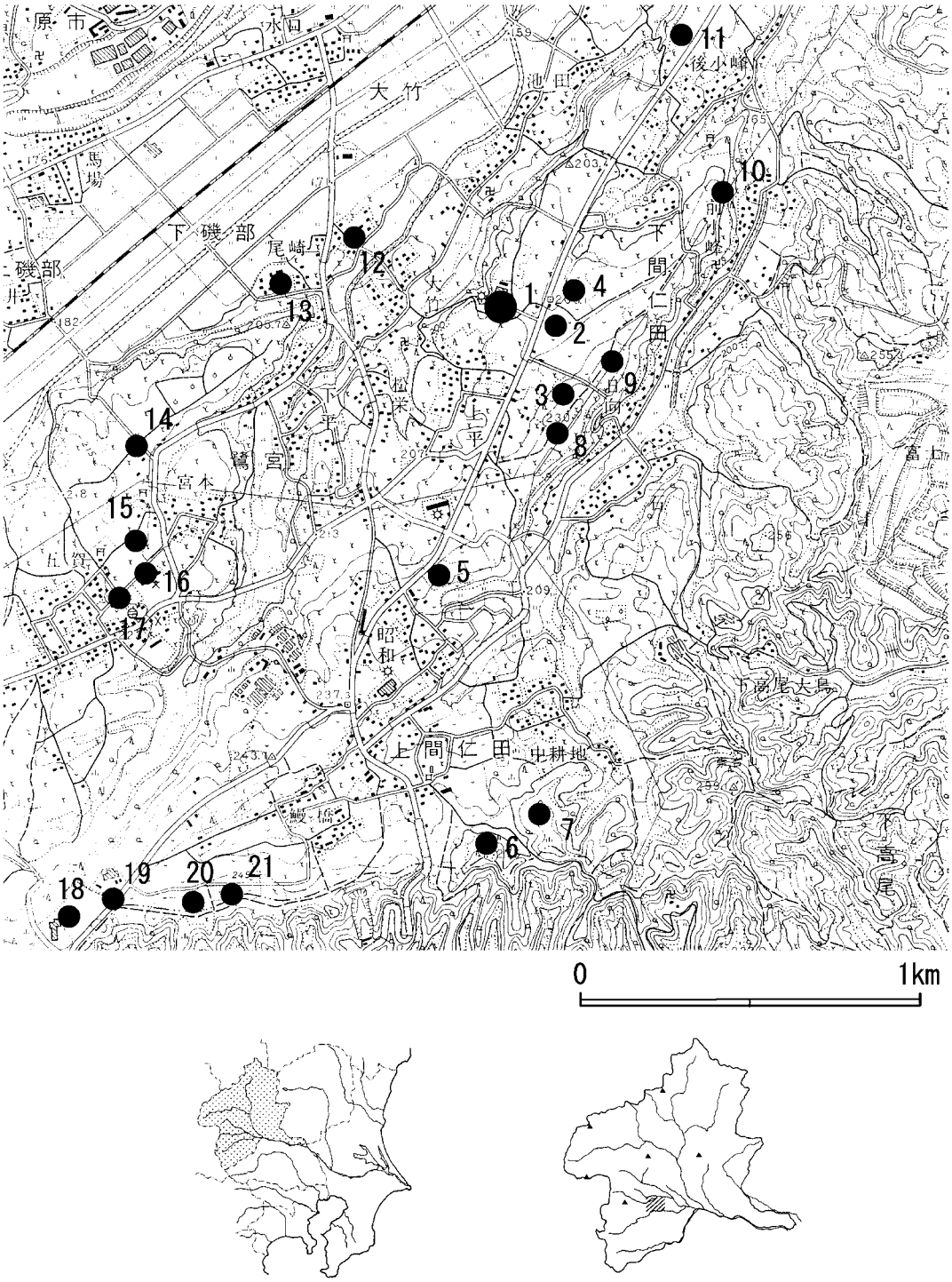
III　遺跡の地理的・歴史的環境

１　地理的環境

諏訪ノ木遺跡は安中市大竹字諏訪ノ木地内に所在する。本遺跡は碓氷川南岸の上位段丘上に位置する。遺跡がある台地西側は猫沢川によって開析され、北東方向に延びる舌状台地を形成している。その台地中央の西側縁辺に遺跡が展開し、北西方向に猫沢川の谷地を望む場所である。標高は207～209mである。東に隣接して蔵畑遺跡、下原・賽神遺跡が存在する。

地質学的に間仁田地区には地震跡を示す地割れや断層が広く分布する地域である。地割れなどの遺構は諏訪ノ木遺跡、道前久保遺跡、蔵畑遺跡、下原・賽神遺跡、上北平遺跡、峯地区、山峰遺跡で確認されている。これらの地割れは地層の年代から判断して、縄文時代～平安時代の間に数回発生したものと推定される。本遺跡では古墳時代後期の住居址床面に亀裂（地割れ）が確認されている。

（外山政子・井上慎也）


原市
水口
大竹
池田
後小峰
馬場
下磯部
磯部
尾崎
下間仁田
上平
松栄
鷺宮
宮本
五賀
昭和
上間仁田
中耕地
鰻橋
下高尾大島
高尾
富士
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
0
1km

第２図　周辺遺跡分布図

2　歴史的環境

本遺跡は弥生時代後期～古墳時代前期と古墳時代中期後葉～後期にかけての集落遺跡である。遺跡周辺には本遺跡と同時期及び時期的に補完関係のある弥生時代から平安時代までの蔵畑遺跡、下原・賽神遺跡、蔵畑II遺跡、日向後原遺跡、山峰遺跡、道前久保遺跡が存在する。これらの遺跡は「蔵畑・諏訪ノ木遺跡群」としてとらえられる。

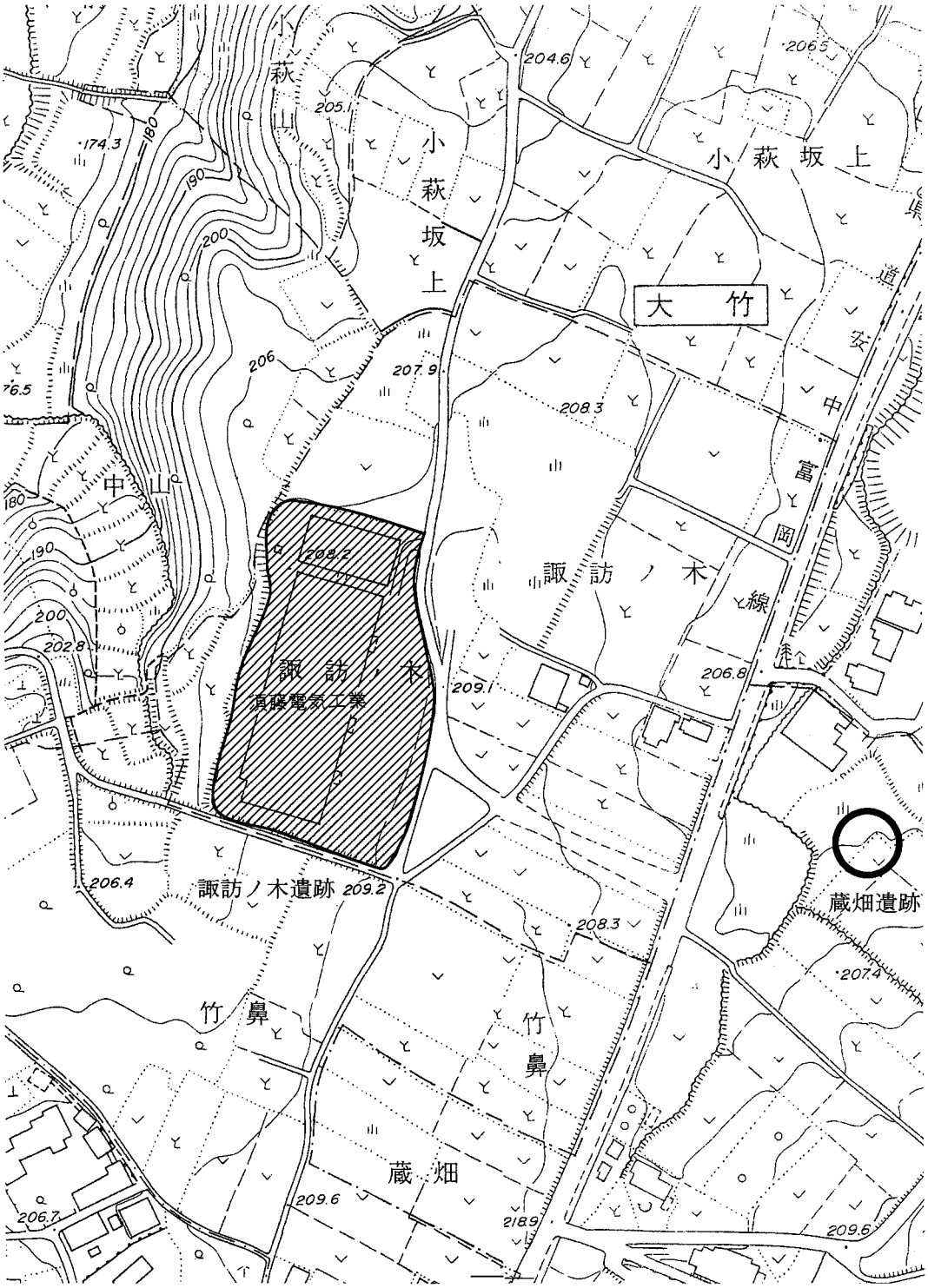
縄文時代では集落跡である道前久保遺跡・同II遺跡（前期・後期）がある。弥生時代では諏訪ノ木遺跡、下原・賽神遺跡、山峰遺跡において集落跡が確認されている。古墳時代では前期末の居宅の堀とされる溝が発見された蔵畑遺跡、中期の石製模造品が出土した経塚古墳がある。奈良時代の遺跡は少なく、平安時代では墨書土器や石帯等公的性格の強い集落跡である蔵畑II遺跡、下原・賽神遺跡がある。中世では、遺跡の東南に鎌倉時代の所産と推定される聖明観音の石造物かある。また、戦国期の山城である天王山城も遺跡南の山頂部に存在する。

（井上慎也）

	遺跡名	旧	縄文						弥生		古墳				奈良	平安	中世	近世
			草	早	前	中	後	晩	中	後	前	中	後	終				
1	諏訪ノ木									○	◎		◎		＊			
2	蔵畑										○	○	○					
3	蔵畑II															◎		
4	下原・賽神									◎	○		◎			◎		
5	道前久保・同II				◎	○	○								○	○		
6	経塚古墳											◎						
7	天王山城																◎	
8	日向後原										◎					○		
9	野毛良										＊		○	○	○	○		
10	山峰				○	＊				○								
11	三本松								＊									
12	座光寺館址																◎	
13	尾崎館址																◎	
14	荒神平・吹上				△	◎	○			◎	◎	○	◎		◎	◎		
15	上ノ久保					◎	○			◎			◎		◎	◎	○	
16	桜林															◎		
17	五ヶ															◎		
18	注連引原				◎			△	◎									
19	注連引原II	＊			◎	＊	△	△	◎	△	◎					○	△	
20	大上					○			◎							△		
21	日影															△		△

◎：大規模な遺跡（集落跡・古墳等）　○：中規模な遺跡（住居址・牧関連等）
△：小規模な遺跡（土坑・溝等）　＊：遺物が出土した遺跡

第１表　周辺遺跡一覧

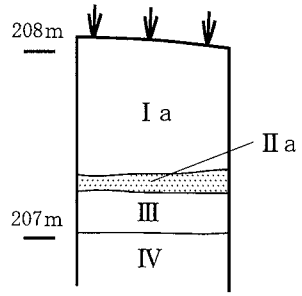

小萩山
小萩坂上
小萩坂上
大竹
中山
諏訪ノ木
諏訪ノ木
真藤電気工業
諏訪ノ木遺跡
蔵畑遺跡
竹鼻
竹鼻
蔵畑
富岡線
安中
204.6
206.5
205.1
174.3
180
190
200
206
207.9
208.3
208.2
202.8
206.8
209.1
206.4
209.2
208.3
207.4
209.6
206.7
218.9
209.6

第3図　遺跡位置図

3　層序

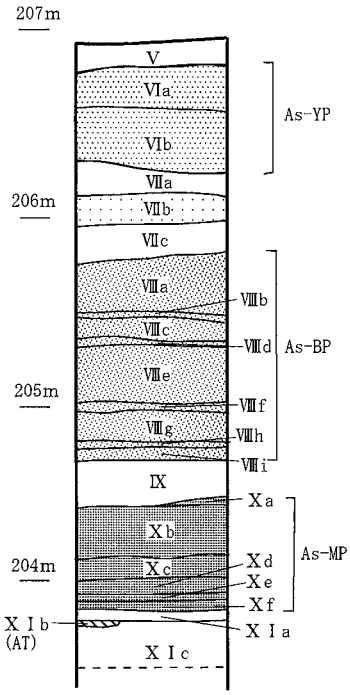
本遺跡の土層堆積は第４図のとおりである。表土中には浅間Ａ軽石層（1783年）と浅間Ｂ軽石層（1108年）の堆積及び混入が観察される。遺構確認面はⅣ層上面である。なお、調査区南側（１Ｂ―10グリッド）で深堀トレンチを設定し、ローム層中のテフラ分析を実施した。分析結果は自然化学分析を参照されたい。

（井上慎也）



Ｒ－７ｸﾞﾘｯﾄﾞ（Ｈ－119住付近）

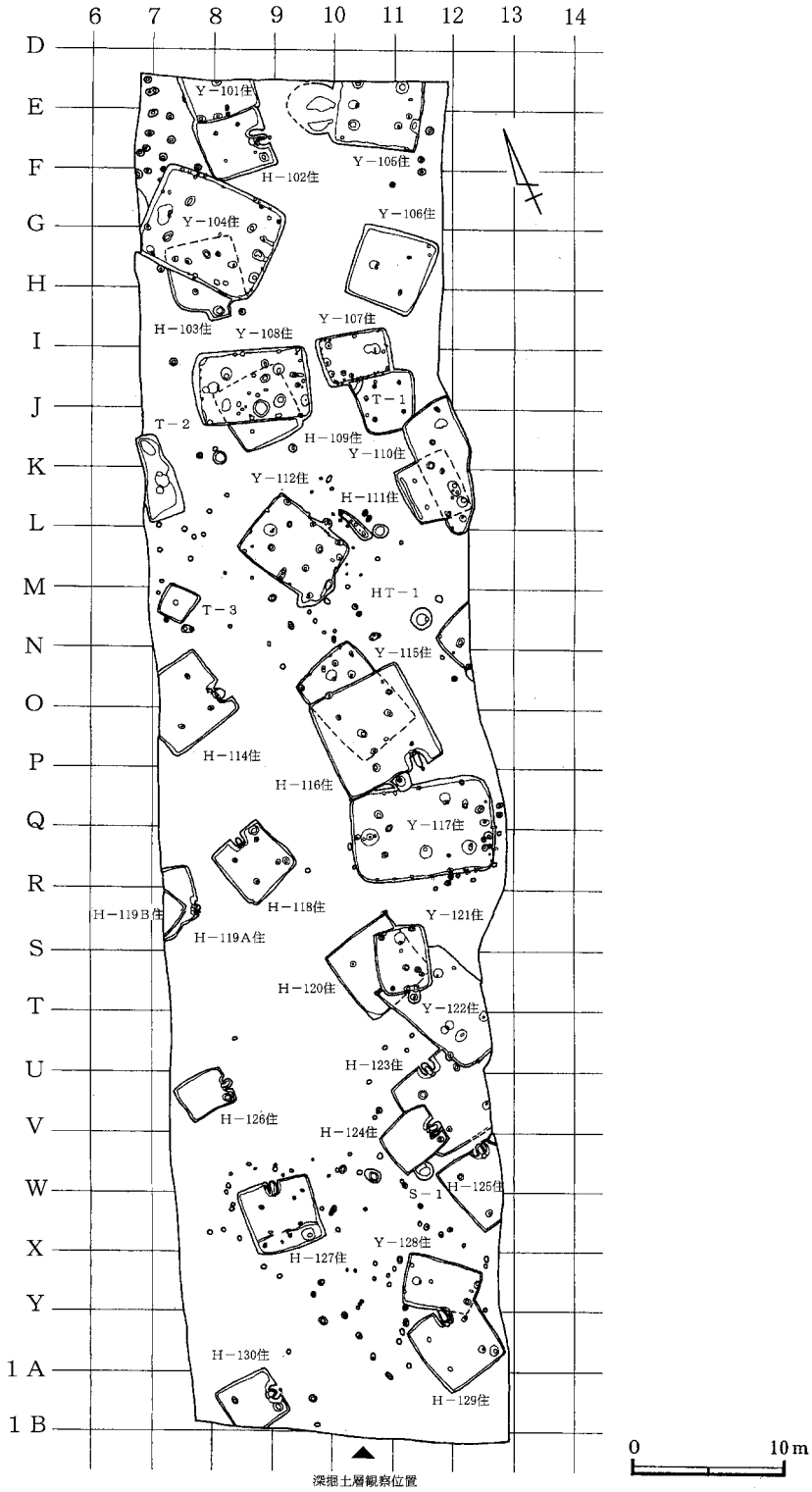
層名	色調	しまり	粘性	混合物					備考
				ＲＰ	ＲＢ	ＹＰ	As-A	As-B	
Ⅰa　黒褐色土層		△	△				○		
Ⅰb　灰白色軽石層	Ⅰa＜Ⅰb	×	×				◎		Ａ純層
Ⅱa　黒色土層	Ⅰb＞Ⅱa	△	○					○	
Ⅱb　灰褐色軽石層	Ⅱa＜Ⅱb	×	×					◎	Ｂ純層
Ⅲ　黒色土層	Ⅱb＞Ⅲ	△	○						
Ⅳ　暗褐色土層	Ⅳa＞Ⅳ	○	○	※					
Ⅴ　暗黄褐色土層	Ⅳ＜Ⅴ	◎	◎	◎	◎				



Ｂ－10ｸﾞﾘｯﾄﾞ

層名	色調	しまり	粘性	混合物				備考
				ＹＰ	ＳＰ	ＢＰ	ＭＰ	
Ⅵa　黄色軽石層	Ⅴ＜Ⅵa	×	×	◎				As-YP
Ⅵb　黄色軽石層	Ⅵa＜Ⅵb	×	×	◎				As-YP
Ⅶa　褐色粘質土層	Ⅵb＞Ⅶa	◎	◎					
Ⅶb　褐色粘質土層	Ⅶa＜Ⅶb	◎	◎		※			As-SP
Ⅶc　褐色粘質土層	Ⅶb＞Ⅶc	◎	◎					
Ⅷa　褐色軽石層	Ⅶc＞Ⅷa	○	×			◎		BP純層
Ⅷb　灰黄褐色土層	Ⅷa＜Ⅷb	○	△			○		土壌化
Ⅷc　褐色軽石層	Ⅷb＞Ⅷc	○	×			◎		BP純層
Ⅷd　灰黄褐色土層	Ⅷc＜Ⅷd	○	△			○		土壌化
Ⅷe　褐色軽石層	Ⅷd＞Ⅷe	○	×			◎		BP純層
Ⅷf　灰黄褐色土層	Ⅷe＜Ⅷf	○	△			○		土壌化
Ⅷg　褐色軽石層	Ⅷf＞Ⅷg	○	×			◎		BP純層
Ⅷh　灰黄褐色土層	Ⅷg＜Ⅷh	○	△			○		土壌化
Ⅷi　暗黄褐色軽石層	Ⅷh＞Ⅷi	○	×			◎		BP純層
Ⅸ　暗褐色土層	Ⅷi＜Ⅸ	○	○				△	
Ⅹa　灰褐色軽石層	Ⅸ＜Ⅹa	△	×				◎	MP純層
Ⅹb　褐色軽石層	Ⅹa＞Ⅹb	△	×				◎	MP純層
Ⅹc　灰褐色軽石層	Ⅹb＜Ⅹc	△	×				◎	MP純層
Ⅹd　灰白色軽石層	Ⅹc＜Ⅹd	△	×				◎	MP純層
Ⅹe　灰褐色土層	Ⅹd＞Ⅹe	△	○				○	土壌化
Ⅹf　灰白色軽石層	Ⅹe＜Ⅹf	△	△				◎	
ⅩⅠa　暗灰褐色粘土層	Ⅹf＞ⅩⅠa	○	◎					
ⅩⅠb　白色火山灰層	ⅩⅠa＜ⅩⅠb	×	×					AT純層
ⅩⅠc　暗灰褐色粘土層	ⅩⅠa＜ⅩⅠc	◎	◎					

第４図　基本層序柱状図



第５図　諏訪ノ木遺跡全体図

Ⅳ　遺構と遺物

弥生時代後期終末から古墳時代前期の竪穴住居址14軒、古墳時代中期後葉から後期の竪穴住居址17軒、掘立柱建物址１棟、竪穴状遺構２基を検出した。なお、本報告では古墳時代前期については、弥生時代終末との継続性をもつことから弥生時代に含めて報告する。時期については弥生Ｖ３期（樽式期）、古墳Ⅰ期、古墳Ⅱ期に区分した（若狭2001）。

１　弥生時代の遺構と遺物

(1)　遺構（第６図～第19図・第20図～第32図）

住居址は14軒検出された。ここでは主な住居址について報告する。

弥生Ｖ期から古墳Ⅰ期の住居址は長方形プランが主体で、長辺9.6mのＹ―117号住居址、長辺8.7mのＹ―104号住居址を最大級とし、長辺７m規模、長辺５m規模の大別三規格が認められた。

古墳Ⅱ期には住居プランは正方形に転じる。

１．弥生Ｖ３期から古墳Ⅰ期の住居址

住居址：Ｙ―101・104・107・108・110・112・115・117・121・122・128号住

Ｙ―104号住居址（第７図）：長辺8.7mの大型住居である。６本の主柱を有し、中央を除く４本の主柱は、長楕円形の堀方を有し、割材を用いたことが明らかである。Ｙ―117号住居址と同様に、柱抜き取りに伴うロームマウンド（RM）が柱脇に認められた。炉は、北西壁際と北東壁際に存在した。梯子穴は一穴の堀方である。通常の二本柱ではない。一木を削りだし加工した梯子を懸架したものと想定する。

Ｙ―107号住居址（第10図）：長辺が5.0mの小型住居である。主柱は明確ではないが、主軸上に二本の柱穴がみられる。主軸線上に柱を立て、棟梁を支える切妻の上屋形状が想定される。

Ｙ―108号住居址（第11図）：長辺が7.7mの中型住居である。４本柱の主柱と、二穴の梯子穴、二カ所の炉を有する。

Ｙ―117号住居址（第16図）：長辺9.6mの大型住居で、六本の主柱により上屋を支持した住居址である。主柱穴の柱痕は横長の長楕円形を呈している。このことは、主柱に、丸材ではなく、大木の割材を用いたことを示している。主柱の脇には地山ローム土で盛り上がった状態で検出された（RM と表記）。住居廃絶に伴う主柱の抜き取りのため、堀方部を繰り返した際に生じたものと思

われる。炉は、西壁際・その内側の主柱脇・北壁際の３カ所に存在する。東壁際には梯子穴を示す二柱痕が検出された。

２．古墳Ⅱ期の住居址

住居址：Ｙ―105・106号住居址

Ｙ―106号住居址（第９図）：一辺5.1mの中型住居である。４本の主柱と主柱間にある炉一カ所が主な施設である。本住居は焼失家屋であり、炭化材が放射状に遺存していた。

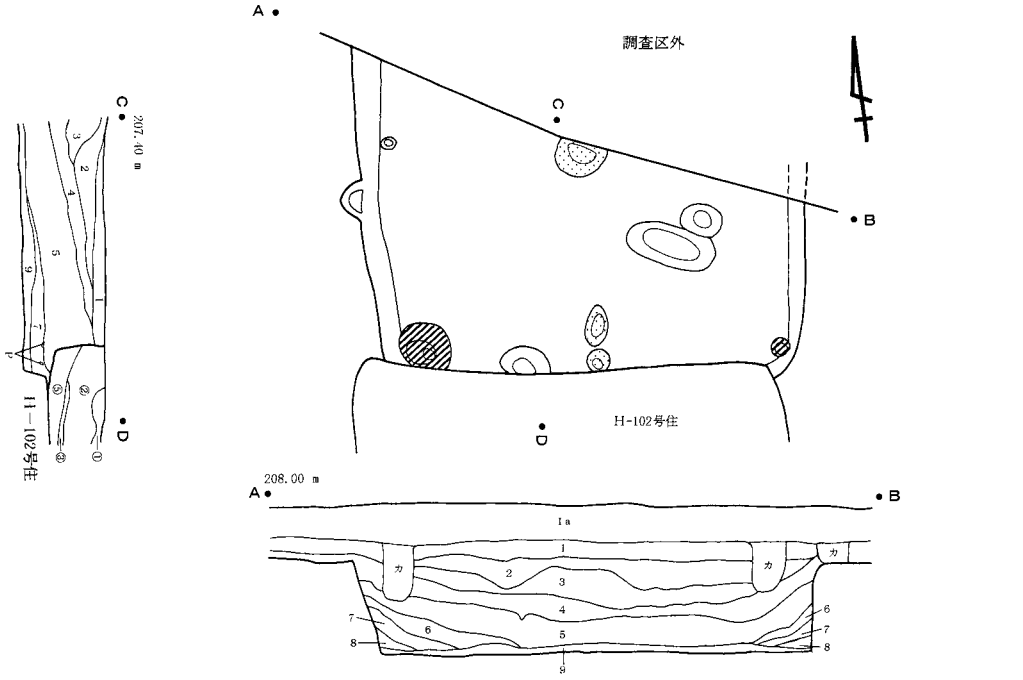
（若狭　徹・井上慎也）

（単位：m）

住居名	平面形態	壁溝	柱穴（本×列）	炉址形態	土坑	規模			入口	主軸方向	備考
						長軸	短軸	深さ			
Ｙ―101	長方形	×	不明	不明		(3.4)	4.7	1.1		N－４°－E	
Ｙ―104	長方形	×	２×３	Ａ２	1	8.8	6.8	0.8	南	N－43°－W	壁際に小ピット
Ｙ―105	方形	○	２×２	Ａ１	1	6.0	(4.4)	0.8	南	N－55°－W	南壁際に土坑
Ｙ―106	方形	○	２×２	Ａ１		5.1	5.1	0.6		N－43°－W	
Ｙ―107	長方形	×	不明	Ａ１・Ｂ１		4.8	3.4	0.8	東	N－105°－E	壁際に小ピット
Ｙ―108	長方形	一部	２×２	Ａ１・Ｂ１	1	7.8	4.4	0.8	東	N－65°－W	
Ｙ―110	長方形	×	不明	Ｂ１		8.8	(3.6)	0.5		N－４°－W	
Ｙ―112	長方形	一部	２×２	Ａ１	1	6.8	4.8	0.6	南	N－29°－W	
Ｙ―113	不明	×	不明	不明		(3.8)	(3.0)	0.3		N－21°－W	
Ｙ―115	長方形	×	２×２	Ａ１・Ｂ１		7.2	4.4	0.6	南	N－18°－W	
Ｙ―117	長方形	○	２×３	Ａ１・Ｂ２		9.5	6.3	0.5	東	N－73°－W	柱抜取り、壁際に小ピット
Ｙ―121	長方形	×	不明	Ａ１		4.4	3.7	0.4	南	N－12°－E	
Ｙ―122	長方形	○	２×３	Ａ１		8.4	5.2	0.2		N－27°－W	
Ｙ―128	長方形	×	不明	Ａ１		5.1	2.5	0.2		N－43°－W	

凡例
Ａ：地床炉で枕石をもつ　Ｂ：地床炉

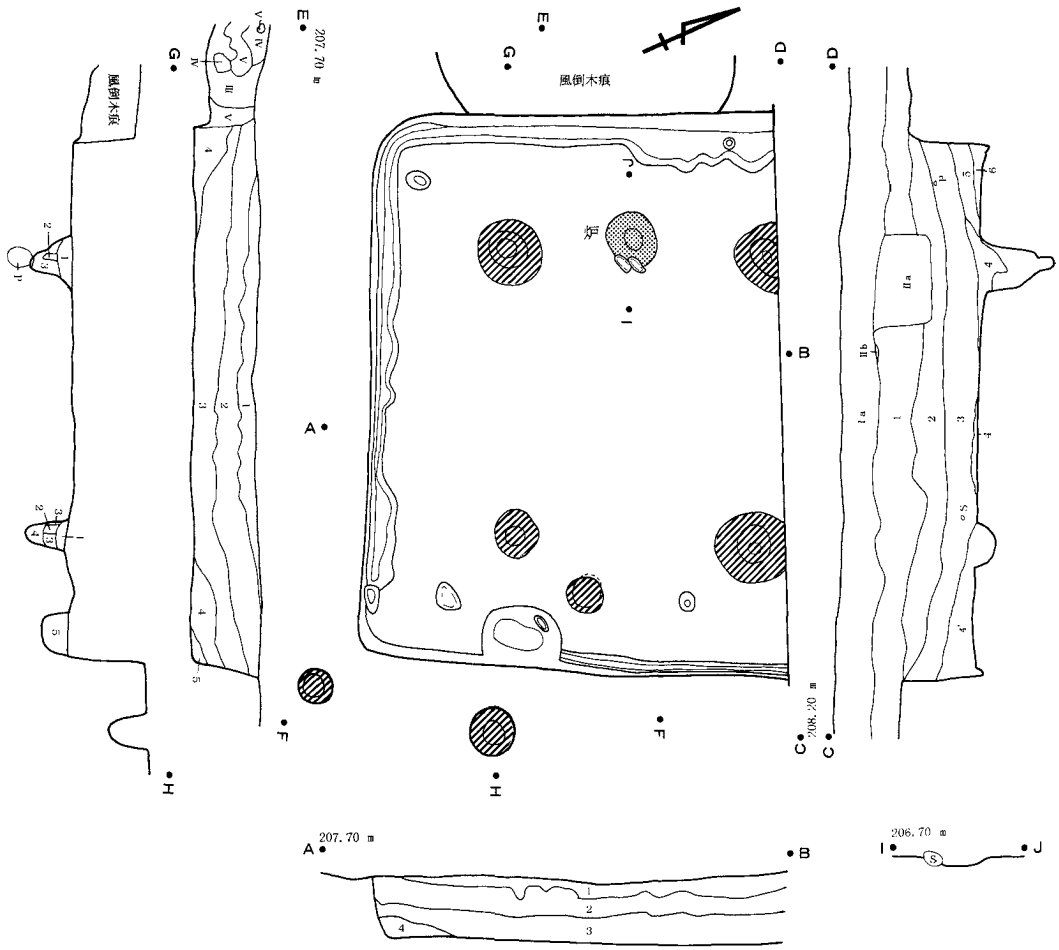
第２表　弥生時代住居址観察表



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒褐色土層		○	○			※		
2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	△	△	△		
3	暗褐色土層	2＞3	○	○	△	※	※		
4	暗褐色土層	3＞4	△	○	△	※	△		○
5	暗黄褐色土層	4＜5	○	○	△	○	○		※
6	暗褐色土層	5＞6	○	○	※	※	※		
7	暗黄褐色土層	6＜7	○	○	○	○	△		
8	暗褐色土層	7＞8	○	○	※	※			
9	暗褐色土層	9＜7	○	○	※	※	△		

0　4 m

第6図　Y―101号住居址実測図



東西セクション

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP
1	黒褐色土層		×	×	※		△	
2	暗褐色土層	1＜2	△	△	○		△	
3	暗褐色土層	2＞3	△	△	△		△	
4	暗黄褐色土層	3＜4	○	○	△	※	△	
5	黒褐色土層	4＞5	○	△	※		※	

ピットセクション

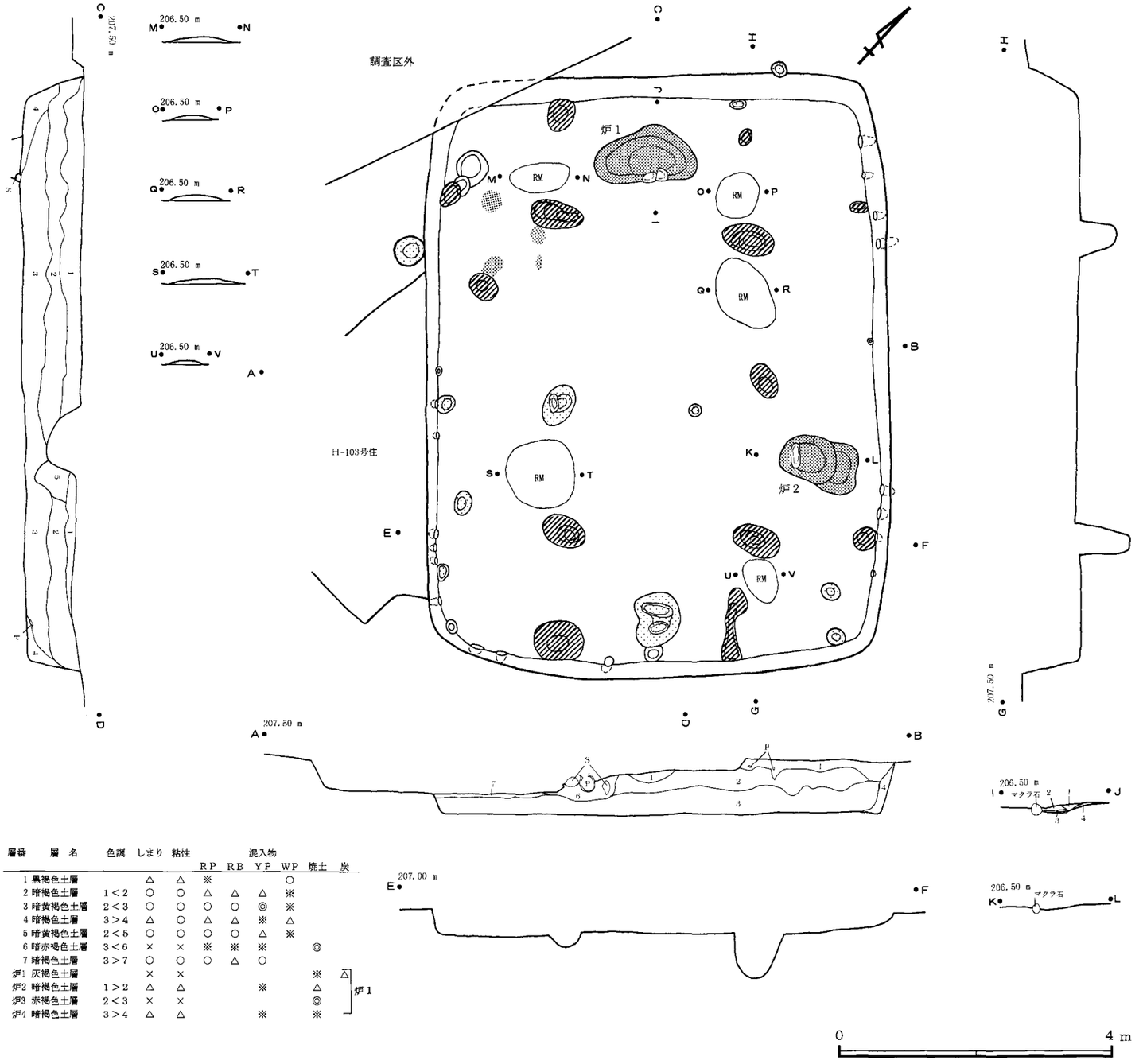
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP
1	黒褐色土層		△	△	※		△	
2	黒褐色土層	1＜2	△	△			※	
3	暗褐色土層	2＜3	△	△	○	△	△	
4	暗黄褐色土層	3＜4	△	○	◎	◎	◎	
5	黒褐色土層		△	○		△	○	

北壁セクション

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	備考
1	黒褐色土層		○	○			※	※	Ⅲ層
2	暗褐色土層	1＜2	○	○	△	△	△		
3	黒褐色土層	2＞3	○	○	※	※	△		
4	黒褐色土層	3＞4	△	△	※	※	△		
4'	黒褐色土層	3＜4'	○	○	△	△	△		
5	暗黄褐色土層	3＜5	△	○	○	○	○		
6	黒褐色土層	5＞6	○	○	※	※	※		

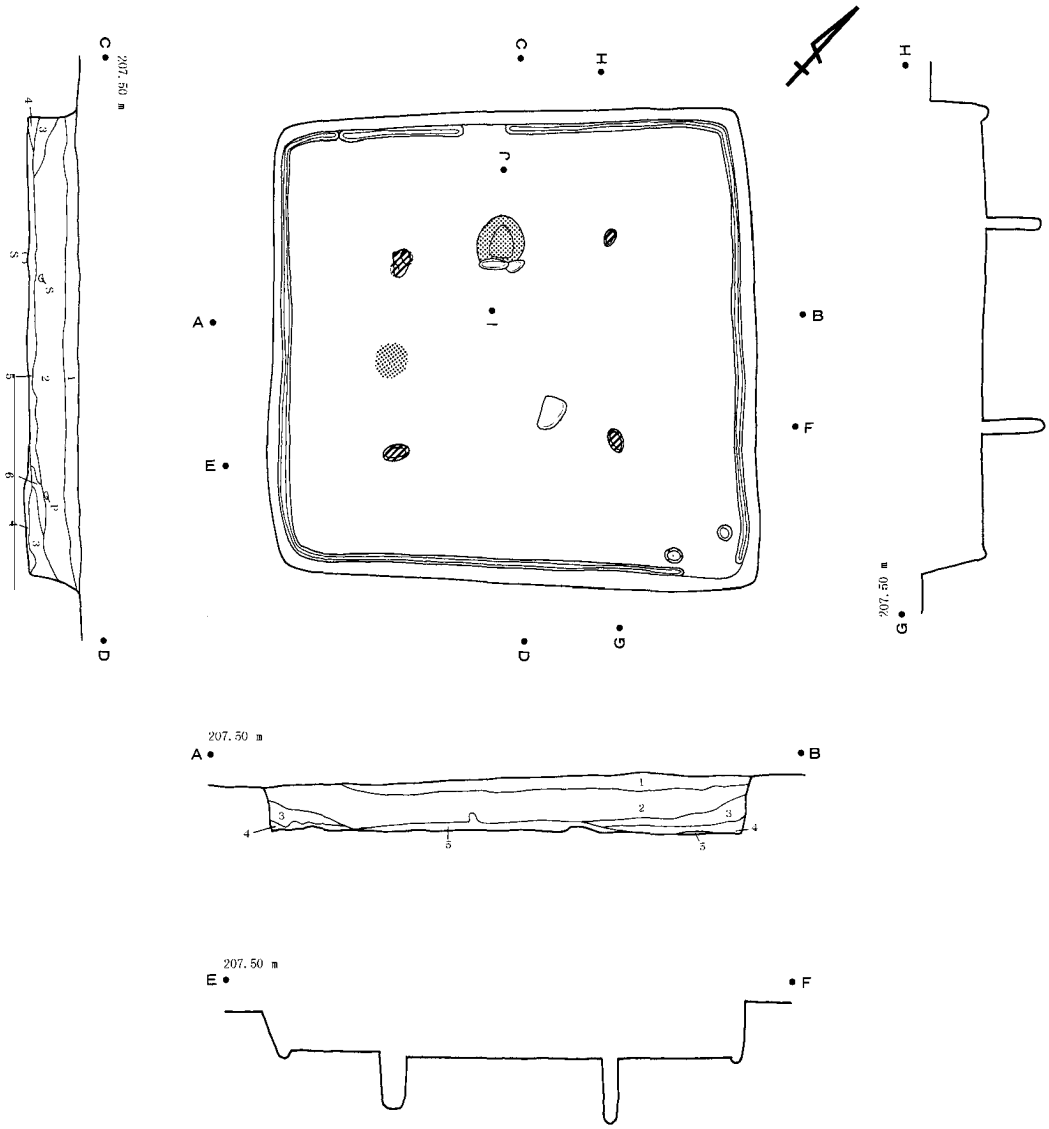
0　　4 m

第７図　Ｙ―105号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	焼土	炭
1	黒褐色土層		△	△	※			○		
2	暗褐色土層	1＜2	○	○	△	△	△	※		
3	暗黄褐色土層	2＜3	○	○	○	○	◎	※		
4	暗褐色土層	3＞4	△	○	△	△	※	△		
5	暗黄褐色土層	2＜5	○	○	○	○	△	※		
6	暗赤褐色土層	3＜6	×	×	※	※	※		◎	
7	暗褐色土層	3＞7	○	○	○	△	○			
炉1	灰褐色土層		×	×					※	△
炉2	暗褐色土層	1＞2	△	△			※		△	炉1
炉3	赤褐色土層	2＜3	×	×					◎	
炉4	暗褐色土層	3＞4	△	△			※		※	

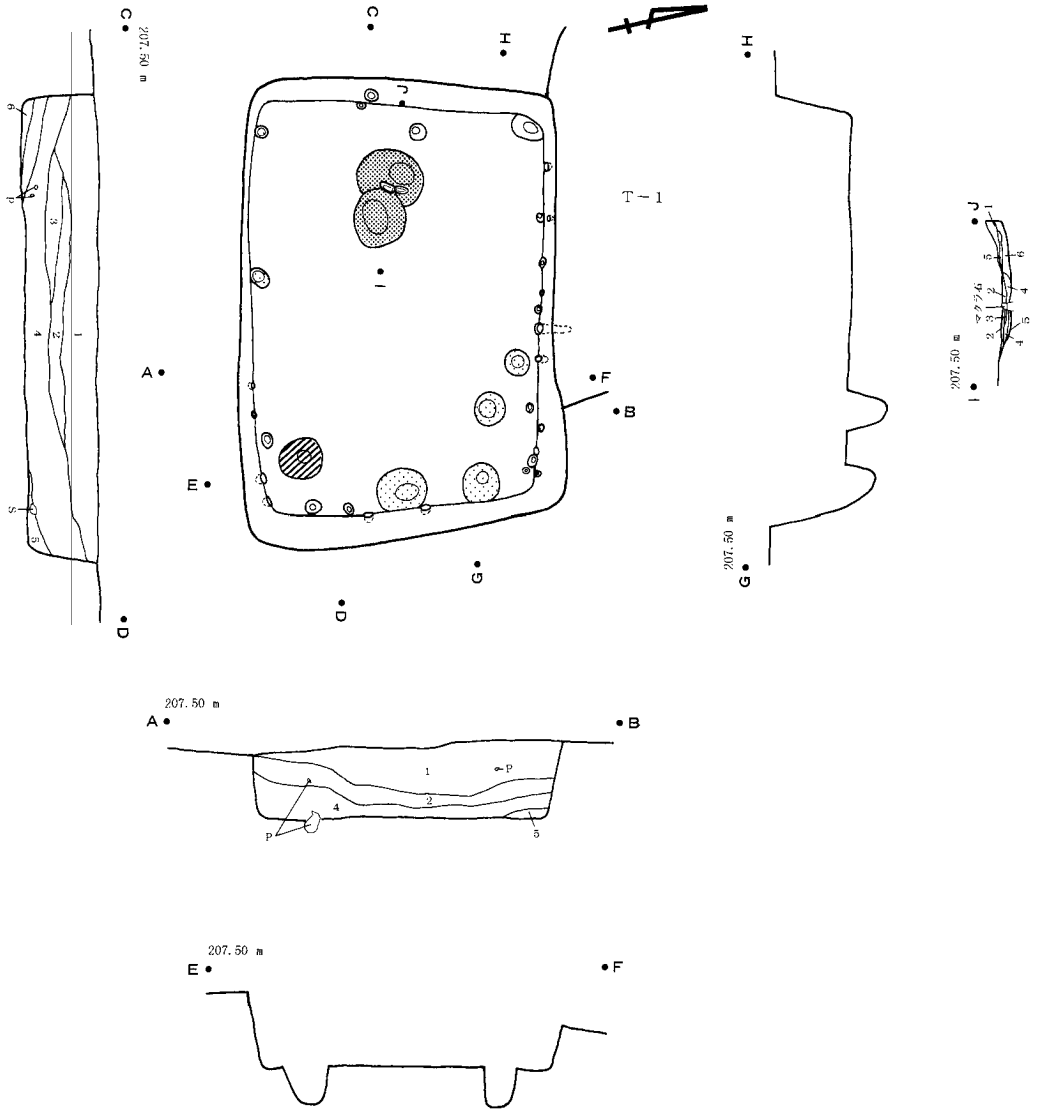
第8図　Y—104号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物 焼土	炭	備考
1	黒褐色土層		○	○	※	※	△	※	※	
2	暗褐色土層	1＜2	○	○	△	※	○	※（下部）	※（下部）	
3	黒褐色土層	2＞3	△	△	※	※	※	△	※	
4	暗黄褐色土層	3＜4	△	○	○	○	△	◎	△	
5	黒褐色土層	4＞5	△	△	※	※	※	◎	◎	
6	暗黄褐色土層	2＜6	○	○	△	△	○	―	○	
炉1	暗赤褐色土層		×	×				◎		焼土層

0　　4 m

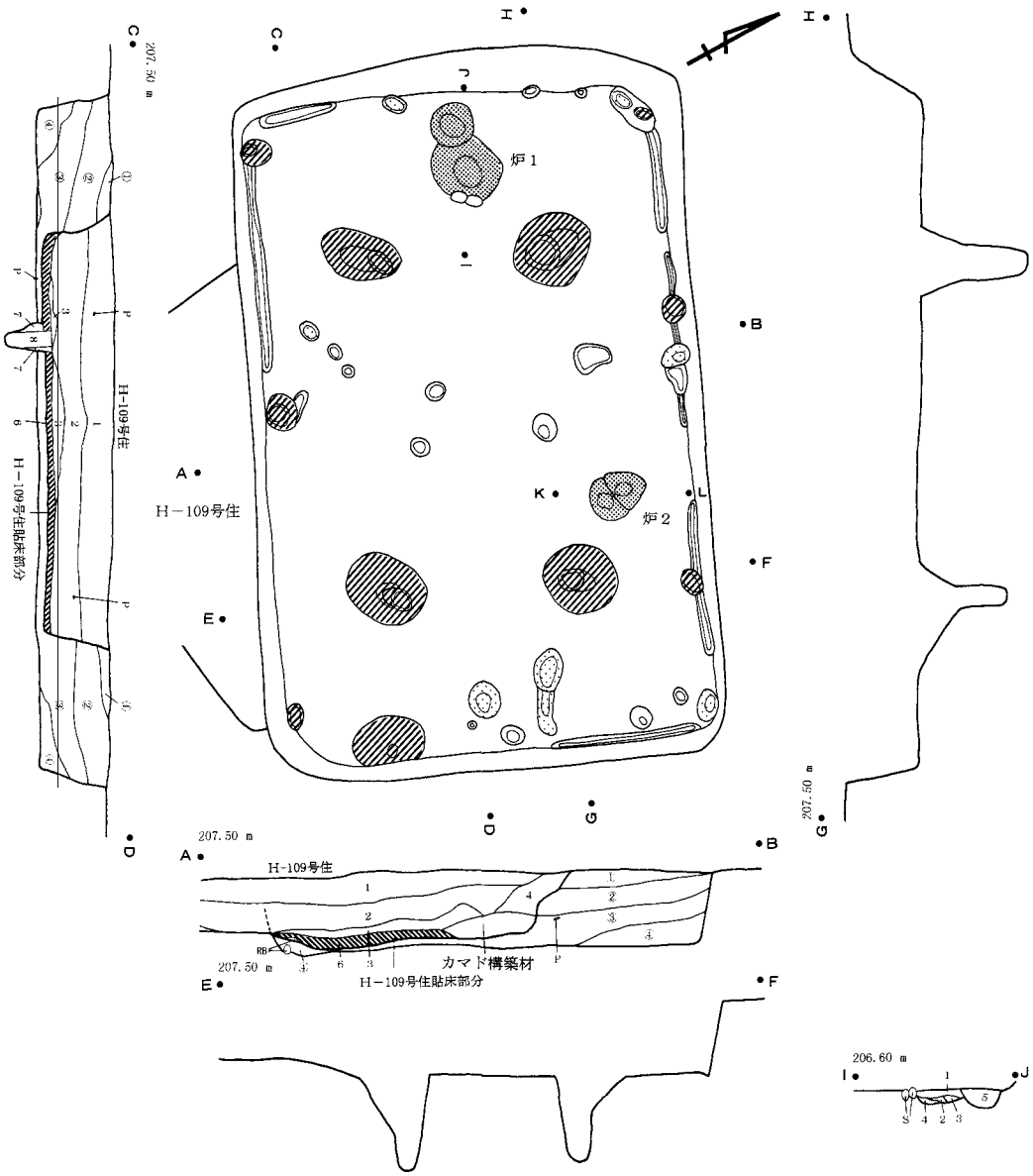
第9図　Y―106号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	灰
1	暗黄褐色土層		△	△	○	◎	○		※	
2	黒褐色土層	1＞2	△	△	※	※	※		※	
3	暗褐色土層	2＜3	○	○	△	△	△		※	
4	暗褐色土層	3＞4	○	○	△	△	○		△	
5	暗黄褐色土層	4＜5	○	○	△	△	△			
6	灰褐色土層	5＞6	△	△			※	※	◎	◎
炉1	灰褐色土層		×	×			※	※	※	◎
炉2	黒褐色土層	1＞2	△	△	※	※	※	※	※	△
炉3	灰赤褐色土層	2＜3	△	×				○	※	○
炉4	赤褐色土層	3＜4	○	×			△	◎	※	※
炉5	暗黄褐色土層	4＞5	△	△	△	○	○	※	※	※
炉6	暗褐色土層	5＞6	○	○	△	△	※		※	

0　　4 m

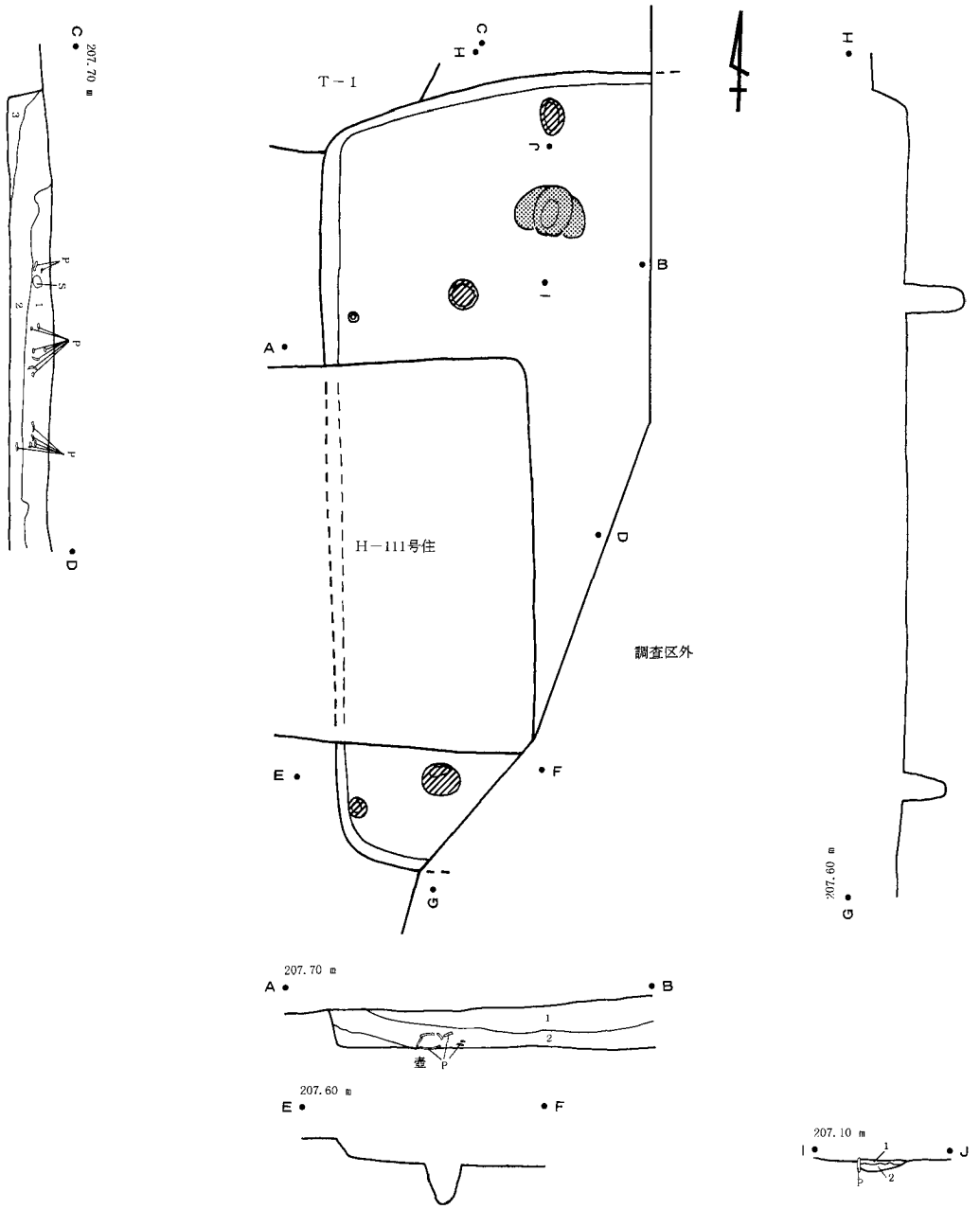
第10図　Y－107号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	焼土	炭	灰
①	黒褐色土層	1＜①	△	△	※		※	※			
②	暗褐色土層	①＜②	○	○	△	※	※	※			
③	暗褐色土層	②＜③	○	○	△	△	△	※			
④	暗褐色土層	③＞④	△	△	※					※	
炉1-1	赤褐色土層		×	△	※	※	※		△	※	△
2	灰赤褐色土層	1＜2	×	×					○	※	○
3	灰褐色土層	2＞3	×	△					△	△	○
4	赤褐色土層	2＜4	△	×					◎	※	※
5	黒褐色土層	1＞5	△	△	※		※			※	
炉2-1	暗赤褐色土層		△	△	※		※		△	※	
2	暗褐色土層	1＜2	△	○	△	△	※				
3	赤褐色土層	2＜3	△	×	※		△		◎	※	

0　4 m

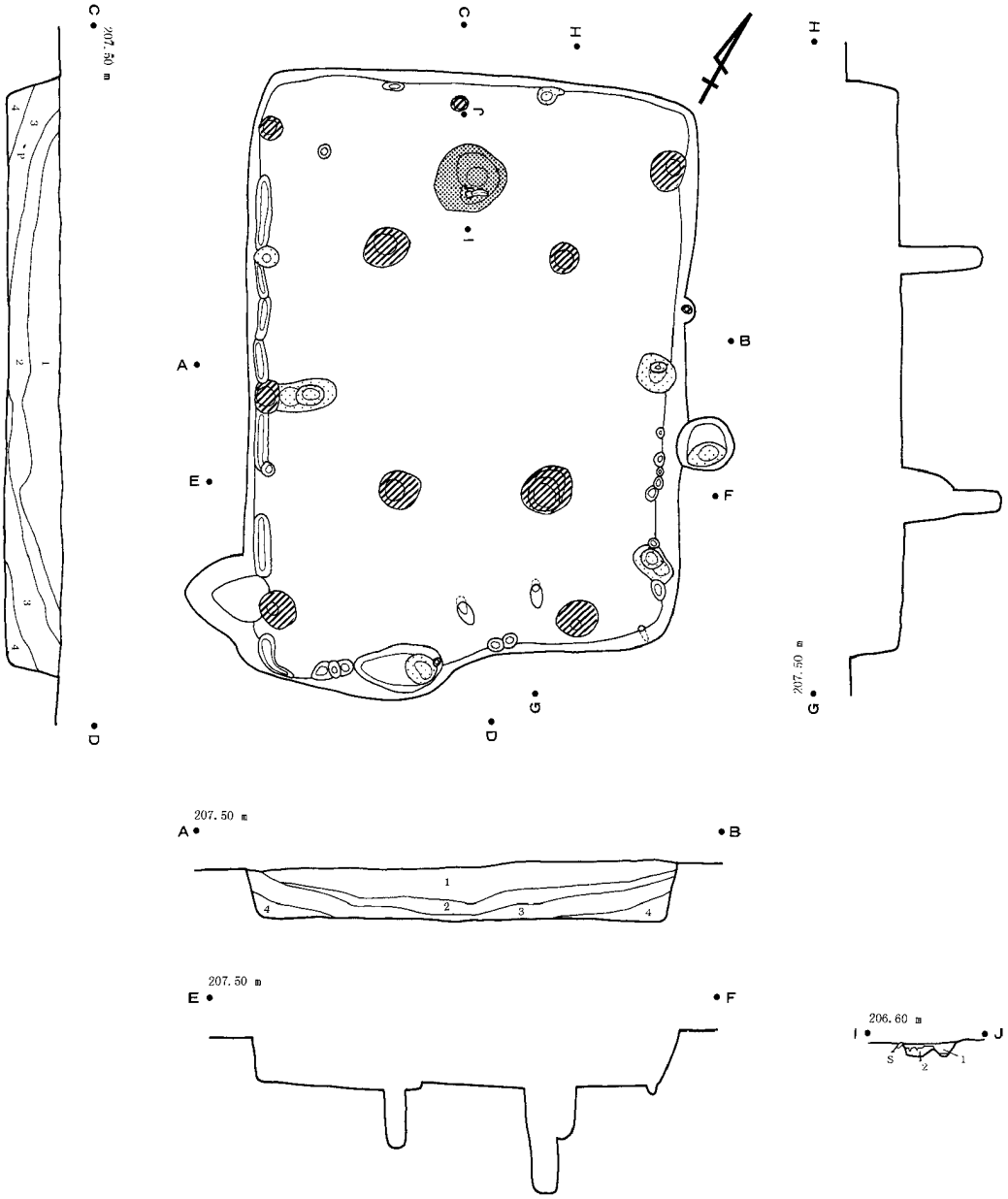
第11図　Y—108号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒褐色土層		○	○	※		※		
2	暗褐色土層	1＜2	△	○	○	△	△		
3	暗褐色土層	2＞3	○	○	△	※	※		
炉1	暗赤褐色土層		○	△	※			△	※
炉2	赤褐色土層	1＜2	○	×			※	◎	※

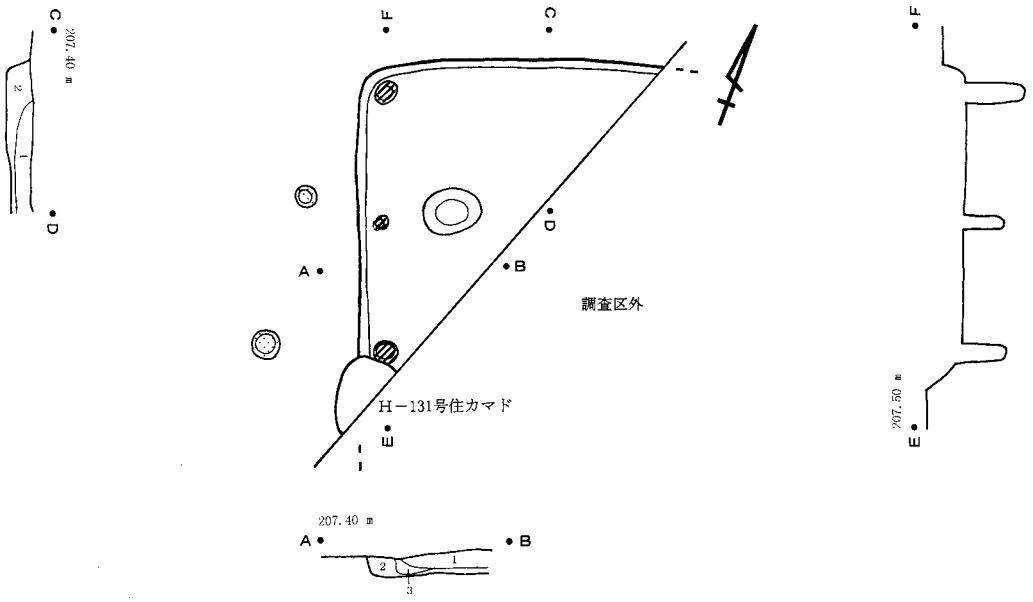
1層は別の住居址の覆土の可能性有り

第12図　Y—110号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		○	○	○	△	※		※
2	黒褐色土層	1＞2	○	△	△	※	※		※
3	暗褐色土層	2＜3	○	○	○	△	△		※
4	黒褐色土層	3＞4	○	○	△		※		※
炉1	黒褐色土層		○	○	※		※	△	※
炉2	赤褐色土層	1＜2	×	×			◎	◎	

第13図　Y—112号住居址実測図

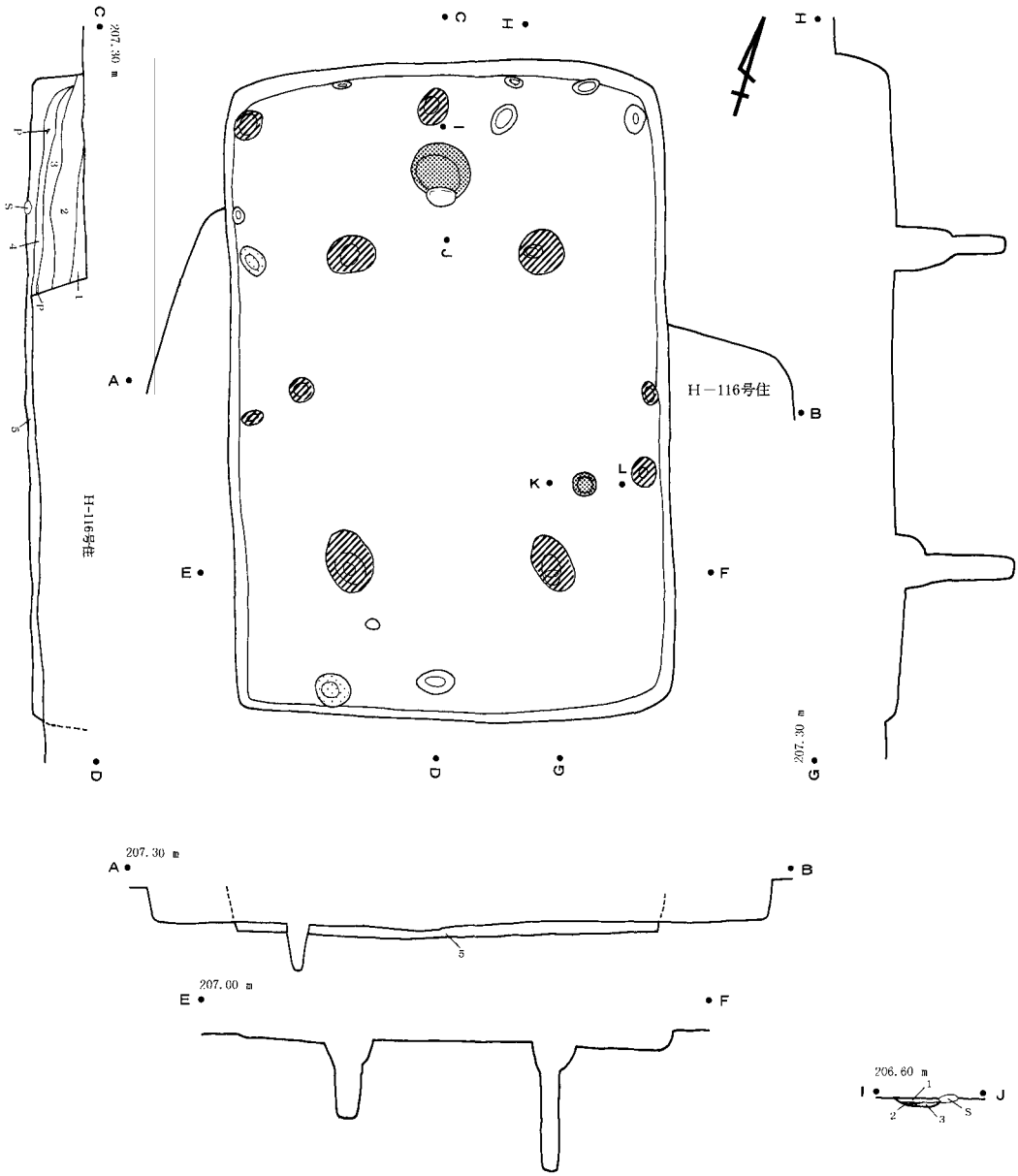


Y－113号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
1	暗褐色土層		○	○	※		△
2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	○	△	○
3	暗黄褐色土層	2＞3＞1	△	○	△	※	△

0　4 m

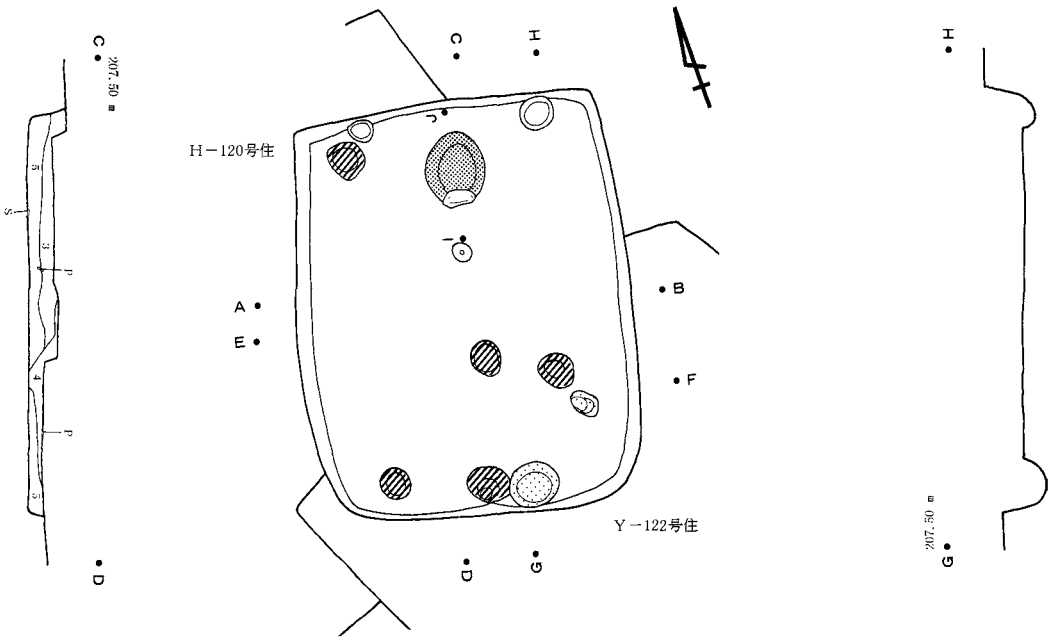
第14図　Y—113号住居址実測図

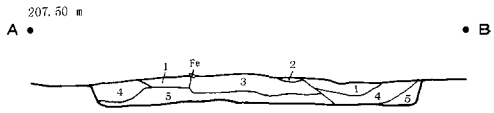


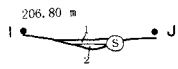
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	灰
1	黒褐色土層		△	△	※		※		※	
2	暗黄褐色土層	1＜2	△	○	△	△	△		△	
3	暗褐色土層	2＞3	○	○	△		※		※	
4	暗黄褐色土層	3＜4	◎	○	△	※	※			
5	暗黄褐色土層	4＞5	◎	○	※		※		※	
炉1	黒褐色土層		△	○	※	※	※	△	△	※
炉2	灰褐色土層	1＜2						※	△	◎
炉3	赤褐色土層	2＜3						◎		

0　4 m

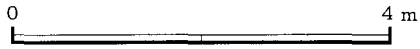
第15図　Y－115号住居址実測図



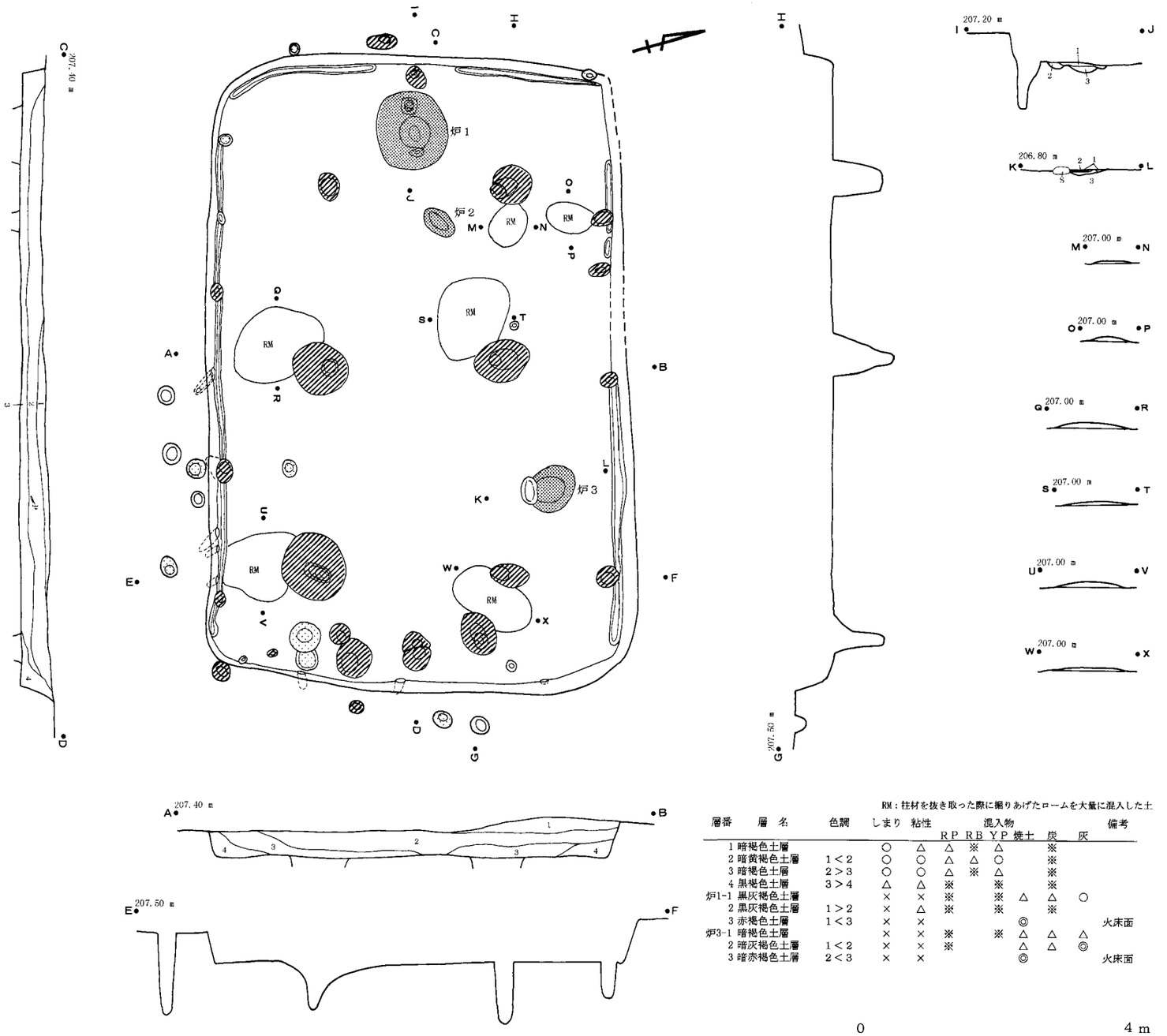




層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		○	○	△	※	※		※
2	暗赤褐色土層	1＜2	○	○	※			△	※
3	暗褐色土層	1＜3	○	○	△	※	△		
4	暗黄褐色土層	1＜4	○	○	△	△	○		
5	黒褐色土層	3＞5	○	○	※	※	※		
炉1	黒褐色土層		△	△	△		△	△	△
炉2	暗赤褐色土層	1＜2	△	△				◎	△



第16図　Y－121号住居址実測図

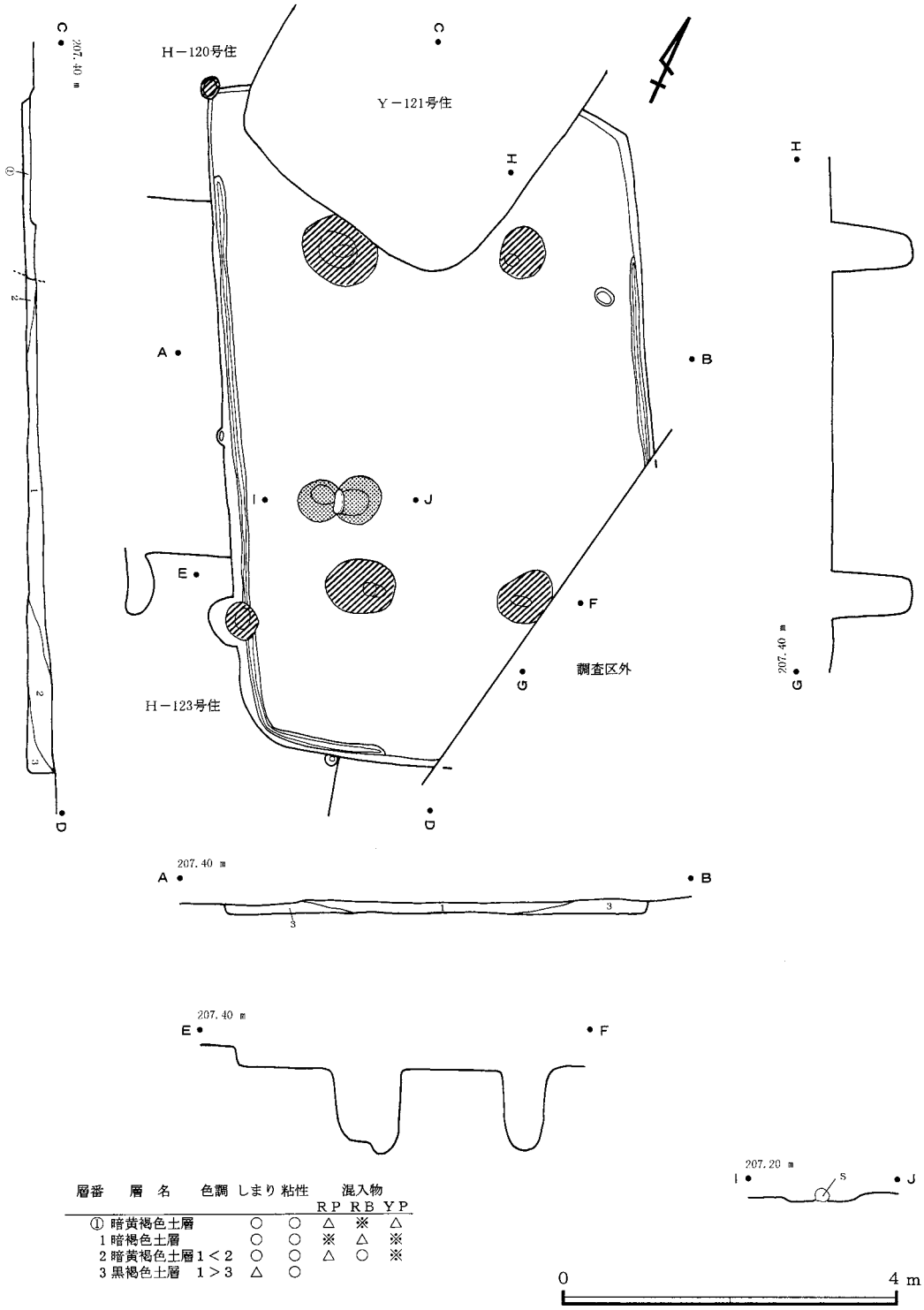


RM：柱材を抜き取った際に掘りあげたロームを大量に混入した土

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	灰	備考
1	暗褐色土層		○	△	△	※	△		※		
2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	△	△	○		※		
3	暗褐色土層	2＞3	○	○	△	※	△		※		
4	黒褐色土層	3＞4	△	△	※		※		※		
炉1-1	黒灰褐色土層		×	×	※		※	△	△	○	
2	黒灰褐色土層	1＞2	×	△	※		※		※		
3	赤褐色土層	1＜3	×	×				◎			火床面
炉3-1	暗褐色土層		×	×	※		※	△	△	△	
2	暗灰褐色土層	1＜2	×	×	※			△	△	◎	
3	暗赤褐色土層	2＜3	×	×				◎			火床面

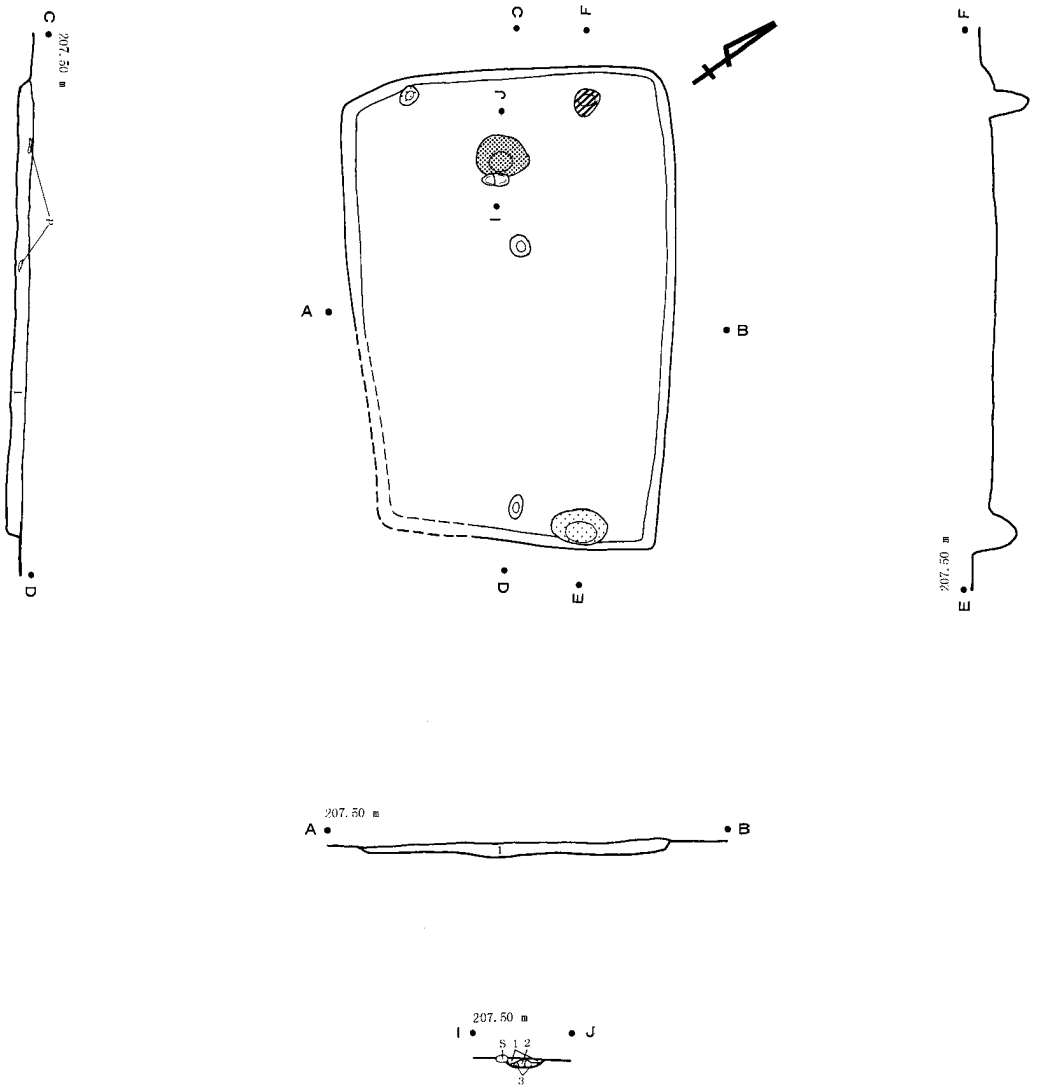
0　　4 m

第17図　Y－117号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
①	暗黄褐色土層	○	○		△	※	△
1	暗褐色土層	○	○		※	△	※
2	暗黄褐色土層 1＜2	○	○		△	○	※
3	黒褐色土層 1＞3	△	○				

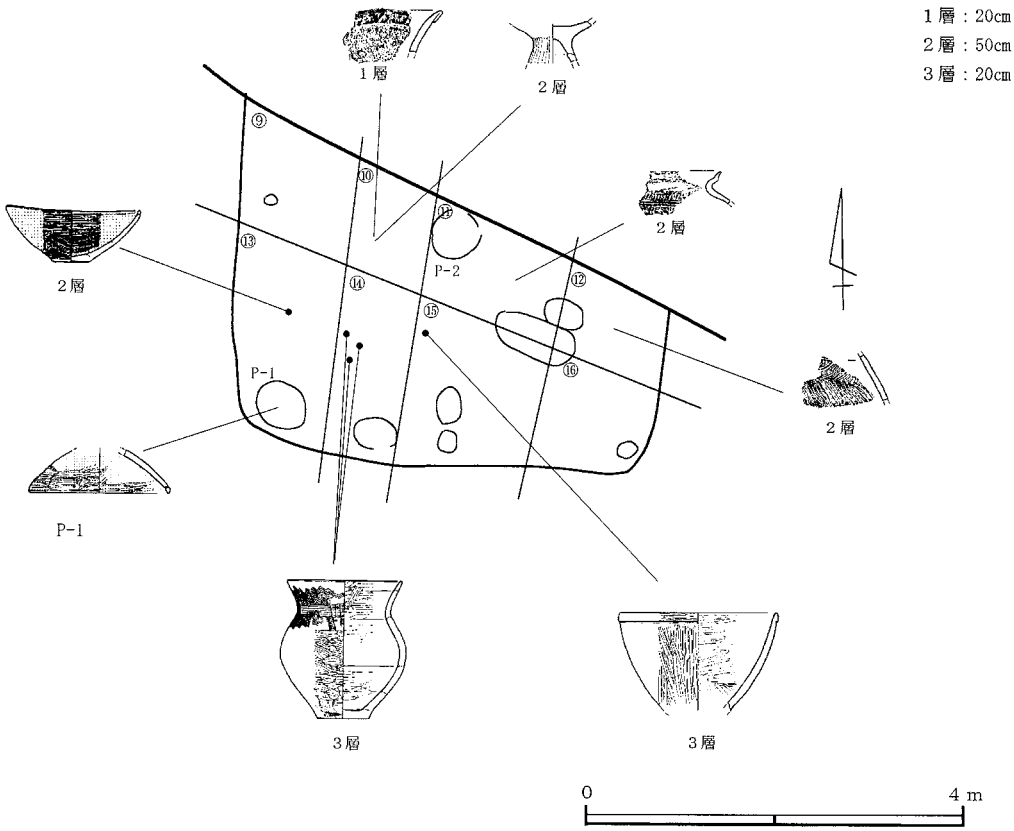
第18図　Y—122号住居址実測図



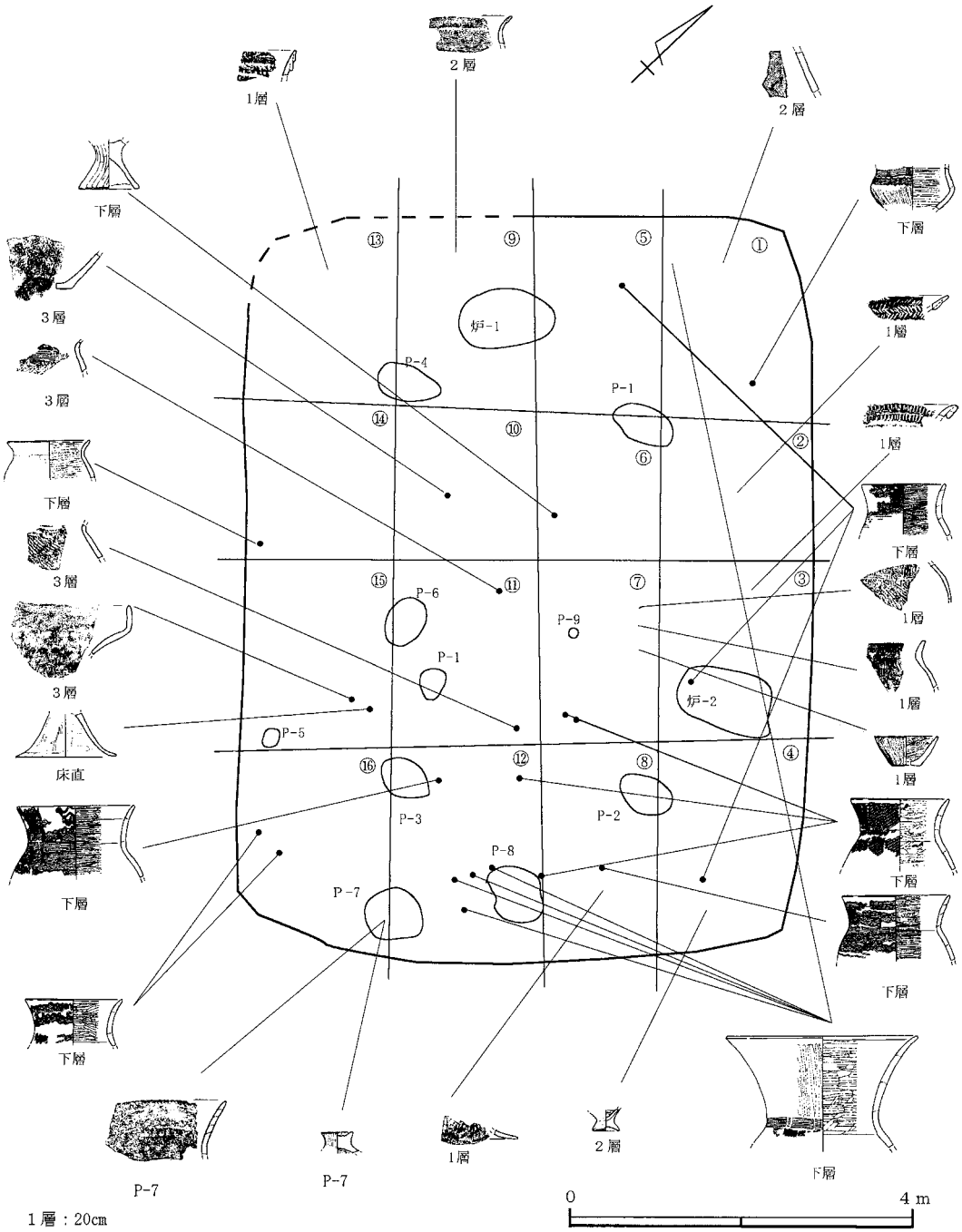
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		△	△	△	※			
炉1	暗褐色土層		△	△			※	△	
炉2	暗赤褐色土層	1＜2	△	△			※	○	
炉3	赤褐色土層	2＜3	△	△			※	◎	

0 4 m

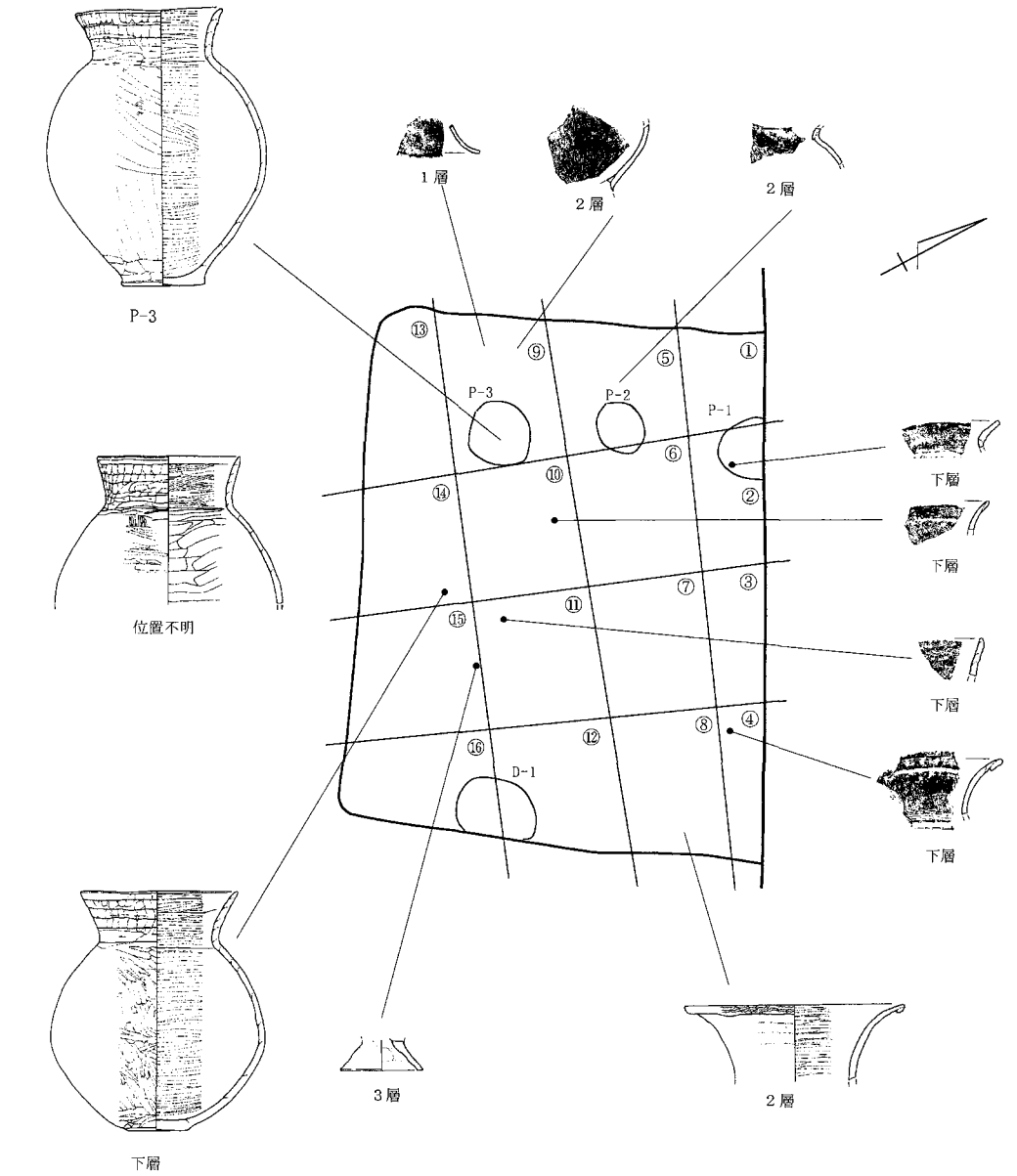
第19図　Y—128号住居址実測図



第20図　Y―101号住居址遺物分布図

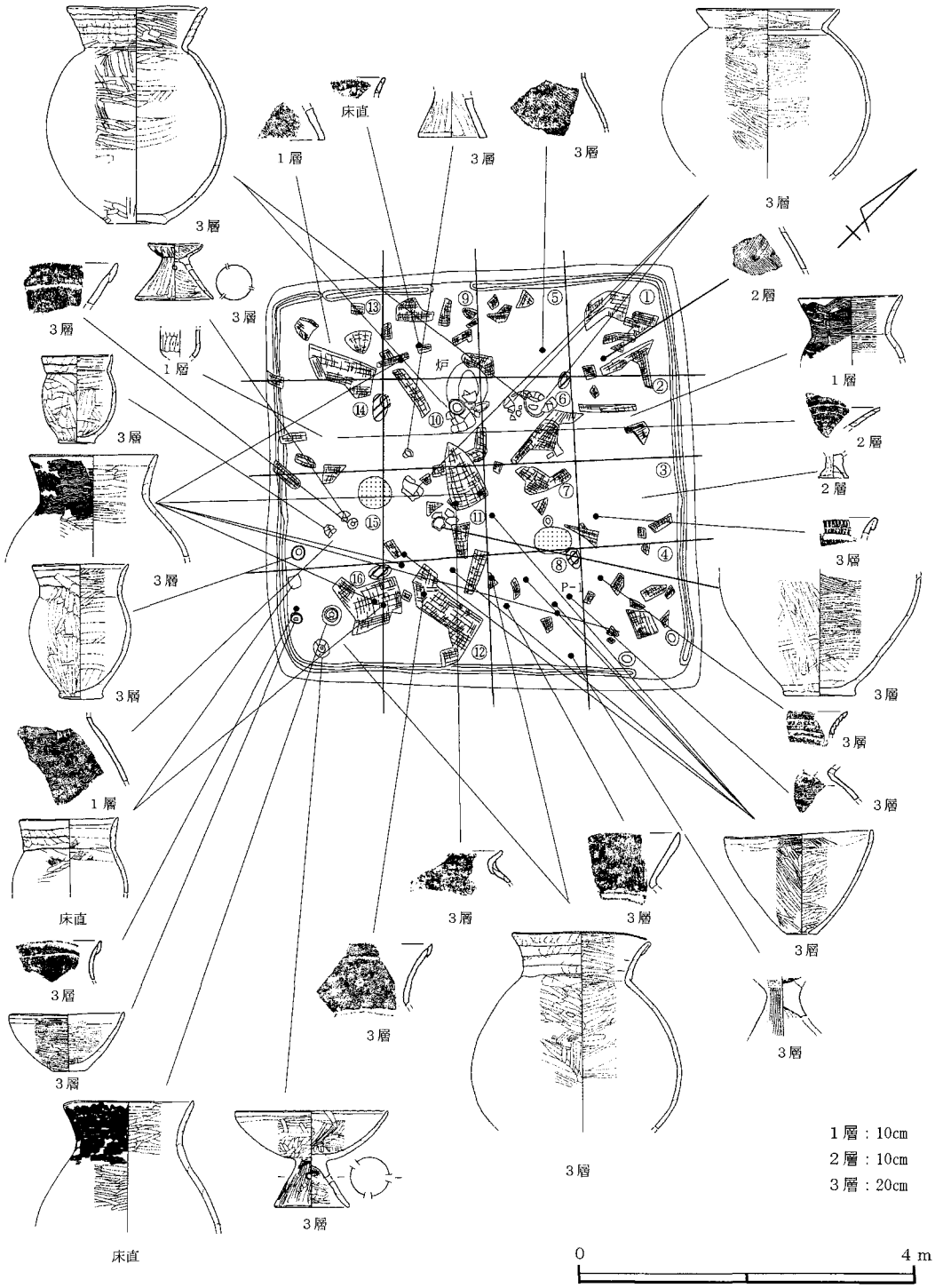


第21図　Y―104号住居址遺物分布図

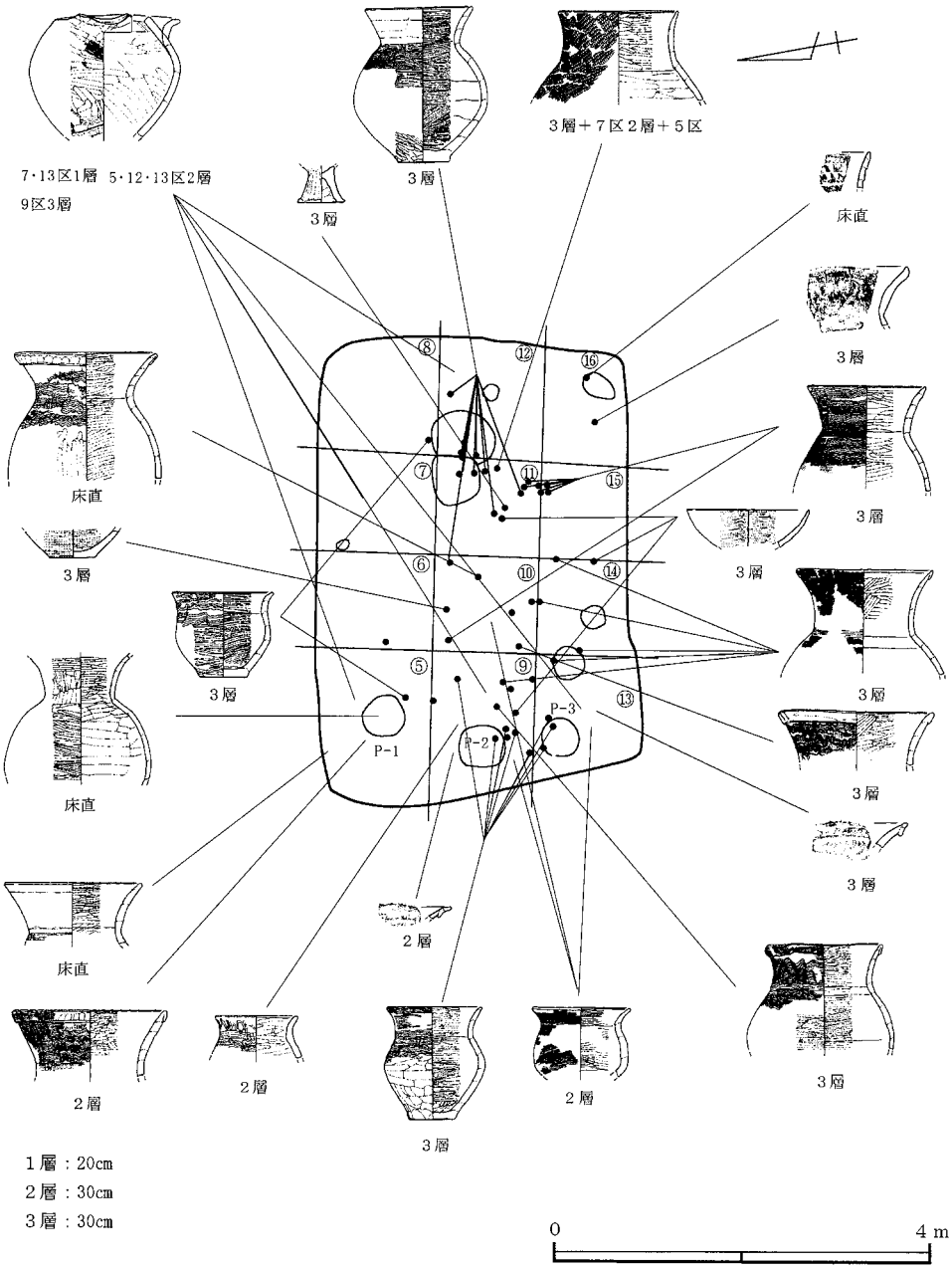


1層：15cm
2層：35cm
3層(下層)：20cm

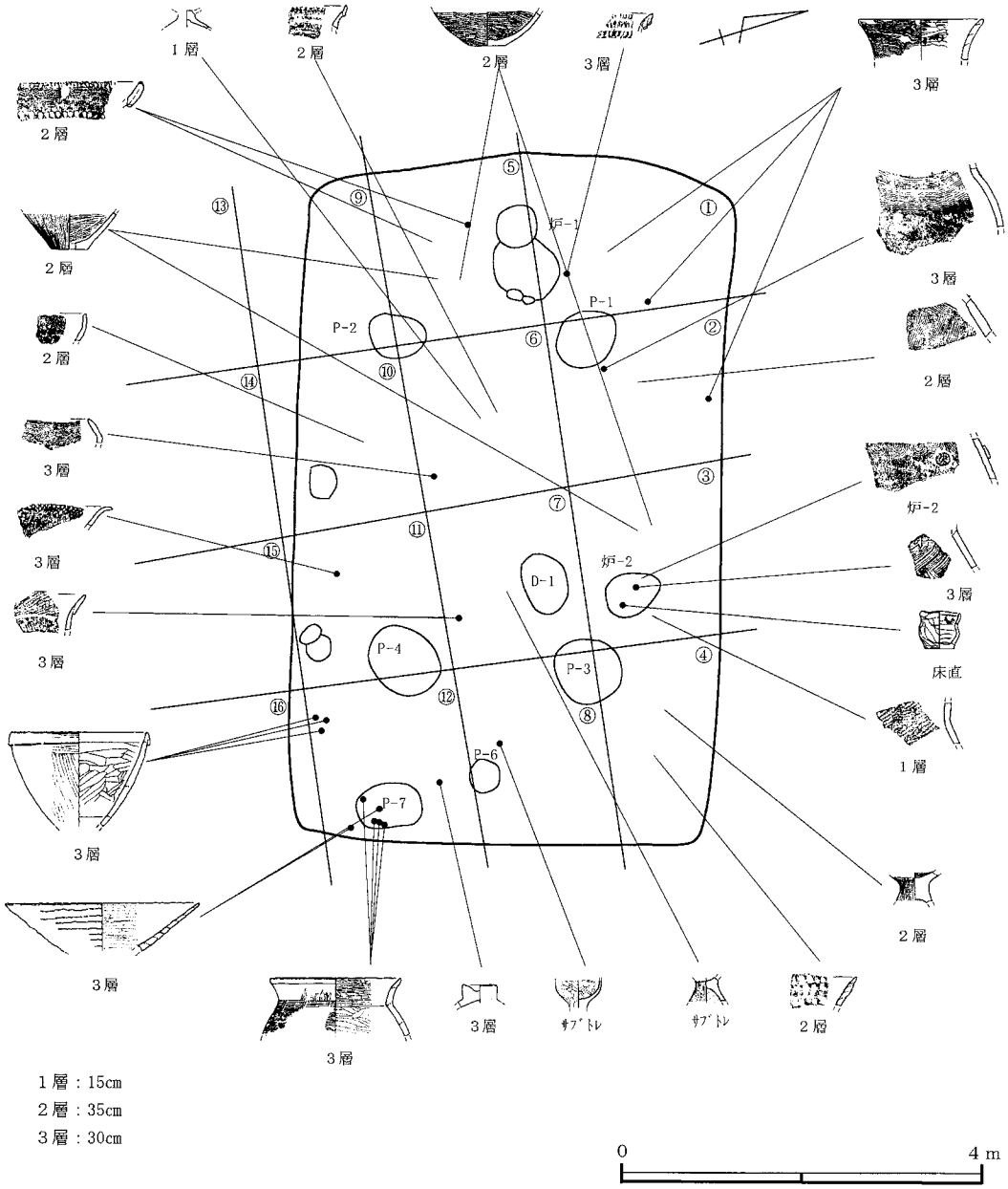
第22図　Y―105号住居址遺物分布図



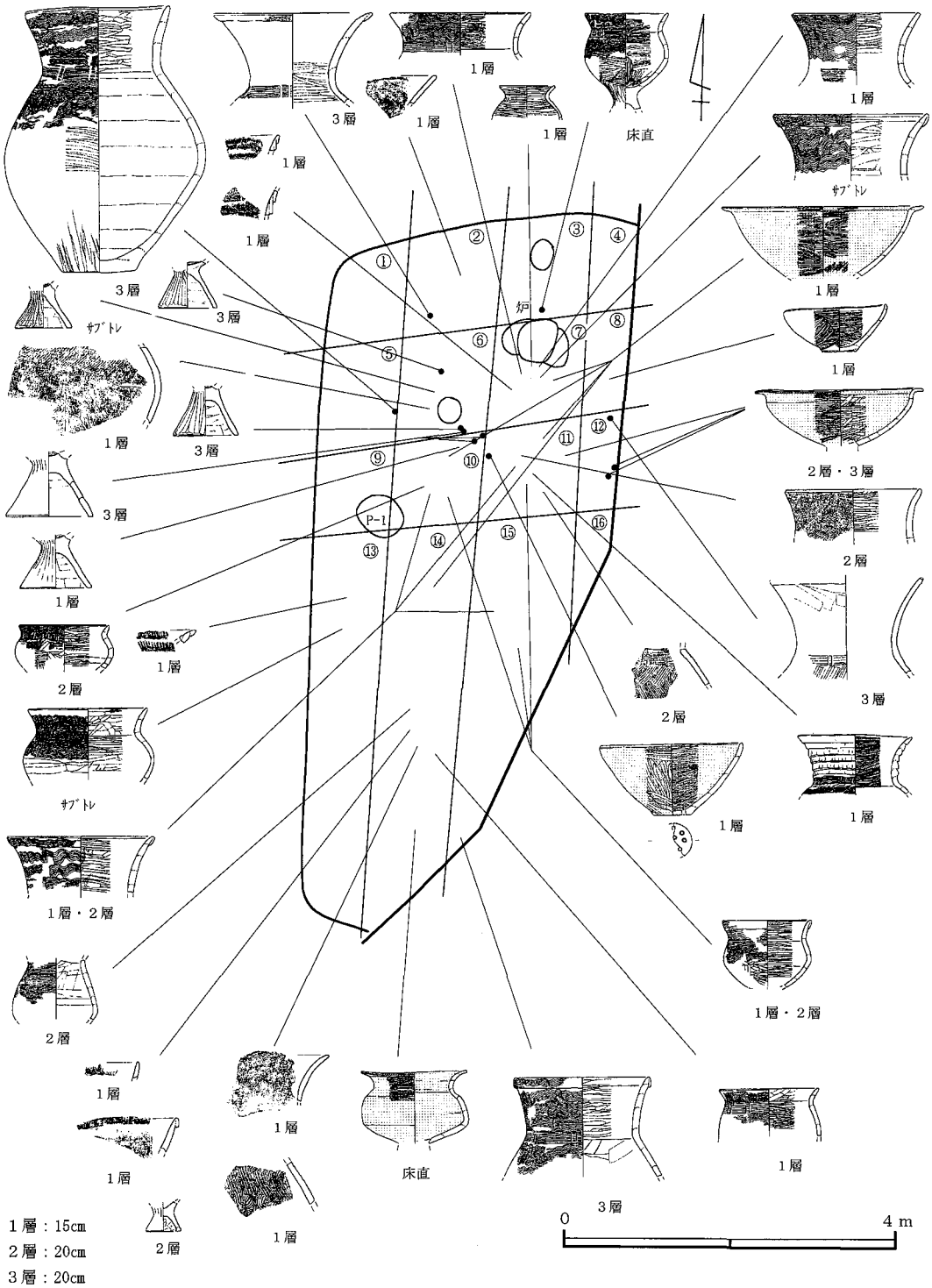
第23図　Y―106号住居址遺物分布図



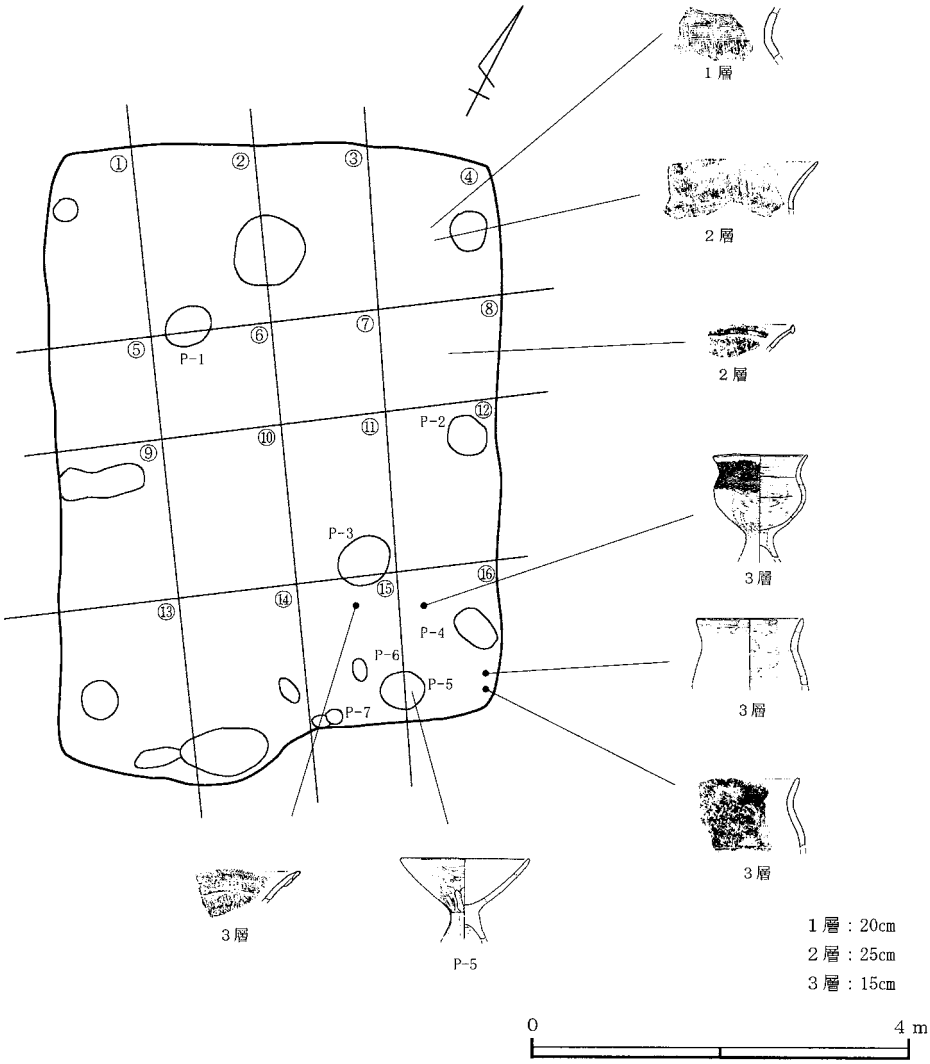
第24図　Y―107号住居址遺物分布図



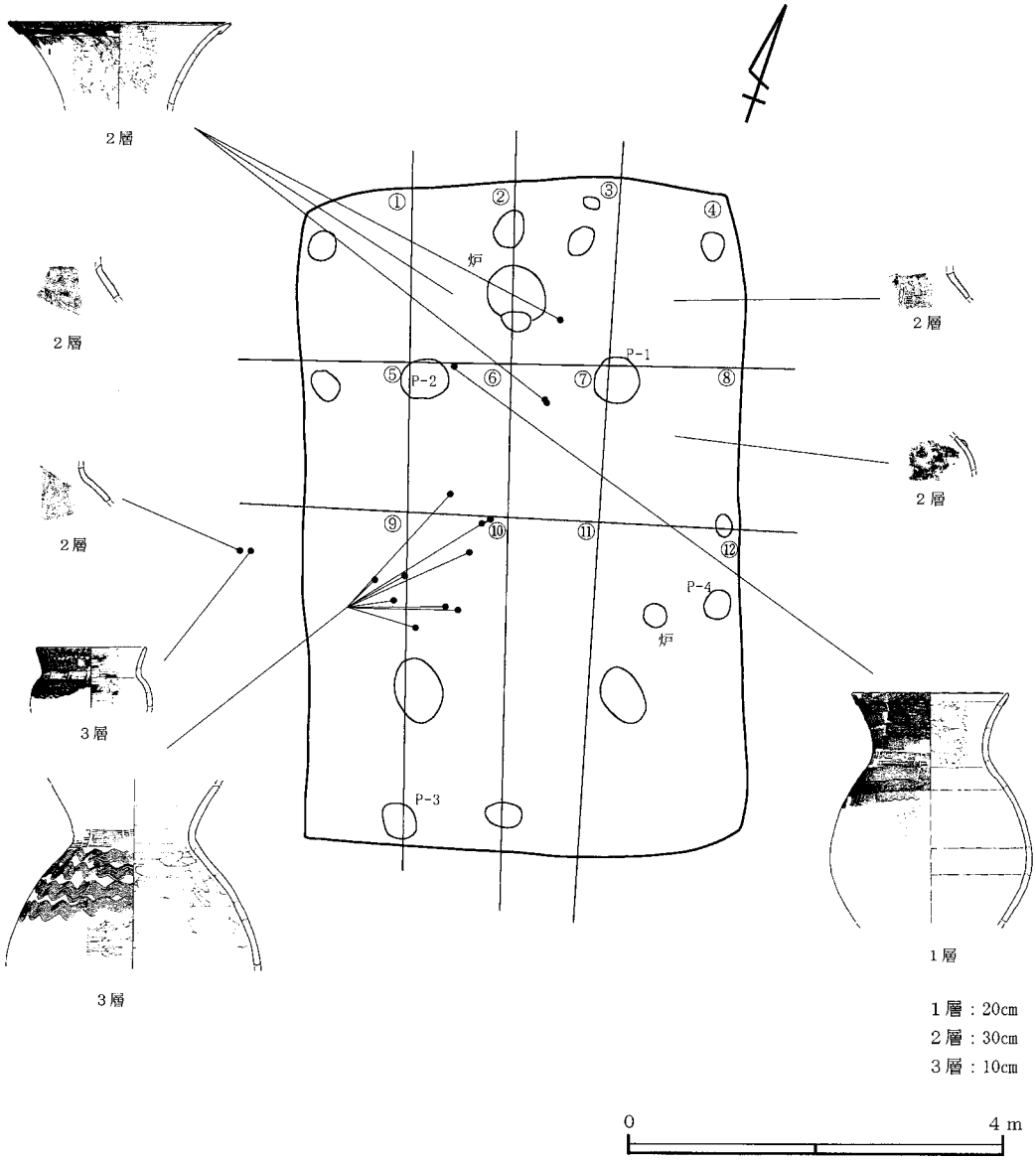
第25図　Y—108号住居址遺物分布図



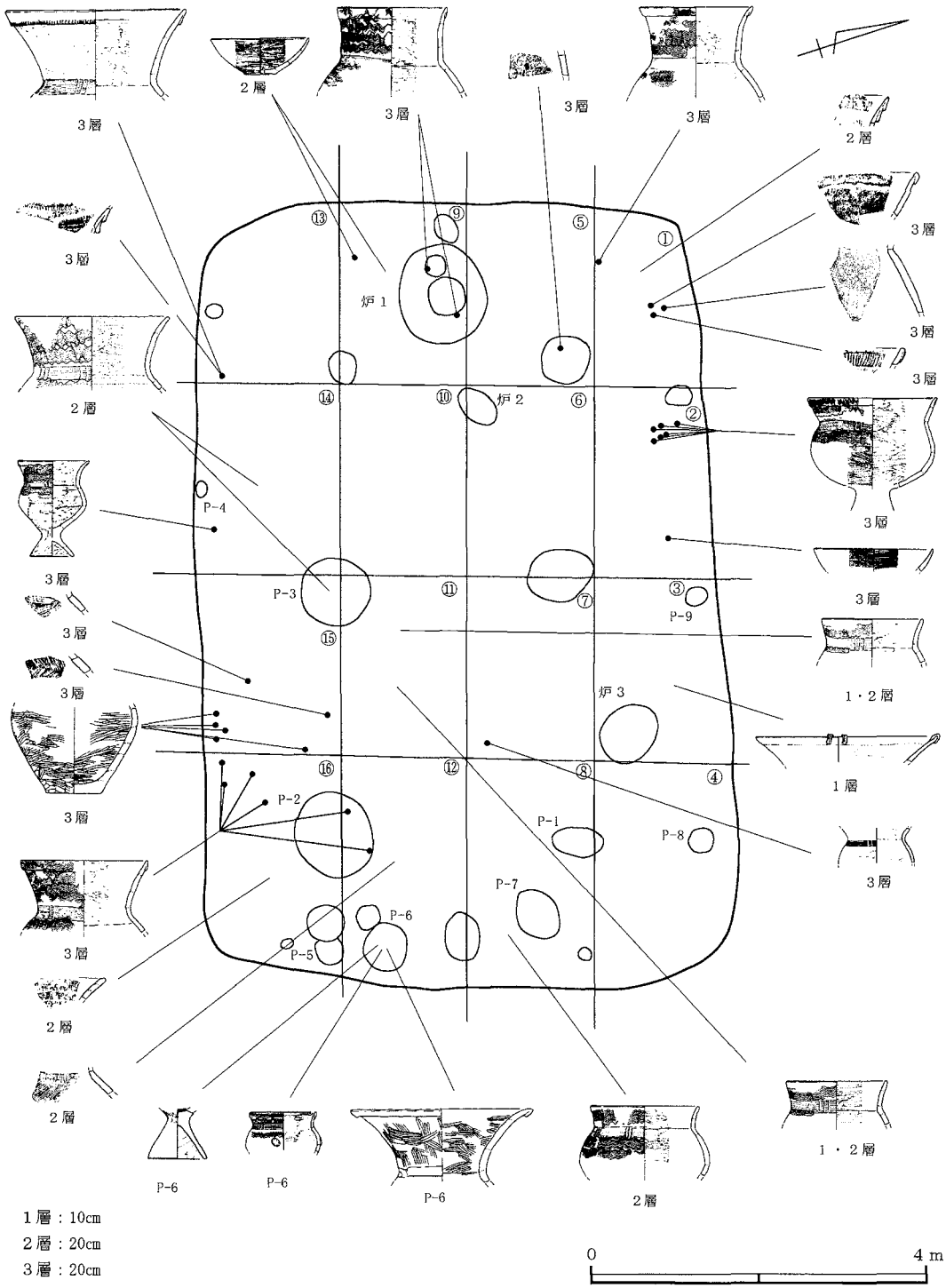
第26図　Y―110号住居址遺物分布図



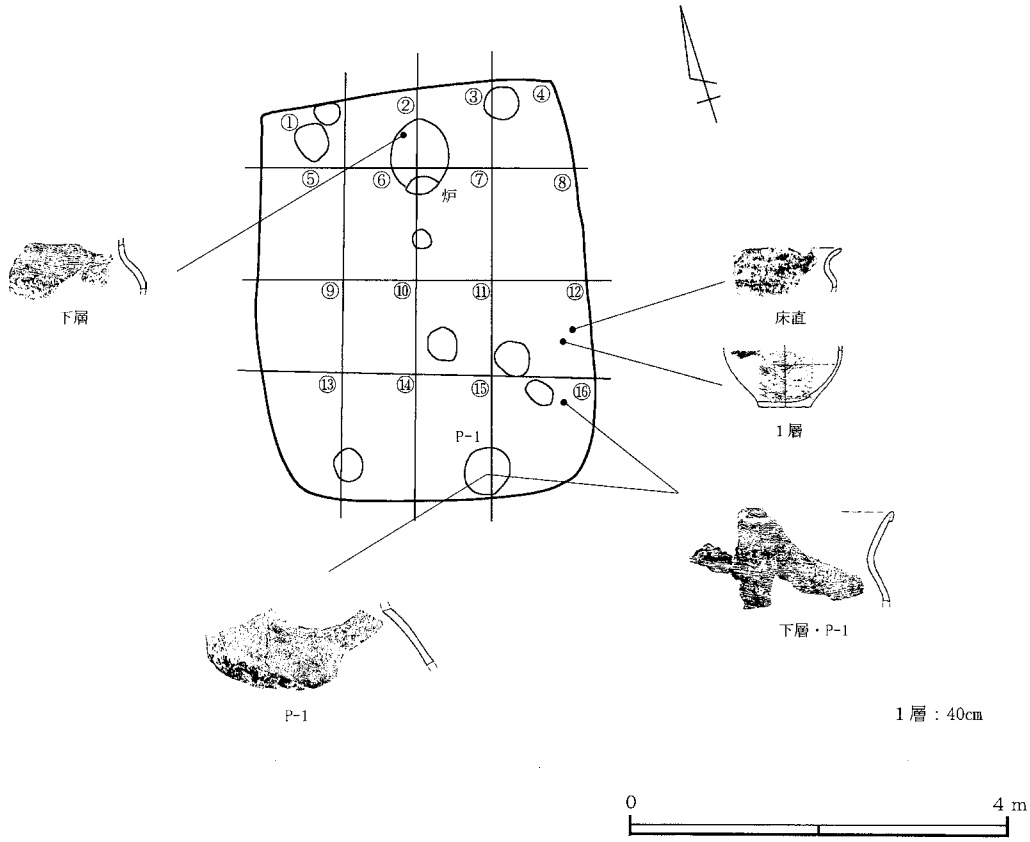
第27図　Y―112号住居址遺物分布図



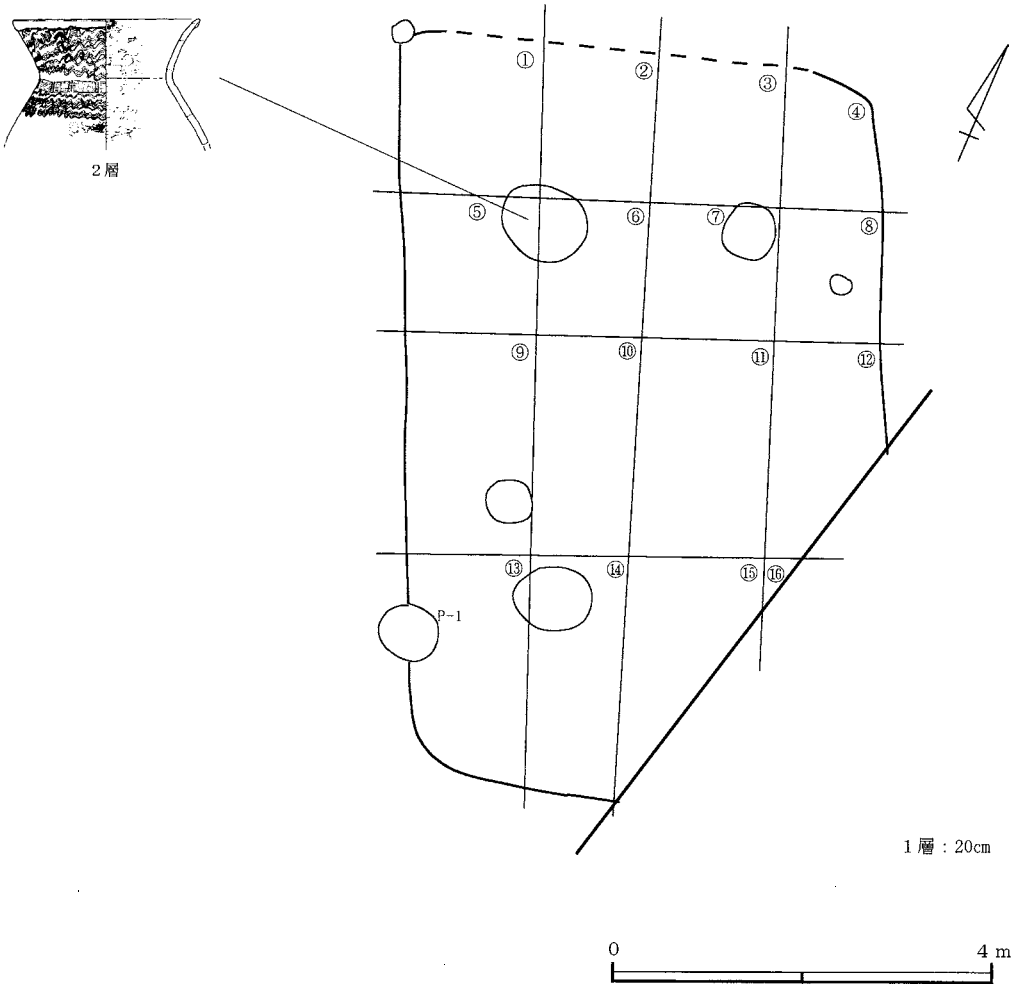
第28図　Y－115号住居址遺物分布図



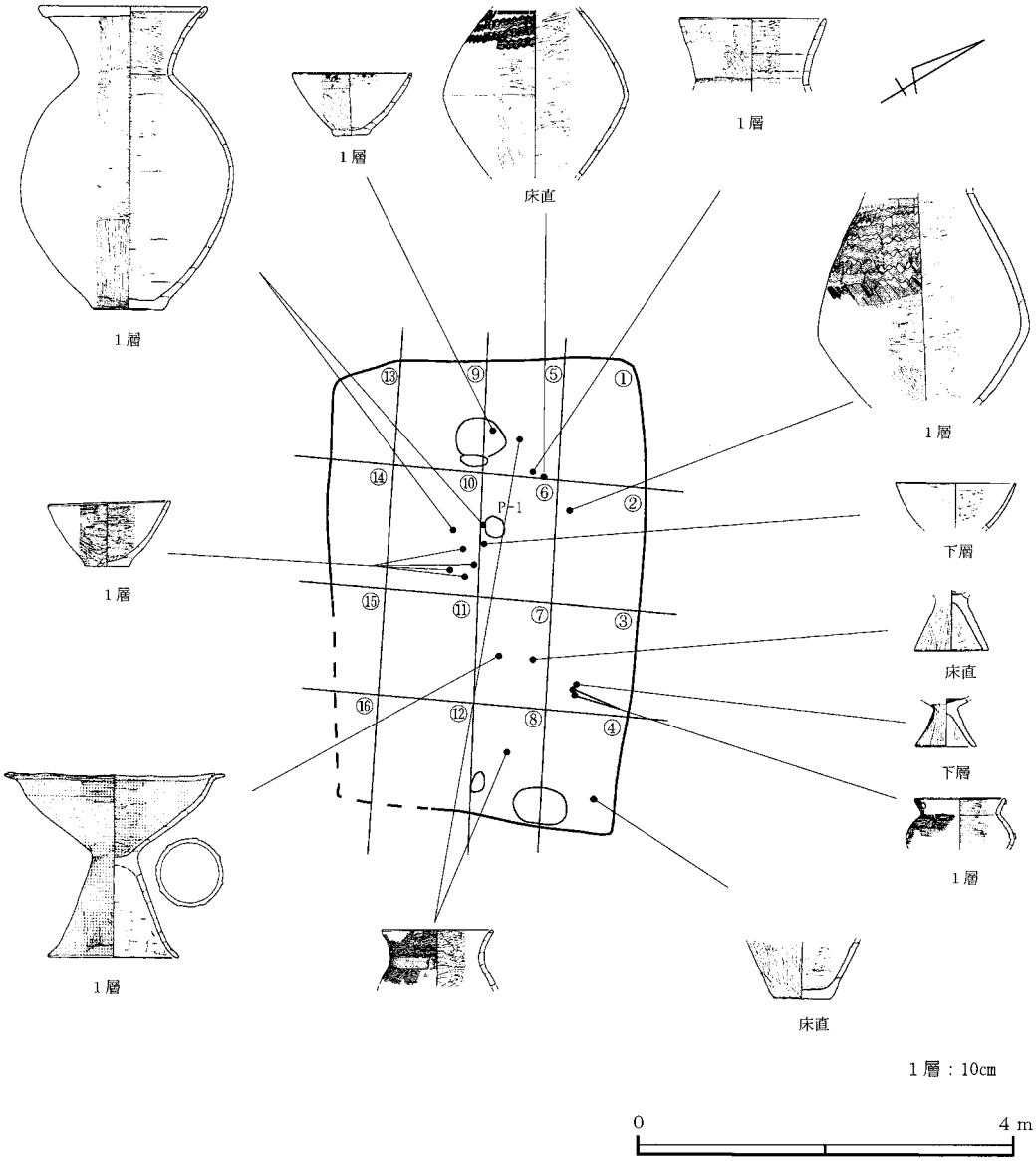
第29図　Y―117号住居址遺物分布図



第30図　Y－121号住居址遺物分布図



第31図　Y―122号住居址遺物分布図



第32図　Y－128号住居址遺物分布図

(2) 遺物（第33図～第46図・第４表～第15表）

弥生土器は壺、甕、鉢、高坏、他に土製紡錘車、部分研磨石器、砥石が出土した。本遺跡の出土土器については３段階に大別した。

弥生土器

古段階（Ｙ―110・112・115・117・121・122・128号住）

古段階は、樽式土器の様式を保持している段階である。胴部が大きく張り球形胴を志向する壺、掘り返し口縁で櫛描文を充塡施文する甕、偏球形の胴部で櫛描文を充塡する台付甕、口縁が外屈する高坏などを見る限り、基本的には旧群馬郡域の樽式３期と同様の内容を示す。注目されるのは、埼玉県中北部に起源をもつ吉ヶ谷式系土器（第41図９～15）や、吉ヶ谷式系の輪積み手法と樽式系の櫛描文が折衷されたもの（第41図８）が少なからずみられることである。安中市の南に接する鏑川流域では、弥生Ｖ２期から吉ヶ谷式土器の流入が知られており、本遺跡でも鏑川流域との交流が行われたことが示唆される。また、櫛描羽状文を施す樽式富岡型の壺（第40図６、第43図６～９）があることも、その証となる。

中段階（Ｙ―101・104・107・108号住）

中段階は、樽式の様式が崩壊し、高坏など赤彩器種が減少・欠落する段階である。残存する樽式系の器種では、壺の球胴化、小型甕の短口縁化へと型式変化する。

同時に、外来系土器の組成が増加する。吉ヶ谷式系土器がある程度の量みられ（第38図21･22、第33図30、第34図21～23）、吉ヶ谷式系土器の輪積み手法と樽式系櫛描文の折衷（第34図18）も存在する。中部高地櫛描文様式圏との関係では、南信地域の櫛描文土器に特有のコンパス文の模倣（第33図24）がある。東海西部系ではＳ字甕Ｂ類（第38図23、第33図７、第34図24）がある。在地品であろうが、故地のモデルに近い作りが認められる。東海系では、小型高坏脚部（第34図28）なども存在する。東海から南関東の系譜では、くの字口縁台付甕（第34図24～26）が目に留まる。縄文施文帯をもつ甕（第33図29）は東関東系の可能性がある。また、樽式系の折衷品では受口壺（第34図５）などが外部の影響を受けている可能性が高い。

新段階（Ｙ―105・106号住）

樽式系の器種は甕及び少量の壺のみになる。壺は口縁が著しく外反する。甕は短口縁化が進行する。一方、目立つのは輪積み痕跡を残す甕である。系譜的には吉ヶ谷式系の装飾技法と言えるが、形態や内外面を研磨する技法は樽式系甕の延長にある。外来系土器では、北陸北東部の千種

甕の系譜に属するもの（第37図15、第35図11･12）、東海西部系のＳ字甕（第35図10）がある。他に、高坏（第37図11）、器台（第37図12）、有孔鉢（第37図16）、台付甕（第37図10･14）などが東海系の器種であるが、いずれも中段階の模倣度の高さは無く、在地化したものだと考えられる。

（若狭　徹）

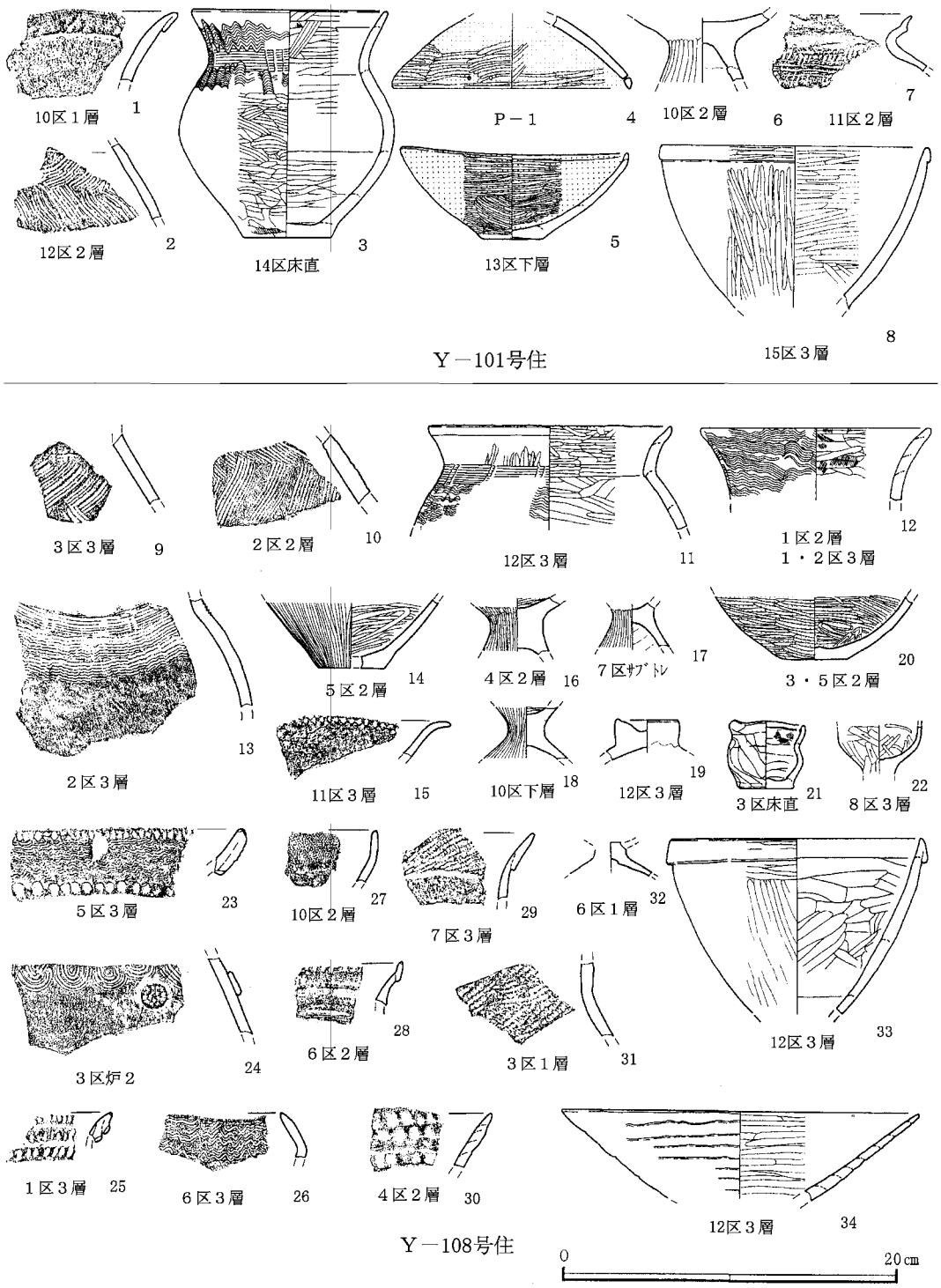
土製品・石器

土製紡錘車は９点出土した（第46図１～９）。

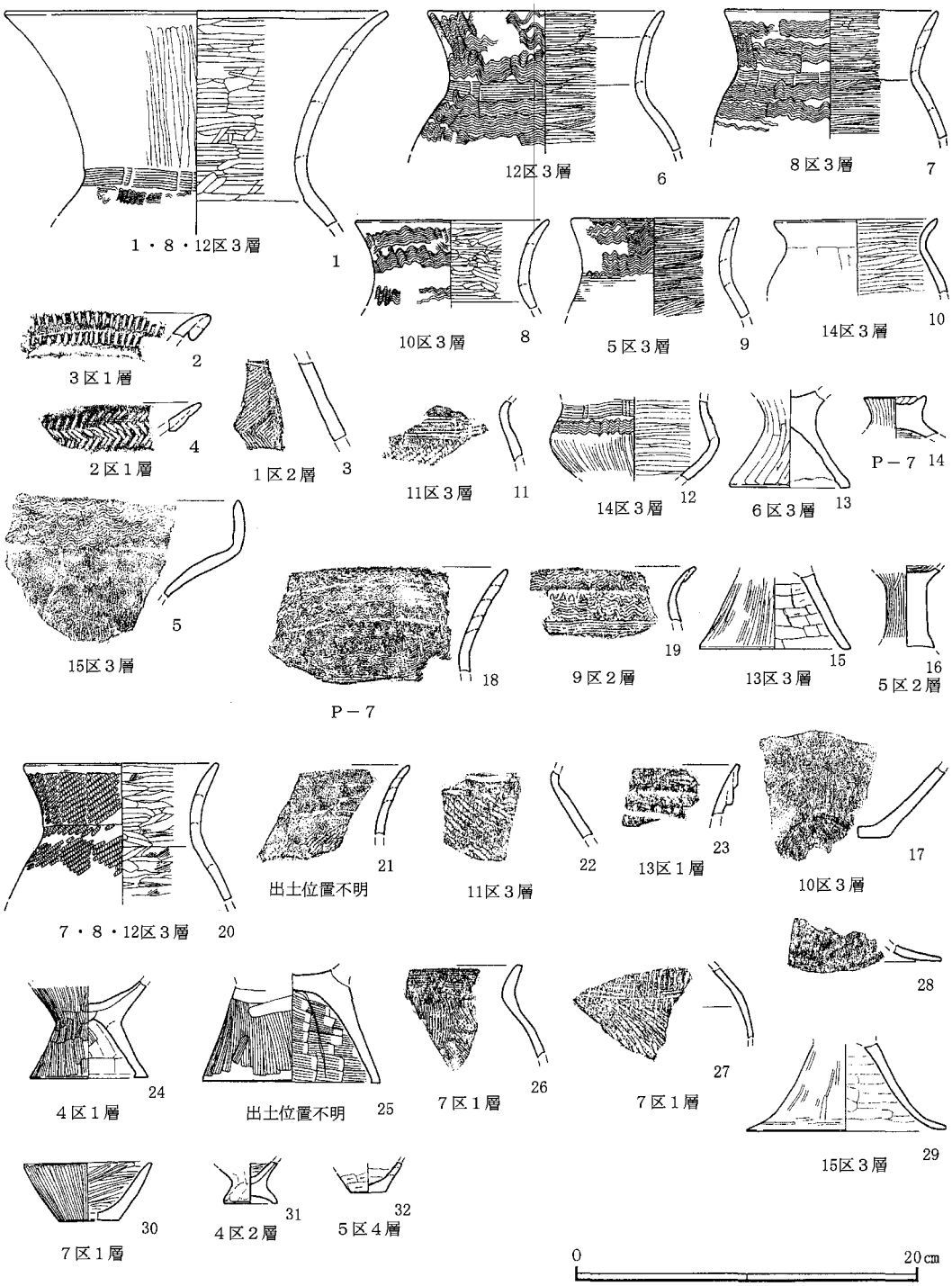
部分研磨石器は８点出土した（第46図10～17）。いづれも硬質で緻密な頁岩製の円礫が用いられており、黒色のものが多い。一部あるいは前面に研磨痕が観察され、研磨部分は光沢があり、線状痕が観察される。研磨部分に有機物が付着しているものもある。土器赤彩用のベンガラを塗布するための道具と判断される。おそらく付着した有機物はベンガラを溶いた漆と推定される。

砥石は３点出土した（第46図18～19）。18は牛伏砂岩の荒砥である。19は細粒砂岩製の中砥で、直方体状を呈する。部分的に敲打痕が認められる。20は砂岩製の中砥である。大形住居（Ｙ―104号住）の床面に設置された状態で出土した。研磨面は四面に存在する。また、上面は敲打により平坦に整形され、凹が５つ規則的に配列されている。大形住居址より検出されていることから、有力者のみが保有することができた砥石と考えられる。

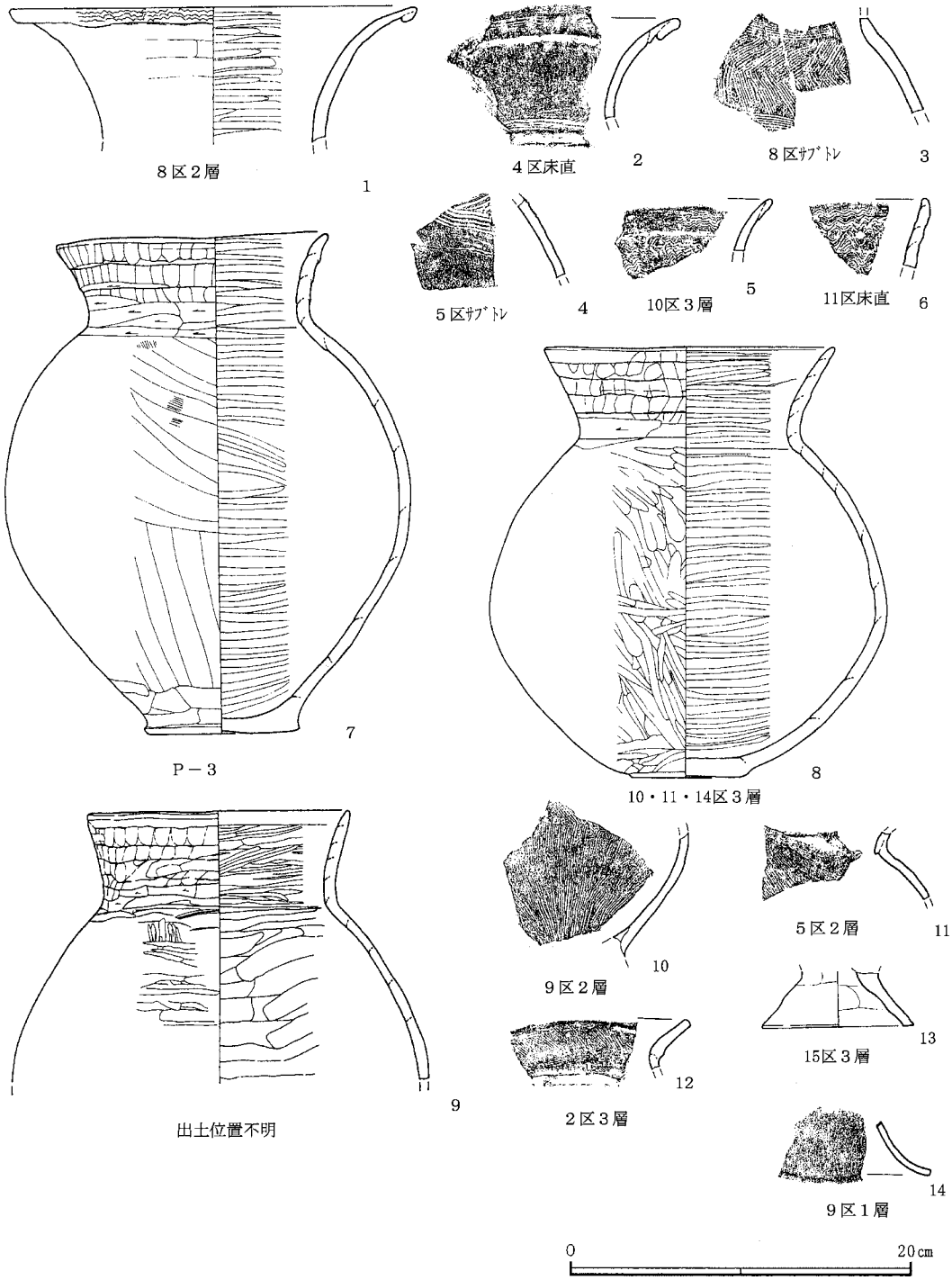
（大工原　豊）



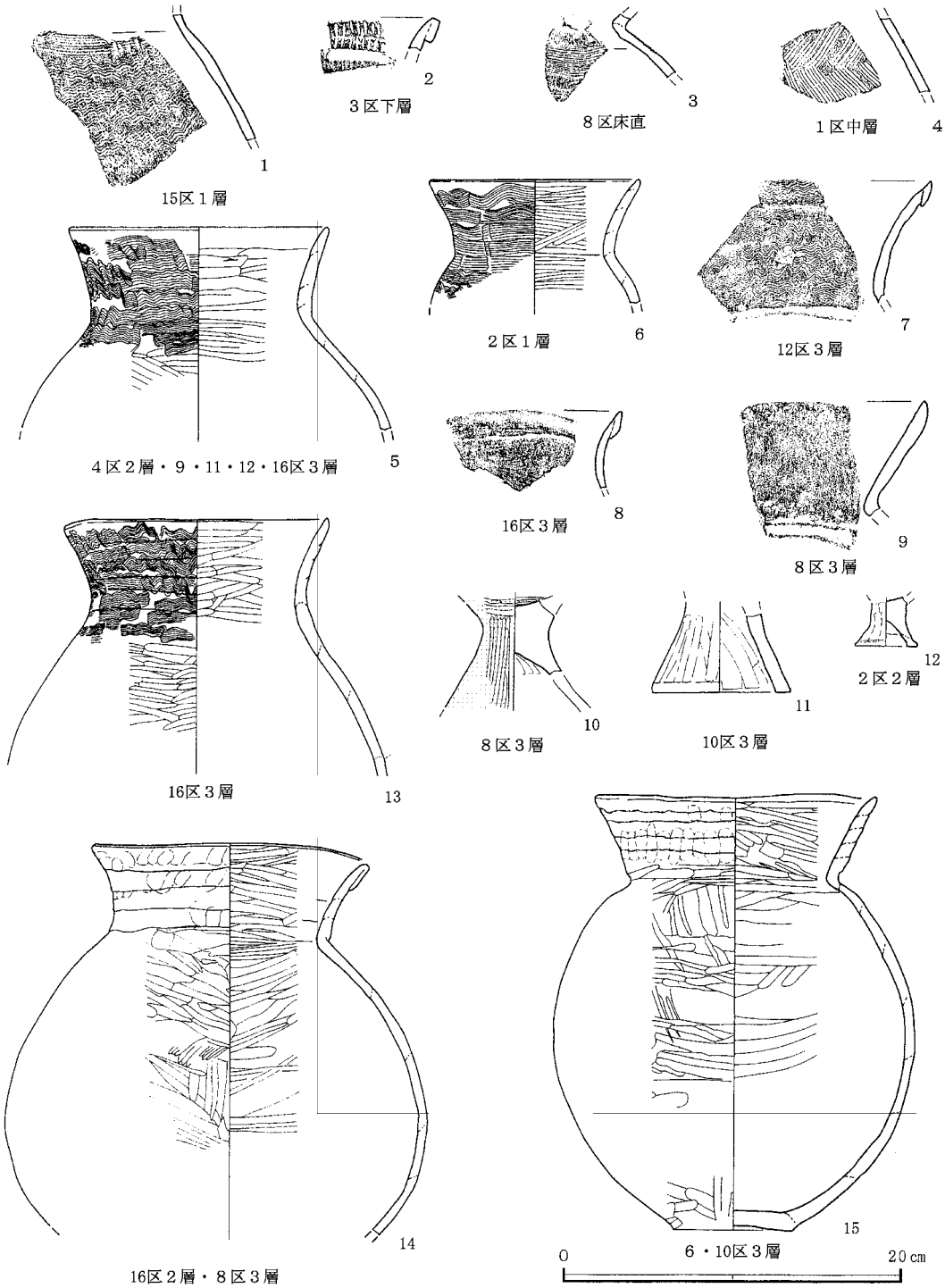
第33図　Y－101号・Y－108号住居址出土の遺物



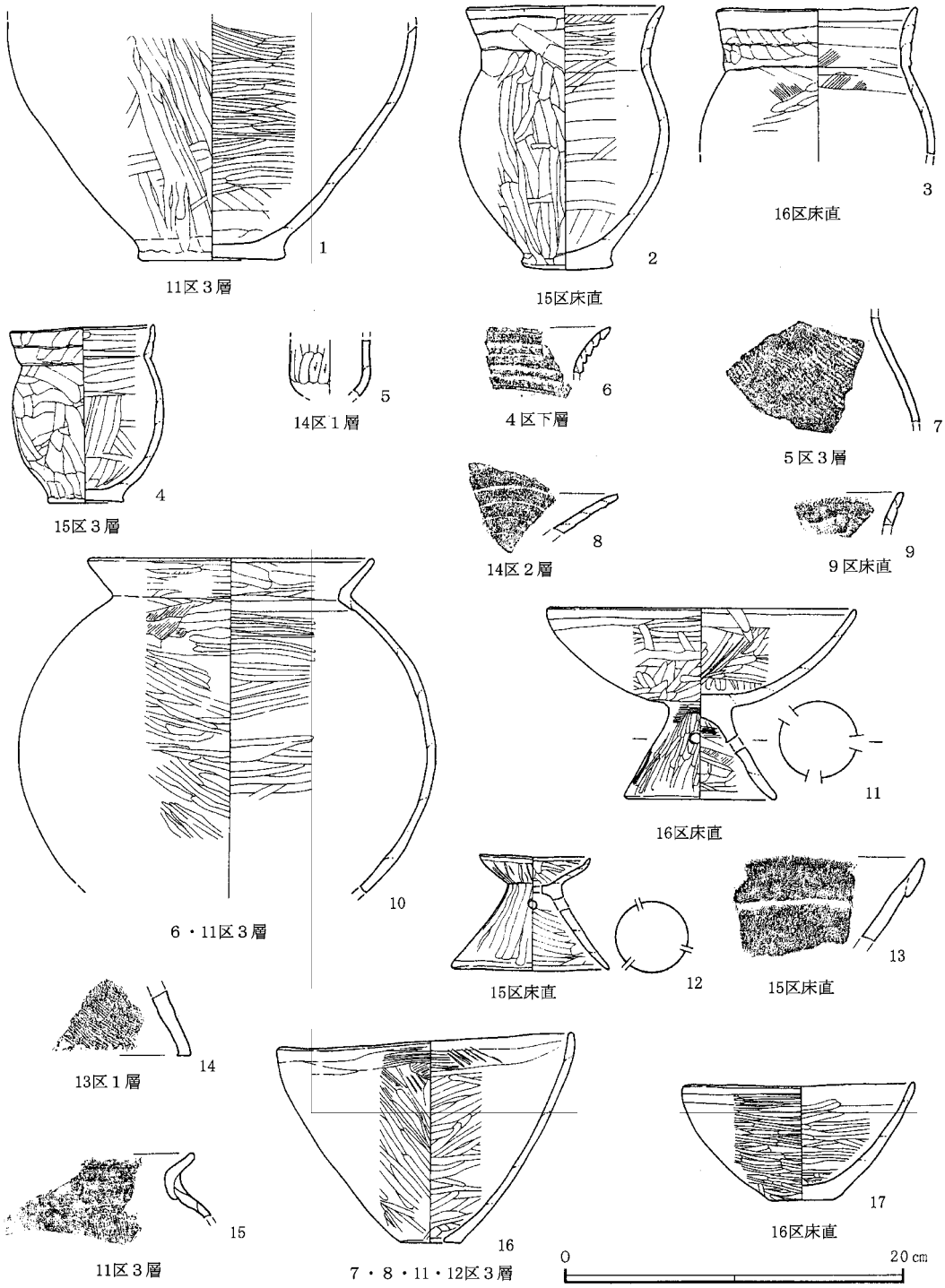
第34図　Y—104号住居址出土の遺物



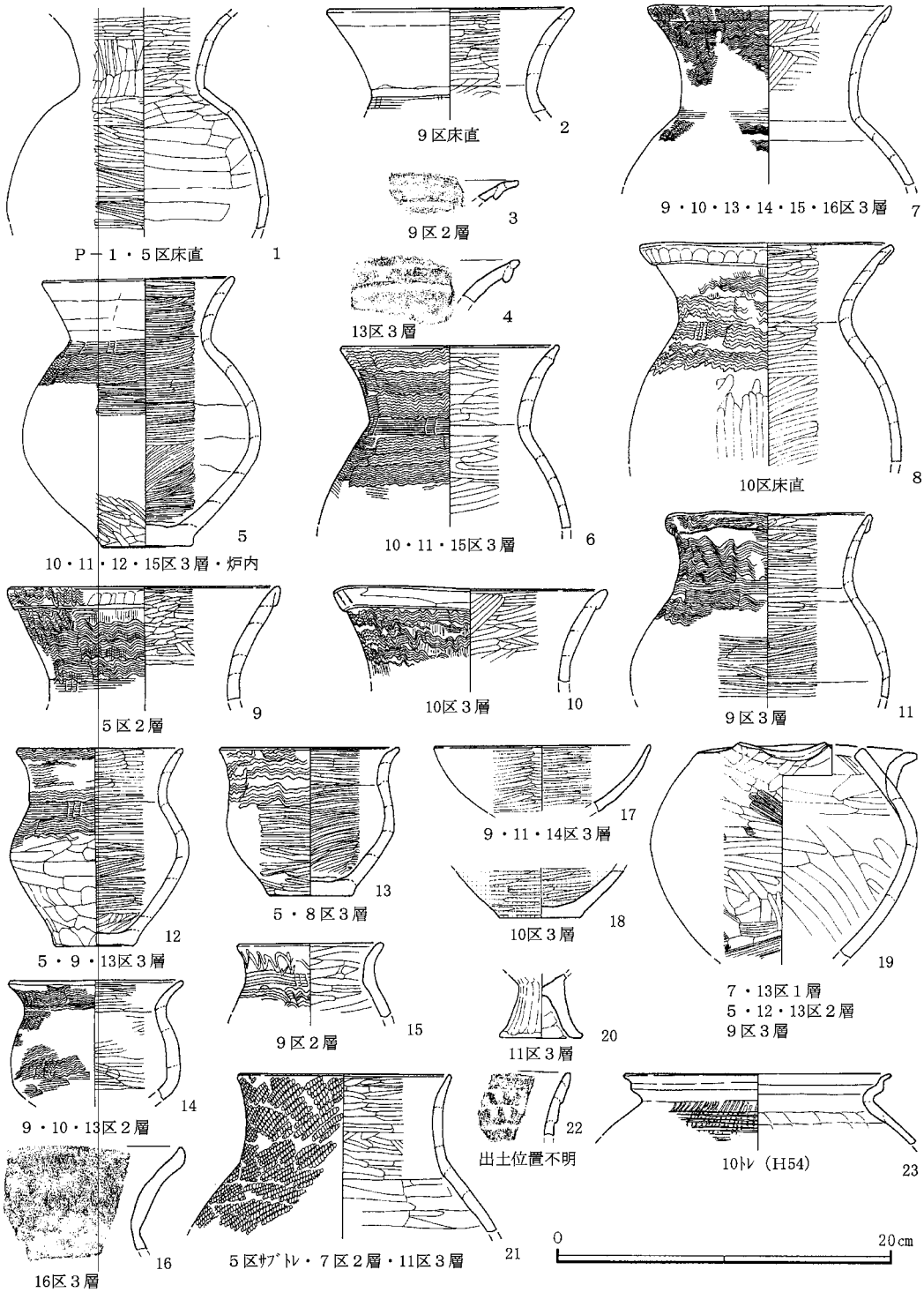
第35図　Y—105号住居址出土の遺物



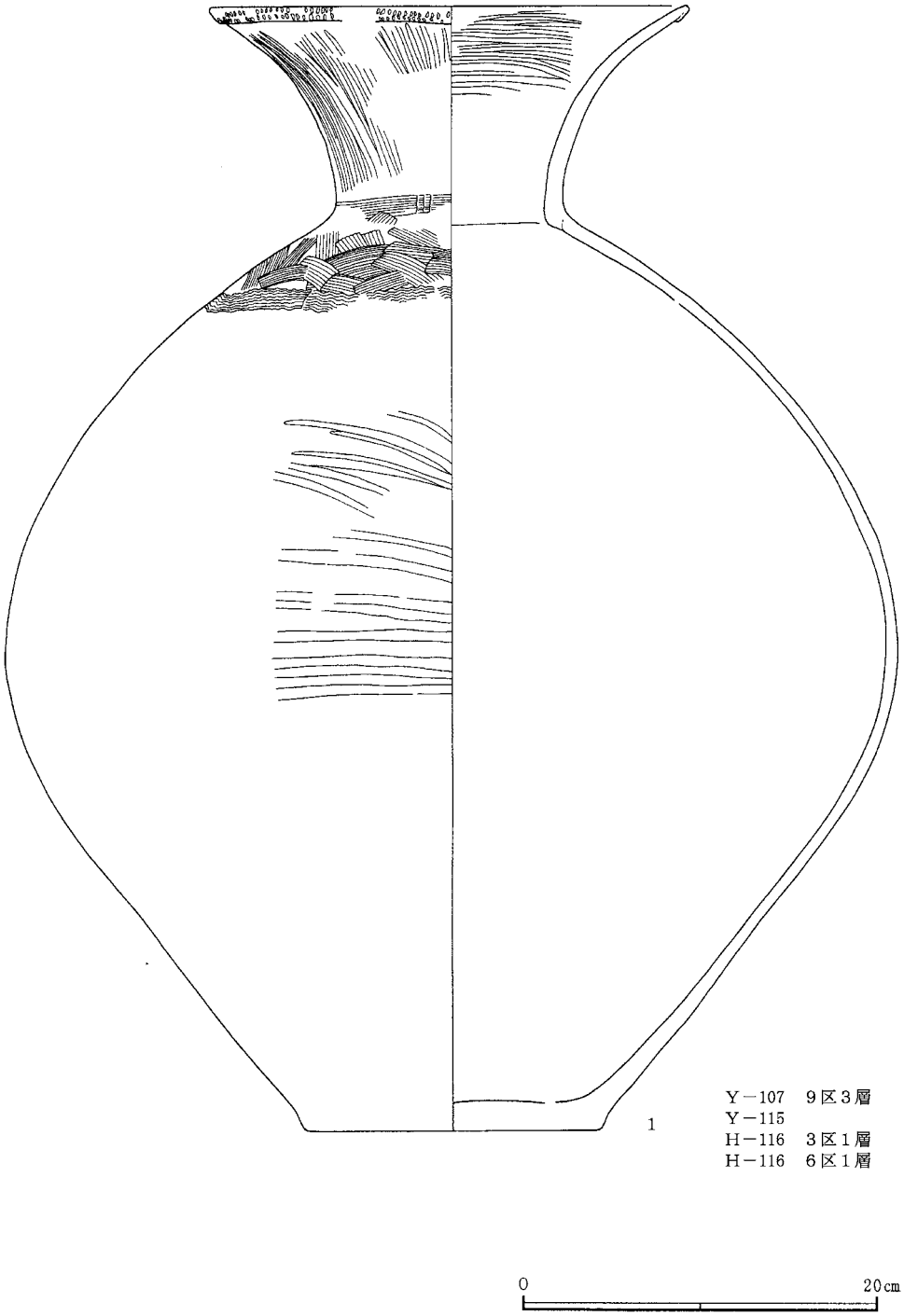
第36図　Y―106号住居址出土の遺物(1)



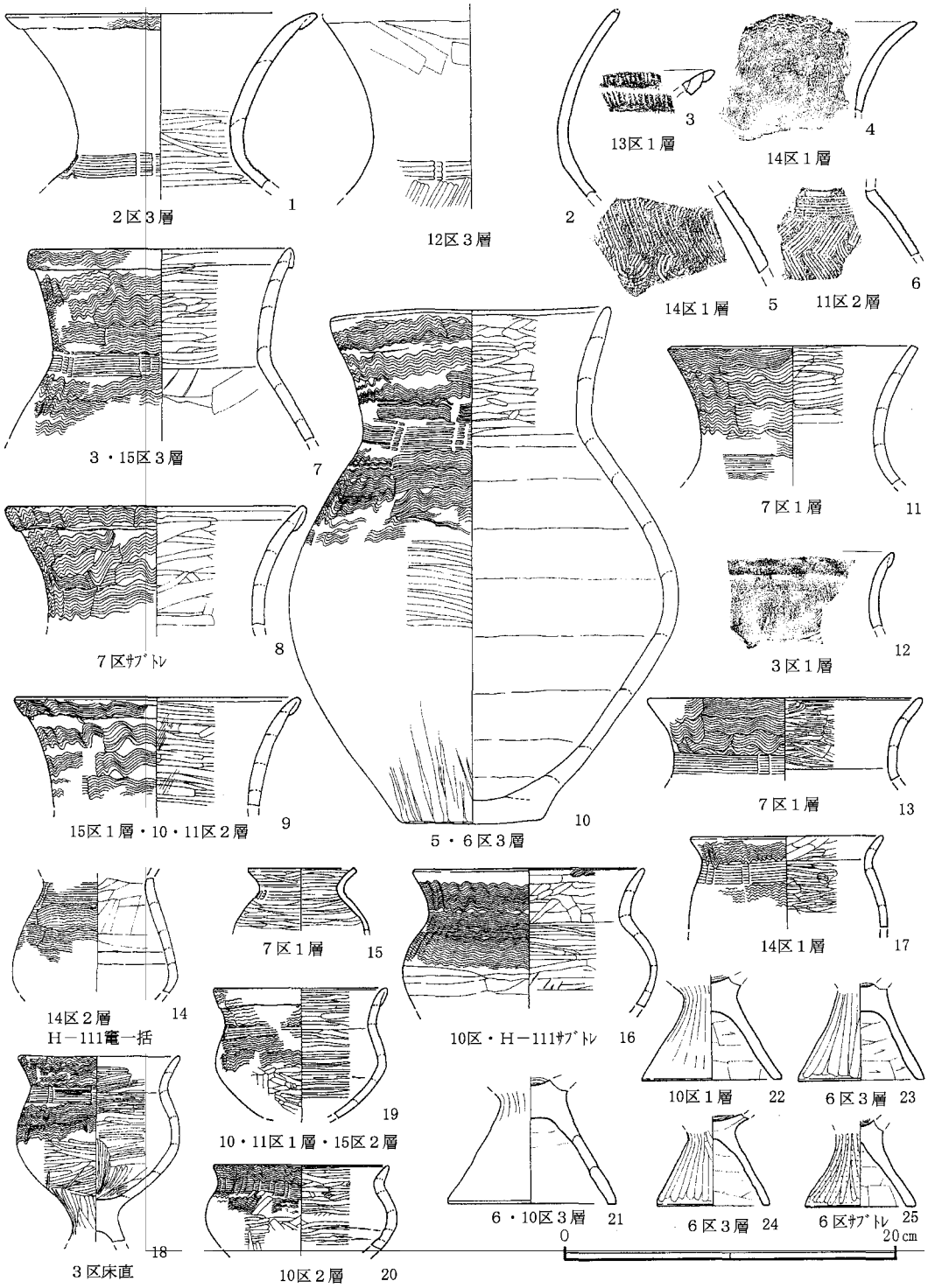
第37図　Ｙ―106号住居址出土の遺物(2)



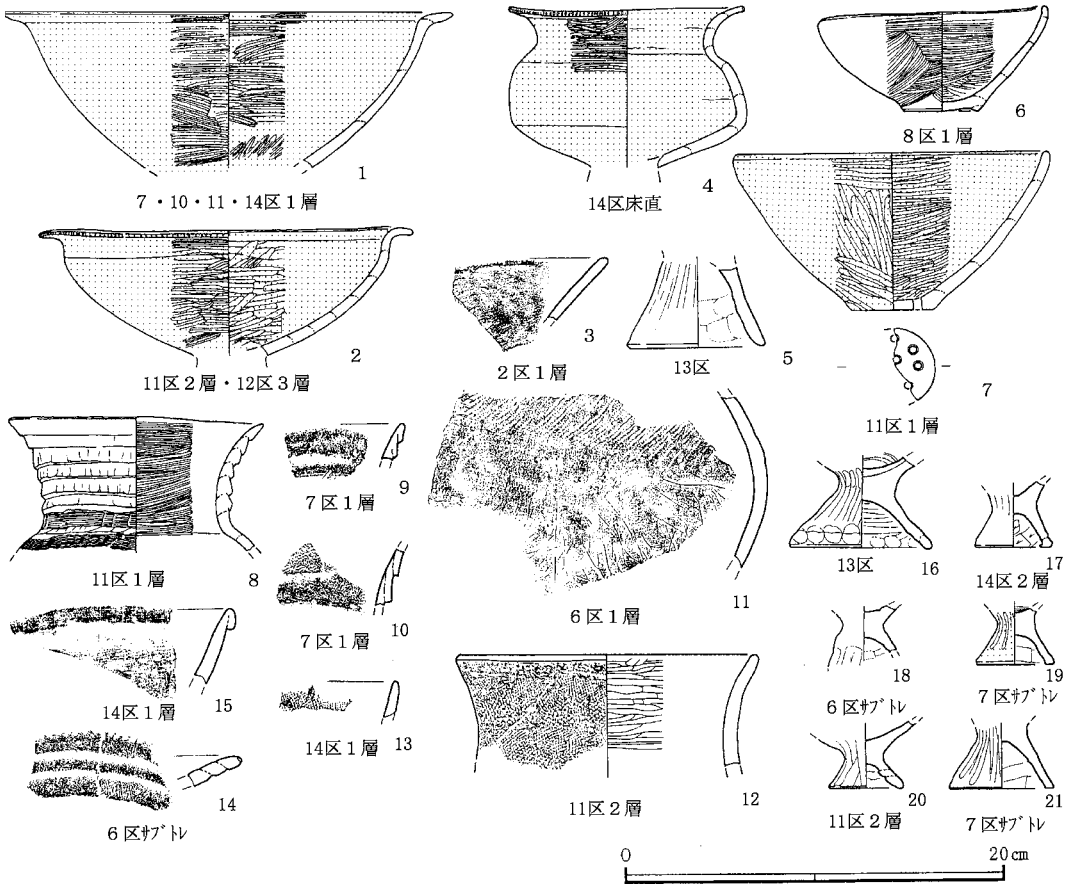
第38図　Y—107号住居址出土の遺物(1)



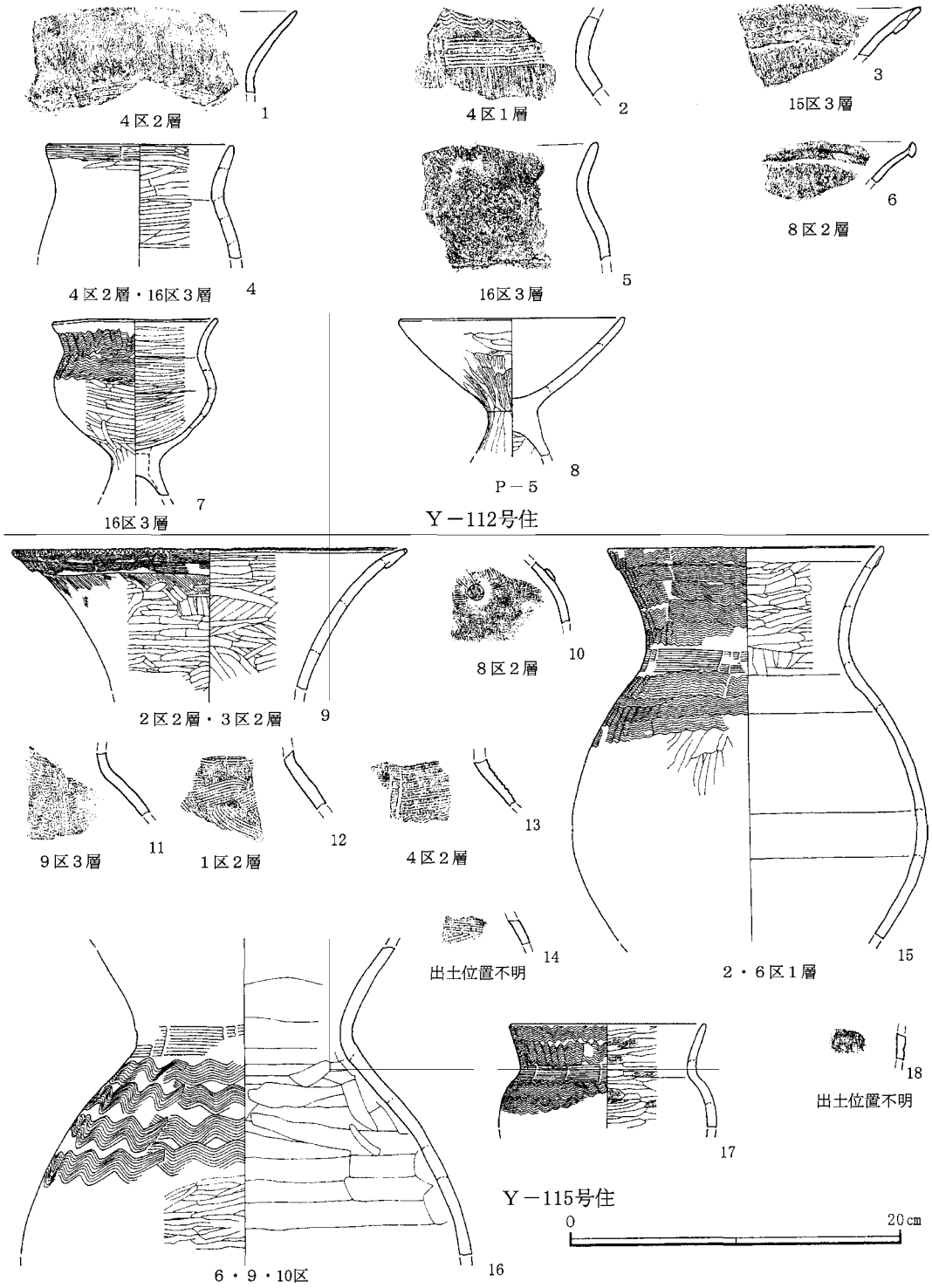
第39図　Y－107号住居址出土の遺物(2)



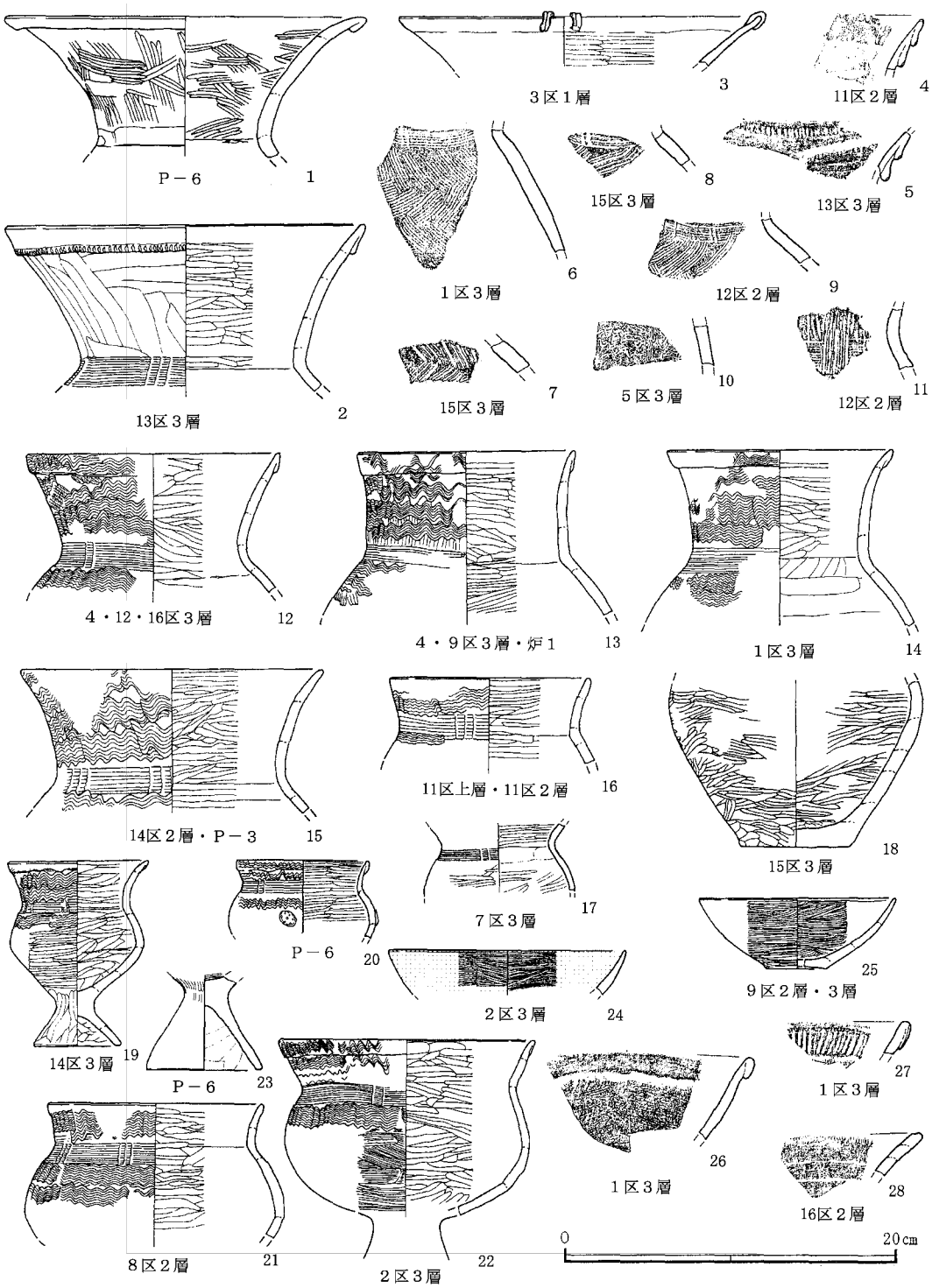
第40図　Y－110号住居址出土の遺物(1)



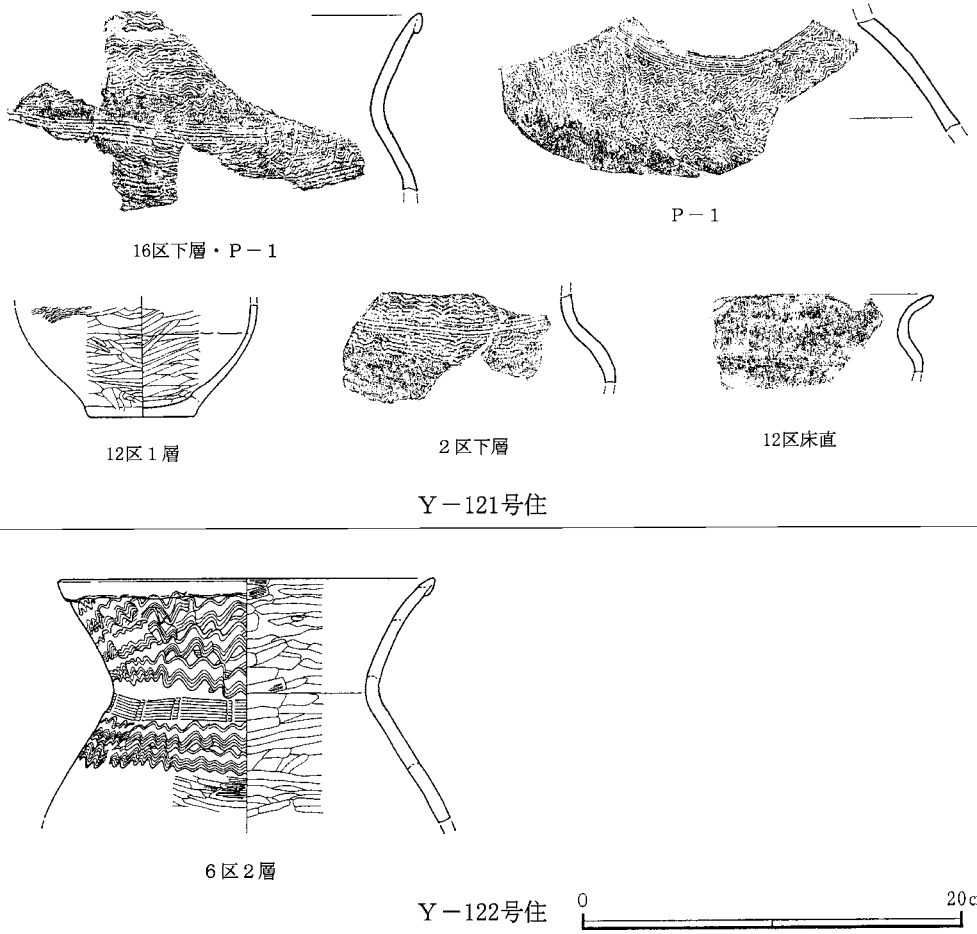
第41図　Ｙ－110号住居址出土の遺物(2)



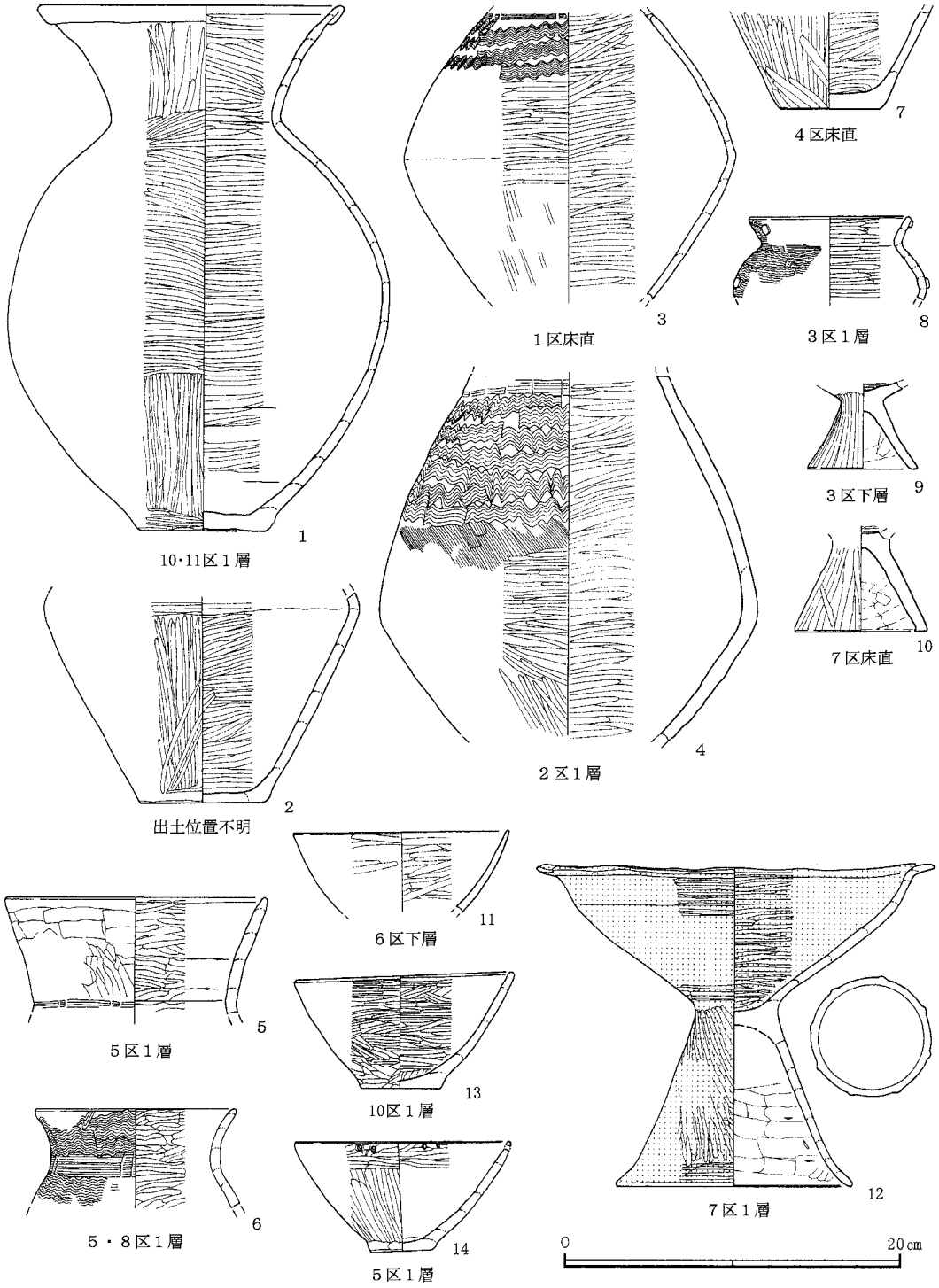
第42図　Y—112号・Y—115号住居址出土の遺物



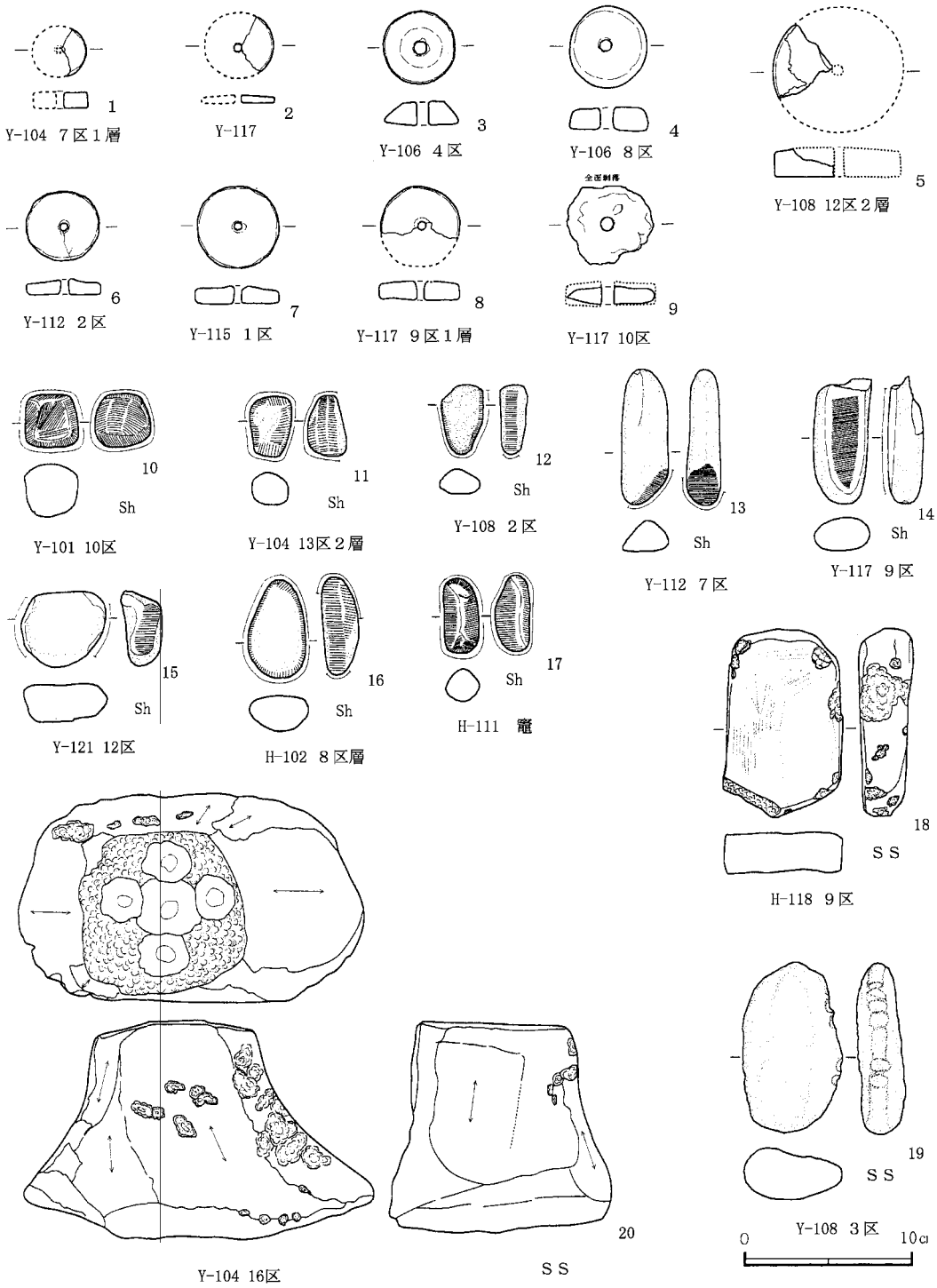
第43図　Y—117号住居址出土の遺物



第44図　Y—121号・Y—122号住居址出土の遺物



第45図　Ｙ―128号住居址出土の遺物



第46図　土製紡錘車・部分研磨石器・砥石（弥生時代）

2　古墳時代の遺構と遺物

(1)　遺構（第47図～第63図・第64図～第74図）

住居址17軒、掘立柱建物址１棟、竪穴状遺構２基、集石１基が検出された。

本遺跡の古墳時代は出土遺物の検討から４期に区分した。

Ⅰ期：古墳時代中期後葉

Ⅱ期：古墳時代中期末から後期初頭

Ⅲ期：古墳時代後期前葉から中葉

Ⅳ期：古墳時代後期後半

なお、本報告では、時期的に特徴のある遺構について報告することにした。

１．Ⅰ期の遺構

Ｈ―103号住居址が相当する。

Ｈ―103号住居址（第48図）：調査区の北西部分にあり、4.8m四方の正方形で南辺中央に1.2m×0.8mの張り出しを持つ。張り出しには上端0.6m、底面で0.4mの隅丸方形土坑がある。住居内に貯蔵穴が見られないことから、張り出し部の土坑が貯蔵穴であると思われる。当地域においては特異な住居である。竈は北辺中央に造られ、４本柱を持つ。竈は遺存状態が良好で、左右の袖石と焚き口天井石が残り、燃焼室中央の支脚の上に丸胴の甕（第77図１）が据え付けてあった。また、燃焼室後部の天井部もほぼ残り、煙道の構造も分かる良好な資料である。竈東脇から土師器が多数出土している。

２．Ⅱ期の遺構

Ｈ―102・109・116・127号住居址とＨＴ―１号掘立柱建物址が相当する。

Ｈ―116号住居址（第52図）：7.0m×6.8mの正方形でほぼ南北に主軸をとる。竈は南辺東寄りに造られ、竈右脇に住居南辺から張り出して上端径1.2m、底面径0.6mの円形土坑が検出されている。出土している土師器は住居内出土のものと同時期で、土層の観察からも本住居に付随する施設と考えられる。柱穴は４本確認できた。竈には左右の袖石と焚き口天井石が認められた。燃焼室内に高坏（第79図14）を逆位に据えており、支脚としたものと考えられる。本住居は当地域の住居が北辺あるいは東辺に竈を設置しているのに対して南辺に設置している。これは北側に検出したＨＴ―１号掘立柱建物址との関連で選択されたと考えられる。

Ｈ―127号住居址（第58図）：4.8m四方の正方形でＨ―116号住居址の南西方向に位置する。当期

としては中型の住居である。竈は北辺中央にあり、貯蔵穴は南東隅に配置れている。竈は左右の袖に石を使用しており、竈内からは高坏（第85図７）と長胴甕（第86図２）が出土している。また、床面には東西方向に走る地震による亀裂が認められた。

HT－１号掘立柱建物址（第61図）：Ｈ―116号住居址の北辺から２m程離れており、南辺6.0m、北辺6.3m、東辺4.0m、西辺3.6mとやや不整形な長方形である。各辺とも対応する柱がそろわないが、四隅の柱穴は良好である。本遺構の性格は確定しがたいが、Ｈ―116号住居址の東西幅とほぼ見合うこと、Ｈ―116号住居址の竈位置の特異性などから関連性の強いものと考えられる。

３．Ⅲ期の遺構

Ｈ―111・118・119・123・129号住居址が相当する。

Ｈ－118号住居址（第53図）：4.2m×4.0mのほぼ正方形の住居である。当期としては一般的な中規模の住居である。竈は北辺中央にあり、竈右脇にあたる住居東北隅と東南隅に貯蔵穴が認められた。新旧関係は捉えられていないが、竈の造り替えを含む配置変換を想定できる。竈の遺存状態が良好で、左右の袖石と焚き口天井石が残り、燃焼室内の支脚上に長甕（第82図10）が据えたままで検出された。

４．Ⅳ期の遺構

Ｈ―114・120・124・125・126・130号住居址が相当する。

Ｈ―114･120･125号住が4.9m×5.1～5.2mの当期としては中型の正方形住居で、Ｈ―124･126･130号住は一辺2.4～3.8mの小型方形住居である。竈は東に設置するものが多く、貯蔵穴は竈右脇に配置している。小型の住居には柱穴が検出されていない。中型住居はほぼ同一の軸線をとり、10～15mの間隔を持って配置されている。

（外山政子・井上慎也）

５．その他の遺構（第62図・第63図）

竪穴状遺構３基と集石１基を検出した。Ｔ－１号竪穴状遺構は平面正方形で床面に小ピットが認められた。Ｔ－２号竪穴状遺構は平面長方形である。Ｔ－３号竪穴状遺構は平面正方形で床面中央に小ピット、被熱した範囲が確認された。遺構外側にも小ピットが存在する。

集石（Ｓ－１号集石）はＨ―124号住居址に接して検出された。平面円形で皿状の掘り込みの礫が敷き詰められて検出された。

（井上慎也）

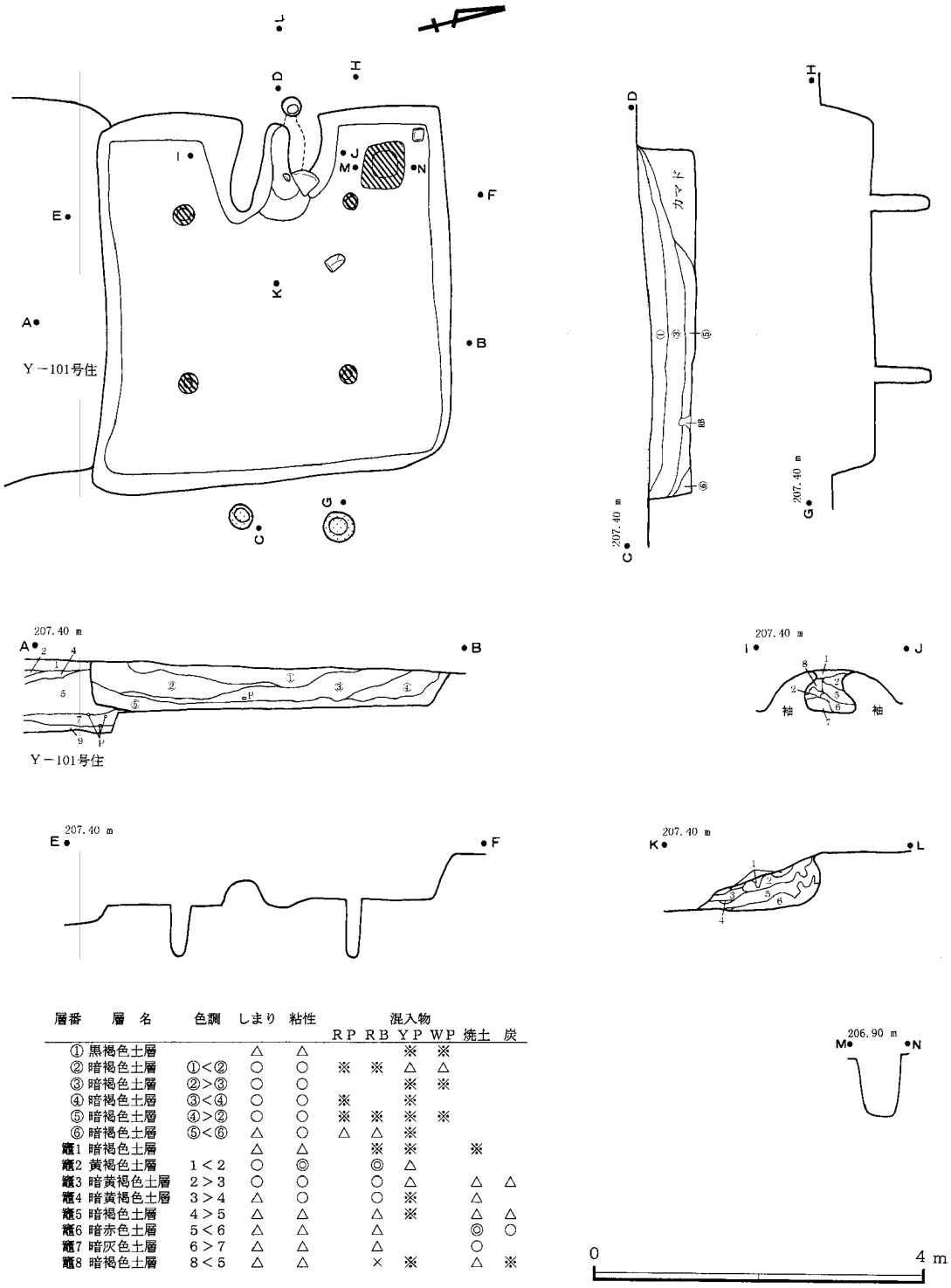
（単位：m）

住居名	平面形態	規模			貼り床	主軸方向	土坑	主柱穴	竈	時期	備考
		長軸	短軸	深さ					位置		
H―102	中形正方形	4.4	4.2	0.7		N―105°―E	竈右脇	4	東／中央	II	
H―103	中形正方形	4.8	4.8	0.4		N―15°―E	張出	4	北／中央	I	張出部をもつ
H―109	中形正方形	4.7	4.5	0.7	○	N―7°―W	竈右脇	4	北／中央	II	
H―111	中形正方形	4.2	4	0.4		N―90°―E	竈右脇	4	東／中央	III	
H―114	中形正方形	5.3	4.6	0.5		N―75°―E	竈右脇	4	東／南寄	IV	
H―116	大形正方形	6.9	6.9	0.5		N―177°―E	無	4	南／東寄	II	
H―118	中形正方形	4.2	4.1	0.4		N―19°―W	竈右脇	4	北／中央	III	
H―119	中形	3.5	(2.6)	0.5		N―101°―E	不明	不明	東／南寄	III	
H―120	中形正方形	5.3	5.2	0.2		N―72°―E	竈右脇	4	東／南寄	IV	
H―123	大形正方形	6.2	6.2	0.1		N―4°―W	不明	4	北／中央	III	
H―124	小形長方形	3.8	3.2	0.2		N―82°―E	竈右脇	無	東／中央	IV	
H―125	中形長方形	(5.0)	(4.6)	0.1		N―6°―W	竈右脇	(4)	北／東寄	IV	
H―126	小形長方形	3.4	2.6	0.3		N―91°―E	竈右脇	無	東／中央	IV	
H―127	中形正方形	4.8	4.8	0.2		N―18°―E	南壁際	4	北／中央	II	地割れ
H―129	中形正方形	5.1	5.1	0.2		N―11°―W	竈右脇・南壁際	4	北／中央	III	
H―130	中形正方形	3.8	3.6	0.6		N―70°―W	竈右脇	無	東／中央	IV	

（ ）は推定

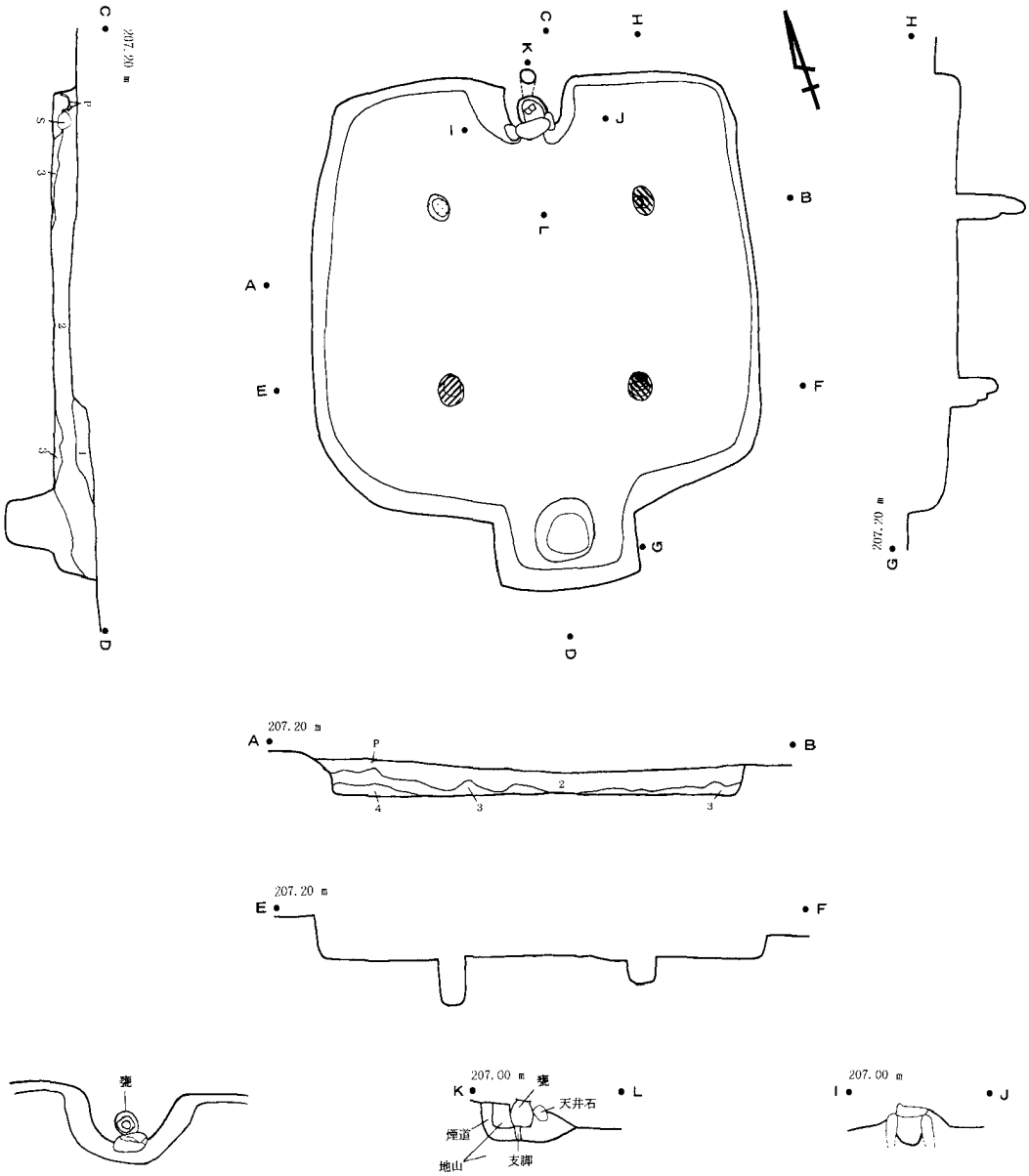
凡例　平面状態　大形：6m以上　中形：4～6m　小形：4m以下

第3表　古墳時代住居址観察表



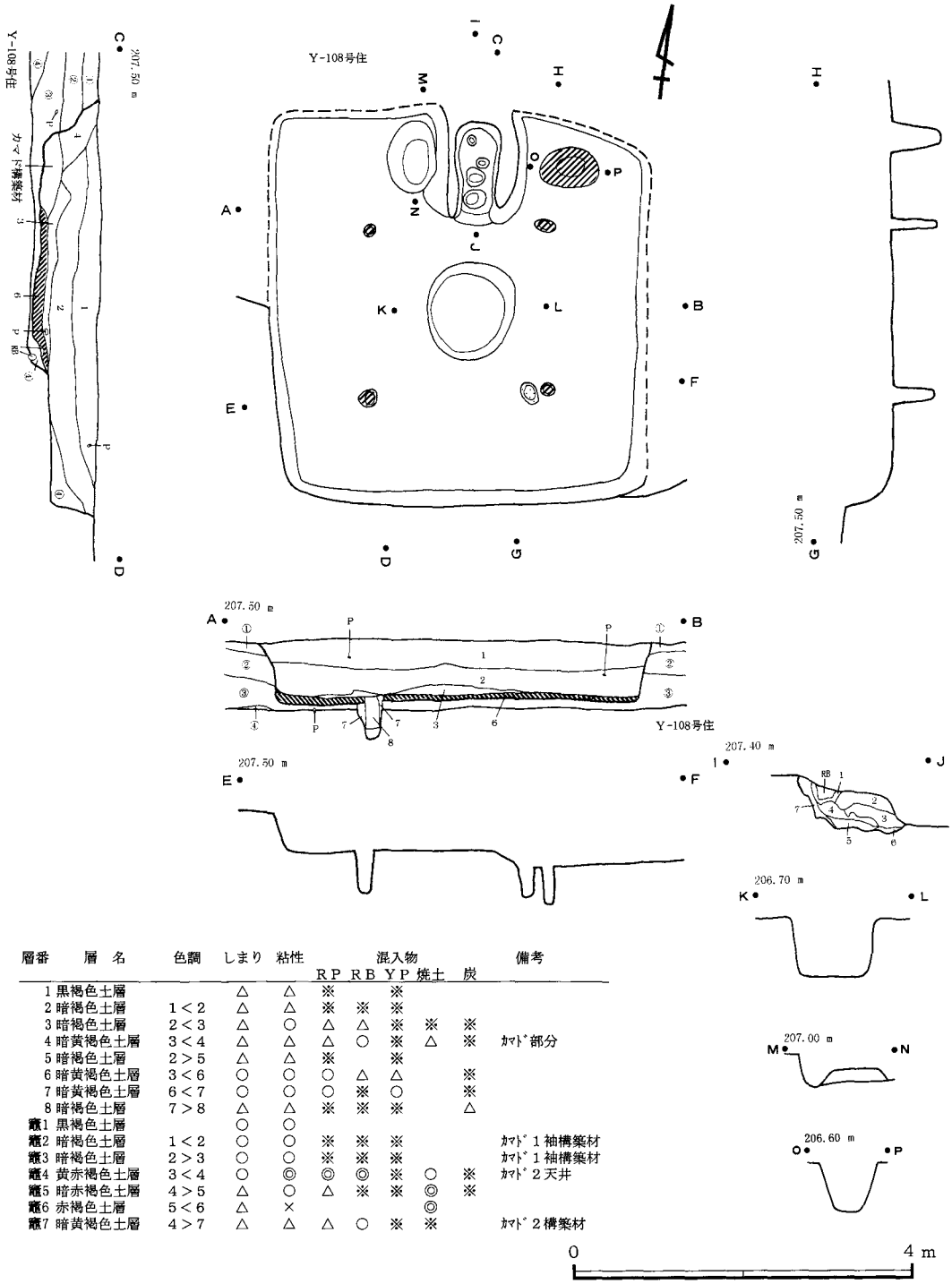
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	焼土	炭
①	黒褐色土層		△	△			※	※		
②	暗褐色土層	①＜②	○	○	※	※	△	△		
③	暗褐色土層	②＞③	○	○			※	※		
④	暗褐色土層	③＜④	○	○	※		※			
⑤	暗褐色土層	④＞②	○	○	※	※	※	※		
⑥	暗褐色土層	⑤＜⑥	△	○	△	△	※			
竈1	暗褐色土層		△	△		※	※		※	
竈2	黄褐色土層	1＜2	○	◎		◎	△			
竈3	暗黄褐色土層	2＞3	○	○		○	△		△	△
竈4	暗黄褐色土層	3＞4	△	○		○	※		△	
竈5	暗褐色土層	4＞5	△	△		△	※		△	△
竈6	暗赤色土層	5＜6	△	△		△			◎	○
竈7	暗灰色土層	6＞7	△	△		△			○	
竈8	暗褐色土層	8＜5	△	△		×	※		△	※

第47図　H—102号住居址実測図



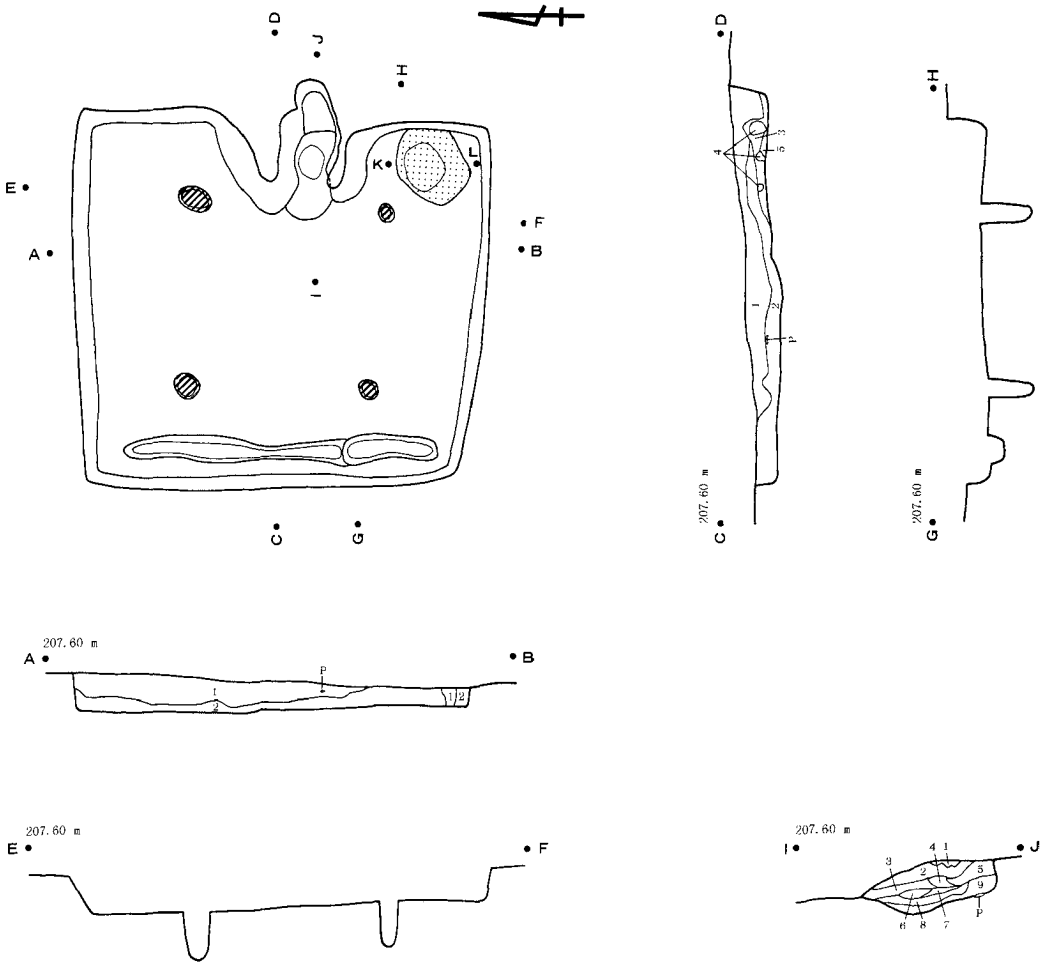
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	焼土	炭
1	黒褐色土層		△	○	※		※	※		
2	黒褐色土層	1＜2	○	○	※	※	※	△		※
3	暗褐色土層	2＜3	○	○	△	△	※	※		△
4	黒褐色土層	3＞4	○	○	△	△	※			

第48図　H—103号住居址実測図



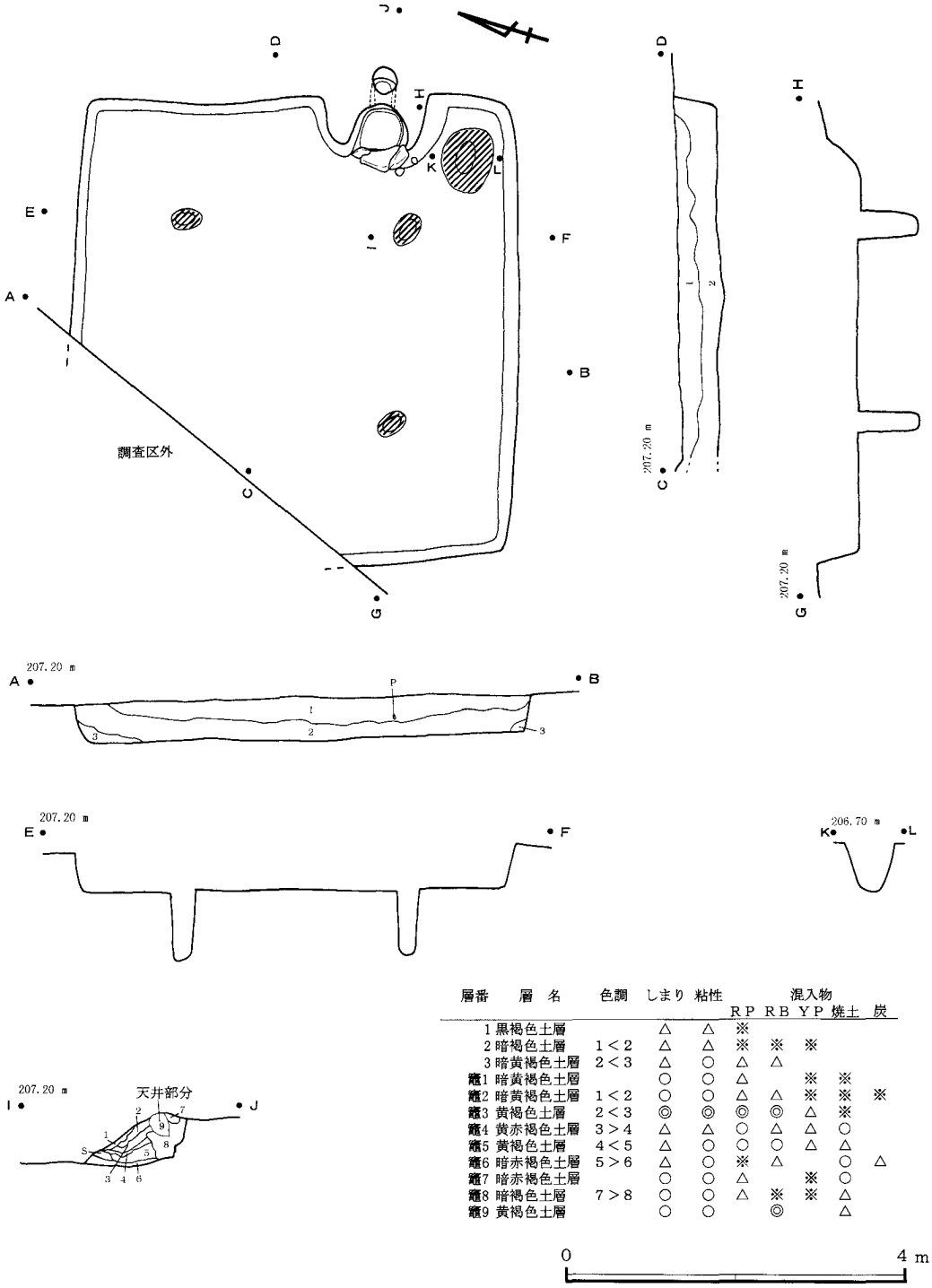
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	備考
1	黒褐色土層		△	△	※		※			
2	暗褐色土層	1＜2	△	△	※	※	※			
3	暗褐色土層	2＜3	△	○	△	△	※	※	※	
4	暗黄褐色土層	3＜4	△	△	△	○	※	△	※	ｶﾏﾄﾞ部分
5	暗褐色土層	2＞5	△	△	※		※			
6	暗黄褐色土層	3＜6	○	○	○	△	△		※	
7	暗黄褐色土層	6＜7	○	○	○	※	○		※	
8	暗褐色土層	7＞8	△	△	※	※	※		△	
竈1	黒褐色土層		○	○						
竈2	暗褐色土層	1＜2	○	○	※	※	※			ｶﾏﾄﾞ1袖構築材
竈3	暗褐色土層	2＞3	○	○	※	※	※			ｶﾏﾄﾞ1袖構築材
竈4	黄赤褐色土層	3＜4	○	◎	◎	◎	※	○	※	ｶﾏﾄﾞ2天井
竈5	暗赤褐色土層	4＞5	△	○	△	※	※	◎	※	
竈6	赤褐色土層	5＜6	△	×				◎		
竈7	暗黄褐色土層	4＞7	△	△	△	○	※	※		ｶﾏﾄﾞ2構築材

第49図　H—109号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	WP	焼土	炭
1	黒褐色土層		△	△	※		※	△		
2	暗褐色土層	1＜2	△	○	※	※	△	※		
3	暗褐色土層	2＜3	△	×	※	※	△	※	※	※
4	暗黄褐色土層	3＜4	△	○	△	○	※			
5	暗褐色土層	3＞5	△	△	※		△			
竈1	黒褐色土層		×	×	※		※			※
竈2	暗黄褐色土層	1＜2	△	○	○	○	※		※	※
竈3	暗褐色土層	2＞3	△	△	※	※	※		△	△
竈4	暗褐色土層	3＜4	△	○	△	△	※		※	※
竈5	暗黄赤褐色土層	4＜5	△	△	△		※		△	※
竈6	暗赤褐色土層	3＜6	×	×	※		※		◎	△
竈7	暗赤褐色土層	6＞7	×	×	※		※		○	△
竈8	暗赤褐色土層	7＜8	×	×	※	※	※		○	△
竈9	黒褐色土層	8＞9	△	△	※	※	※		△	※

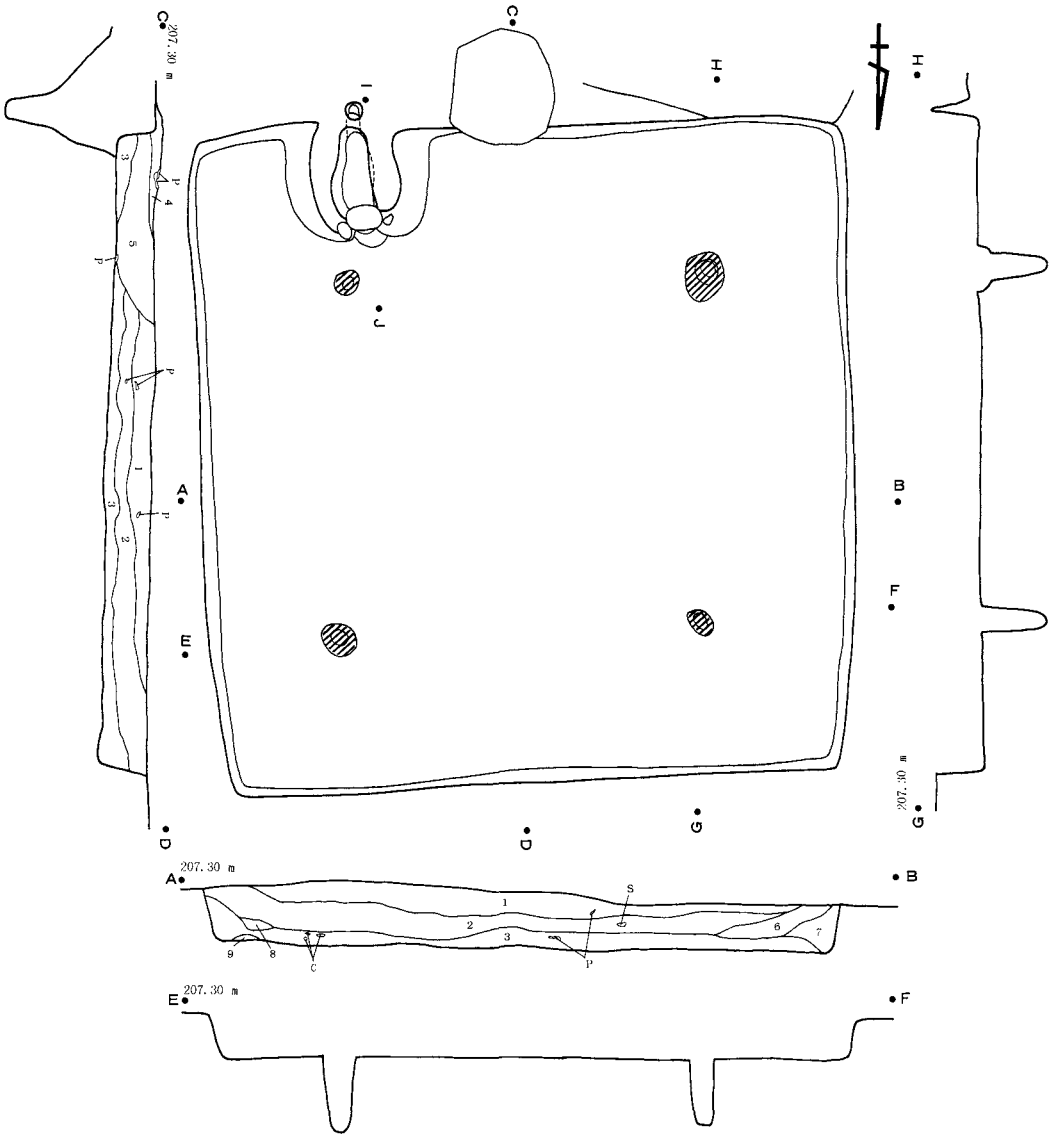
第50図　H—111号住居址実測図



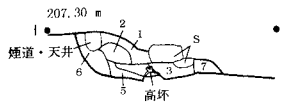
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒褐色土層		△	△	※				
2	暗褐色土層	1＜2	△	△	※	※	※		
3	暗黄褐色土層	2＜3	△	○	△	△			
竈1	暗黄褐色土層		○	○	△		※	※	
竈2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	△	△	※	※	※
竈3	黄褐色土層	2＜3	◎	◎	◎	◎	△	※	
竈4	黄赤褐色土層	3＞4	△	△	○	△	△	○	
竈5	黄褐色土層	4＜5	△	○	○	○	△	△	
竈6	暗赤褐色土層	5＞6	△	○	※	△		○	△
竈7	暗赤褐色土層		○	○	△		※	○	
竈8	暗褐色土層	7＞8	○	○	△	※	※	△	
竈9	黄褐色土層		○	○		◎		△	

0 4 m

第51図　H—114号住居址実測図

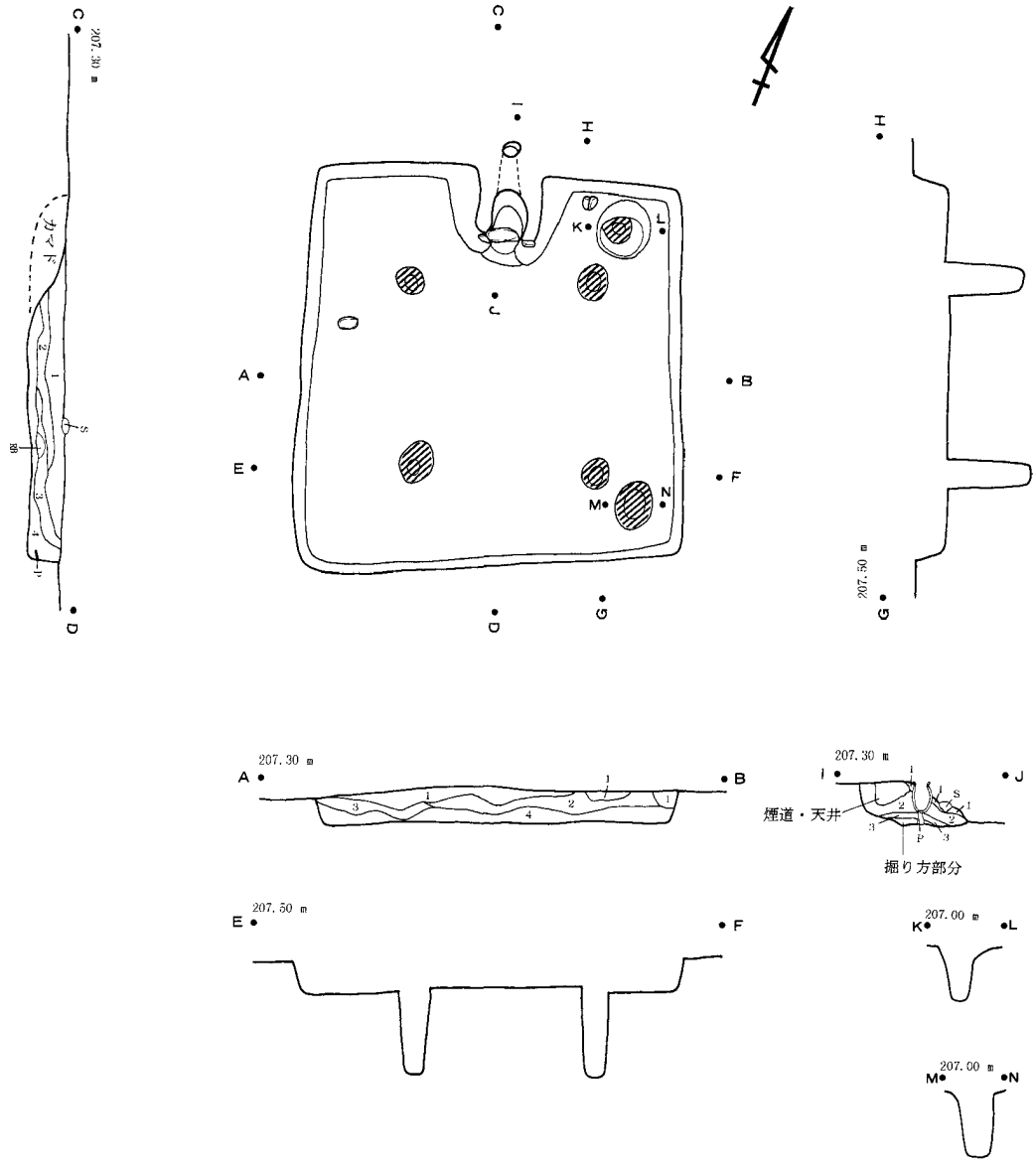


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒褐色土層		△	○			※		
2	黒褐色土層	1＜2	○	○	※		△		
3	暗褐色土層	2＜3	○	○	△	※	△		△
4	黒褐色土層	1＜4	△	○			※		
5	暗褐色土層	4＜5	○	○	※		△		
6	暗褐色土層	2＜6	○	○	△	※	※		
7	黒褐色土層	6＞7	○	○	※		※		
8	暗褐色土層	2＜8	○	○	△	△	△		
9	暗黄褐色土層	3＜9	○	◎	○	○	※		
竈1	暗黄褐色土層		△	○	△	△	△	※	※
竈2	暗黄赤褐色土層	1＜2	○	○	○	○	※	○	
竈3	暗赤褐色土層	2＞3	△	△	※		※	○	※
竈4	暗黄赤褐色土層	3＜4	○	○	○	○	※	○	
竈5	暗赤褐色土層	4＞5	○	○	○	○	※	○	※
竈6	暗赤褐色土層	5＞6	○	△	△			○	
竈7	暗黄褐色土層	1≒7	○	○	△	△	△	△	※



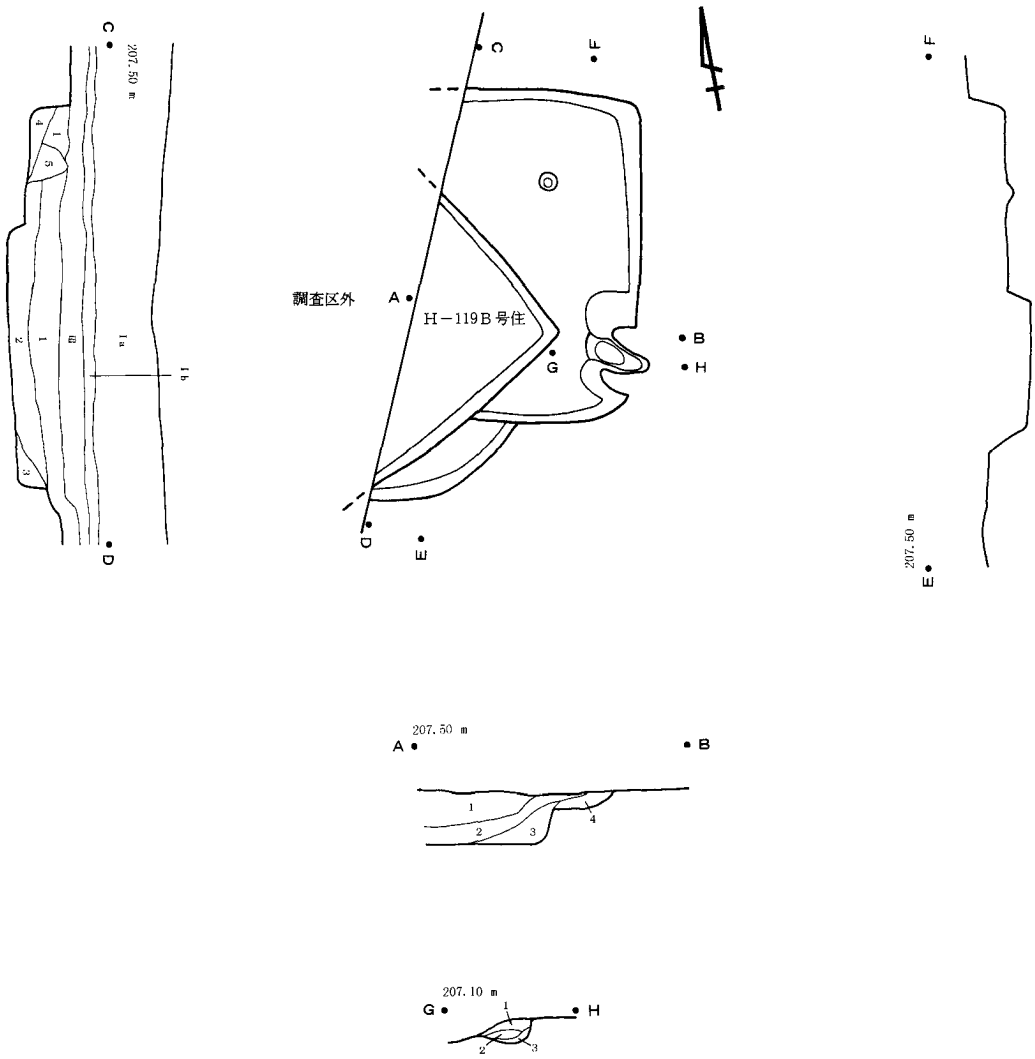
0　4 m

第52図　H—116号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		△	○	△	※	※	※	
2	暗黄褐色土層	1＜2	△	○	△	○	※	△	△
3	黒褐色土層	2＞3	△	○	※				
4	暗褐色土層	3＜4	○	○	△	△			○
竈1	暗褐色土層		○	○	※		※	△	
竈2	暗赤褐色土層	1＜2	△	△				◎	○
竈3	暗褐色土層	2＞3	△	△	※			○	△

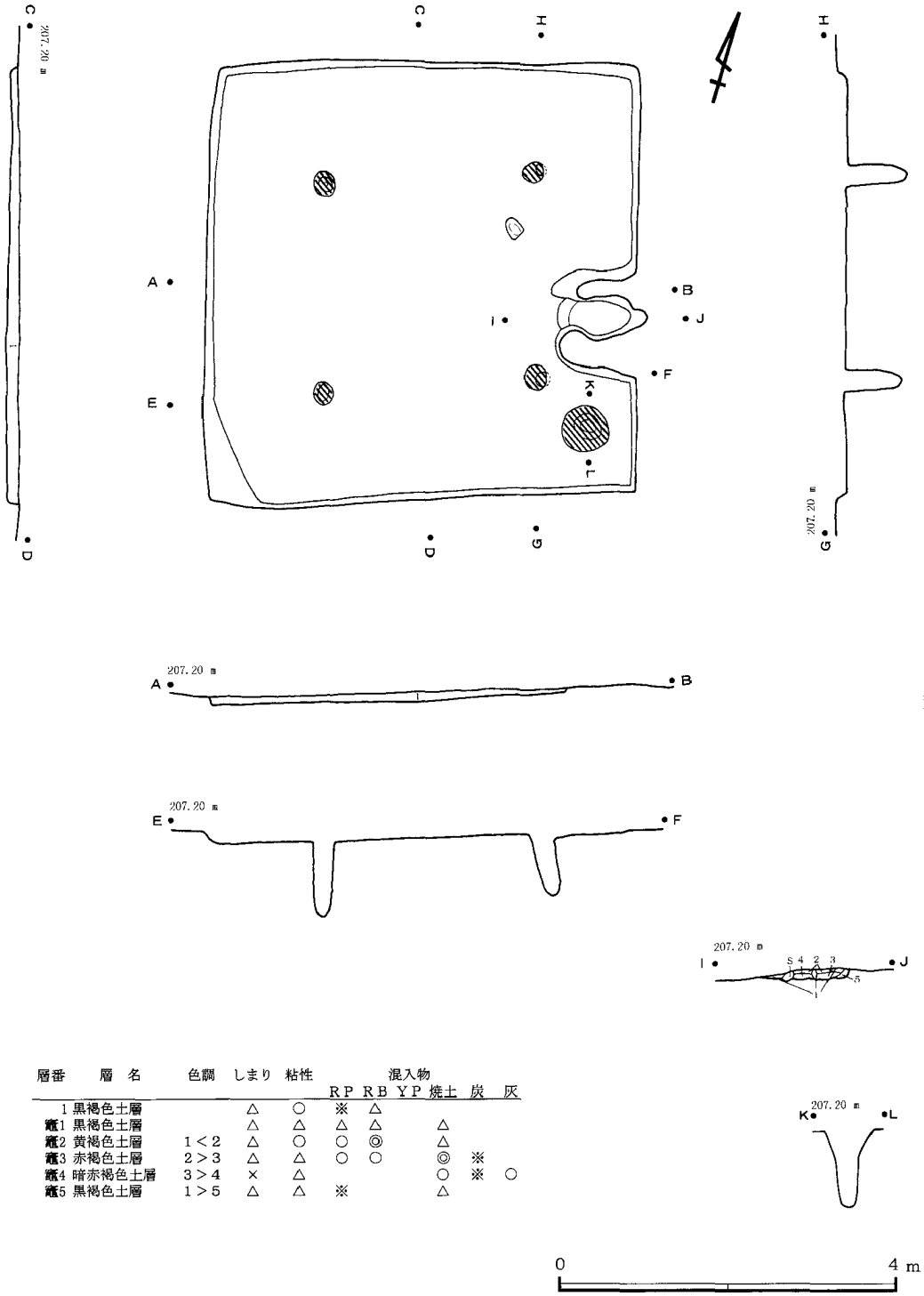
第53図　H—118号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	WP	焼土	炭
1	黒褐色土層	Ⅲ＜1	○	△	※	※	※		
2	暗褐色土層	1＜2	△	○	△	△			
3	黒褐色土層	2＞3	○	○	※	△			
4	暗褐色土層	1＜4	○	○	△				
5	暗赤褐色土層	1＜5	○	○	△	△		○	
竈1	黒褐色土層		△	○	※			※	
竈2	暗赤褐色土層	1＜2	△	△	△	※		○	※
竈3	黒褐色土層	2＞3	△	○	※	※		△	※

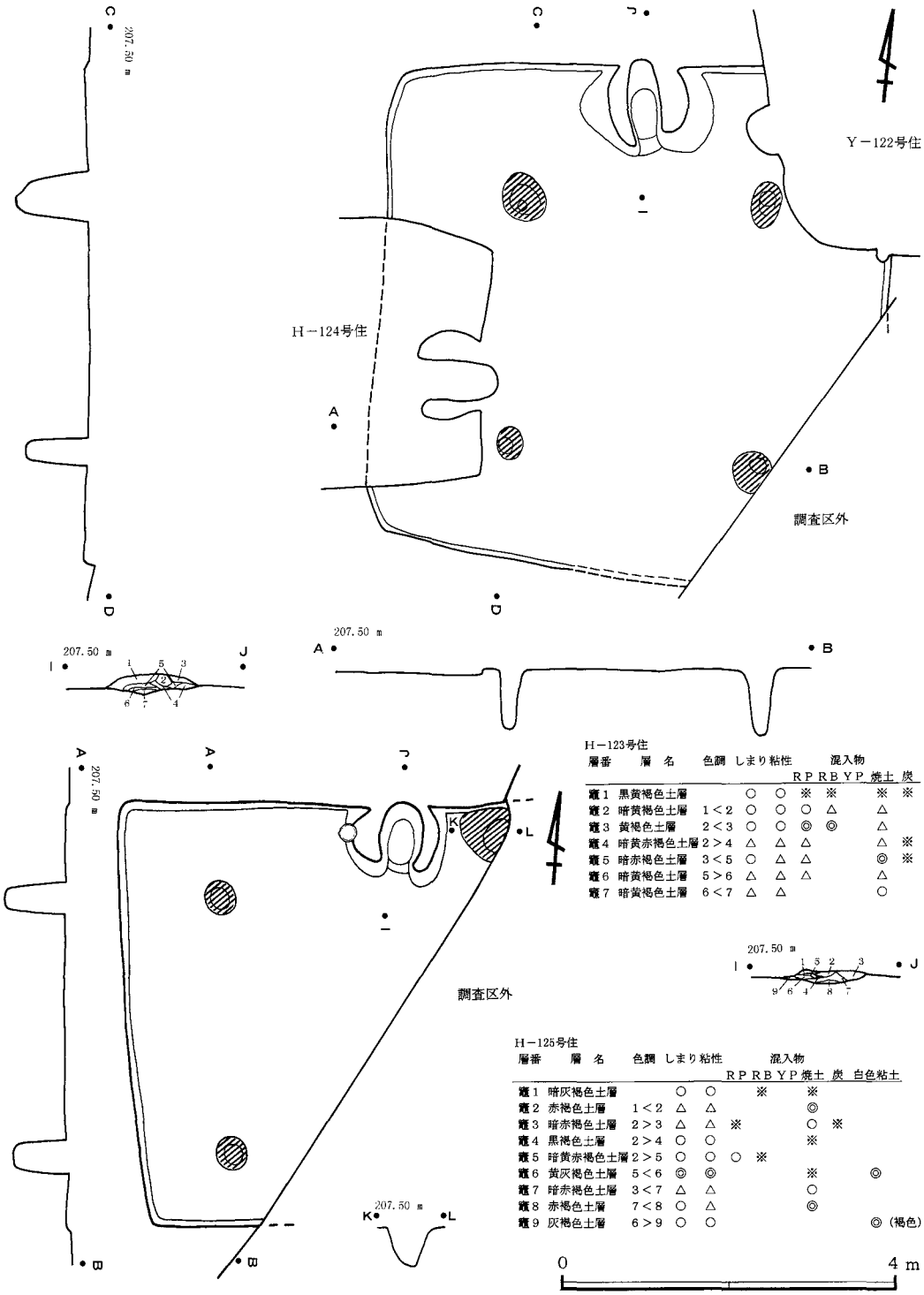
0　　4 m

第54図　H—119号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	灰
1	黒褐色土層		△	○	※	△				
竈1	黒褐色土層		△	△	△	△		△		
竈2	黄褐色土層	1＜2	△	○	○	◎		△		
竈3	赤褐色土層	2＞3	△	△	○	○		◎	※	
竈4	暗赤褐色土層	3＞4	×	△				○	※	○
竈5	黒褐色土層	1＞5	△	△	※			△		

第55図　H—120号住居址実測図



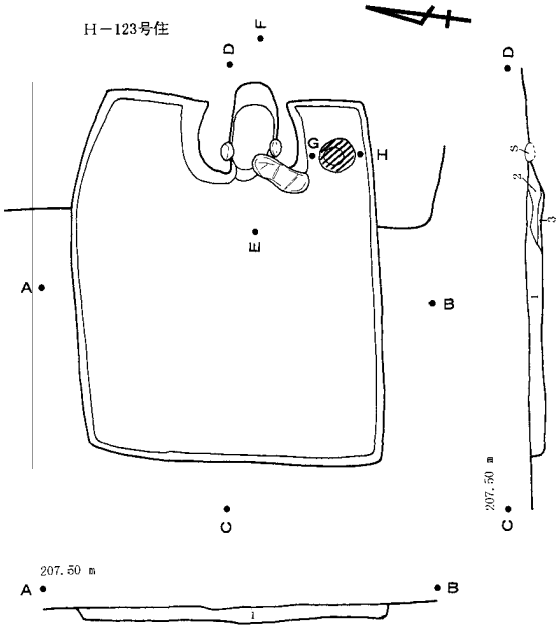
H－123号住

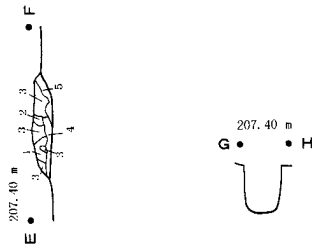
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
層1	黒黄褐色土層		○	○	※	※		※	※
層2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	○	△		△	
層3	黄褐色土層	2＜3	○	○	◎	◎		△	
層4	暗黄赤褐色土層	2＞4	△	△	△			△	※
層5	暗赤褐色土層	3＜5	○	△	△			◎	※
層6	暗黄褐色土層	5＞6	△	△	△			△	
層7	暗黄褐色土層	6＜7	△	△				○	

H－125号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	白色粘土
層1	暗灰褐色土層		○	○		※		※		
層2	赤褐色土層	1＜2	△	△				◎		
層3	暗赤褐色土層	2＞3	△	△	※			○	※	
層4	黒褐色土層	2＞4	○	○				※		
層5	暗黄赤褐色土層	2＞5	○	○	○	※				
層6	黄灰褐色土層	5＜6	◎	◎				※		◎
層7	暗赤褐色土層	3＜7	△	△				○		
層8	赤褐色土層	7＜8	○	△				◎		
層9	灰褐色土層	6＞9	○	○						◎（褐色）

第56図　H—123号・H—125号住居址実測図

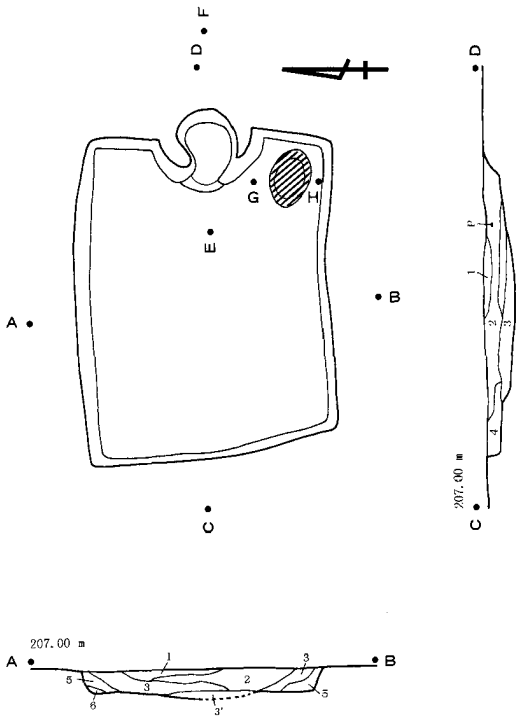


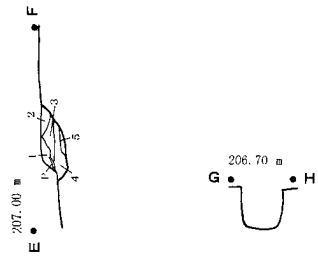


H－124号住

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		○	△	△	△	※		
2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	○	○	△		
3	暗褐色土層	2＞3	○	○	○				
竈1	暗黄褐色土層		○	○	△	△	※	※	※
竈2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	○	○	※	※	
竈3	黄褐色土層	2＜3	○	◎	◎	◎	△	△	
竈4	暗褐色土層	1＞4	○	○	※			△	※
竈5	黒褐色土層	4＞5	△	○				○	※

0 4 m



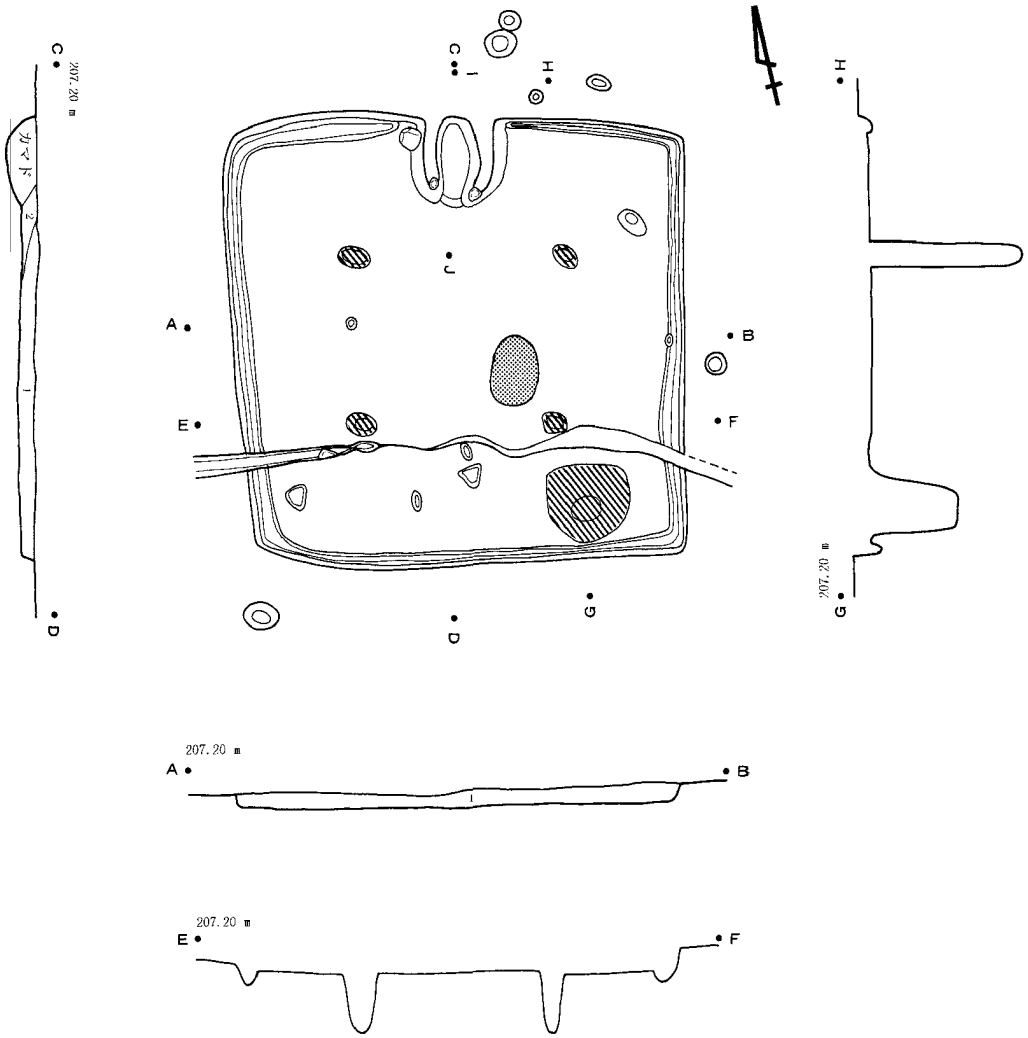


H－126号住

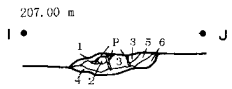
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗黄褐色土層		○	○	※	△	○		
2	黒褐色土層	1＞2	△	○	※	※	△		
3	暗黄褐色土層	2＜3	△	○	※	△	△		
3'	暗黄褐色土層	3＜3'	○	○	△	△	△		
4	暗黄褐色土層	3＜4	△	○	△	△	△		
5	黒褐色土層	3＞5	△	△					
6	暗黄褐色土層	5＜6	○	○	○	◎			
竈1	黒褐色土層		△	○		※		※	△
竈2	赤褐色土層	1＜2	△	△				◎	
竈3	黄褐色土層	2＜3	○	○	○	◎		△	
竈4	暗赤褐色土層	3＞4	△	△	※	△		○	△
竈5	赤褐色土層	4＜5	◎	△				◎	

0 4 m

第57図　H－124号・H－126号住居址実測図

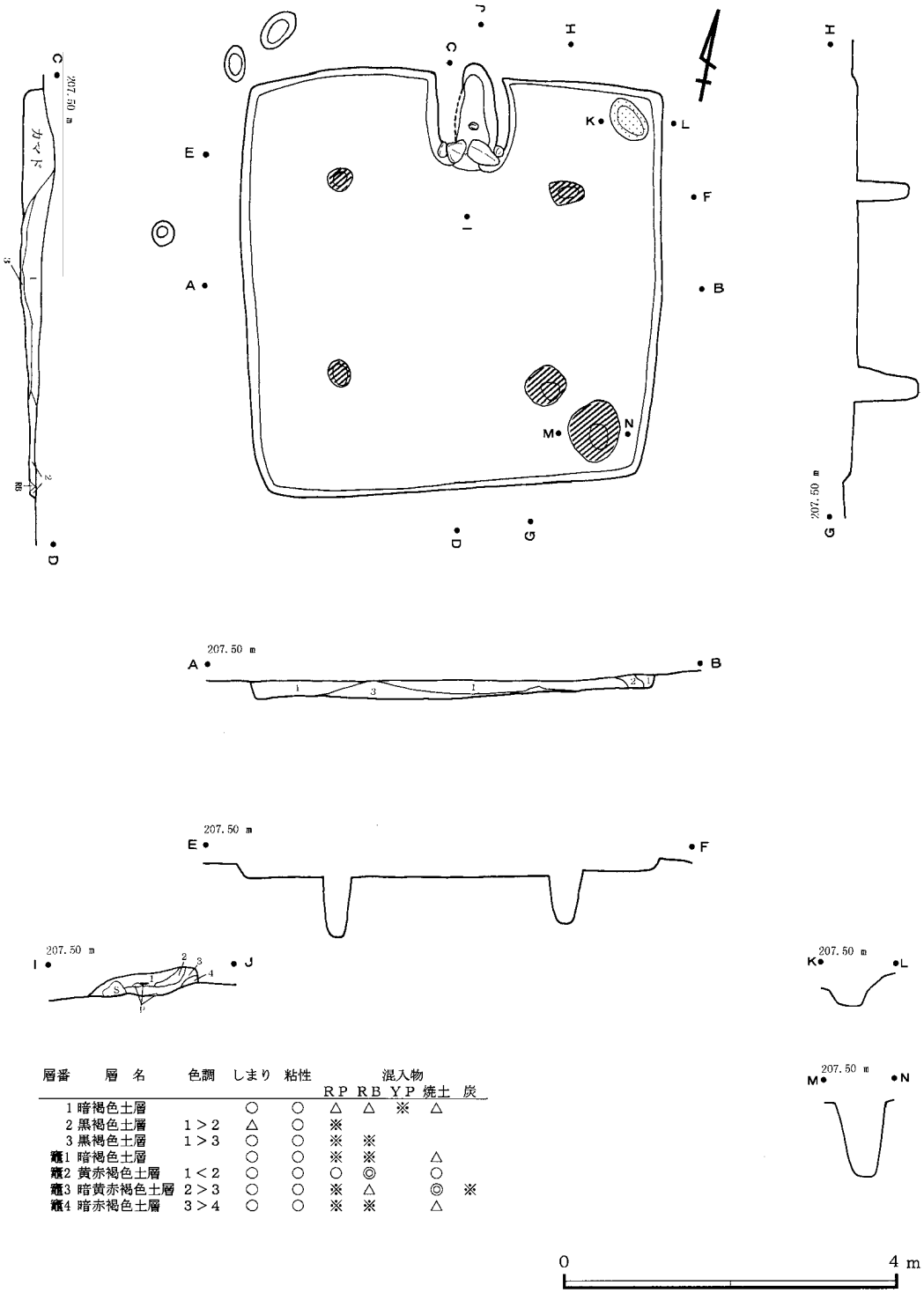


層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒褐色土層		○	○	※	※	※		
2	暗褐色土層	1＜2	○	○	△	※		※	
竈1	暗褐色土層		×	△	※			△	※
竈2	暗赤褐色土層	1＜2	×	×		※		◎	
竈3	暗赤褐色土層	2＞3	×	△			※	○	※
竈4	暗赤褐色土層	3＜4	○	×				◎	
竈5	暗褐色土層	3＞5	×	×	※		※	○	△
竈6	暗褐色土層	5＞6	×	×	△		※	△	※



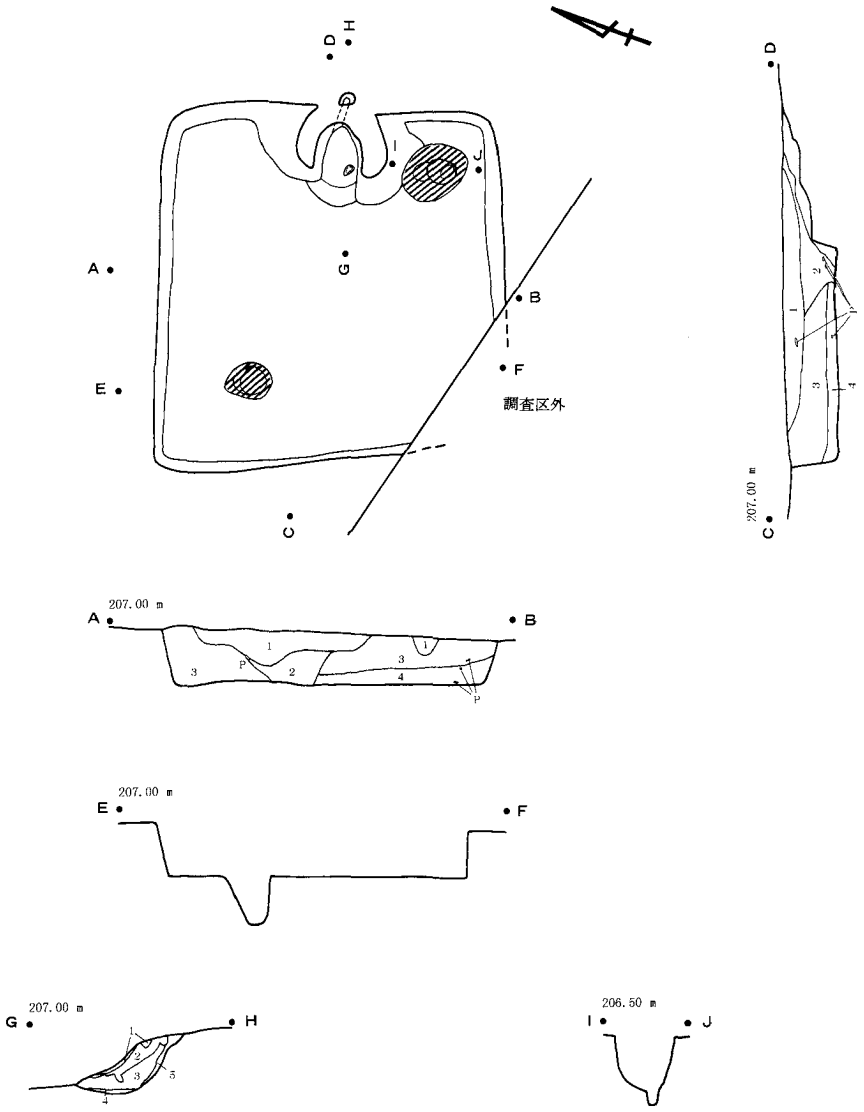
0　　4 m

第58図　H—127号住居址実測図



層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		○	○	△	△	※	△	
2	黒褐色土層	1＞2	△	○	※				
3	黒褐色土層	1＞3	○	○	※	※			
竈1	暗褐色土層		○	○	※	※		△	
竈2	黄赤褐色土層	1＜2	○	○	○	◎		○	
竈3	暗黄赤褐色土層	2＞3	○	○	※	△		◎	※
竈4	暗赤褐色土層	3＞4	○	○	※	※		△	

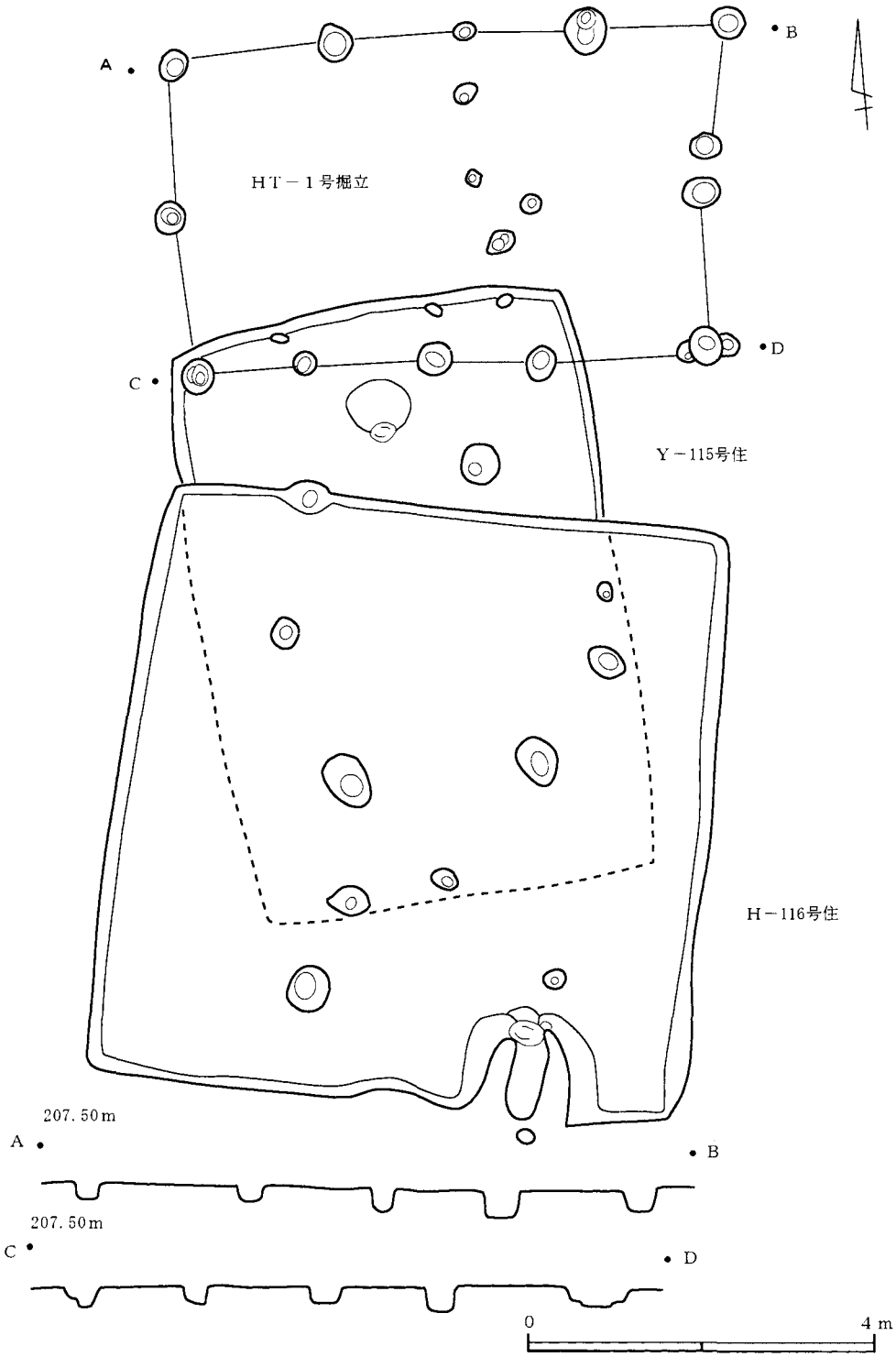
第59図　H—129号住居址実測図



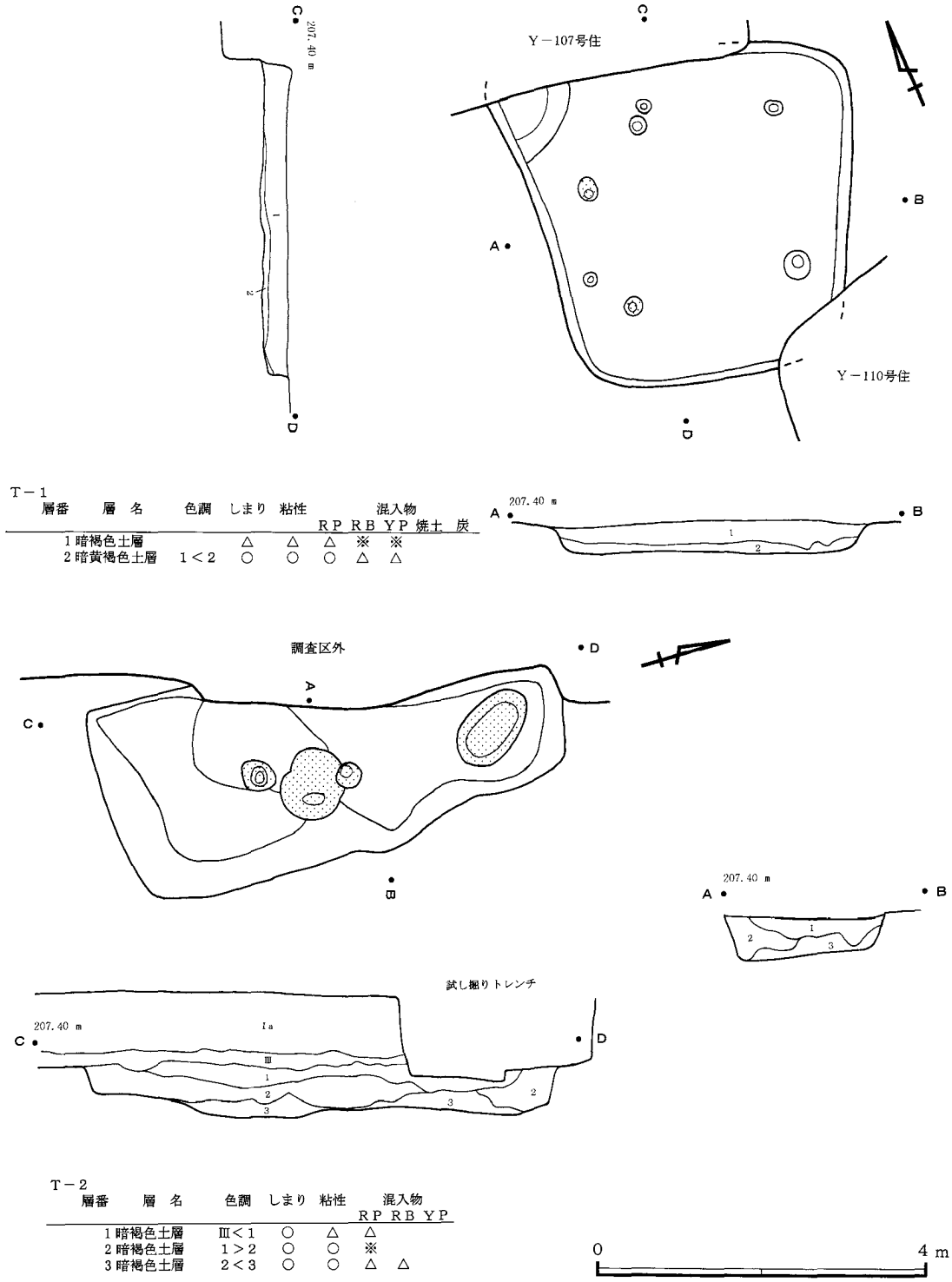
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭	灰
1	黒褐色土層		○	○	※	※	※			
2	黒褐色土層	1＜2	○	○	△	※	△			
3	暗黄褐色土層	2＜3	△	○	△	△	○			
4	黒褐色土層	3＞4	○	○	※	※	△			
竈1	暗褐色土層		△	△	△	※	※	※		
竈2	黄褐色土層	1＜2	△	◎		◎		※		
竈3	暗黄赤褐色土層	2＞3	△	○	※	※		○	※	
竈4	赤褐色土層	3＜4	△	△			※	◎		
竈5	暗赤褐色土層	3＞5	△	△	※			△	※	△

0 4 m

第60図　H—130号住居址実測図



第61図　HT－1号掘立柱建物址実測図



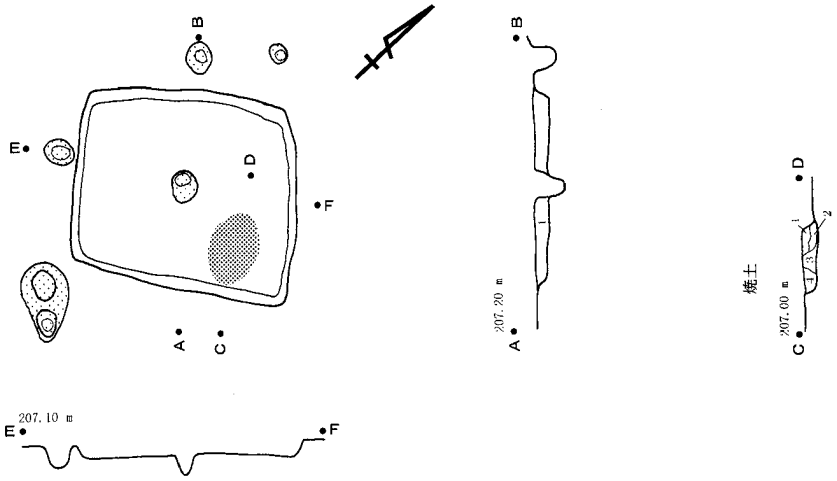
T－1

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		△	△	△	※	※		
2	暗黄褐色土層	1＜2	○	○	○	△	△		

T－2

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP
1	暗褐色土層	Ⅲ＜1	○	△	△		
2	暗褐色土層	1＞2	○	○	※		
3	暗褐色土層	2＜3	○	○	△	△	

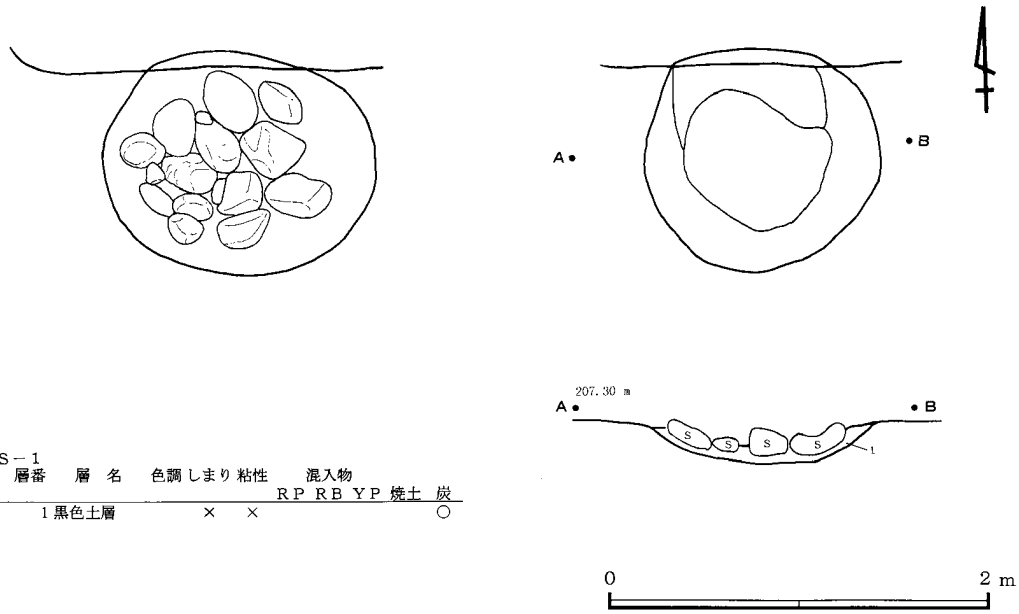
第62図　T－1号・T－2号竪穴状遺構実測図



T－3

層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	暗褐色土層		○	○	△				
焼土-1	暗褐色土層		○	○	△			※	
焼土-2	暗褐色土層	1＞2	○	○	※				
焼土-3	暗黄褐色土層	1＜3	○	○	△			※	
焼土-4	暗褐色土層	3＞4	○	○	※				

0　4 m

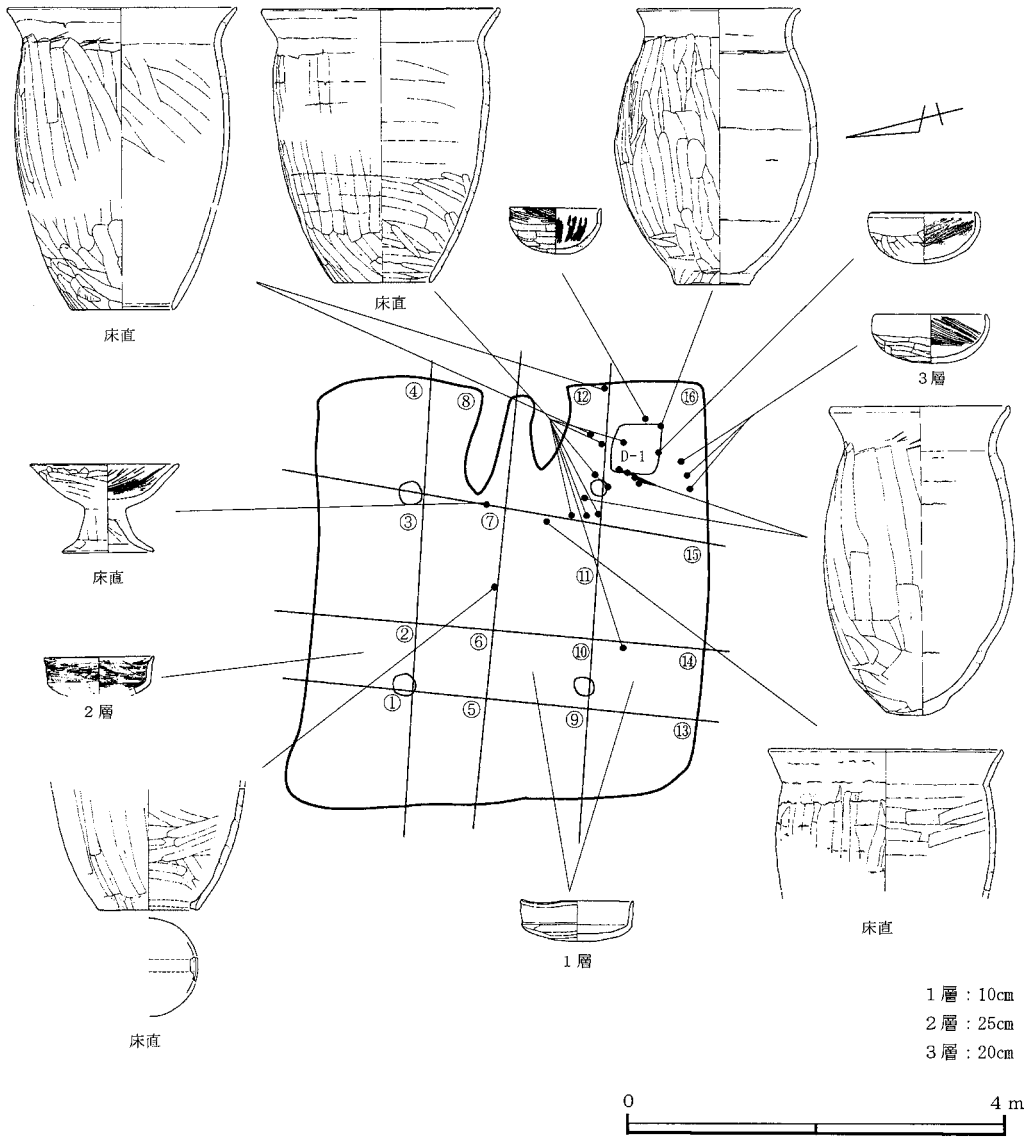


S－1

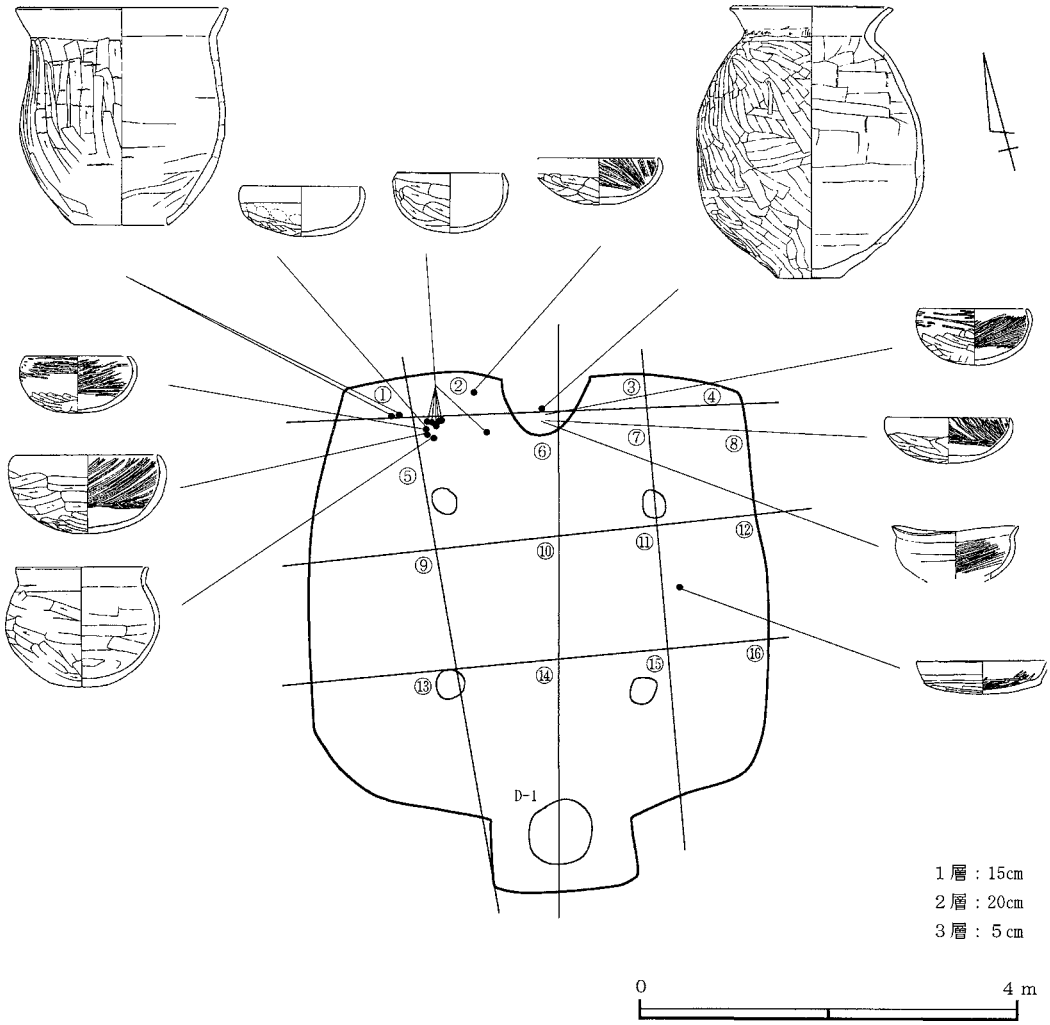
層番	層名	色調	しまり	粘性	混入物 RP	RB	YP	焼土	炭
1	黒色土層		×	×					○

0　2 m

第63図　T－3号竪穴状遺構・S－1号集石実測図

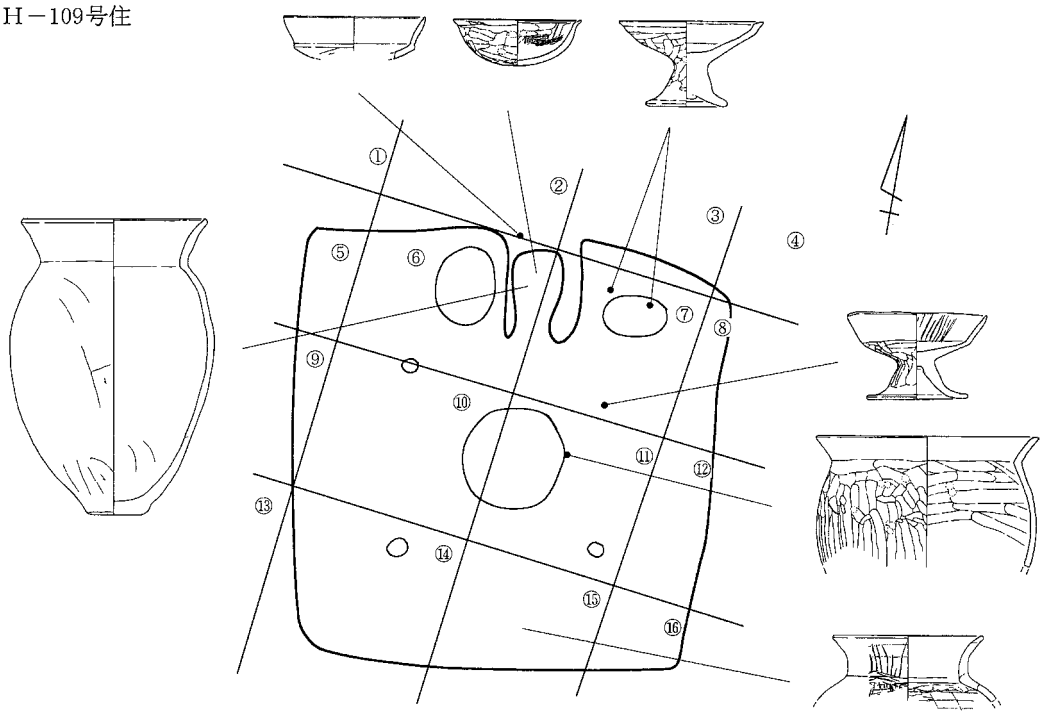


第64図　H―102号住居址遺物分布図

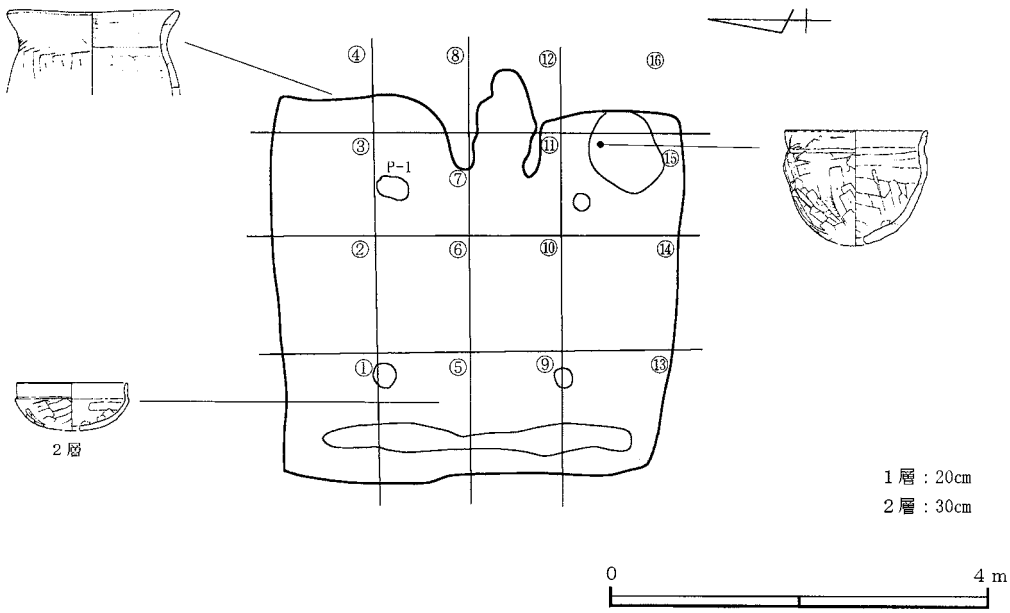


第65図　H—103号住居址遺物分布図

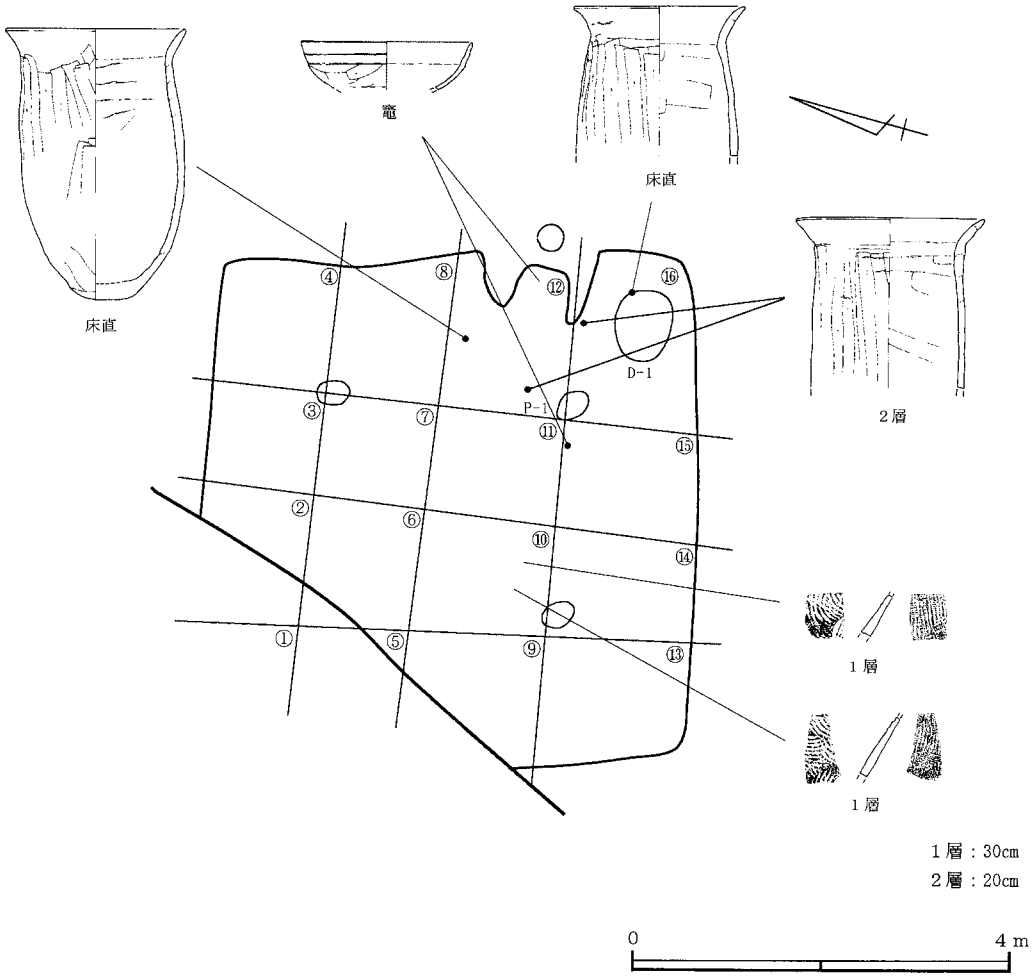
H－109号住



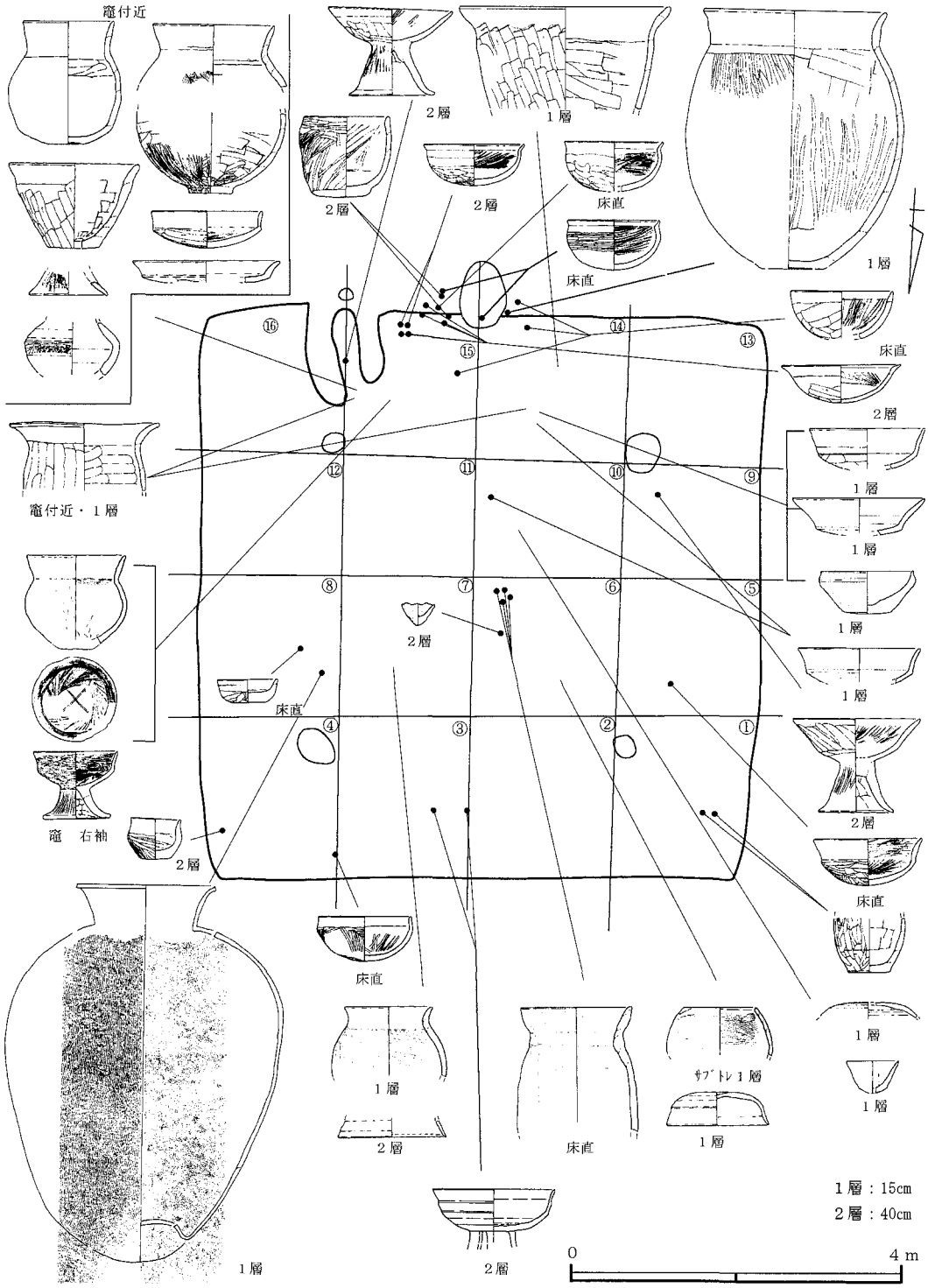
H－111号住



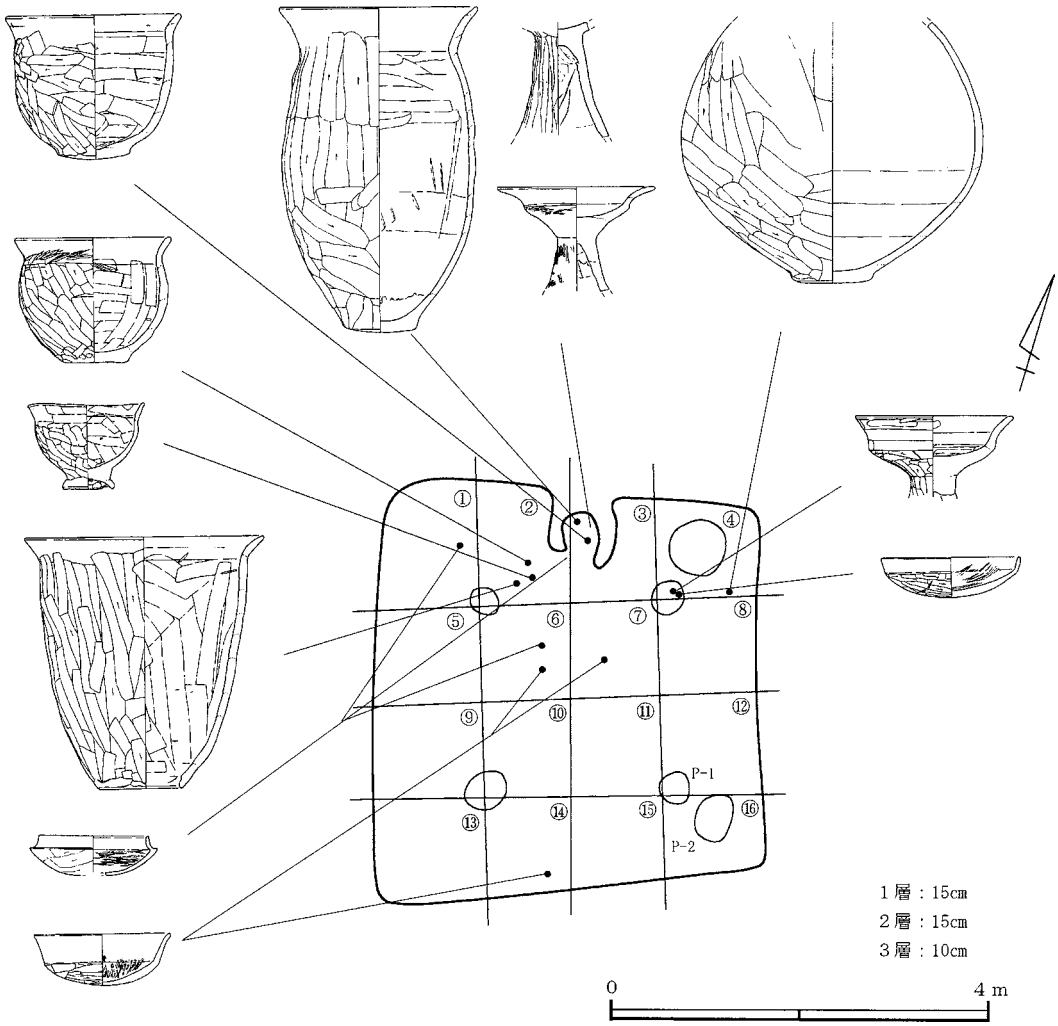
第66図　H—109号・H—111号住居址遺物分布図



第67図　H—114号住居址遺物分布図

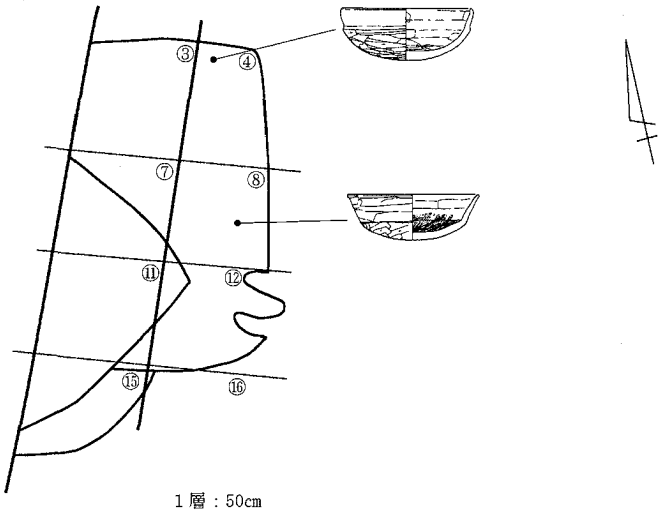


第68図　H—116号住居址遺物分布図



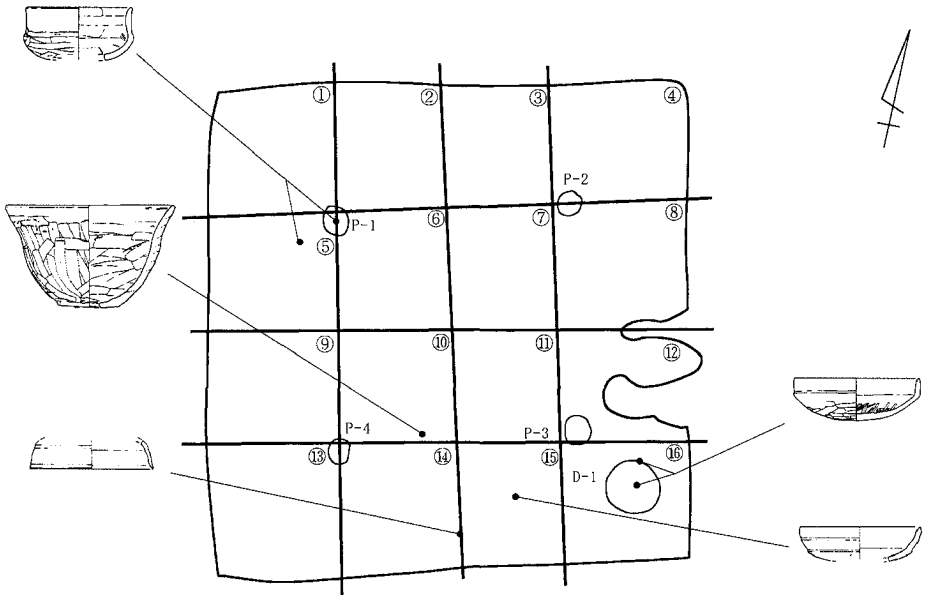
第69図　H—118号住居址遺物分布図

H－119号住



1層：50cm

H－120号住

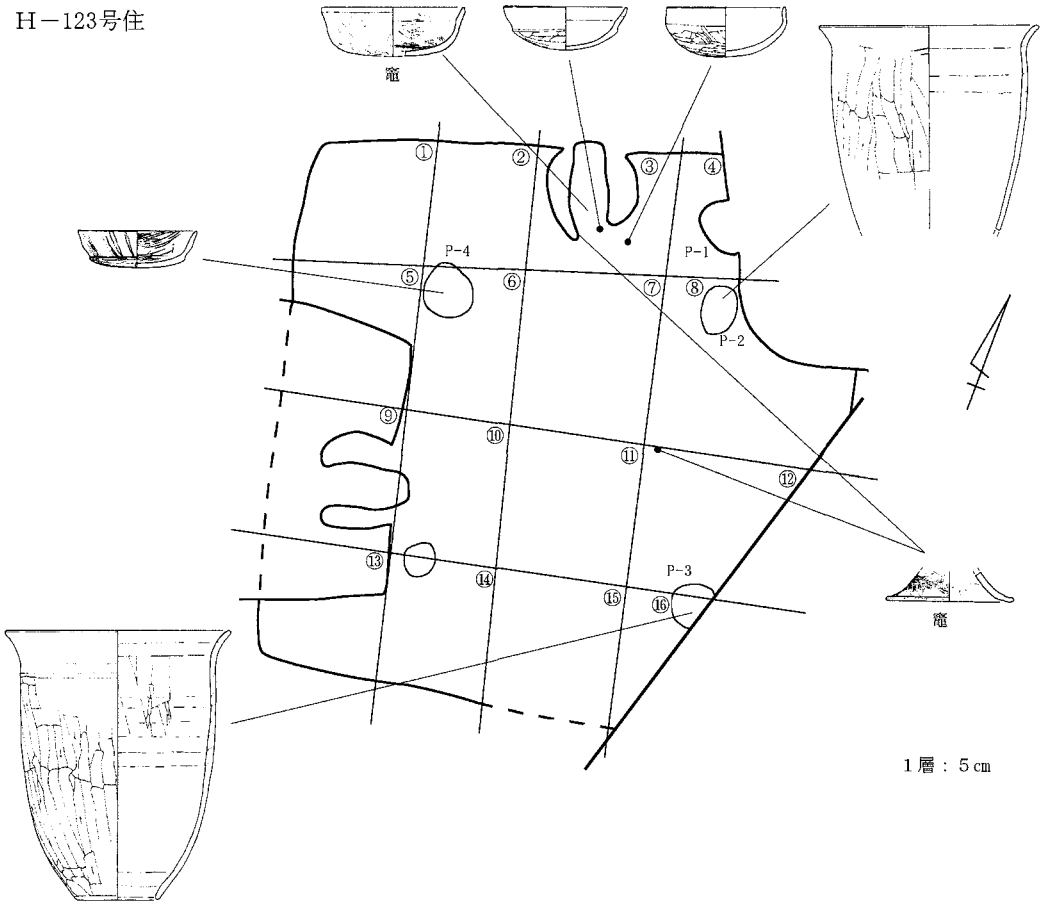


1層：10cm

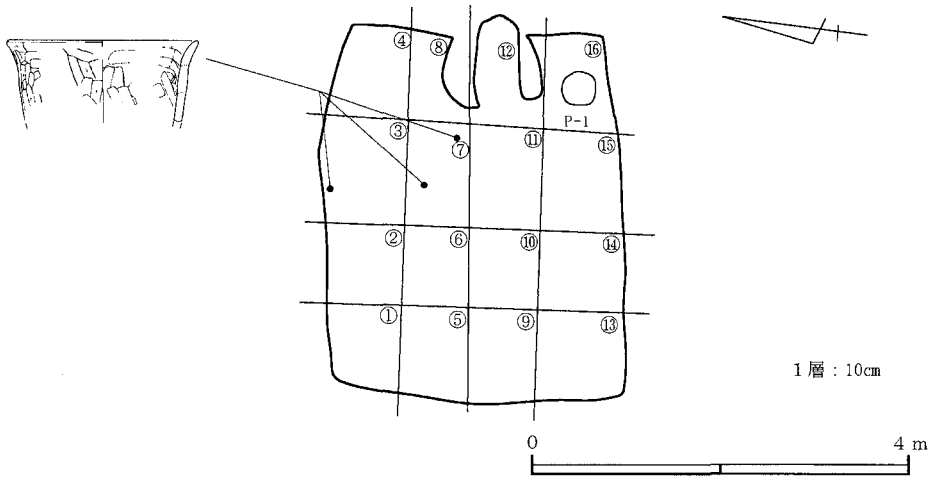
0　4 m

第70図　H—119号・H—120号住居址遺物分布図

H－123号住

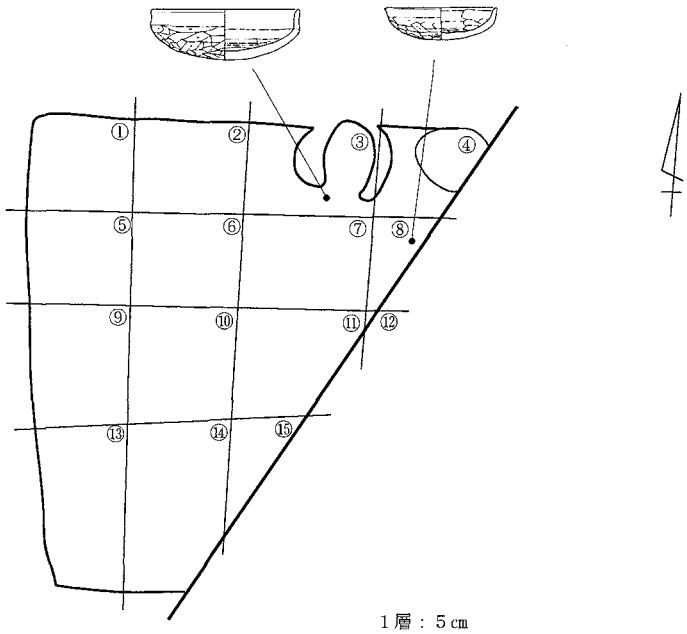


H－124号住

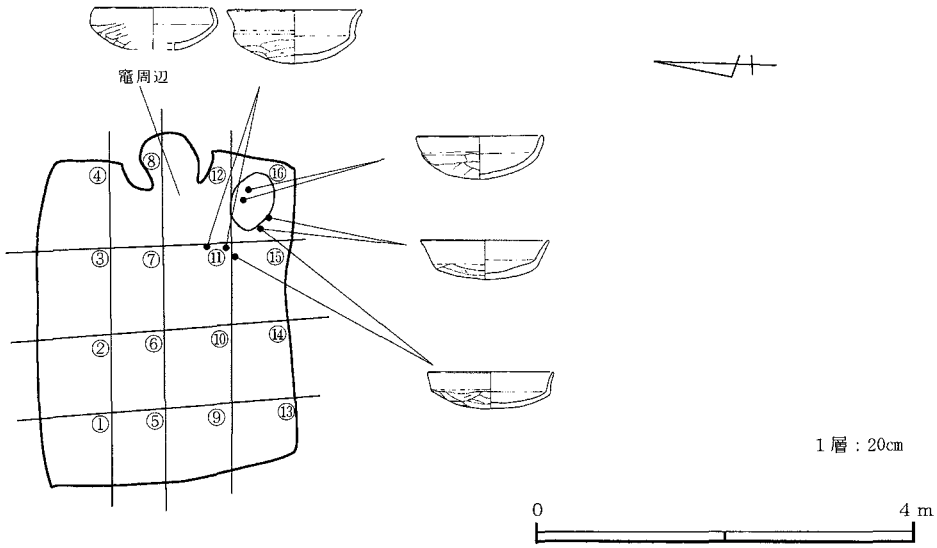


第71図　H—123号・H—124号住居址遺物分布図

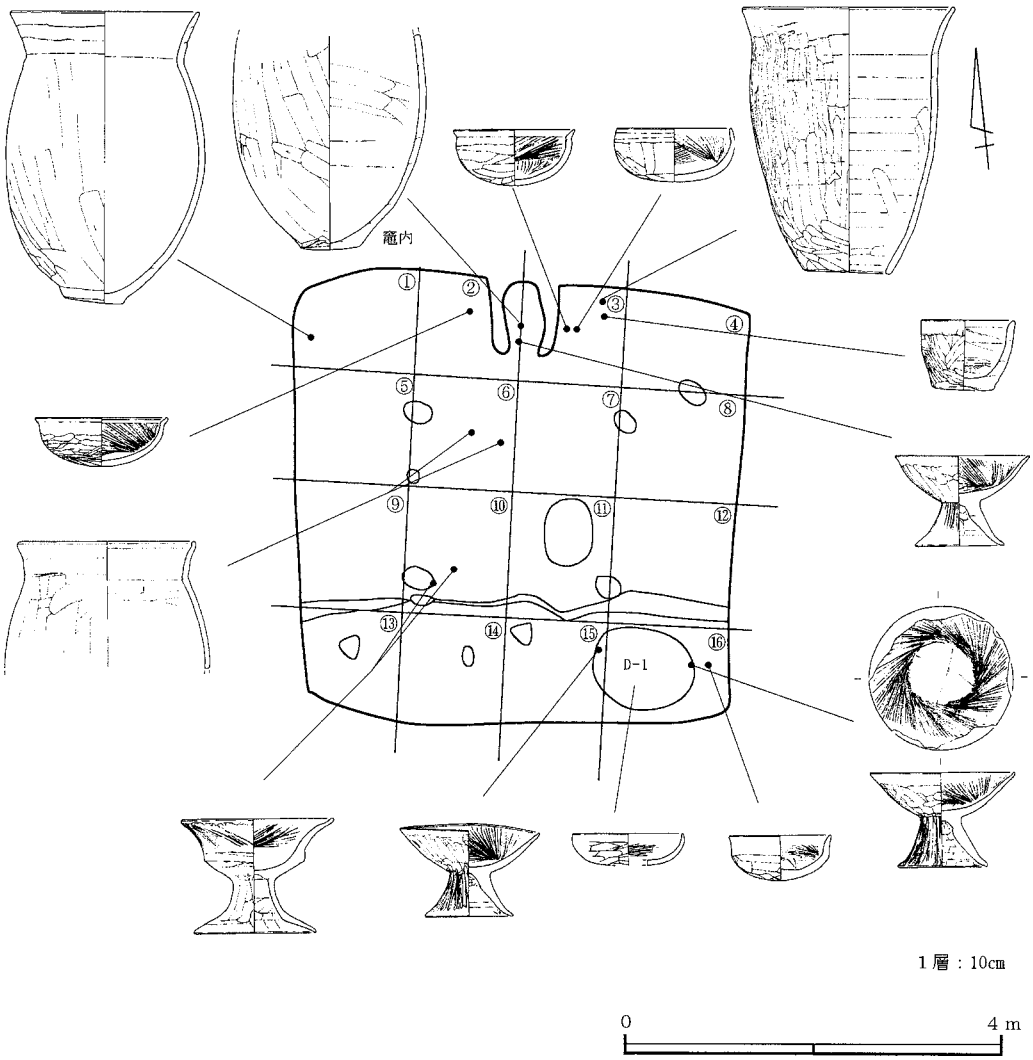
H－125号住



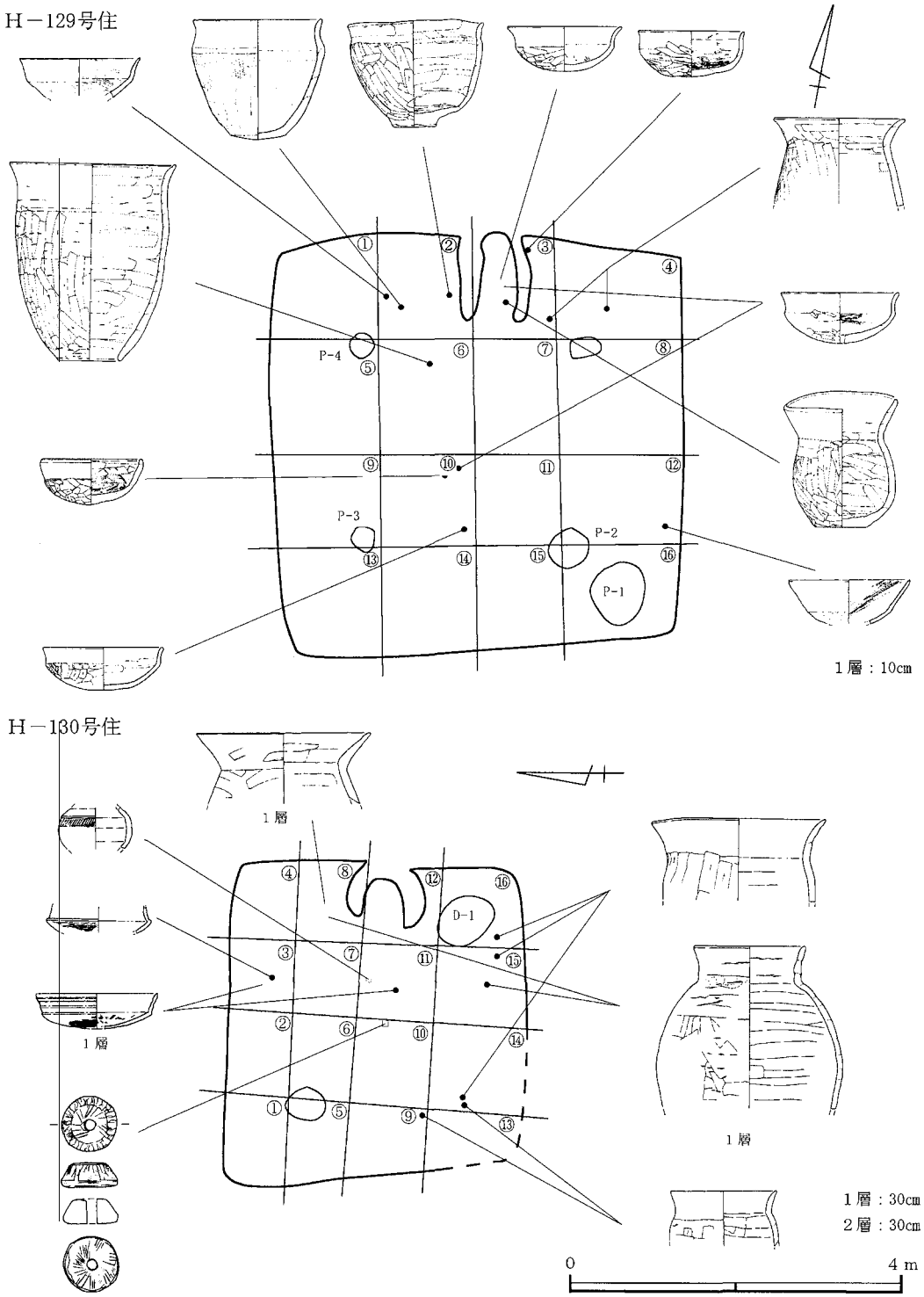
H－126号住



第72図　H—125号・H—126号住居址遺物分布図



第73図　H―127号住居址遺物分布図



第74図　H—129号・H—130号住居址遺物分布図

(2) 遺物（第75図～第89図・第16表～第25表）

住居からは土師器と須恵器が出土した。なお、遺物図は住居出土の土器を一括掲載したため、時期的に混入しているものもある。

１．Ⅰ期の遺物

土師器の内湾の坏（第76図３～７）、内斜口縁の坏（第76図11）、器高の低い模倣坏（第76図10）、丸胴の甕（第77図１）、甑（第77図２）が出土した。須恵器は確認されていない。坏類は放射状のヘラ磨きを施しているものが多い。模倣坏の内面にもヘラ磨きを施していることは注目できる。甕は胴下位に最大径を持つ丸胴甕で外面ヘラ磨きを施している。甑も胴部下位に脹らみを持ち、器高が低いタイプで外面は縦方向のヘラ撫でを施している。

２．Ⅱ期の遺物

土師器の内湾の坏（第75図１～３、第79図１・２、第85図１・２）、内斜口縁の坏（第77図９、第79図４～７）、模倣坏（第75図16･17、第77図４、第79図８～12、第85図５）、高坏（第75図６、第77図５・６、第79図14～16、第85図６～９）、壺（第77図７、第79図18・19、第80図４・５）、丸胴の甕（第80図１）、長胴の甕（第76図１・２、第77図９、第80図２・３、第85図11、第86図１・２）、甑（第75図７～10、第77図８、第80図９･10、第85図12）、須恵器の大甕（第81図10）、高坏（第81図５）、坏蓋（第81図６～８）、瑕（第81図９）が出土した。

本時期の特徴は長胴甕が主体となってきていること、甑も大型で長胴化するものが主体であること、模倣坏の増加、高坏の短脚化が看取できることである。また、高坏（第79図16）に見られるように内外面にヘラ磨きを施すものが認められ、模倣坏内面にもヘラ磨きが多用される（第75図４、第79図８・９、第85図５）。甑（第75図８・９）は底面に棒状の簀を付したものがあり注目される。

Ｈ―116号住居址とＨ―127号住居址の出土遺物には共通性が認められる。特に、高坏の形状及び技法状には同一性が認められ、また、鉢形土器（第80図11、第85図10）は二次的な被熱痕跡があり、伏せて支脚としたものと考えられる。こうした特異な遺物を共有する両住居は同時期に併存したものとしてよいだろう。

Ｈ―116号住居址は遺物の出土状態でも注目される。竈周辺及び住居中央から遺物が多数出土している。土師器のほかに、須恵器の大甕が中央北東寄りに据えられているように出土し、周辺から手捏ねのミニチュア土器（第81図１～４）が見られたことも示唆的である。また、他の住居に対して須恵器の出土率が高いことも注目される。

３．Ⅲ期の遺物

土師器の模倣坏（第87図１～７、第82図１～３、第83図10～12、第83図２・３、第78図１）、高坏（第82図４～６、第83図13）、小型甕（第87図８～10、第82図７・８、第78図２）、台付甕（第82図９）、丸胴の壺（第84図１）、長胴甕（第87図11、第82図10、第78図３）、甑（第87図12、第82図11、第84図１・２）が出土した。坏類における模倣坏の顕在化と、高坏の長脚化、長胴甕の定型化が認められる。模倣坏は内面にヘラ磨き（放射状）を施すものが多く見られる。

４．Ⅳ期の遺物

土師器の模倣坏（第78図４・５、第83図４～６、第86図３・４、第84図６～10）、鉢形土器（第83図９）、長胴甕（第78図９～11、第86図７～９）、甑（第83図８）、須恵器の坏蓋（第78図６、第83図７）、甕（第78図７・８）、瑕（第86図５）、石製紡錘車（第86図10）が出土した。

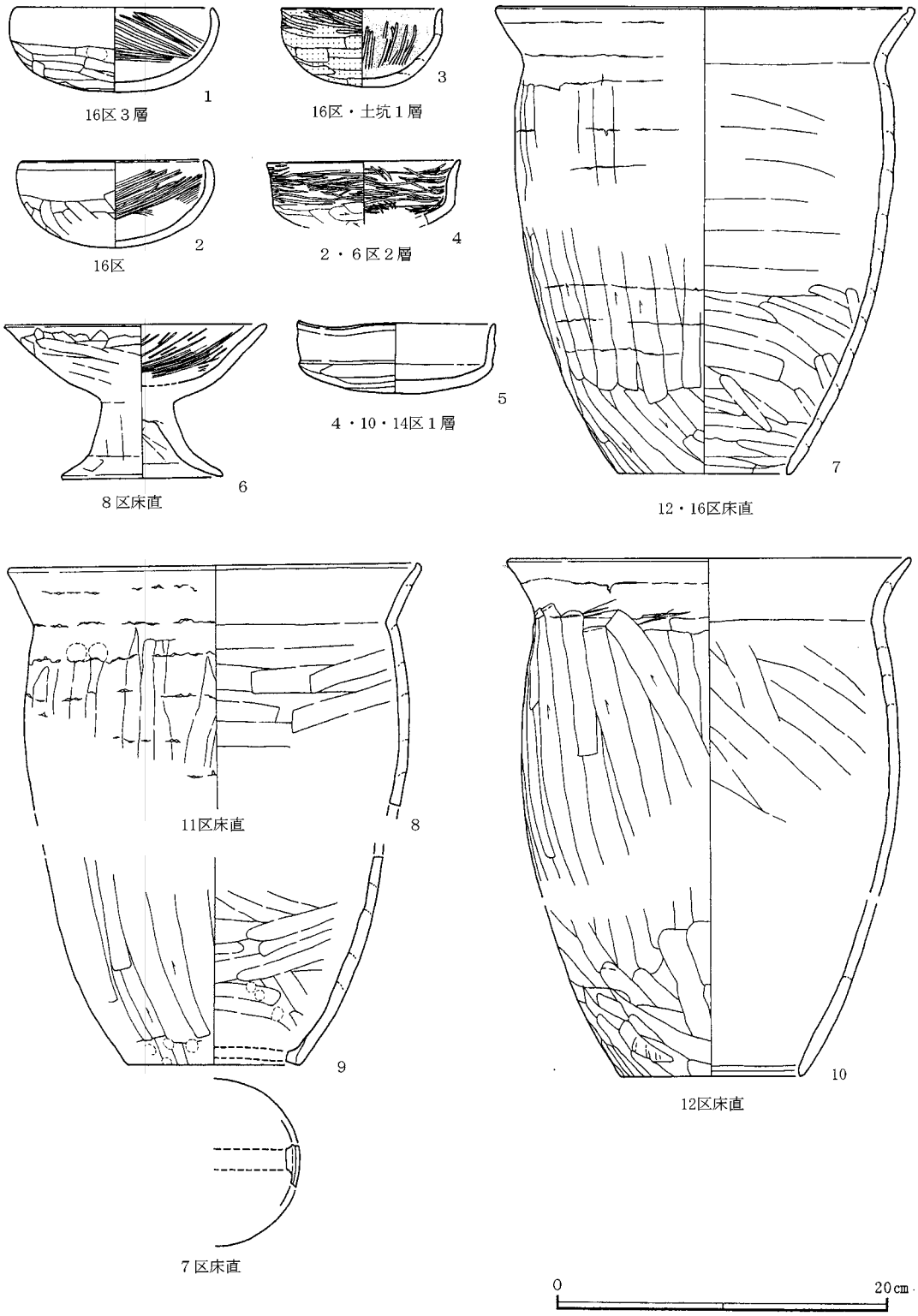
模倣坏に法量差が明確になり、器高が浅くなる。口縁部の立ち上がりが短くなるものと強く外反するものが認められ、口縁部に数条の沈線を巡らした坏が見られる。坏には（第83図４、第86図３・４）に見られるようにヘラ磨きを多用していることが注目される。

（外山政子・井上慎也）

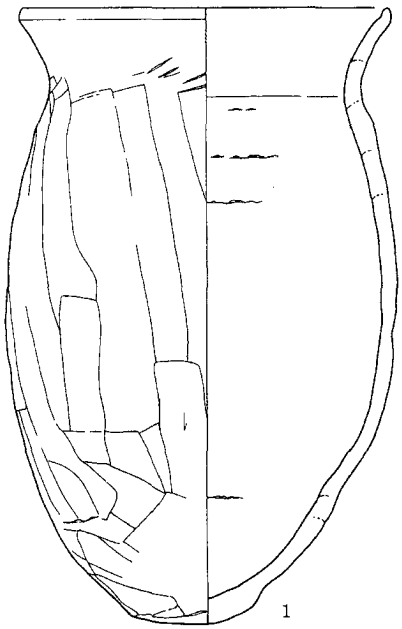
５．トレンチ出土の遺物（第88図・第89図）

確認調査では確認面及び包含層から、弥生土器、土師器、須恵器が出土した。古墳時代の主な器種は土師器の模倣坏、小型甕、甕、甑、須恵器の坏蓋、高坏、瑕が出土した。遺物の時期は、検出された遺構と同時期である。注目すべき遺物として、１トレンチから内外面に「東」と墨書された平安時代の須恵器坏が出土した。今回の調査では平安時代の遺構は発見されていないが、遺跡周辺では蔵畑Ⅱ遺跡等で集落が確認されていることから、関連性がうかがえられる。

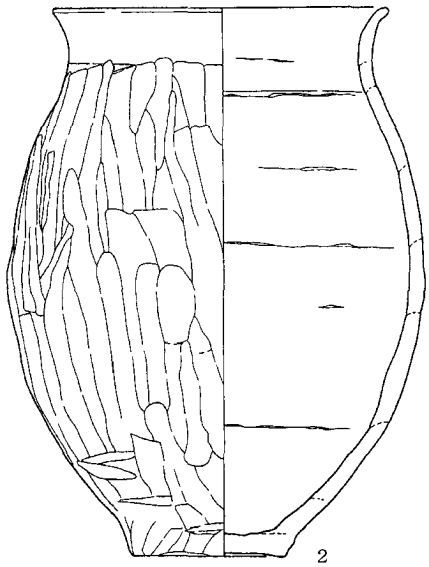
（井上慎也）



第75図　H—102号住居址出土の遺物

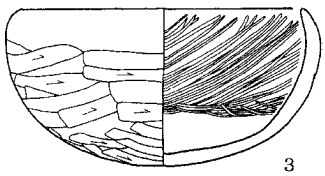


12・16区床直

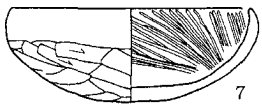


16区床直

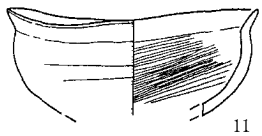
H－102号住



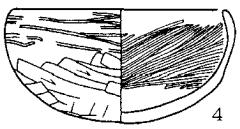
6区床直



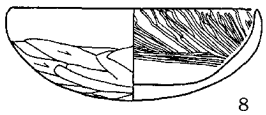
2区床直



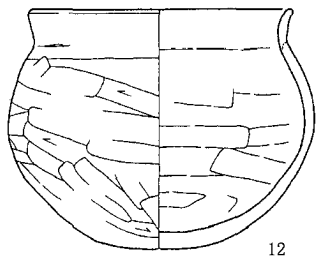
竈内



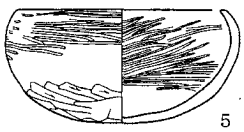
竈内



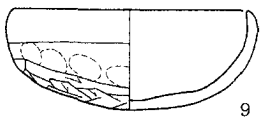
竈内



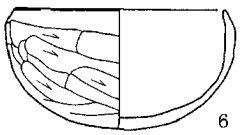
6区床直



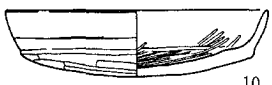
6区床直



6区床直



6区床直

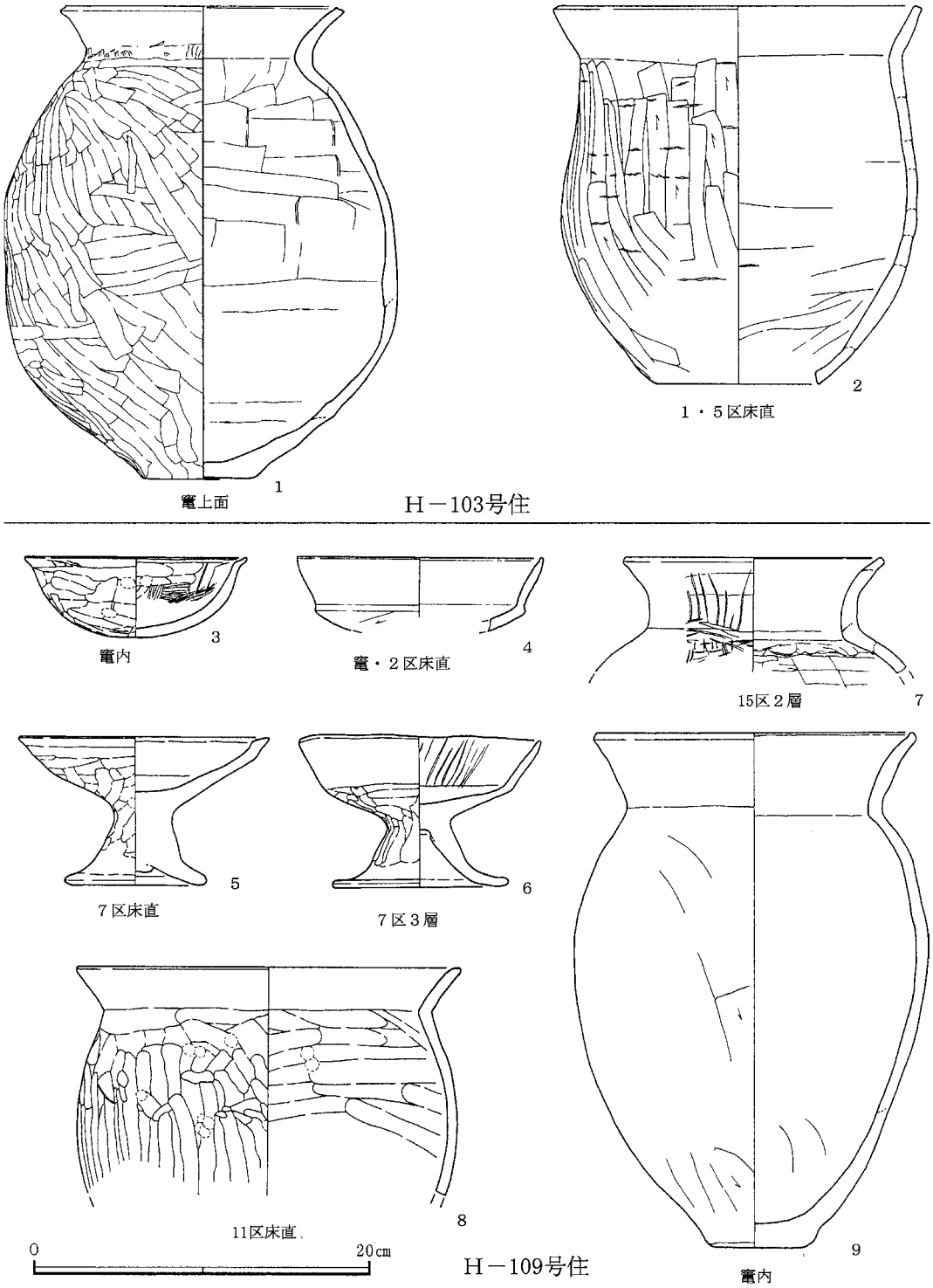


12区3層

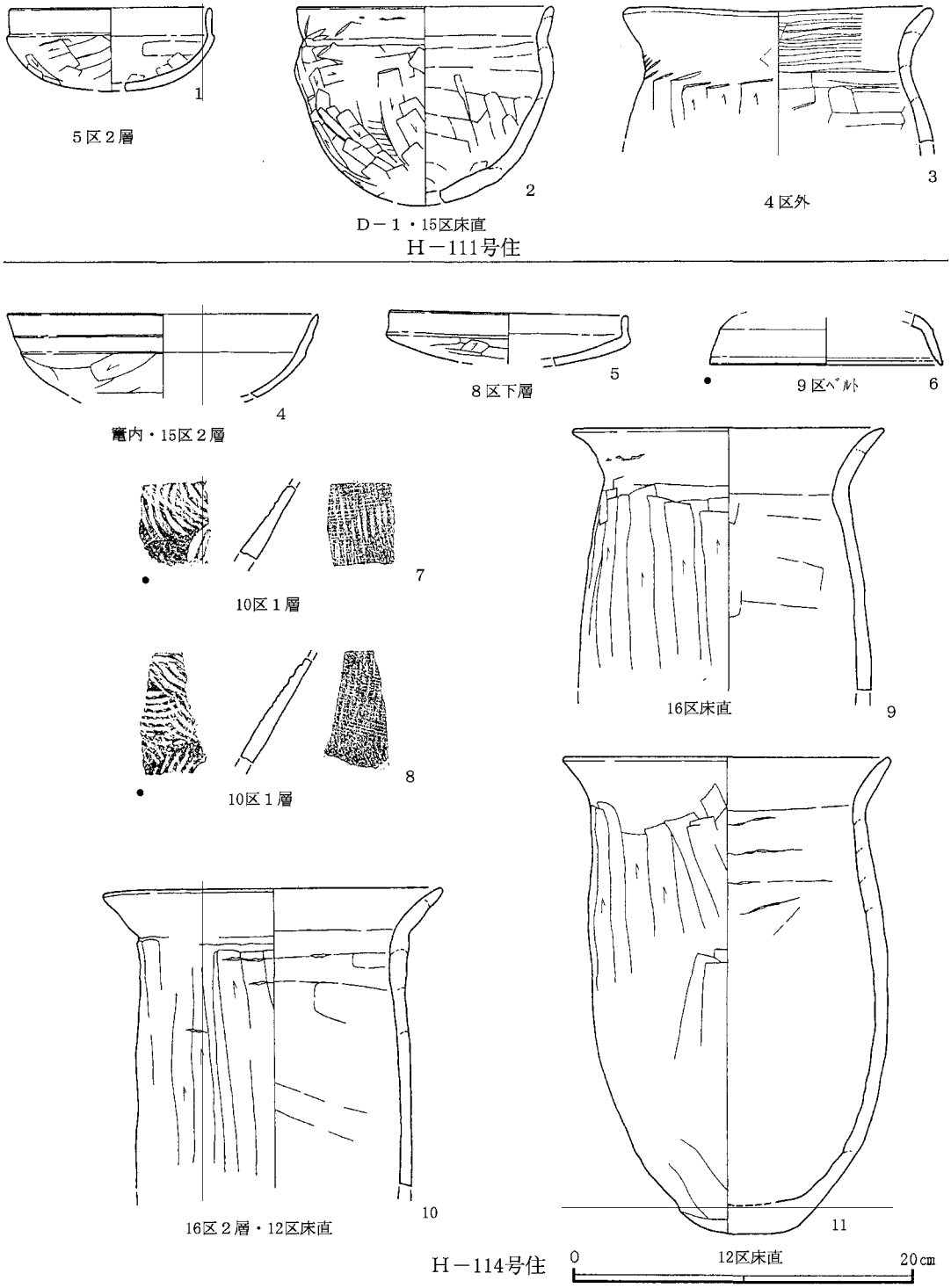
H－103号住

0　20cm

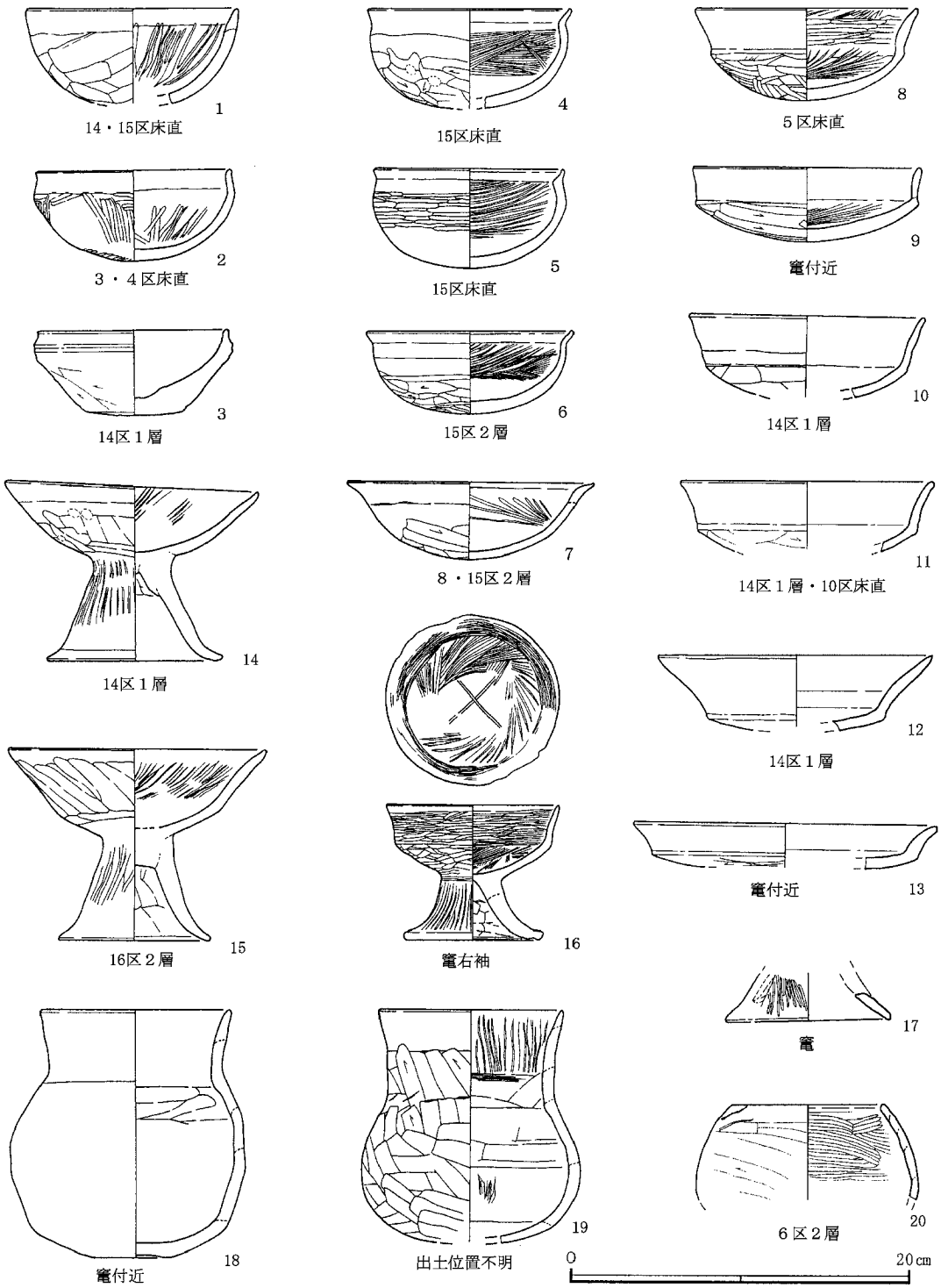
第76図　H—102号・H—103号住居址出土の遺物



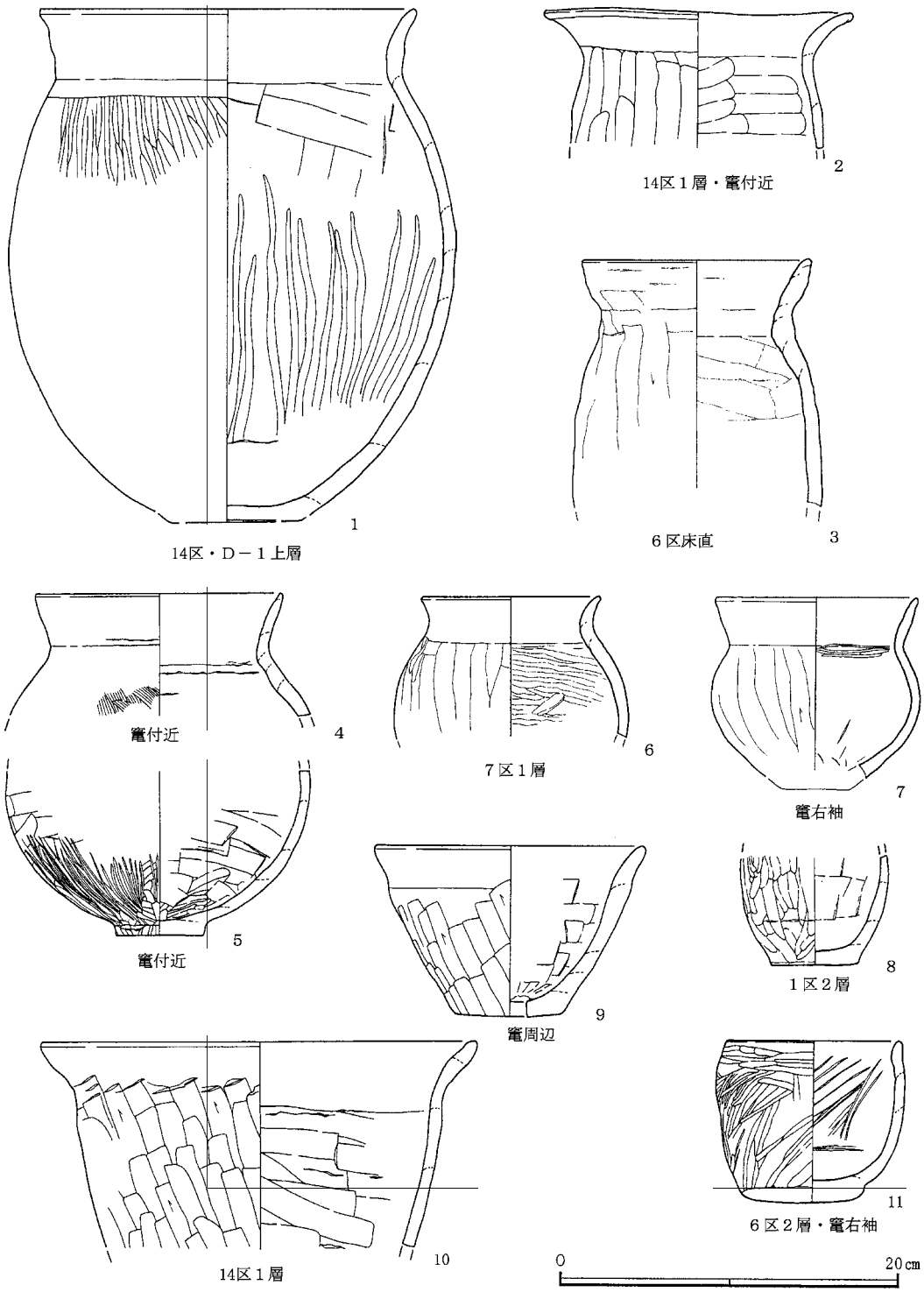
第77図　H—103号・H—109号住居址出土の遺物



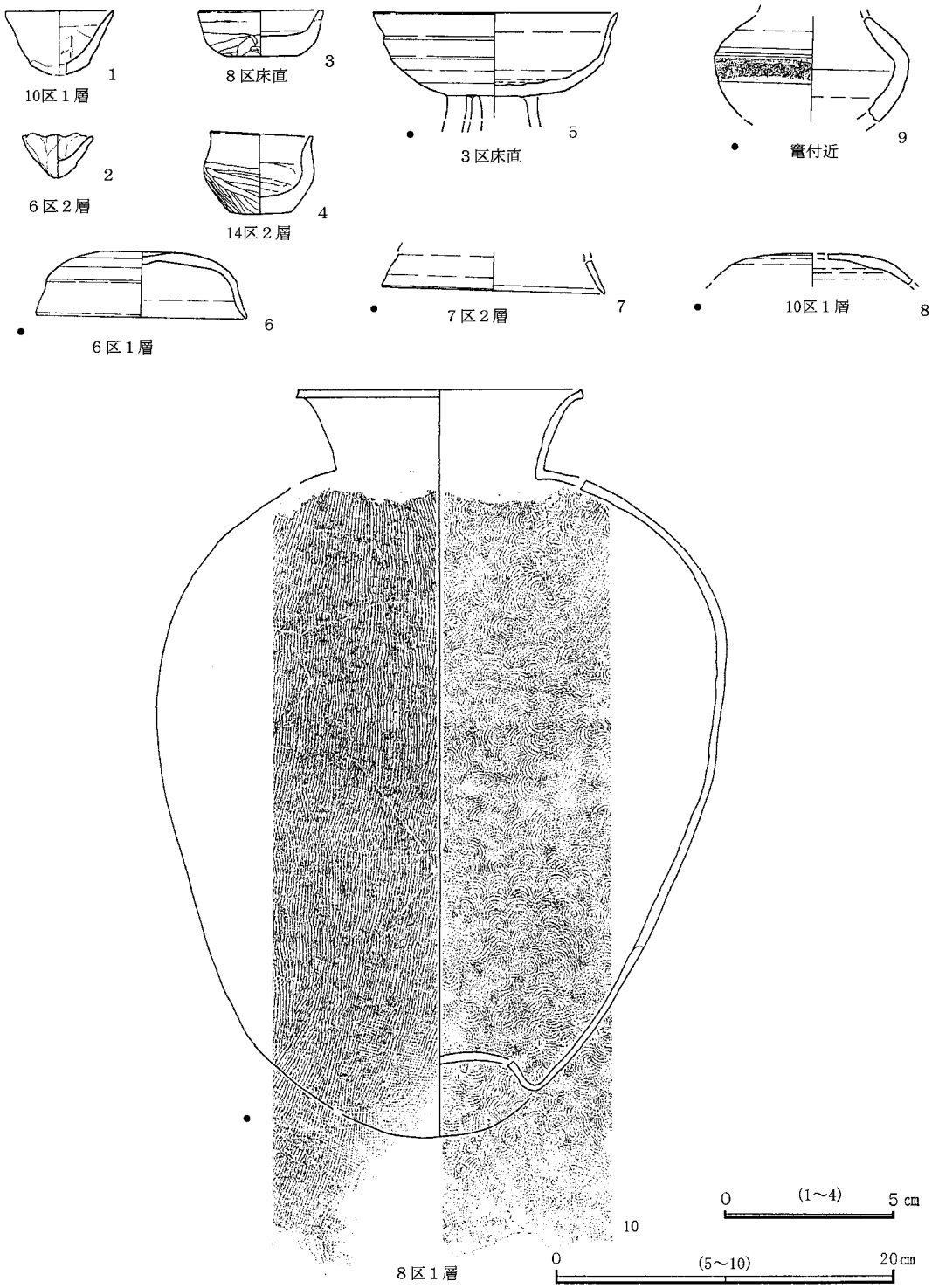
第78図　H—111号・H—114号住居址出土出土の遺物



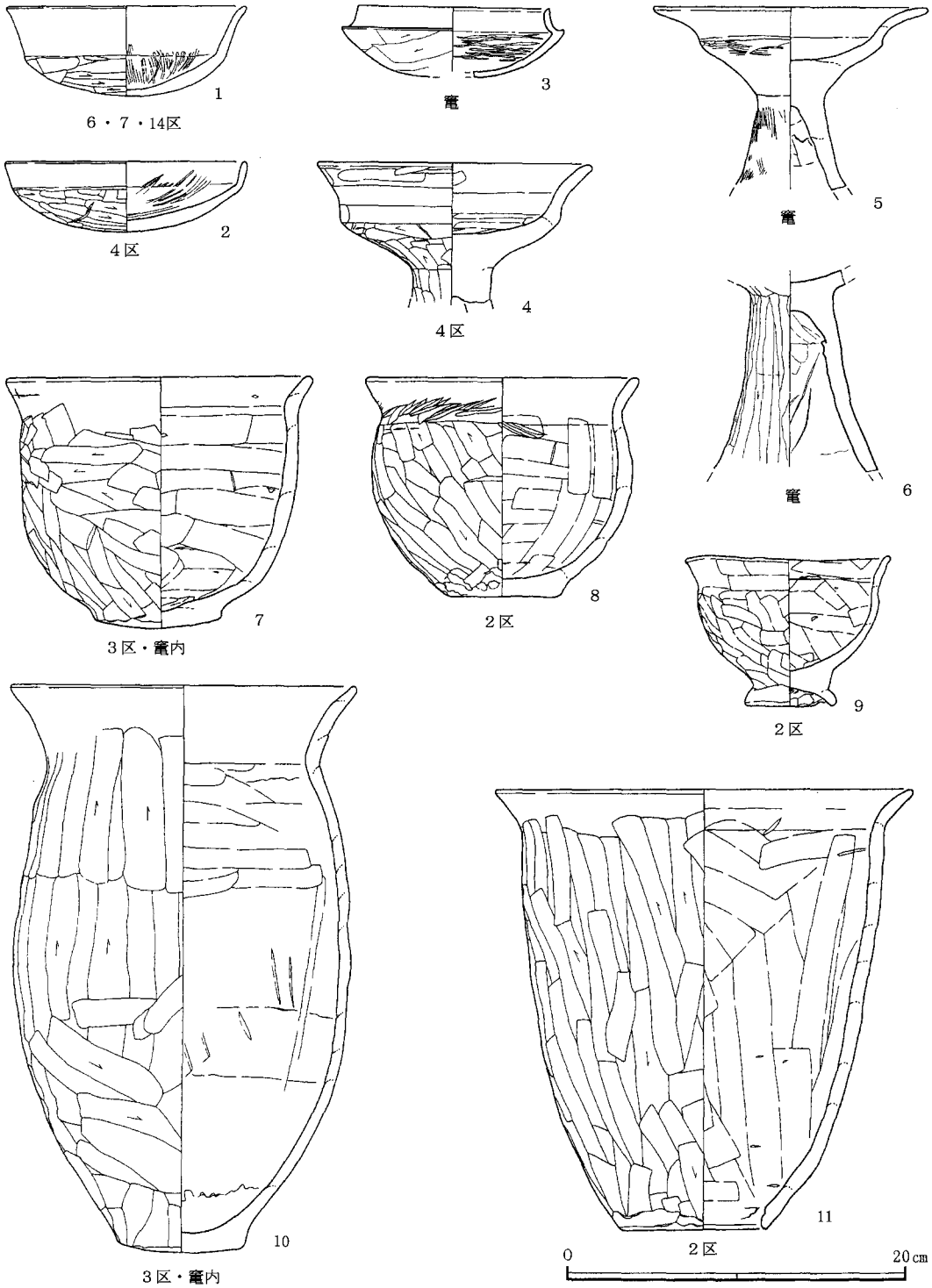
第79図　H—116号住居址出土の遺物(1)



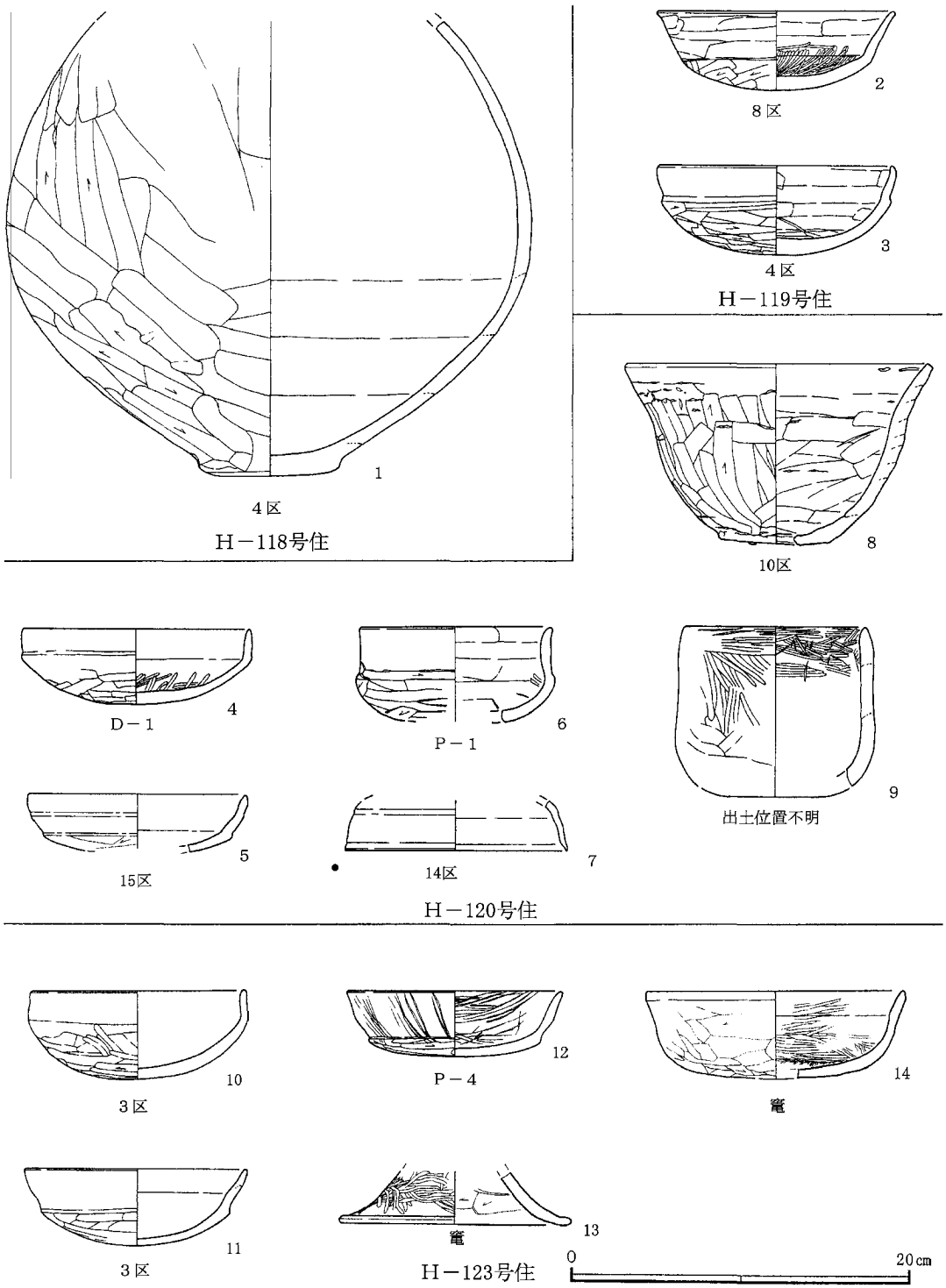
第80図　H－116号住居址出土の遺物(2)



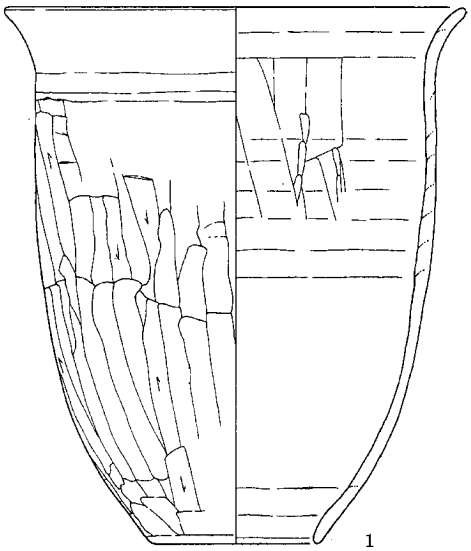
第81図　H―116号住居址出土の遺物(3)



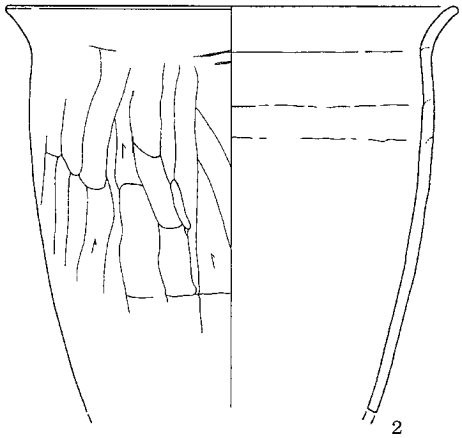
第82図　H—118号住居址出土の遺物



第83図　H—118・119・120・123号住居址出土の遺物

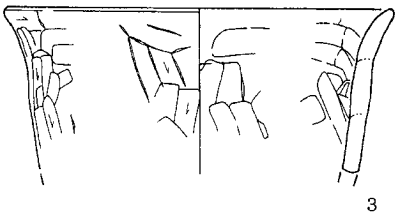


P－3



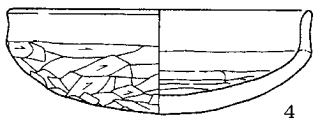
P－2

H－123号住

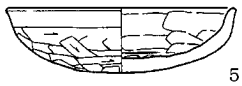


3・7区

H－124号住

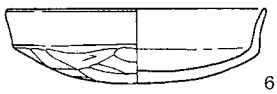


3区

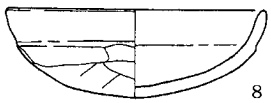


8区

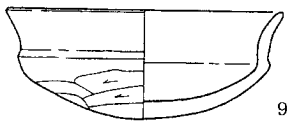
H－125号住



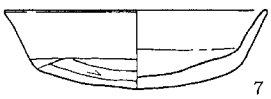
15・16区



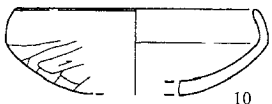
16区・土坑



11区



16区

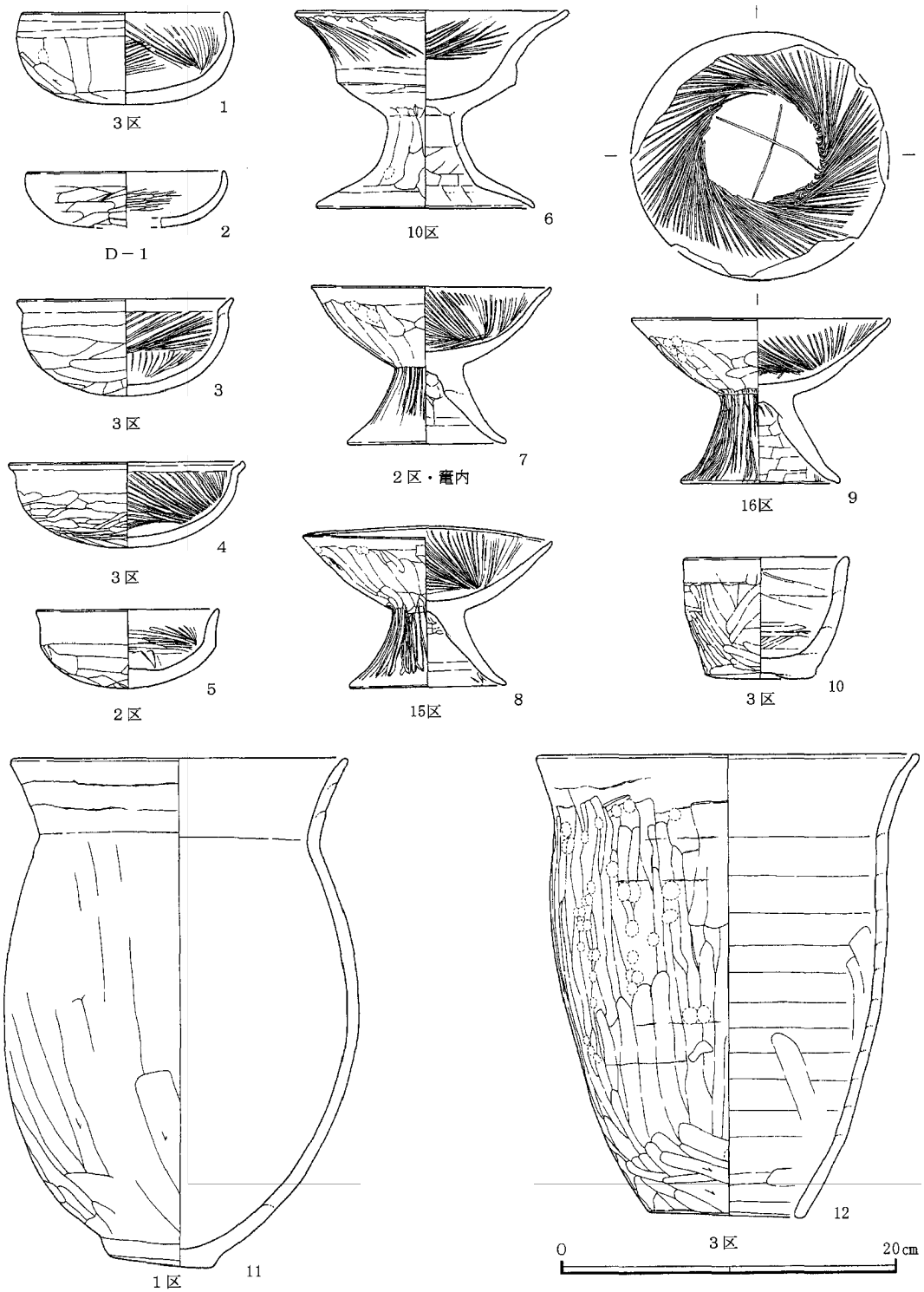


竈周辺

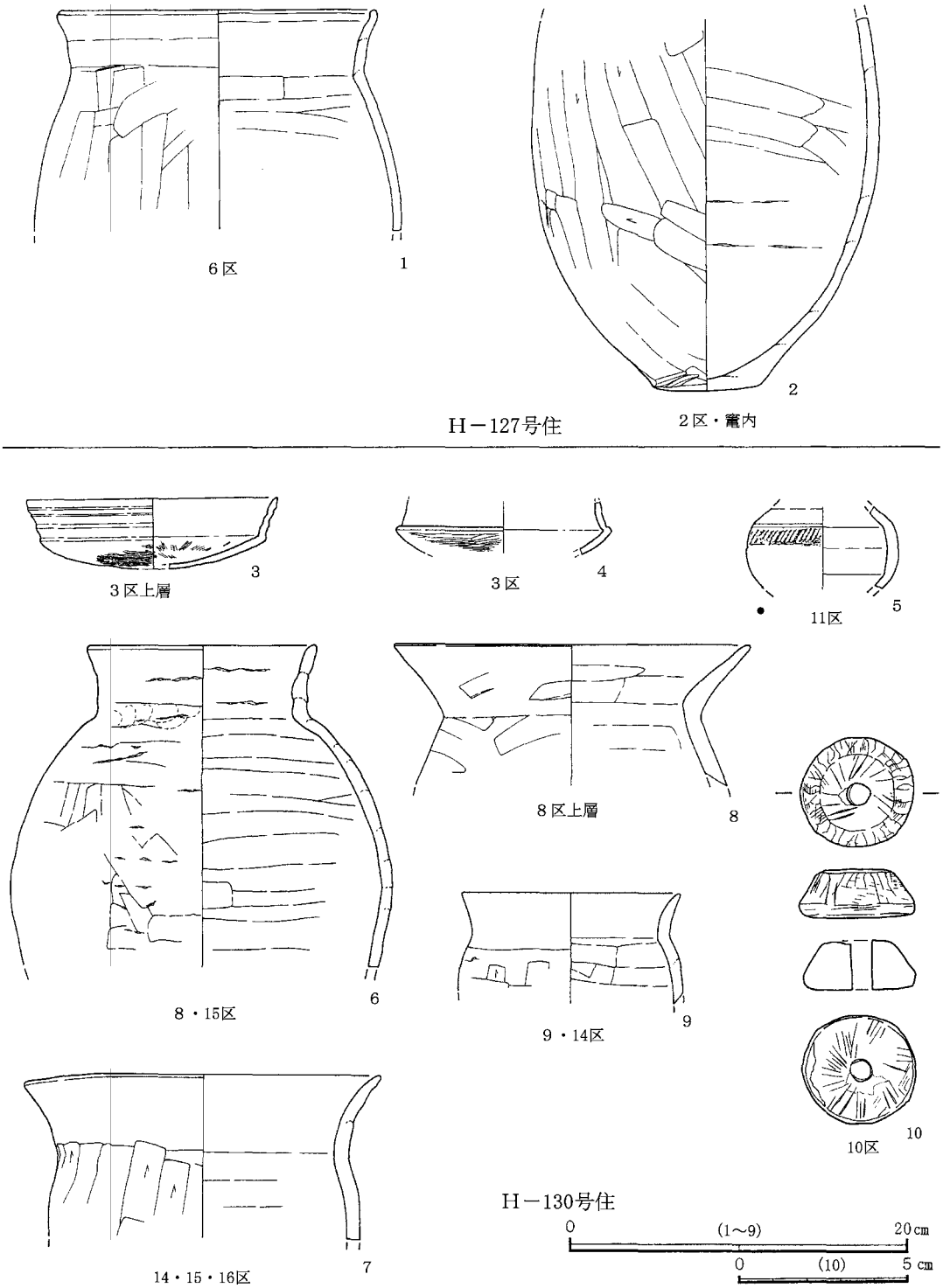
H－126号住

0　20cm

第84図　H—123・124・125・126号住居址出土の遺物



第85図　H—127号住居址出土の遺物



第86図　H—127号・H—130号住居址出土の遺物

竈内 1

竈内 2

10区 3

2区

10区

3区

12区 4

2区 6

2区床直 7

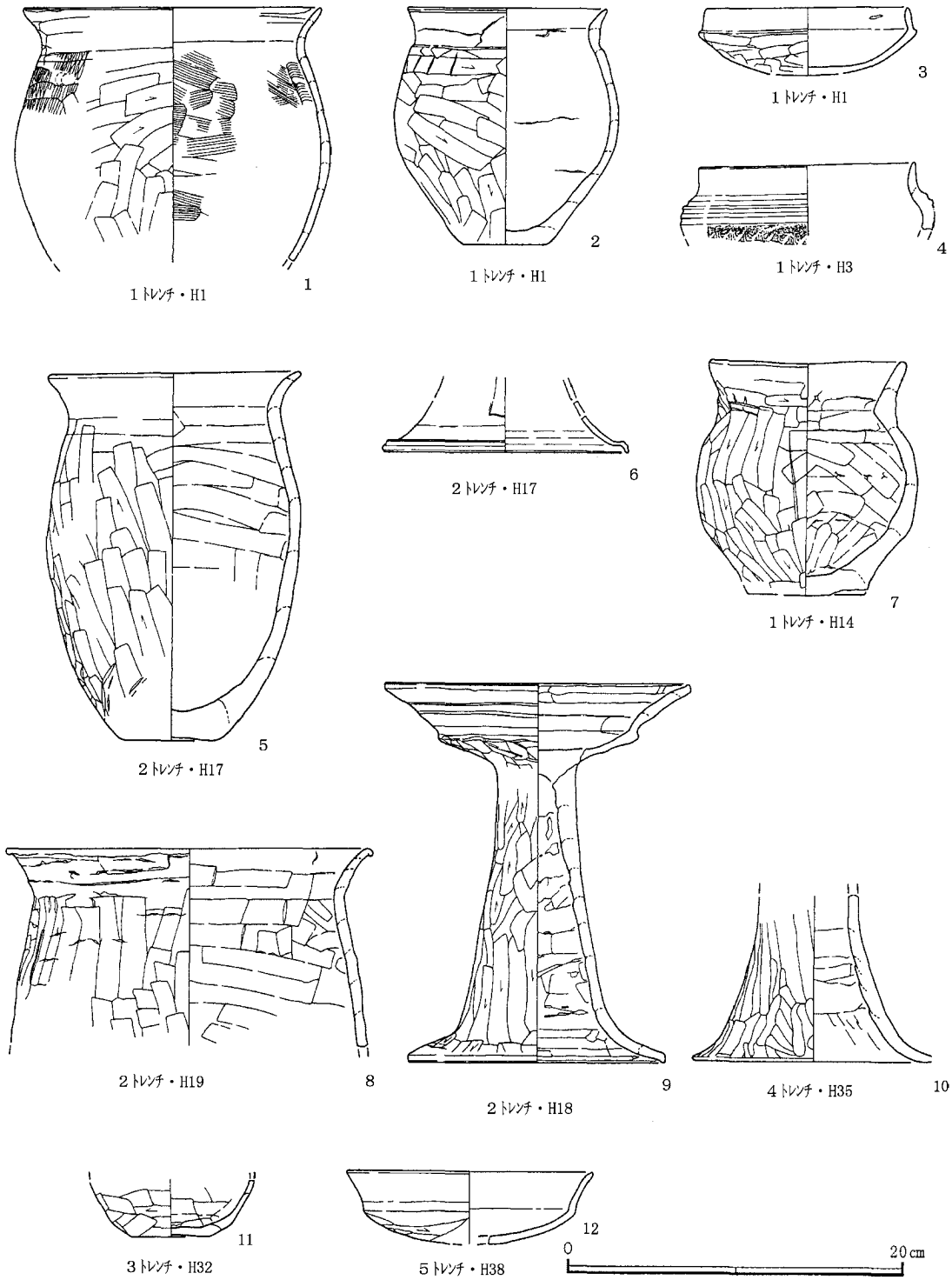
3区・竈内 5

6区 9

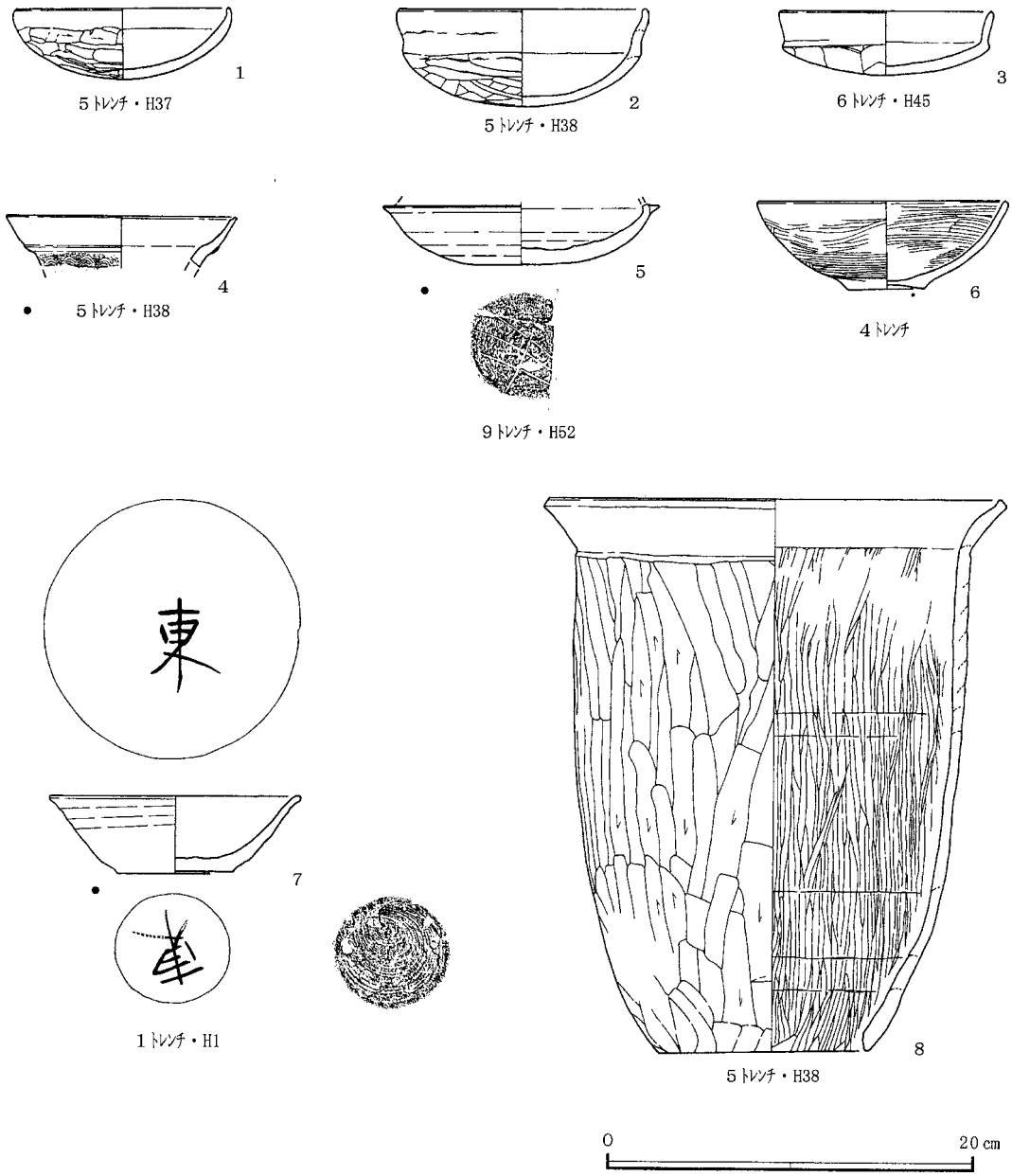
3区 8

0 20cm

第87図　H—129号住居址出土の遺物



第88図　トレンチ出土の遺物(1)



第89図　トレンチ出土の遺物(2)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第33図	1	Y―101	10	1	弥生土器	壺	―	―	(4.2)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	口縁部折り返し口縁・ナデ	ヘラミガキ	樽系
	2	Y―101	12	2	弥生土器	壺	―	―	(4.6)	良好	褐色	砂粒含	肩部破片	刷毛目	横ナデ	甘楽系
	3	Y―101	14	床直	弥生土器	甕	11.8	5.2	14.1	良好	灰褐色	砂粒含	完形	口縁部波状文　頸部３簾止廉状文　胴上半部波状文　胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	4	Y―101	P1		弥生土器	蓋	14.6	―	(4.6)	良好	橙色	砂粒含	破片	ヘラミガキ　赤色塗彩	ヘラミガキ　赤色塗彩	樽系 口唇はスレが顕著　孔２
	5	Y―101	13	3	弥生土器	鉢	13.7	3.6	5.3	良好	褐色	砂粒含	完形	繊細なヘラミガキ　赤色塗彩	繊細なヘラミガキ赤色塗彩	樽系
	6	Y―101	10	2	弥生土器	甕	―	―	(4.0)	良好	浅橙色	砂粒含	脚部のみ	脚部ヘラミガキ	胴部底部ヘラナデ	東海系
	7	Y―101	11	2	弥生土器	甕	―	―	(3.5)	良好	灰白色	砂粒多量含	口縁部破片	刷毛目	ヘラナデ	東海系
	8	Y―101	11+15	3	弥生土器	鉢	16.5	―	(10.0)	良好	灰白色	砂粒含	胴上半部1/4	ヘラミガキ	ヘラミガキ	東海系
第34図	1	Y―104	1+8+12	3	弥生土器	壺	23.6	―	(12.6)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部3/4	口縁部ヘラミガキ　頸部２簾止廉状文・波状文	ヘラミガキ	樽系
	2	Y―104	3	1	弥生土器	壺	―	―	(1.7)	良好	浅黄橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部二段の刻目	横ナデ	樽系
	3	Y―104	1	2	弥生土器	壺	―	―	(5.2)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部二段の刻目(矢羽根状)	横ナデ	甘楽系
	4	Y―104	2	1	弥生土器	壺	―	―	(1.7)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	撚糸原体を押しつけて施文	横ナデ	樽系
	5	Y―104	15	3	弥生土器	壺	―	―	(6.0)	良好	にぶい橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	口縁部波状文・ヘラミガキ	口縁部横ナデ	樽系
	6	Y―104	12	3	弥生土器	甕	13.8	―	(8.5)	良好	赤褐色	砂粒・小礫含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部２簾止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	7	Y―104	8	3	弥生土器	甕	12.6	―	(8.0)	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部廉状文胴上半部廉状文	ヘラミガキ	樽系
	8	Y―104	16	3	弥生土器	甕	11.4	―	(5.2)	良好	赤褐色	砂粒少量含	口縁部	口縁部波状文	ヘラミガキ	樽系
	9	Y―104	3+5	3	弥生土器	甕	9.8	―	(5.6)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部	口縁部波状文　頸部廉状文	横位ヘラミガキ(細)	樽系
	10	Y―104	14	3	弥生土器	甕(台付)	9.7	―	(4.7)	良好	暗赤褐色	砂粒少量含	口縁部～胴上半部	口縁部横ナデ　胴上半部篦削り	横位ヘラミガキ	樽系
	11	Y―104	11	3	弥生土器	甕(台付)	―	―	(3.8)	良好	にぶい褐色	砂粒含	頸部破片	頸部２連止廉状文　胴上半部単節LR縄文	ヘラミガキ	樽系
	12	Y―104	14	3	弥生土器	甕(台付)	―	―	(5.0)	良好	暗赤褐色	砂粒・小礫含	胴部破片	頸部２連及び３連止廉状文胴上半部波状文　胴下半部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	13	Y―104	6	3	弥生土器	甕(台付)	―	―	(5.8)	良好	橙色	砂粒・小礫含	胴部破片	ヘラケズリ	胴部底部ヘラナデ脚部ヘラナデ	樽系
	14	Y―104	P7		弥生土器	蓋	―	―	(2.5)	良好	灰褐色	砂粒含	摘部	ヘラミガキ	ヘラケズリ	樽系
	15	Y―104	13	3	弥生土器	高坏	―	9.0	(4.5)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラケズリ	樽系
	16	Y―104	5	2	弥生土器	高坏	―	―	(4.8)	良好	浅橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ		樽系
	17	Y―104	10	3	弥生土器	有孔鉢	―	―	(4.5)	良好	浅橙色	砂粒含	底部破片	ヘラナデ	ヘラナデ・縦位ヘラミガキ	樽系

第４表　弥生土器観察表(1)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第34図	18	Y―104	P7		弥生土器	甕	―	―	(6.2)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部波状文・頸部廉状文輪積み痕	横ナデ	樽・吉ヶ谷融合
	19	Y―104	9	2	弥生土器	甕	―	―	(3.5)	良好	赤褐色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁　口縁部波状文頸部廉状文	横ナデ	樽・吉ヶ谷融合
	20	Y―104	7+8+12	3	弥生土器	甕	11.4	―	(8.2)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部～胴上半部単節LR縄文	横位ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	21	Y―104	出土位置不明		弥生土器	甕	―	―	(4.4)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部指頭痕・輪積み痕　単節LR縄文	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	22	Y―104	11	3	弥生土器	甕	―	―	(4.0)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	単節RL縄文・赤色塗彩	ヘラナデ	吉ヶ谷系
	23	Y―104	13	1	弥生土器	甕	―	―	(3.1)	やや不良	暗褐色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・輪積み痕	ヘラミガキ	東関東系
	24	Y―104	4	1	弥生土器	台付甕	―	―	(3.5)	良好	浅黄橙色	砂粒少量含	脚部	刷毛目	刷毛目・ヘラナデ	東海系
	25	Y―104	出土地不明		弥生土器	台付甕	―	―	(6.5)	良好	にぶい橙色	砂粒含	脚部	刷毛目・底部横ナデ	刷毛目	東海系
	26	Y―104	7	1	弥生土器	台付甕	―	―	(5.5)	良好	赤褐色	砂粒含	口縁部	口縁部横ナデ　胴部上半部刷毛目	刷毛目・ヘラナデ	東海系
	27	Y―104	7	1	弥生土器	甕	―	―	(4.2)	良好	にぶい褐色	砂粒少量含	胴部破片	刷毛目	ヘラナデ	東海系（S字甕）
	28	Y―104	8	1	弥生土器	高坏	―	―	(1.0)	良好	浅橙色	砂粒含	底部破片	ナデ	刷毛目・ナデ	東海系
	29	Y―104	15	3	弥生土器	高坏	―	―	(5.0)	良好	橙色	砂粒少量含	脚部	ヘラミガキ	ナデ・黒色処理	東海系
	30	Y―104	7	1	弥生土器	小形鉢	7.5	(3.5)	3.5	良好	黒褐色	砂粒含	体部破片	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ナデ	ミニチュア
	31	Y―104	4	2	弥生土器	台付甕	―	―	(2.6)	良好	黄橙色	砂粒含	胴下半部～脚部	ナデ	ヘラミガキ	ミニチュア
	32	Y―104	5	4	弥生土器	小形鉢	―	2.1	(1.8)	良好	にぶい褐色	砂粒含	底部	ヘラケズリ	ナデ・輪積み痕	ミニチュア
第35図	1	Y―105	8	2	弥生土器	壺	24.0	―	(8.5)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部	折り返し口縁・波状文　口縁部ヘラナデ	ヘラミガキ	樽系
	2	Y―105	4	床直	弥生土器	壺	―	―	(6.5)	やや不良	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・指頭痕　口縁部ナデ・縦位ヘラミガキ　頸部廉状文	ヘラミガキ	樽系
	3	Y―105	B	サブトレ	弥生土器	壺	―	―	(5.8)	良好	明灰褐色	砂粒多量含	胴部破片	刷毛目（波状文）	器表剝離のため不明	甘楽系
	4	Y―105	S	サブトレ	弥生土器	壺	―	―	(4.7)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	刷毛目（波状文）・ヘラミガキ	ナデ（黒色処理）	甘楽系
	5	Y―105	10	3	弥生土器	甕	―	―	(3.1)	良好	赤褐色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・波状文	横位ヘラミガキ	樽系
	6	Y―105	11	床直	弥生土器	甕	―	―	(4.2)	良好	浅橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	口縁部波状文	横ナデ・輪積み痕	樽・吉ヶ谷系融合
	7	Y―105	P3		弥生土器	甕	16.0	9.2	30.0	良好	明赤褐色	砂粒・小礫含	完形	口縁部指頭痕・輪積み痕　頸部横位ヘラケズリ　胴部ヘラケズリ	横位ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	8	Y―105	10+11+14	3	弥生土器	甕	(17.0)	6.7	26.0	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部1/4～底部	口縁部指頭痕・輪積み痕	横位ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	9	Y―105	出土位置不明		弥生土器	甕	15.4	―	(16.1)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部3/4～胴上半部	口縁部指頭痕・輪積み痕　頸部ヘラケズリ　胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ胴部ヘラナデ	吉ヶ谷系

第5表　弥生土器観察表(2)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第35図	10	Y―105	9	2	弥生土器	台付甕	―	―	(7.2)	良好	暗褐色	砂粒含	胴部破片	刷毛目　ス付着	ヘラナデ	東海系(S字甕)
	11	Y―105	5	2	弥生土器	台付甕	―	―	(2.7)	良好	黒褐色	砂粒・小礫少量含	胴部破片	刷毛名　ス付着	ヘラナデ	東海系(S字甕)
	12	Y―105	2	3	弥生土器	甕	―	―	(2.8)	良好	にぶい灰褐色	砂粒・小礫少量含	口縁部破片	刷毛目(横位・斜位)　ス付着	刷毛目	東海系
	13	Y―105	15	3	弥生土器	台付甕	―	―	(3.3)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ナデ	ナデ	東海系
	14	Y―105	9	1	弥生土器	高坏	―	―	(2.6)	やや不良	橙色	砂粒・小礫少量含	底部破片	ヘラミガキ　破片上部に孔有	刷毛目	東海系
第36図	1	Y―106	15	1	弥生土器	壺	―	―	(7.6)	良好	暗赤褐色	砂粒含	胴部破片	頸部3連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	2	Y―106	3	下層	弥生土器	壺	―	―	(2.2)	良好	浅橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・刻み	横ナデ	樽系
	3	Y―106	8	3	弥生土器	台付甕	―	―	(4.5)	良好	褐色	砂粒・小礫含	胴部破片	刷毛目	ナデ	東海系(S字甕)
	4	Y―106	1	中層	弥生土器	壺	―	―	(4.5)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	刷毛目（波状文）	器表剝離のため不明	甘楽系
	5	Y―106	4＋9＋11＋12＋16	3	弥生土器	甕	15.3	―	(12.3)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　胴部ヘラミガキ	口縁部横ナデ・ヘラナデ　胴上半部ヘラミガキ	樽系
	6	Y―106	2	1	弥生土器	甕	12.4	―	(7.5)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部1/3	口縁部波状文　頸部廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	7	Y―106	12	3	弥生土器	甕	―	―	(7.3)	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・波状文	ヘラミガキ	樽系
	8	Y―106	16	3	弥生土器	甕	―	―	(4.4)	良好	にぶい赤褐色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・ヘラナデ	ヘラナデ	樽系
	9	Y―106	8	3	弥生土器	甕	―	―	(7.1)	やや不良	淡白色	砂粒・小礫含	口縁部破片	器表剝離のため不明	ヘラミガキ	樽系
	10	Y―106	8	3	弥生土器	高坏	―	―	(7.2)	良好	浅橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・赤色塗彩	体部底ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ	樽系
	11	Y―106	10	3	弥生土器	台付甕	―	―	(5.5)	良好	明赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラナデ	ヘラナデ	樽系
	12	Y―106	2	2	弥生土器	小形台付甕	―	―	(3.0)	良好	橙色	砂粒含	脚部	指ナデ	ナデ	樽系
	13	Y―106	16	3	弥生土器	甕	15.6	7.2	(30.8)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～胴部	口縁部～胴上半部波状文・輪積み痕	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	14	Y―106	8＋16	3	弥生土器	甕	16.5	―	(23.7)	良好	浅橙色	砂粒含	口縁部～胴部	折り返し口縁　口縁部指頭痕・輪積み痕　胴部ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	15	Y―106	6＋10	3	弥生土器	甕	16.7	―	(19.4)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	完形	口縁部指頭痕・輪積み痕　胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
第36図	1	Y―106	11	3	弥生土器	甕	―	10.6	(14.2)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	胴部1/3～底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	2	Y―106	15	床直	弥生土器	甕	11.7	5.5	16.0	良好	褐色	砂粒含	完形	口縁部ヘラナデ・輪積み痕　胴部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ　胴部ヘラナデ	吉ヶ谷系
	3	Y―106	16	床直	弥生土器	甕	(12.0)	―	(8.9)	良好	にぶい橙色	砂粒少量含	口縁部1/3	口縁部指頭痕・輪積み痕	刷毛目・ヘラナデ	吉ヶ谷系

第6表　弥生土器観察表(3)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第36図	4	Y―106	15	3	弥生土器	小形甕	(8.5)	4.4	9.7	良好	褐色	砂粒含	完形	口縁部ヘラナデ・輪積み痕 胴部ヘラケズリ	口縁部ヘラミガキ 胴部ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	5	Y―106	14	1	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.5)	良好	橙色	砂粒含	胴部	ヘラケズリ	ナデ	
	6	Y―106	4	3	弥生土器	壺	―	―	(2.8)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み　口縁部輪積み痕	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	7	Y―106	5	3	弥生土器	壺	―	―	(6.4)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	無節縄文を施す	ヘラナデ	吉ヶ谷系
	8	Y―106	14	2	弥生土器	鉢	―	―	(2.4)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	ナデ・輪積み痕	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	9	Y―106	9	床直	弥生土器	甕	―	―	(2.0)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み・輪積み痕	ヘラナデ	吉ヶ谷系
	10	Y―106	6＋11	3	弥生土器	甕	16.9	―	(20.1)	良好	橙色	砂粒含	口縁部～胴下半部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	東海系
	11	Y―106	16	床直	弥生土器	高坏	18.3	8.8	11.5	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	完形	ヘラミガキ・刷毛目　孔３	ヘラミガキ　脚部黒色処理	東海系
	12	Y―106	15	床直	弥生土器	高坏	6.6	9.4	6.9	良好	褐色	砂粒多量・小礫含	ほぼ完形	ヘラミガキ　孔３	ヘラミガキ	東海系
	13	Y―106	15	3	弥生土器	鉢	―	―	(4.9)	やや不良	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	器表剝離のため不明	ヘラミガキ	東海系
	14	Y―106	13	1	弥生土器	台付甕	―	―	(3.9)	良好	橙色	砂粒・小礫含	脚部破片	刷毛目	刷毛目・ナデ	東海系
	15	Y―106	11	3	弥生土器	台付甕	―	―	(3.8)	良好	にぶい赤褐色	砂粒・小礫少量含	口縁部破片	刷毛目・スス付着	刷毛目・ナデ	東海系
	16	Y―106	7＋8＋11＋12	3	弥生土器	有孔鉢	17.5	3.5	12.2	良好	にぶい褐色	砂粒含	口縁部～底部	ヘラケズリ後ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	17	Y―106	16	床直	弥生土器	坏	13.7	3.8	7.0	良好	にぶい橙色	砂粒含	ほぼ完形	ヘラミガキ	ヘラミガキ	
第38図	1	Y―107	P1＋5	床直	弥生土器	壺	―	―	(14.3)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～胴下半部	ヘラミガキ・ヘラナデ	口縁部ヘラミガキ 胴部ヘラナデ	樽系
	2	Y―107	9	床直	弥生土器	壺	15.0	―	(6.5)	良好	橙色	砂粒含	口縁部	口縁部ヘラナデ　頸部２連止廉状文	ヘラミガキ	樽系
	3	Y―107	9	2	弥生土器	壺	―	―	(1.3)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁	横ナデ	樽系
	4	Y―107	13	2	弥生土器	壺	―	―	(2.6)	良好	浅黄橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・ナデ	横ナデ	樽系
	5	Y―107	10＋11＋12＋15＋炉	3	弥生土器	壺	11.7	5.4	16.7	良好	にぶい褐色	砂粒含	口縁部1/2～胴部2/3	口縁部横ナデ　頸部２連及び３連止廉状文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	6	Y―107	10＋11＋15	3	弥生土器	甕	13.4	―	(11.2)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	7	Y―107	8＋9＋13＋14＋15	3	弥生土器	甕	(14.6)	―	(11.0)	良好	黒褐色	砂粒含	口縁部1/3	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	8	Y―107	10	床直	弥生土器	甕	15.4	―	(13.6)	良好	にぶい褐色	砂粒少量含	口縁部3/4～胴上半部	折り返し口縁　口縁部刷毛目・波状文　頸部波状文が４連止廉状文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系

第７表　弥生土器観察表(4)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第38図	9	Y―107	5	2	弥生土器	甕	16.7	―	(6.9)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部3/4	折り返し口縁・部分的に波状文　口縁部刷毛目・波状文　頸部３連止廉状文	ヘラミガキ	樽系
	10	Y―107	10	3	弥生土器	甕	(16.5)	―	(5.6)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部1/3	折り返し口縁　口縁部刷毛目・波状文	ヘラミガキ	樽系
	11	Y―107	9	3	弥生土器	甕	12.6	―	(11.4)	良好	暗褐色	砂粒含	口縁部1/3～胴上半部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部直線文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	12	Y―107	5＋9＋13	3	弥生土器	甕	10.2	4.8	12.2	良好	にぶい褐色	砂粒少量含	口縁部～底部	口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴上半部波状文・剝落	ヘラミガキ	樽系
	13	Y―107	5＋8	3	弥生土器	小形甕	11.0	4.9	9.2	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部～底部	口縁部～頸部波状文　胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	14	Y―107	9＋10＋13	2	弥生土器	小形甕	(10.6)	―	(7.3)	良好	灰褐色	砂粒少量含	口縁部～胴部1/4	口縁部～胴上半部波状文　胴部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	15	Y―107	9	2	弥生土器	小形甕	8.6	―	(4.3)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～胴部1/2	口縁部曲線文（ヘラ）　頸部３連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	16	Y―107	16	3	弥生土器	甕	―	―	(6.0)	良好	浅橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	ナデ・赤色塗彩	ヘラミガキ	樽系
	17	Y―107	9＋11＋14	3	弥生土器	鉢	13.2	―	(4.2)	良好	にぶい褐色	砂粒含	体部破片	ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	18	Y―107	10	3	弥生土器	鉢	―	(4.8)	(3.1)	良好	にぶい橙色	砂粒・小礫含	底部破片	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	19	Y―107	５＋７＋９＋12＋13	3	弥生土器	片口土器	10.0	―	13.2	良好	暗褐色	砂粒含	口縁部～胴下半部	刷毛目・ヘラナデ	ヘラナデ	樽系
	20	Y―107	11	3	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(4.0)	良好	暗赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラナデ	樽系
	21	Y―107	5＋7＋11	3	弥生土器	甕	(12.8)	―	(9.4)	良好	黄橙色	砂粒含	口縁部～胴部1/4	単節LR縄文	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	22	Y―107	16	床直	弥生土器	甕	―	―	(3.8)	良好	浅橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部指頭痕・輪積み痕	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	23	Y―107	試掘H54		弥生土器	台付甕	(16.0)	―	(4.1)	良好	灰白色	砂粒多量含	口縁部破片	刷毛目	ヘラナデ	東海系（S字甕）
第39図	1	Y―107	9	3	弥生土器	壺	27.0	16.8	65.6	良好	橙色	砂粒含	口縁部～底部2/3	折り返し口縁・刻み　口縁部ヘラミガキ　頸部３連止廉状文　胴上半部櫛描文・波状文　胴部ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ　胴部ヘラナデ	樽系
	9	Y―108	3	3	弥生土器	壺	―	―	(4.3)	良好	暗赤褐色	砂粒・小礫含	胴部破片	櫛描文	ヘラナデ	甘楽系
	10	Y―108	2	2	弥生土器	壺	―	―	(4.8)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	胴部破片	櫛描文	ヘラナデ	甘楽系
	11	Y―108	12	3	弥生土器	甕	14.8	―	(6.5)	良好	橙色	砂粒含	口縁部1/4	口唇部ヘラ刻み　口縁部ヘラミガキ　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系

第８表　弥生土器観察表(5)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第39図	12	Y―108	1＋2	2＋3	弥生土器	甕	13.6	―	(10.7)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部1/2	口縁部波状文	ヘラミガキ	樽系
第39図	13	Y―108	2	3	弥生土器	甕	―	―	(6.8)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	頸部２連止廉状文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	14	Y―108	5	2	弥生土器	有孔鉢	―	4.2	(4.4)	良好	黄 橙 色(黒色)	砂粒含	底部	ヘラミガキ　ススト付着	ヘラミガキ・底面にもヘラミガキ　ススト付着	樽系
	15	Y―108	11	3	弥生土器	高坏	―	―	(2.3)	良好	橙色(赤色)	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み　口縁部ヘラミガキ　赤色塗彩	ヘラミガキ	樽系
	16	Y―108	4	2	弥生土器	高坏	―	―	(3.6)	良好	暗赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	17	Y―108	7	サブトレ	弥生土器	台付甕	―	―	(3.1)	良好	にぶい橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・赤色塗彩	体部ヘラミガキ　脚部ヘラナデ	樽系
	18	Y―108	10	下層	弥生土器	高坏	―	―	(3.3)	良好	浅黄橙色	砂粒・小礫含	脚部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	19	Y―108	12	3	弥生土器	蓋	―	―	(2.4)	良好	暗赤褐色	砂粒含	摘部	手捏ね・指ナデ		樽系
	20	Y―108	3＋5	2	弥生土器	鉢	―	4.1	(3.9)	良好	暗 赤 褐 色(赤色)	砂粒含	底部	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	21	Y―108	3	床直	弥生土器	ミニチュア土器	4.2	3.2	4.2	良好	浅黄橙色	砂粒含	完形	指ナデ・ヘラナデ	口縁部内側に１段の輪積み痕　体部ヘラナデ・指ナデ	樽系
	22	Y―108	8	3	弥生土器	台付甕	―	―	(3.2)	良好	橙色	砂粒含	胴下半部～脚部	ヘラナデ	ヘラナデ	樽系・ミニチュア土器
	23	Y―108	5	3	弥生土器	壺	―	―	(2.8)	良好	浅橙色	砂粒多量含	口縁部破片	複合口縁・刻み・波状文	ヘラミガキ	南関東・樽系
	24	Y―108	炉2		弥生土器	壺	―	―	(4.8)	良好	浅黄橙色	砂粒含	胴部破片	櫛描文・ボタン状貼付文　ヘラナデ後ヘラミガキ	ヘラナデ後ヘラミガキ	南信州・樽系
	25	Y―108	1	3	弥生土器	壺	―	―	(1.8)	やや不良	明赤褐色	砂粒少量含	口縁部破片	口縁部３条の刻み	ヘラナデ	
	26	Y―108	6	3	弥生土器	壺	―	―	(2.7)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部破片	受け口状口縁・波状文	横ナデ	東海・樽系
	27	Y―108	10	2	弥生土器	壺	―	―	(3.4)	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部破片	受け口状口縁・縄文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	
	28	Y―108	6	2	弥生土器	壺	―	―	(2.7)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・刻み・ナデ	ヘラナデ	
	29	Y―108	7	3	弥生土器	壺	―	―	(4.0)	良好	明赤褐色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・単節 LR 縄文	ヘラナデ	中期か？
	30	Y―108	4	2	弥生土器	甕	―	―	(3.3)	良好	赤褐色	砂粒含	口縁部破片	輪積み痕・指頭痕	ヘラナデ	吉ヶ谷系
	31	Y―108	3	1	弥生土器	甕	―	―	(4.6)	良好	黄褐色	砂粒含	胴部破片	単節 LR 縄文	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	32	Y―108	6	1	弥生土器	器台？	―	―	(3.1)	やや不良	暗赤褐色	砂粒含	脚部	器表剝離のため不明	器表剝離のため不明	東海系
	33	Y―108	12	3	弥生土器	有孔鉢？	15.0	―	(10.7)	良好	橙色	砂粒少量含	口縁部～体部1/2	折り返し口縁　ヘラミガキ	ヘラナデ	外来系
	34	Y―108	12	3	弥生土器	鉢	22.0	―	(5.5)	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部破片	輪積み痕・ヘラナデ	ヘラミガキ	吉ヶ谷系

第９表　弥生土器観察表(6)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第40図	1	Y―110	2	3	弥生土器	壺	19.6	―	(11.8)	良好	にぶい褐色	砂粒・小礫含	口縁部	折り返し口縁・波状文　口縁部ナデ　頸部２連止廉状文	横ナデ・ヘラミガキ	樽系
	2	Y―110	12	3	弥生土器	壺	(21.6)	―	(12.6)	良好	明赤褐色	砂粒・小礫含む	口縁部	口縁部ヘラナデ　頸部2連止廉状文　胴上半部櫛描文	口縁部横ナデ	甘楽系
	3	Y―110	13	1	弥生土器	壺	―	―	(1.8)	やや不良	浅橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部二段の刻目	ヘラミガキ	樽系
	4	Y―110	14	1	弥生土器	壺	―	―	(6.1)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	5	Y―110	14	1	弥生土器	壺	―	―	(5.7)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	櫛描文	ヘラミガキ	甘楽系
	6	Y―110	11	2	弥生土器	壺	―	―	(5.6)	良好	浅橙色	砂粒少量含	胴部破片	頸部2連止廉状文　胴部櫛描文	ヘラミガキ	甘楽系
	7	Y―110	3＋15	3	弥生土器	甕	16.3	―	(11.8)	良好	にぶい褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラナデ後ヘラミガキ	樽系
	8	Y―110	7	サブトレ	弥生土器	甕	18.4	―	(7.3)	良好	にぶい黄褐色	砂粒少量含	口縁部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文	ヘラナデ	樽系
	9	Y―110	10＋11＋15	2	弥生土器	甕	17.5	―	(6.7)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文	刷毛目・ヘラミガキ	樽系
	10	Y―110	5＋6	3	弥生土器	甕	17.2	8.7	32.1	良好	にぶい橙色	砂粒含	ほぼ完形	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文　胴部ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ　胴部ヘラナデ	樽系
	11	Y―110	7	1	弥生土器	甕	15.4	―	(8.3)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部1/4	口縁部波状文　頸部廉状文	口唇部面取り　口縁部ヘラミガキ	樽系
	12	Y―110	3	1	弥生土器	甕	―	―	(4.9)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁　口縁部ヘラナデ	ヘラミガキ	樽系
	13	Y―110	7	1	弥生土器	甕	16.8	―	(4.8)	良好	灰褐色	砂粒含	口縁部破片	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　赤色塗彩	口縁部横ナデ　刷毛目後ヘラミガキ	樽系
	14	Y―110	14	2	弥生土器	壺	―	―	(7.2)	良好	にぶい褐色	砂粒含	胴部破片	頸部２連止廉状文２カ所　３連止廉状文１カ所　胴部波状文	ヘラナデ	樽系　H111カマド遺物と接合
	15	Y―110	7	1	弥生土器	甕	6.8	―	(3.9)	良好	暗赤褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部ヘラミガキ　頸部3連止廉状文　胴上半部ヘラミガキ　赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	16	Y―110	10		弥生土器	台付甕	14.2	―	(8.6)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部1/3	口縁部～頸部波状文　胴下半部ヘラナデ	ヘラミガキ	樽系　H111遺物と接合
	17	Y―110	14	1	弥生土器	台付甕	11.8	―	(5.7)	良好	にぶい褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部1/4	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	18	Y―110	3	床直	弥生土器	台付甕	9.9	―	(11.4)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部～脚部	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	19	Y―110	11＋15	2	弥生土器	台付甕	10.7	―	(8.0)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部～胴下半部	折り返し口縁・波状文　頸部直線文　胴部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系

第10表　弥生土器観察表(7)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第40図	20	Y―110	10	2	弥生土器	台付甕	10.8	―	(5.2)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部連続止廉状文	ヘラミガキ	樽系
	21	Y―110	6＋10	3	弥生土器	台付甕	―	―	(7.7)	良好	浅橙色	砂粒少量含	脚部	ヘラナデ	ヘラナデ	樽系
	22	Y―110	10	1	弥生土器	台付甕	―	―	(6.5)	良好	暗赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ナデ	樽系
	23	Y―110	6	3	弥生土器	台付甕	―	―	(6.0)	良好	暗赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラナデ	樽系
	24	Y―110	6	3	弥生土器	台付甕	―	―	(5.5)	良好	赤褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラケズリ・ナデ	樽系
	25	Y―110	6	サブトレ	弥生土器	台付甕	―	―	(5.5)	良好	橙色(赤色)	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラケズリ	樽系
第41図	1	Y―110	7＋10＋11＋14	1	弥生土器	高坏	24.0	―	(8.4)	良好	明赤褐色	砂粒含	坏部1/5	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	2	Y―110	11＋12	2＋3	弥生土器	高坏	20.0	―	(6.8)	良好	黒褐色(にぶい赤褐色)	砂粒含	坏部	口唇部刻み　ヘラミガキ　赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	3	Y―110	2	1	弥生土器	高坏	―	―	(3.6)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み　体部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	4	Y―110	14	床直	弥生土器	小形甕(脚付広口壺)	12.5	―	(8.6)	良好	にぶい褐色(赤色)	砂粒含	胴部	口唇部刻み　ヘラミガキ（器表剝離著しい）　赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	5	Y―110	13		弥生土器	高坏	―	―	(4.8)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラナデ	樽系
	6	Y―110	8	1	弥生土器	鉢	12.3	4.1	5.8	良好	黒褐色(にぶい褐色)	砂粒含	ほぼ完形	ヘラミガキ（細）	ヘラミガキ（細）	樽系
	7	Y―110	11	1	弥生土器	有孔鉢(多孔)	17.0	4.3	8.6	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部～底部1/4	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	8	Y―110	11	1	弥生土器	壺	13.6	―	7.3	良好	褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部横ナデ　粘土紐に指頭痕　頸部粘土紐と廉状文の間にケズリ　頸部３連止廉状文頸部から胴部の間に棒状工具で斜めで整形	ヘラミガキ	樽・吉ヶ谷系融合
	9	Y―110	7	1	弥生土器	甕	―	―	(2.1)	良好	明赤褐色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・刻目	ヘラナデ	樽・吉ヶ谷系融合
	10	Y―110	7	1	弥生土器	甕	―	―	(3.1)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	波状文	器表剝離のため不明	樽・吉ヶ谷系融合
	11	Y―110	6	1	弥生土器	壺	―	―	(9.5)	良好	にぶい橙色	砂粒・小礫含	胴部破片	単節LR縄文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	12	Y―110	11	2	弥生土器	甕	16.2	―	(6.3)	良好	にぶい赤褐色	砂粒含	口縁部1/4	布を巾１cm内外の単位で右回りに押しつける。２段に行い間に巾狭の無文帯を形成。	ヘラミガキ	吉ヶ谷系
	13	Y―110	14	1	弥生土器	壺	―	―	(2.2)	良好	にぶい橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	布圧痕	ヘラミガキ	外来系
	14	Y―110	6	サブトレ	弥生土器	鉢	―	―	(2.3)	やや不良	明赤褐色	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み　輪積み痕	器表剝離のため不明	吉ヶ谷系
	15	Y―110	14	1	弥生土器	鉢	―	―	(4.3)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁　ヘラミガキ	ヘラミガキ	外来系

第11表　弥生土器観察表(8)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第41図	16	Y―110	13		弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(5.0)	良好	にぶい浅橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・指頭痕	ヘラミガキ・指頭痕	樽系
	17	Y―110	14	2	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.7)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ナデ	ヘラケズリ	樽系
	18	Y―110	6	サブトレ	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.0)	やや不良	にぶい橙色	砂粒・小礫含	脚部	ナデ	ナデ	樽系
	19	Y―110	7	サブトレ	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.2)	良好	浅橙色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラナデ	樽系
	20	Y―110	11	2	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.7)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ヘラナデ	ヘラナデ・輪積み痕	樽系
	21	Y―110	7	サブトレ	弥生土器	ミニチュア土器	―	―	(3.6)	良好	にぶい褐色	砂粒含	脚部	ヘラミガキ	ヘラナデ	樽系
第42図	1	Y―112	4	2	弥生土器	甕	―	―	(5.2)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	口縁部ヘラナデ　頸部単止廉状文	ヘラナデ	樽系
	2	Y―112	4	1	弥生土器	甕	―	―	(5.1)	良好	黄橙色	砂粒含	胴部破片	口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴上半部刷毛目	口縁部ヘラナデ　頸部ヘラミガキ	樽系
	3	Y―112	15	3	弥生土器	甕	―	―	(3.0)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	口唇部刻み　口縁部粘土紐貼付（２段）・波状文・ヘラナデ	ヘラミガキ	樽系
	4	Y―112	4＋16	2＋3	弥生土器	甕	11.2	―	(7.0)	良好	暗褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部2/3	口縁部ヘラナデ	ヘラミガキ	樽系
	5	Y―112	16	3	弥生土器	甕	―	―	(7.5)	良好	褐色	砂粒含	口縁部破片	ヘラナデ・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	6	Y―112	8	2	弥生土器	甕	―	―	(2.6)	良好	橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部粘土紐貼付・ヘラナデ	横ナデ	樽系
	7	Y―112	16	3	弥生土器	台付甕	10.6	―	(10.9)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～脚部	口縁部～頸部波状文　胴部～脚部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	8	Y―112	P5		弥生土器	高坏	13.8	―	(8.5)	良好	橙色	砂粒含	坏部～脚部	ヘラナデ・ヘラミガキ	ナデ	樽系
	9	Y―115	2＋3	2	弥生土器	壺	(24.0)	―	(9.7)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部1/3	折り返し口縁・口唇部刻み・波状文　口縁部刷毛目・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	10	Y―115	8	2	弥生土器	壺	―	―	(4.2)	良好	浅黄橙色	砂粒含	胴部破片	刷毛目・ヘラミガキ・ボタン状貼付文　３連止廉状文	ヘラナデ	樽系
	11	Y―115	9	3	弥生土器	壺	―	―	(4.3)	良好	にぶい橙色	砂粒含	胴部破片	頸部３連止廉状文・垂下文　胴部波状文	ヘラナデ	樽系
	12	Y―115	1	2	弥生土器	壺	―	―	(3.8)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	頸部２連止廉状文　櫛描文	ヘラナデ	甘楽系
	13	Y―115	出土位置不明		弥生土器	壺	―	―	(1.6)	良好	黒褐色	砂粒含	胴部破片	刷毛目	ヘラナデ	甘楽系
	14	Y―115	4	2	弥生土器	壺	―	―	(3.2)	やや不良	褐色	砂粒含	胴部破片	刷毛目（Ｔ字文）・波状文	スス付着	樽系
	15	Y―115	2＋6	1	弥生土器	甕	16.6	―	(24.6)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	口縁部横ナデ・ヘラミガキ　胴部ナデ	樽系

第12表　弥生土器観察表(9)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第42図	16	Y－115	9	3	弥生土器	甕	11.6	—	(6.4)	良好	橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部単止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	17	Y－115	出土位置不明		弥生土器	甕	—	—	(1.6)	やや不良	橙色	砂粒含	口縁部破片	刺突文	ヘラナデ	不明
第43図	1	Y－117	P6		弥生土器	壺	11.9	—	(8.7)	良好	橙色	砂粒含	口縁部3/4	折り返し口縁　口縁部ヘラミガキ　頸部横ナデ	ヘラミガキ	樽系
	2	Y－117	13	3	弥生土器	壺	21.8	—	(10.4)	良好	黄橙色	砂粒含	口縁部1/2	折り返し口縁・列状刻み　口縁部ヘラナデ　頸部３連止廉状文	ヘラミガキ	樽系
	3	Y－117	3	1	弥生土器	壺	22.3	—	(3.2)	良好	浅橙色	砂粒含	口縁部破片	口縁部横ナデ　２連の粘土紐貼付	口縁部横ナデ・ヘラミガキ	樽系
	4	Y－117	11	2	弥生土器	壺	—	—	(3.4)	やや不良	浅橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・列状刺突文　口唇部に刻み	器表剝離のため不明	樽系
	5	Y－117	13	3	弥生土器	壺	—	—	(3.2)	良好	黄橙色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・連続刺突文	ヘラナデ	樽系　2と同一個体
	6	Y－117	1	3	弥生土器	壺	—	—	(8.3)	良好	橙色	砂粒少量含	胴部破片	頸部２連止廉状文　胴部櫛描文	ヘラナデ	甘楽系
	7	Y－117	15	3	弥生土器	壺	—	—	(1.8)	良好	明赤褐色	砂粒含	胴部破片	刷毛目	ヘラナデ	甘楽系
	8	Y－117	15	3	弥生土器	壺	—	—	(2.1)	良好	明赤褐色	砂粒少量含	胴部破片	頸部２連止廉状文・刷毛目	ヘラナデ	甘楽系
	9	Y－117	12	2	弥生土器	壺	—	—	(2.7)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	頸部２連止廉状文・刷毛目	ヘラナデ	甘楽系
	10	Y－117	5	3	弥生土器	壺	—	—	(1.8)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	波状文・横位刷毛目（T字文）	ヘラナデ	樽系
	11	Y－117	12	2	弥生土器	壺	—	—	(4.2)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	刷毛目（T字文）	ヘラミガキ	樽系
	12	Y－117	4＋12＋16	3	弥生土器	甕	15.2	—	(8.1)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部1/3	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文	ヘラミガキ	樽系
	13	Y－117	4＋9＋炉1	3	弥生土器	甕	13.2	—	(10.2)	良好	橙色	砂粒少量含	口縁部1/3	折り返し口縁・波状文　口縁部刷毛目後波状文　頸部２連止廉状文　胴部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	14	Y－117	1	3	弥生土器	甕	13.6	—	(10.9)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部1/4	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部直線文　胴部波状文	ヘラミガキ・ヘラナデ	樽系
	15	Y－117	14	2	弥生土器	甕	18.2	—	(8.9)	良好	橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	16	Y－117	11	2	弥生土器	甕	12.0	—	(5.1)	良好	灰黄褐色	砂粒含	口縁部1/3	口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	17	Y－117	7	3	弥生土器	甕	—	—	(4.8)	良好	橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部横ナデ　頸部２連止廉状文　胴部ヘラミガキ	口縁部～胴部ヘラミガキ　頸部ナデ	樽系
	18	Y－117	15	3	弥生土器	甕	—	6.7	(10.2)	良好	にぶい橙色	砂粒含	胴上半部～底部1/2	胴部ヘラミガキ　底部ヘラケズリ	胴部ヘラミガキ　底部ヘラナデ	樽系

第13表　弥生土器観察表(10)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第43図	19	Y－117	14	3	弥生土器	小形台付甕	8.4	5.0	11.4		橙色	砂粒含	ほぼ完形	折り返し口縁　口縁部波状文　頸部2連止廉状文　胴上半部波状文　胴部ヘラミガキ　脚部ヘラミガキ	甕部ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ	樽系
	20	Y－117	P6		弥生土器	小形台付甕	8.7	—	(4.7)	良好	黒褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文・ボタン状宇貼付文	ヘラミガキ	樽系
	21	Y－117	8	2	弥生土器	台付甕	13.0	—	(8.2)	良好	黒褐色	砂粒含	口縁部～胴上半部	口縁部波状文　頸部３連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	22	Y－117	2	3	弥生土器	台付甕	15.4	—	(10.8)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～底部1/2	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文　胴部刷毛目・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	23	Y－117	P6		弥生土器	台付甕	—	—	(6.0)	良好	赤褐色	砂粒多量含	脚部	ヘラミガキ・ナデ	体部ヘラミガキ　脚部ヘラケズリ	樽系
	24	Y－117	2	3	弥生土器	高坏	14.6	—	(2.7)	良好	橙色(赤色)	砂粒含	坏部	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	25	Y－117	9	3	弥生土器	鉢	12.0	3.5	4.4	良好	橙色	砂粒含	口縁部～底部1/2	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ・赤色塗彩	樽系
	26	Y－117	1	3	弥生土器	鉢	—	—	(5.2)	良好	にぶい褐色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁　口縁部刷毛目	ヘラミガキ	外来系
	27	Y－117	1	3	弥生土器	鉢	—	—	(2.2)	良好	橙色	砂粒・小礫含	口縁部破片	折り返し口縁・ヘラ状工具による刺突	ヘラミガキ	外来系
	28	Y－117	16	2	弥生土器	鉢	—	—	(2.6)	良好	暗赤褐色	砂粒含	口縁部破片	口唇部刻み　口縁部輪積み痕・指頭痕	横ナデ	吉ヶ谷系
第44図	1	Y－121	16＋P1	下層	弥生土器	甕	—	—	(9.8)	良好	暗赤褐色	砂粒含	口縁部破片	折り返し口縁・波状文　口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	2	Y－121	P1		弥生土器	甕	—	—	(6.7)	良好	橙色	砂粒含	胴部破片	頸部２連止廉状文　胴部波状文	ヘラミガキ	樽系
	3	Y－121	12	1	弥生土器	坏	—	5.4	(6.0)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～底部	波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	4	Y－121	2	下層	弥生土器	甕	—	—	(5.2)	良好	明赤褐色	砂粒含	胴部破片	頸部単止廉状文　胴部波状文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	5	Y－121	12	床直	弥生土器	甕	—	—	(4.3)	良好	橙色(赤色)	砂粒含	口縁部破片	ヘラミガキ・赤色塗彩	ヘラミガキ	樽系
	6	Y－122	6	2	弥生土器	甕	19.8	—	(13.0)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部～胴上半部	折り返し口縁・ナデ　口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴上半部波状文　胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系

第14表　弥生土器観察表(11)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第45図	1	Y―128	10＋11	1	弥生土器	壺	18.5	7.7	32.4	良好	にぶい褐色	砂粒含	口縁部～底部3/4	折り返し口縁・ナデ　口縁部縦位ヘラミガキ　胴部横位・縦位ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	2	Y―128	出土位置不明		弥生土器	壺	―	7.4	12.8	良好	褐色	砂粒含	胴上半部～底部1/5	ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	3	Y―128	1	床直	弥生土器	壺	―	―	(17.8)	良好	暗赤褐色	砂粒・小礫含	胴部	頸部２連止廉状文　胴部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	4	Y―128	2	1	弥生土器	壺	―	―	(22.5)	良好	橙色	砂粒・小礫含	胴部	頸部単止廉状文　胴上半部波状文・刷毛目　胴下半部ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	5	Y―128	5	1	弥生土器	甕	15.8	―	(7.1)	良好	にぶい黄橙色	砂粒含	口縁部1/4	口縁部ヘラナデ・ヘラミガキ　頸部２連止廉状文	ヘラミガキ	樽系
	6	Y―128	出土位置不明		弥生土器	甕	12.1	―	(6.0)	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部1/4	口縁部波状文　頸部２連止廉状文　胴部波状文　スス付着	ヘラミガキ	樽系
	7	Y―128	4	床直	弥生土器	甕	―	6.2	(6.4)	良好	橙色	砂粒含	底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	8	Y―128	3	1	弥生土器	台付甕	10.0	―	5.1	良好	灰褐色	砂粒含	口縁部2/3	口縁部波状文・ボタン状貼付文　頸部３連止廉状文　胴部波状文・ボタン状貼付文	ヘラミガキ	樽系
	9	Y―128	3	下層	弥生土器	台付甕	―	―	(5.2)	良好	にぶい橙色	砂粒少量含	脚部	ヘラミガキ	ヘラミガキ・ヘラナデ	樽系
	10	Y―128	7	床直	弥生土器	台付甕	―	―	(6.1)	良好	橙色	砂粒含	脚部	ヘラナデ	ヘラナデ	樽系
	11	Y―128	6	下層	弥生土器	高坏	13.1	―	(4.8)	良好	黄橙色	砂粒少量含	口縁部破片	ヘラミガキ	ヘラミガキ	外来系？
	12	Y―128	7	1	弥生土器	高坏	24.1	14.1	19.7	良好	赤色	砂粒含	口縁部～底部	坏部ヘラミガキ　脚部ヘラミガキ　赤色塗彩	坏部ヘラミガキ・赤色塗彩　脚部ヘラケズリ	樽系
	13	Y―128	10	1	弥生土器	鉢	13.4	4.7	6.9	良好	橙色	砂粒含	ほぼ完形	ヘラミガキ	ヘラミガキ	樽系
	14	Y―128	5	1	弥生土器	鉢	13.2	3.6	6.9	良好	にぶい橙色	砂粒含	口縁部～底部1/4	口縁部有孔2・ヘラミガキ	口縁部ヘラミガキ	樽系

（　）は推定値

第15表　弥生土器観察表(12)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第75図	1	H—102	16	3	土師器	坏	11.8	—	5.3	普通	赤 褐 色、底部 黒色	細砂粒、小礫	口 縁 部1/3欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	2	H—102	16		土師器	坏	11.0	—	5.5	普通	赤褐色	細砂粒、小礫	5/6	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	3	H—102	16＋土坑		土師器	坏	9.8	—	4.9	普通	橙色	細砂粒、小礫、角閃石	2/3	口縁部篦磨き、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、胴部撫で	外面赤色塗彩、内面黒色処理
	4		2＋6	2	土師器	坏	(11.8)	—	〈4.1〉	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～体部1/3	口縁部篦磨き、体部篦削り	口縁部～体部篦磨き	
	5	H—102	4＋10＋14	1	土師器	坏	(12.0)	—	4.4	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、小礫、角閃石	1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	6	H—102	8	床直	土師器	高坏	15.8	9.7	9.6	普通	明赤褐色	細砂粒、赤色粒、小礫	5/6	口縁部横撫で、体部篦撫で不明瞭	口 縁 部～底 部 篦 磨き、脚部篦撫で	内面に坏部に暗文あり
	7	H—102	12＋16	床直	土師器	甑	(25.2)	10.4	29.1	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で胴部撫で、胴部下位斜め横方向の撫で	
	8	H—102	11	床直	土師器	甕	(24.8)	—	〈15.1〉	普通	にぶい褐色	細砂粒、雲母	口縁部～胴部上位1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦撫で	口縁部横撫で、胴部篦撫で	9と同一個体か164D
	9	H—102	7	床直	土師器	甑	—	(10.4)	〈12.8〉	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	底部片	胴部篦削り後篦撫で	胴部撫で調整	底部に棒状のすのこの痕跡あり
	10	H—102	12	床直	土師器	甑	(24.4)	(11.0)	32.0	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/3	口縁部横撫で、胴部縦方向の篦削り、下位篦削り後撫で	口縁部横撫で、胴部上位斜め粗い撫で調整	
第76図	1	H—102	12＋16	床直	土師器	甕	19.0	6.4	32.8	普通	褐色	細・粗砂粒、礫、片岩	1/4	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	2	H—102	1＋5	床直	土師器	甕	17.3	7.9	29.4	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、小礫	胴部中位一部欠損	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り後撫で調整、底部支脚の痕跡あり	口縁部横撫で、胴部撫で	内面に被熱による剝離あり
	3	H—103	6	床直	土師器	坏	14.6	—	8.4	普通	褐色	細砂粒	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部磨き	内面に暗文あり
	4	H—103	竈内		土師器	坏	(10.8)	—	6.0	普通	赤褐色	細砂粒、小礫	1/2	口縁部磨き、体部～底部横方向の篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	5	H—103	6	床直	土師器	坏	10.8	—	6.0	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、白色粒	完形	口縁部篦磨き、体部～底部横方向の篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	6	H—103	6	床直	土師器	坏	10.8	—	6.4	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、小礫	口縁部～体部	口縁部横撫で、体部横方向の篦削り	口縁部～体部撫で	
	7	H—103	2	床直	土師器	坏	12.5	—	5.0	普通	明褐色	細砂粒、小礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	8	H—103	竈内		土師器	坏	12.8	—	4.9	普通	にぶい褐色	細砂粒、小礫	2/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面に暗文あり
	9	H—103	6	床直	土師器	坏	12.2	—	5.3	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、小礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部一部無調整、下位～底部篦削り	口縁部～体部撫で	

第16表　古墳土器観察表(1)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第76図	10	H—103	12	3	土師器	坏	(13.6)	—	3.6	普通	明赤褐色	細砂粒、小礫	1/2	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～底部篦磨き	内面に暗文あり
	11	H—103	竈内		土師器	坏	(13.0)	—	〈5.6〉	普通	橙色	細砂粒、角閃石	口縁部～体部1/3	口縁部横撫で、体部篦削り後撫で	口縁部横撫で、体部篦磨き	内面に暗文あり
	12	H—103	6	床直	土師器	小型甕	13.4	—	12.7	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、小礫	胴部1/5欠損	口縁部～頸部横撫で、胴部～底部篦削り	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で	
第77図	1	H—103	竈上面		土師器	甕	—	7.4	〈17.3〉	普通	黒褐色	細砂粒、小礫	胴部下位～底部	胴部横方向の篦削り	胴部篦撫で、篦の先端がクシ歯状で、一見叩き目に見える	底部支脚の痕跡
	2	H—103	1＋5	床直	土師器	甑	21.2	9.6	23.1	普通	灰黄褐色、褐灰色	細砂粒、小礫	底部3/4欠損	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	3	H—109	竈内		土師器	坏	13.1	—	4.9	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	1/2	口縁部～底部篦撫で、篦削り	口縁部～体部篦磨き	
	4	H—109	竈＋2	床直	土師器	坏	(14.8)	—	〈4.4〉	普通	橙色～にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒	口縁部～体部1/5	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	5	H—109	7	床直	土師器	高坏	14.9	7.8	9.0	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫、片岩	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、体部～脚部粗い篦撫で調整、裾部横撫で	口縁部～脚部横方向の撫で	
	6	H—109	7	3	土師器	高坏	(14.4)	10.6	9.2	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/2・底部1/4欠損	口縁部～体部横撫で、底部～脚部篦撫で、裾部横撫で	口縁部～体部篦磨き	器形に歪みあり
	7	H—109	15	2	土師器？	壺	15.2	—	(7.0)	普通	明赤褐色		口縁部1/4			古墳初頭混入土器
	8	H—109	11	床直	土師器	甕	(22.8)	—	〈13.8〉	普通	黄褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部篦撫で、篦磨き	口縁部横撫で、胴部撫で	指頭痕あり
	9	H—109	竈内		土師器	甕	18.6	(5.5)	31.2	普通	にぶい黄橙色～黒褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫、片岩	口縁部～底部1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部粗い篦削り調整	口縁部横撫で、胴部撫で	
第78図	1	H—111	5	2	土師器	坏	11.8	—	5.0	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/5	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部篦撫で	
	2	H—111	D1＋1＋15	床直	土師器	小型甕	15.2	—	12.0	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部～頸部篦撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	3	H—111	4外側		土師器	甕	18.5	—	(8.3)	普通	にぶい褐色	細砂粒、片岩、黒色粒、礫	口縁部1/2	口縁部横撫で、胴部篦削り	口縁部篦磨き、胴部篦撫で	
	4	H—114	竈内＋15	2	土師器	坏	(18.4)	—	〈5.1〉	普通	にぶい褐色	細砂粒、角閃石	口縁部～体部1/4	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	5	H—114	8	下層	土師器	坏	(14.0)	—	〈3.1〉	普通	にぶい褐色	細砂粒、赤色鉱物粒	口縁部～体部1/4	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	6	H—114	9ベルト		須恵器	蓋	(13.9)	—	〈3.1〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、礫	口縁部片	口縁部横撫で、天井部撫で後篦削り	口縁部～体部横撫で	
	7	H—114	10	1	須恵器	甕	—	—	—	普通	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	胴部片	平行叩き目後カキ目を施す	同心円のアテ具痕を残す	同一個体

第17表　古墳土器観察表(2)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第78図	8	H—114	10	1	須恵器	甕	—	—	—	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	胴部片	平行叩き目後カキ目を施す	同心円のアテ具痕を残す	同一個体
	9	H—114	16	床直	土師器	甕	18.0	—	〈15.8〉	普通	にぶい赤褐色	細・粗砂粒、礫、角閃石	口縁部～胴部中位	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	10	H—114	16+12	2+床直	土師器	甑	(20.0)	—	〈18.0〉	普通	にぶい赤褐色	細・粗砂粒、赤色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	11	H—114	12	床直	土師器	甕	19.0	7.0	28.8	普通	暗赤褐色	細・粗砂粒、礫	1/2	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	底部に木葉痕あり
第79図	1	H—116	14+15	床直	土師器	坏	12.4	—	〈5.8〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、礫	3/4	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部磨き	内面に暗文あり
	2	H—116	3+4	床直	土師器	坏	11.4	—	5.5	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、無調整部を残す	口縁部横撫で、体部磨き	内面に暗文あり
	3	H—116	14	1	土師器	坏	(11.4)	(6.0)	〈5.3〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、角閃石、褐色粒	1/7	口縁部横撫で、体部篦削り、底部篦削り	口縁部～体部撫で	
	4	H—116	15	床直	土師器	坏	12.0	—	6.1	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫、雲母	2/3	口縁部横撫で、体部一部無調整、下位～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部磨き	内面に暗文あり
	5	H—116	15	床直	土師器	坏	11.2	—	6.0	普通	茶褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、体部磨き	口縁部横撫で、体部磨き	内面に暗文あり
	6	H—116	15	2	土師器	坏	12.2	—	5.0	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り、篦撫で	口縁部横撫で、体部～底部磨き	内面に暗文あり
	7	H—116	8+15	2	土師器	坏	14.7	—	4.6	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、体部無調整、底部篦削り	口縁部横撫で、体部磨き	内面に暗文あり
	8	H—116	5	床直	土師器	坏	13.2	—	5.6	普通	茶褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り、篦撫で	口縁部篦磨き、体部～底部磨き	内面に暗文あり
	9	H—116	竈付近		土師器	坏	(13.5)	—	4.5	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部一部と底部	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部一方向に磨き	内面に暗文あり
	10	H—116	14	1	土師器	坏	14.0	—	〈5.0〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～体部1/3	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	11	H—116	14+10	1+床直	土師器	坏	(15.0)	—	〈4.3〉	普通	にぶい黄色	細砂粒、角閃石	口縁部破片	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	12	H—116	14	1	土師器	坏	(16.4)	—	〈4.6〉	普通	にぶい橙色～にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、礫	1/2	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	13	H—116	竈付近		土師器	皿	18.2	—	〈2.2〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、黒色粒、褐色粒、石英	口縁部破片	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	14	H—116	14	1	土師器	高坏	15.0	10.5	10.6	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	脚部1/2欠損	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部～脚部縦方向の磨き、裾部横撫で	口縁部～体部磨き、底部～脚部上位撫で調整、中位～裾部横撫で	外面脚部と内面体部に暗文あり

第18表　古墳土器観察表(3)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　面	内　面	
第79図	15	H―116	16	2	土師器	高坏	15.2	(8.8)	11.7	普通	明赤褐色	細砂粒、雲母、褐色鉱物粒、礫	口縁部～脚部	口縁部横撫で、体部撫で、底部横撫で、脚部篦磨き	口縁部横撫で、体部磨き、脚部撫で調整、裾部横撫で	内面体部に暗文あり
	16	H―116	竈右袖		土師器	高坏	10.4	8.0	8.2	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部1/2欠損	口縁部～脚部篦磨き	口縁部～底部篦磨き、脚部篦撫で	内底部に篦磨きによる十文字あり
	17	H―116	竈		土師器	高坏	―	(9.7)	〈3.0〉	普通	赤褐色	細砂粒、黒色粒、角閃石、石英	脚部破片	脚部篦磨き	脚部撫で、裾部横撫で	
	18	H―116	竈付近		土師器	坩	11.2	4.5	15.0	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部ピンホール状の剝落多く 調整痕不明瞭	口縁部横撫で、胴部撫で	
	19	H―116	不明		土師器	坩	10.8	―	14.2	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/2	口縁部横撫で、頸部～胴部上位縦方向の篦削り、下位横方向の篦削り	口縁部縦方向の磨き、胴部篦撫で	
	20	H―116	6	2	土師器	坏(椀状)	(9.0)	―	〈5.8〉	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～胴部1/8	口縁部横撫で、胴部篦削り	口縁部～胴部篦磨き	
第80図	1	H―116	14＋D1		土師器	甕	22.4	(7.2)	31.2	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、礫、黒色鉱物粒	口縁部2/3、ほぼ完形	口縁部～頸部横撫で、胴部上位篦撫で、篦磨き	口縁部横撫で、胴部上位篦撫で、下位篦撫で後篦磨き	器面剝落被熱による変色
	2	H―116	14＋竈付近	1	土師器	甕	18.2	―	〈8.3〉	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/2	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部横方向の篦撫で	
	3	H―116	6	床直	土師器	甕	(13.5)	―	〈15.1〉	普通	褐灰色	細砂粒、白色粒黒色粒、角閃石、礫	口縁部～胴部	口縁部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	4	H―116	竈付近		土師器	甕	14.6	―	〈7.5〉	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/2	口縁部横撫で、頸部～胴部器面剝落のため調整痕不明	口縁部横撫で、胴部撫で	内外面スス付着、転用品か？
	5	H―116	竈付近		土師器	甕	―	5.2	〈10.0〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	胴部～底部1/3	胴部中位横方向篦削り、下位篦削り後篦磨き、底部篦削り	胴部篦撫で	
	6	H―116	7	1	土師器	小形甕	(10.6)	―	〈8.7〉	普通	にぶい褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、角閃石	口縁部～胴部1/3	口縁部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦磨き	
	7	H―116	竈右袖		土師器	小形甕	(12.0)	―	〈10.9〉	普通	にぶい褐色～灰黄褐色	細砂粒、白色粒、角閃石	口縁部～胴部1/4	口縁部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴上位篦磨き、胴部篦撫で	
	8	H―116	1	2	土師器	小型甕	―	5.2	〈6.6〉	普通	褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒	胴部～底部1/2	胴部篦撫で	胴部篦撫で	
	9	H―116	竈周辺		土師器	甑	15.8	6.4	10.4	普通	にぶい橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/2	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部横方向の篦撫で	
	10	H―116	14	1	土師器	甕	25.8	―	〈12.5〉	普通	橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/4	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部横方向の篦撫で	

第19表　古墳土器観察表(4)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第80図	11	H―116	6＋竈右袖	2	土師器	小型鉢	10.2	6.8	9.8	普通	褐色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部3/4	口縁部横方向の磨き、胴部磨き	口縁部横撫で、胴部篦磨き	内外面に暗文あり
第81図	1	H―116	10	1	土師器	ミニチュア坏	(6.4)	―	〈3.9〉	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	1/5	体部撫で、底部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	2	H―116	6	2	土師器	ミニチュア坏	(4.2)	―	〈2.8〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒	口縁部一部欠	体部撫で	体部撫で	
	3	H―116	8	床直	土師器	ミニチュア坏	(5.5)	3.2	2.0	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、黒色粒	口縁部1/5～底部	口縁部横撫で、体部篦削り、篦撫で	口縁部横撫で、体部撫で	
	4	H―116	14	2	土師器	ミニチュア鉢	4.5	2.7	3.7	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、角閃石、礫	口縁部1/2欠損	口縁部横撫で、胴部磨き	口縁部横撫で、胴部撫で調整	
	5	H―116	3	床直	須恵器	高坏	14.6	―	〈6.5〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～体部	轆轤整形、底部篦削り調整	轆轤整形	三方に方形透孔あり
	6	H―116	6	1	須恵器	蓋	(12.5)	―	4.0	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部片	口縁部横撫で、体部～天井部回転篦削り	口縁部横撫で	
	7	H―116	7	2	須恵器	蓋	(13.3)	―	〈2.0〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部片	轆轤整形	口縁部横撫で	
	8	H―116	10	1	須恵器	坏	―	―	(1.5)	還元焔	灰色	細砂粒、黒色粒、礫	底部片	轆轤整形、底部篦削り	轆轤整形	
	9	H―116	竈付近		須恵器	甕	―	―	〈6.4〉	酸化焔気味	にぶい橙色	細砂粒、礫、黒色鉱物粒	胴部1/3	横撫で後頸部に圏線を2本回し、間に波状文を施す	口縁部横撫で	波状文のクシ目不明瞭
	10	H―116	8	1	須恵器	大型甕	〈34.0〉	最大径67.4	〈90.4〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒	胴部上位～底部	胴部中位縦方向の平行叩き目、下位縦・横方向の平行叩き目	胴部同心円のアテ具痕を残す	
第82図	1	H―118	6＋7＋14		土師器	坏	14.0	―	5.5	普通	茶褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部横方向の磨き、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部放射状の磨き	内面底部に暗文あり
	2	H―118	4		土師器	坏	14.1	―	4.3	普通	褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部横方向の磨き、体部～底部篦削り	口縁部～底部横方向の磨き	内面に暗文あり
	3	H―118	竈		土師器	坏	(11.4)	―	〈4.3〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色粒、角閃石、礫	口縁部～体部1/3	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部篦磨き	
	4	H―118	4		土師器	高坏	16.2	―	〈8.6〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	坏部2/3	口縁部～体部粗い横撫で、体部下位～脚部篦削り	口縁部～体部横撫で、底部篦撫で	
	5	H―118	竈		土師器	高坏	16.0	―	〈11.2〉	普通	明赤褐色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～脚部1/3	口縁部横撫で、胴部下位～脚部篦磨き	口縁部横撫で、脚部篦撫で	
	6	H―118	竈		土師器	高坏	―	―	〈12.1〉	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	脚部	篦削り	脚部上部篦撫で、脚部下部篦削り	
	7	H―118	3＋竈内		土師器	小型甕	17.8	7.5	15.2	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	完形	口縁部～頸部横撫で、胴部～底部篦削り	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で	

第20表　古墳土器観察表(5)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第82図	8	H―118	2		土師器	小型甕	15.8	6.1	13.3	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫、褐色鉱物粒	口縁部1/2欠損	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り、底部撫で調整	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で	
	9	H―118	2		土師器	小型台付甕	12.1	5.0	9.1	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	ほぼ完形	口縁部～頸部横撫で、胴部～底部篦撫で	口縁部横撫で、胴部～底部篦撫で、裾端部篦撫で後指撫で	
	10	H―118	3＋竈内		土師器	甕	(20.3)	7.3	34.2	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、礫、褐色鉱物粒、片岩	口縁部2/3欠損	口縁部横撫で、頸部～胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	11	H―118	2		土師器	甑	24.5	8.3	26.5	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部1/4欠損	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部縦方向の篦撫で	
第83図	1	H―118	4		土師器	壺	―	8.0	27.8	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	胴部～底部2/3	胴部～底部篦削り	胴部～底部撫で調整	
	2	H―119	8		土師器	坏	14.0	―	4.8	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き	
	3	H―119	4		土師器	坏	13.8	―	5.5	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～底部1/2	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部横撫で、底部篦撫で	
	4	H―120	D1		土師器	坏	13.5	―	4.6	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～体部1/12、体部下位	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き	
	5	H―120	15		土師器	坏	(13.0)	―	〈3.5〉	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色粒	口縁部～体部1/3	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	6	H―120	P1		土師器	坏	(11.2)	―	〈5.7〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～体部1/5	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部～体部篦撫で	
	7	H―120	14		須恵器	蓋	(13.3)	―	〈3.0〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部片	口縁部～天井部横撫で	口縁部横撫で	
	8	H―120	10		土師器	甑	18.0	6.4	10.9	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り、底部指撫で	口縁部横撫で、胴部～底部横方向の篦撫で	
	9	H―120	不明		土師器	小型鉢	10.7	―	〈9.6〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～胴部1/2	口縁部～胴部上位篦磨き、下位篦撫で	口縁部篦磨き	
	10	H―123	3		土師器	坏	12.6	―	5.3	普通	茶褐色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒、雲母	完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り、撫で	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	11	H―123	3		土師器	坏	13.2	―	4.6	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	底部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	12	H―123	P4		土師器	坏	(12.7)	―	3.9	普通	茶褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、角閃石、礫	口縁部片	口縁部～体部磨き、底部篦削り	口縁部～底部磨き	内外面に暗文あり
	13	H―123	竈		土師器	高坏	―	(13.3)	〈3.2〉	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色粒	脚部のみ	脚部篦磨き	脚部篦削り、裾部横撫で	

第21表　古墳土器観察表(6)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第83図	14	H―123	竈		土師器	坏	(13.4)	―	〈5.2〉	普通			口縁部～底部1/7	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部～体部篦磨き	
第84図	1	H―123	P3		土師器	甑	23.8	8.7	28.6	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/3	口縁部～頸部横撫で、胴部上位縦方向の篦削り、下位篦撫で、底部横撫で	口縁部横撫で、胴部縦方向の篦撫で、篦磨き	
	2	H―123	P2		土師器	甑	(23.3)	―	〈21.5〉	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～胴部片	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部縦方向の篦撫で	
	3	H―124	3＋7		土師器	甑	20.0	―	〈8.6〉	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～体部上位1/5	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部～胴部縦方向の篦撫で	
	4	H―125	3		土師器	坏	15.5	―	5.5	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫、褐色鉱物粒	口縁部～底部3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	5	H―125	8		土師器	坏	11.7	―	3.4	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫、褐色鉱物粒	口縁部～底部3/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で	
	6	H―126	15＋16		土師器	坏	13.4	―	4.0	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	7	H―126	16		土師器	坏	13.6	―	4.2	普通	にぶい褐色	細砂粒、白色粒、角閃石、小礫	口縁部2/3欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	8	H―126	16＋土坑		土師器	坏	13.4	―	4.6	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	9	H―126	11		土師器	坏	14.3	―	5.7	普通	橙色	細砂粒、角閃石、礫、褐色鉱物粒、白色粒	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、体部撫で、底部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
	10	H―126	竈周辺		土師器	坏	(12.4)	―	〈3.5〉	普通	にぶい黄褐色	細砂粒、褐色鉱物粒	1/4	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部～底部撫で	
第85図	1	H―127	3		土師器	坏	(12.2)	―	5.7	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒	1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部篦磨き	内面に暗文あり
	2	H―127	D1		土師器	坏	(11.8)	―	〈3.4〉	普通	橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、小礫	口縁部～底部片	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部篦磨き	
	3	H―127	3		土師器	坏	12.9	―	5.9	普通	外 橙色、内黒色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/3欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部篦磨き	内面に暗文あり
	4	H―127	3		土師器	坏	14.0	―	5.2	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、体部篦削り、底部篦撫で	口縁部横撫で、体部～底部篦磨き	内面に暗文あり
	5	H―127	2		土師器	坏	10.9	―	4.9	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、小礫	口縁部一部欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	内面に篦先の当たりあり
	6	H―127	10		土師器	高坏	16.3	13.0	12.2	普通	褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～脚部	口縁部横撫で、体部篦磨き、底部～脚部撫で、裾部横撫で	口縁部横撫で、体部篦磨き、脚部篦削り後篦撫で、裾部横撫で	内外面の坏部に暗文あり

第22表　古墳土器観察表(7)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第85図	7	H―127	2＋竈内		土師器	高坏	14.4	9.5	9.7	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/2、底部3/4欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦撫で、脚部篦磨き	口縁部～底部磨き、脚部上位篦削り後篦撫で、下位～裾部横撫で	外面脚部と内面体部に暗文あり
	8	H―127	15		土師器	高坏	14.9	9.3	9.2	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部1/4欠損	口縁部～体部篦撫で、底部横撫で、脚部磨き	口縁部～底部磨き、脚部横撫で	外面脚部と内面体部に暗文あり
	9	H―127	16		土師器	高坏	(15.4)	9.4	10.0	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部2/3欠損	口縁部横撫で、体部篦撫で、底部～脚部縦方向の磨き	口縁部～底部磨き、脚部撫で調整	内面底部に十字の暗文あり
	10	H―127	3		土師器	小型鉢	9.7	6.6	7.6	普通	赤褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部横撫で、胴部撫で調整	口縁部横撫で、胴部撫で調整	
	11	H―127	1		土師器	甕	(20.0)	6.5	31.0	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部2/3	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り、下位～底部篦撫で	口縁部横撫で、胴部撫で調整	
	12	H―127	3		土師器	甑	22.6	9.1	3.4	普通	明褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、頸部～胴部撫で調整、下位篦削り	口縁部横撫で、胴部撫で	
第88図	1	H―127	6		土師器	甕	(18.5)	―	〈13.5〉	普通	にぶい黄褐色	細砂粒、白色粒、礫、片岩	口縁部～胴部	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	2	H―127	2＋竈内		土師器	甕	―	6.3	〈22.7〉	普通	褐色	細砂粒、白色粒、褐色鉱物粒、礫、片岩	胴部～底部	胴部縦方向の篦削り	胴部篦撫で	
	3	H―130	3	上層	土師器	坏	(15.0)	―	〈4.3〉	普通	灰黄色～黒褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～体部1/8	口縁部横撫で、体部篦磨き	口縁部横撫で、体部篦磨き	内面に放射状の暗文
	4	H―130	3		土師器	坏	―	―	〈3.2〉	普通	黒褐色	細砂粒、白色粒	口縁部～体部1/7	口縁部横撫で、体部篦磨き	口縁部～体部横撫で	
	5	H―130	11		須恵器	甑	―	―	〈5.0〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、礫	胴部片	頸部横撫で、体部下位撫で調整、沈線の後刻み	胴部横撫で	
	6	H―130	8＋15		土師器	甕	(13.2)	―	(19.5)	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、小礫	口縁部～胴部1/5	口縁部横撫で、頸部指頭痕、胴部篦削り後撫で調整	口縁部横撫で、胴部横方向の篦撫で	
	7	H―130	14＋15＋16		土師器	甕	(21.0)	―	〈9.9〉	普通	にぶい褐色	細・粗砂粒、礫	口縁部～胴部上位1/4	口縁部横撫で、頸部～胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	8	H―130	8	上層	土師器	甕	21.0	―	〈8.5〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、小礫	口縁部～胴部上位1/3	口縁部～頸部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	9	H―130	9＋14		土師器	甕	(13.0)	―	〈6.7〉	普通	黒褐色	細砂粒、角閃石	口縁部～胴部上位1/4	口縁部～頸部横撫で、胴部一部無調整、篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
第87図	1	H―129	竈内		土師器	坏	14.2	―	6.2	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り（後の磨耗により篦削り不鮮明）	口縁部横撫で、体部横方向の細かい篦磨き	
	2	H―129	竈内		土師器	坏	13.7	―	5.5	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～体部横撫で、底部篦の当たりあり	調整やや粗雑

第23表　古墳土器観察表(8)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第87図	3	H―129	10		土師器	坏	14.5	―	5.3	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～底部1/3	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で	硬い粘土質表面にひび割れ
	4	H―129	2		土師器	坏	(15.0)	―	〈5.0〉	普通		細砂粒	1/6	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面黒色処理
	5	H―129	10		土師器	坏	12.1	―	5.5	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、雲母	口縁部～底部4/5	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部篦撫で後篦磨き	
	6	H―129	3		土師器	坏	12.7	―	5.5	普通	にぶい黄褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/7	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部～底部篦磨き	内面に暗文あり
	7	H―129	12		土師器	坏	(15.0)	―	〈5.5〉	普通		細砂粒	1/5	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部～体部篦磨き	内面黒色処理
	8	H―129	2		土師器	小型鉢	16.4	4.9	12.9	普通	にぶい橙色	細砂粒、黒色粒、礫、褐色鉱物粒	口縁部～底部1/2	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り、底部指撫で調整	口縁部指撫で、胴部篦撫で、底部指撫で	粘土紐積痕器形に歪みあり
	9	H―129	2	床直	土師器	小形甕	(15.8)	6.7	14.5	普通				口縁部横撫で、胴上位刷毛目、胴下位篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	10	H―129	3＋竈内		土師器	小型甕	13.5	6.2	16.2	普通	にぶい赤褐色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～底部2/3	口縁部～頸部横撫で、胴部～底部丁寧な篦削り 、底部は篦削りにより多角形を呈す	口縁部横撫で、胴部篦撫で、底部指撫で	器形に歪みあり
	11	H―129	3		土師器	甕	15.6	―	〈10.5〉	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～胴部	口縁部～頸部横撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	12	H―129	6		土師器	甑	20.1	7.4	23.8	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、褐色鉱物粒	口縁部～底部3/4	口縁部～頸部横方向の篦撫で、胴部縦方向の篦削り	口縁部横方向の篦撫で、胴部横方向の篦撫で	口縁部～頸部に刷毛目あり輪積痕あり
第88図	1	1トレンチ		H1	土師器	甕	(17.8)	―	〈15.7〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒	口縁部～体部1/7	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で、工具のクシ目が残る	
	2	1トレンチ		H1	土師器	小型甕	11.9	4.9	14.7	普通	にぶい褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	口縁部～底部1/4	口縁部～頸部横撫で、胴部～底部篦削り	口縁部横撫で、胴部～底部撫で	
	3	1トレンチ		H1	土師器	坏	12.1	―	4.1	普通	にぶい褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒	底部一部欠損	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	内外面に塗付物あり
	4	1トレンチ		H3	須恵器	広口壺	(12.9)	―	〈4.2〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒	口縁部片	口縁部横撫で、胴部上位波状文を施す	口縁部～胴部横撫で	器形に歪みあり
	5	1トレンチ		H14	土師器	小型甕	11.5	(6.9)	14.7	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～底部1/2	口縁部横撫で、頸部～胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で、下位指撫で	
	6	2トレンチ		H17	土師器	甕	15.0	5.0	22.5	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部～底部3/4	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	7	2トレンチ		H17	須恵器	高坏	―		〈3.2〉	還元焔	灰黄色	細砂粒、白色粒	脚部片	脚部横撫で		方形の透孔あり
	8	2トレンチ		H19	土師器	甕	(21.8)	―	〈12.0〉	普通	橙色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒、礫	口縁部～胴部1/4	口縁部～頸部横撫で、胴部篦削り	口縁部横撫で、胴部篦撫で	
	9	2トレンチ		H18	土師器	高坏	18.2	15.2	23.1	普通	橙色	細砂粒、黒色粒、褐色鉱物粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、底部～脚部篦削り、裾端部横撫で	口縁部～底部横撫で、脚部篦撫で、裾部横撫で	

第24表　古墳土器観察表(9)

挿図No.	番号	遺構名	区	層	種類	器種	法量（cm）			成・整形技法の特徴						備　考
							口径	底径	器高	①焼成	②色調	③胎土	④残存	外　　面	内　　面	
第88図	10	3トレンチ		H32	土師器	小型甕	—	4.8	〈3.4〉	普通	にぶい橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	胴部～底部	胴部下位横方向の篦削り	胴部下位撫で	
	11	4トレンチ		H35	土師器	高坏	—	14.4	(10.1)	普通	橙色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	脚部	脚裾部横撫で後縦方向の篦削り	粘土紐積痕を残す	
	12	5トレンチ		H36	土師器	坏	14.8	—	4.4	普通	明赤褐色	細砂粒、白色粒、礫	口縁部～体部1/3	口縁部横撫で、体部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
第89図	1	5トレンチ		H37	土師器	坏	11.6	—	3.9	普通	にぶい黄橙色	細砂粒、白色粒、黒色粒、礫	口縁部1/4欠損	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	2	5トレンチ		H38	土師器	坏	(13.5)	—		普通	茶褐色	細砂粒、黒・褐色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	3	6トレンチ		H45	土師器	坏	(11.6)	—	3.5	普通	にぶい橙色	細砂粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部～底部1/4	口縁部横撫で、体部～底部篦削り	口縁部横撫で、体部撫で	
	4	5トレンチ		H38	須恵器	長頸壺	(12.5)	—	〈2.8〉	還元焔	灰色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	口縁部片	口縁部横撫で、頸部に波状文を施す	口縁部横撫で	
	5	9トレンチ		H52	須恵器	坏	—	—	〈4.5〉	還元焔	灰黄色	細砂粒、白色粒、黒色鉱物粒、礫	2/3	体部横撫で、底部回転篦削り	底部～体部回転撫で	線刻あり
	6	4トレンチ			弥生土器	鉢	13.6	4.2	5.0	普通	橙色	細砂粒、角閃石	2/3	体部～底部篦磨き	体部篦磨き	
	7	1トレンチ		H1	須恵器	坏	14.0	6.4	4.3	還元焔	灰色	細砂粒、小礫	完形	轆轤整形、回転横撫で、底部回転糸切り・無調整	回転横撫で	内外面に「東」の墨書
	8	5トレンチ		H38	土師器	甑	24.8	11.5	31.0	普通	橙色	細砂粒、褐色鉱物粒、礫	ほぼ完形	口縁部横撫で、胴部縦方向の篦削り、胴部下位撫で	口縁部横撫で、胴部細かい縦方向の篦撫で調整	

（　）は推定値　〈　〉は残存値

第25表　古墳土器観察表(10)

Ⅴ　成果と問題点

弥生時代

本遺跡の土器群の古段階は弥生Ⅴ３期(樽式３期併行)、中段階は古墳Ⅰ１期、新段階は古墳Ⅰ２期からⅡ期にかけての時期に比定できる。古墳Ⅰ１期は、東海西部系外来土器を中心に土器の広域交流が進行する時期、古墳Ⅰ２期は群馬型のＳ字甕を核に石田川土器様式が生成する段階に並行する。

外来系土器が卓越し、樽式系土器を急速に払拭する旧群馬郡域と異なり、この地域では在来系土器の消失がやや緩やかである。また、新段階に輪積み手法を用いる甕が残存していることが注意される。石田川式土器が主体的に生成される旧群馬郡域や佐波・新田郡域に比べ、Ｓ字化が遅れる周縁地域として、同環境にある赤城山南麓に類似した様相がみられる。すなわち輪積み甕の健在と残存である。古墳時代社会の変質は一気に加速したのではなく、中心と周縁においてそれぞれ異なる歩みを示しているのである。

（若狭　徹）

古墳時代

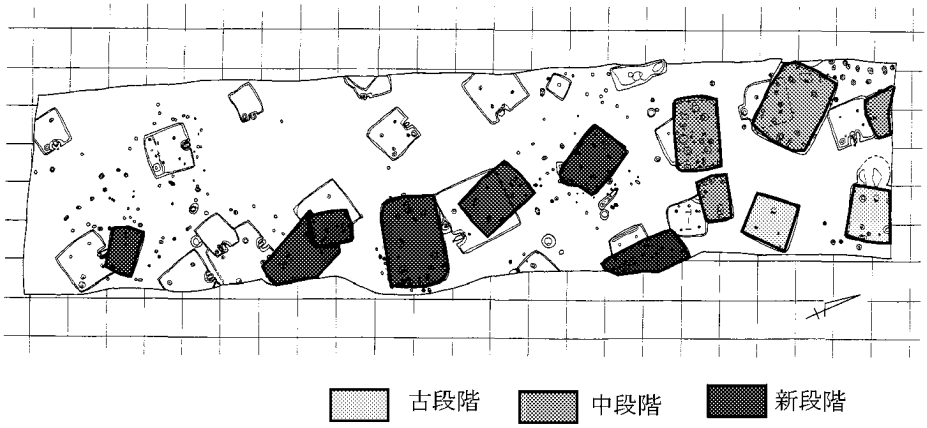
⑴　集落について

本遺跡では弥生時代後期後半から古墳時代後期の住居址が検出されており、碓氷川南の上位段丘上東部における中核的な集落と言える。周辺の下原・賽神遺跡、蔵畑遺跡、蔵畑Ⅱ遺跡、道前久保遺跡等と時期的にも補完関係にあり、併せて遺跡群として捉える必要がある。本遺跡は弥生時代の強い伝統が残る古墳時代前半の時期から一時期の断絶の後、再び居住域とされるのは古墳時代中期後葉からである。その後、古墳時代後期後半に至るまで継続的に集落として展開している。集落最終末期は蔵畑遺跡の後半期に継続する。集落の中心が時期によって変動しながら継続している地域である。

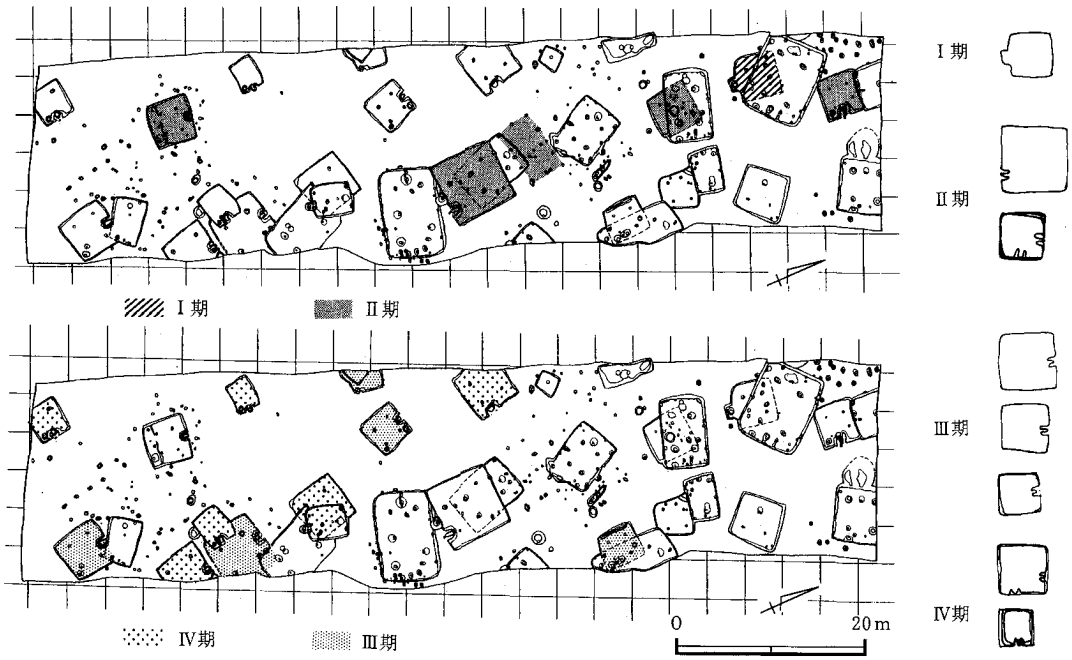
⑵　遺構について

本遺跡の古墳時代には特異な形状の住居が存在する。Ⅰ期のＨ―103号住居址は貯蔵穴のある方形の張り出しを持つ。住居規模は当期においては一般的な中型である。同様な平面形を持つ住居は県央の平野部でも東部の伊勢崎地区に散見する。県西部の平野部では検出されていないようである。鏑川流域では富岡市内匠遺跡に類例がある。内匠遺跡２号住居は一辺８ｍを超す超大型住居で、方形の張り出しに貯蔵穴を設置している。古墳時代後期初頭に属し、諏訪ノ木遺跡のⅡ期

弥生時代



古墳時代



第90図　時期別住居址分布図

に相当する。富岡地域でも類例が少ない住居形態であり、また、当地域でも非常に希である。II期に所属するH―116号住居址は住居規模が大きいこと、南辺中央に張り出して貯蔵穴を設置していることなど、住居設計において内匠遺跡2号住居と性格の似た建物であると考えられる。竈を南に造っていることから、北側に検出されたHT―1号掘立柱建物址との関連性が考えられる。H―103号住居址とH―116号住居址は上部構造も他の一般的な住居とは異なっていたと思われ、当地域再開発の本格化にあたって中核的な役割を担った建物であると推測できる。

同時期の住居間には一定の空間が認められた。限定された調査のため断定は出来ないが、各期とも住居軸線方向やその配置に計画性がうかがわせる

⑶　土器について

本遺跡の土師器類は、群馬県の平野部の土器群に比べて作りが厚ぼったく重いものが多い。坏類の器肉も厚めである。鬼面調整にヘラ磨きを多用する傾向も看取できる。また、甕や坏の胎土には片岩や雲母状の片岩くずを混入するものやチャートなど変成岩を混入するものが多い。これらの特徴は鏑川流域のものと共通性があり、当地域が鏑川流域と土器供給に代表される同一経済圏にあったと解釈できる。

（外山政子）

〈主要参考文献〉

赤山容造・坂口　一　1982 『伊勢崎東流通団地遺跡』群馬県企業局

井上　太他　1982 『内匠遺跡発掘調査報告書』富岡市教育委員会

石野博信　1990 『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館

若狭　徹　1996 「群馬県地域」『YAY！』弥生土器を語る会

若狭　徹・大工原　豊　2001 「諏訪ノ木遺跡（弥生時代）」『安中市史』第4巻原始古代中世資料編

外山政子　2001 「諏訪ノ木遺跡（古墳時代）」『安中市史』第4巻　原始古代中世資料編

大工原　豊・若狭　徹・外山政子他　2001 『安中市史』第4巻　原始古代中世資料編

大工原　豊・若狭　徹・右島和夫他　2003 『安中市史』第2巻　通史編

Ⅵ　諏訪ノ木遺跡の火山灰分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

１．はじめに

碓氷川右岸の高位段丘面上に位置する諏訪ノ木遺跡では、土層断面からローム層中に合わせて10層のテフラが確認された(図１、図２)。ここでは、これらのテフラを、下位より諏訪ノ木第１～10テフラ（Sw-１～10）と呼ぶことにする。これらのテフラのうち、最上位にあるSw-10は、これまでに認められなかったテフラである。このテフラは今後重要な示標テフラになる可能性があることから、テフラの鉱物分析を行い、その特徴を記載する。

２．テフラの特徴

下位より順にSw-１～10について、特徴を記載する。

諏訪ノ木第１テフラ（Sw-１）：層厚３㎝の白色ガラス質火山灰層である。ローム層の下位の粘土層の最上部に層位がある。層位及び層相から、このテフラは約2.1―2.2万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT、町田・新井1976）に対比されると考えられる。

諏訪ノ木第２テフラ（Sw-２）：層厚55㎝の降下軽石層。下位より白色軽石層(層厚８㎝)、白色軽石層（層厚６㎝)、黄白色軽石層（層厚11㎝)、黄色粗粒軽石層（層厚24㎝)、黄色細粒軽石層（層厚５㎝)の５つのフォール･ユニットから構成されている。層相から、浅間-室田軽石層(As-MP、早田1990）に対比される。

諏訪ノ木第３テフラ（Sw-３）：暗色帯を挟んでSw-２の上位にある層厚11㎝の灰色粗流火山灰層である。層相から約1.6―2.1万年前に浅間火山から噴出した浅間-板鼻褐色軽石群（As-BP Group、早田1990）の一部に対比される。

諏訪ノ木第４テフラ（Sw-４）：層厚18㎝の黒色粗流火山灰層である。橙色の軽石が混じる。特に最下部２㎝は、軽石に富む。層相から、浅間-板鼻褐色軽石群（As-BP Group、早田1990）の一部に対比される。

諏訪ノ木第５テフラ（Sw-５）：層厚29㎝の軽石に富む橙色軽石層である。層相から、浅間-板鼻褐色軽石群（As-BP　Group、早田1990）の一部に対比される。

諏訪ノ木第６テフラ（Sw-６）：層厚８㎝の黄灰色粗粒火山灰層である。下部４㎝は、橙色の軽石に富む。層相から、浅間-板鼻　褐色軽石群（As-BP Group、早田1990）の一部に対比される。

諏訪ノ木第７テフラ（Sw-７）：橙色軽石と黄色の粗粒火山灰の互層である。層相から、浅間―板

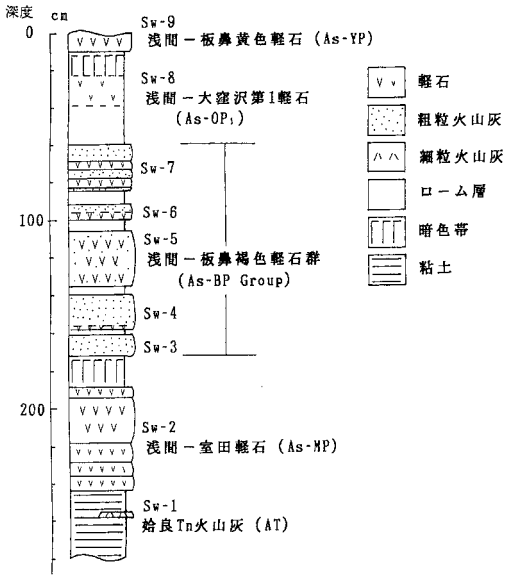


図1　諏訪ノ木遺跡深掘トレンチのテフラ層序

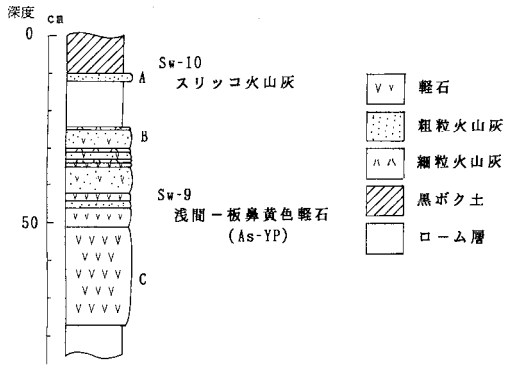


図2　諏訪ノ木遺跡ローム層最上部のテフラ

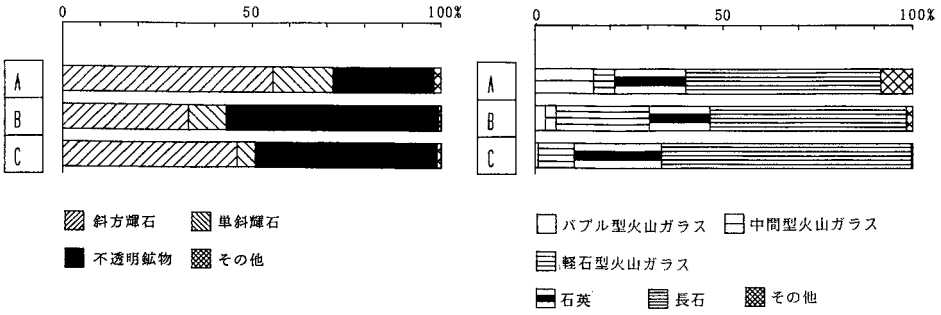


図3　諏訪ノ木遺跡 重鉱物組成および軽鉱物組成ダイヤグラム

表1　諏訪ノ木遺跡 重鉱物組成

試料番号	重鉱物組成					同定鉱物粒数
	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	不透明鉱物	その他	
A	139	40	5	66		250
B	83	25		140	2	250
C	114	12		121	3	250

表2　諏訪ノ木遺跡 軽鉱物組成

試料番号	軽鉱物組成						同定鉱物粒数
	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	
A		39	14	47	129	21	250
B	7	7	62	40	130	4	250
C	2		24	58	165	1	250

テフラ分析図

鼻褐色軽石群（As-BP　Group、早田1990）の一部に対比される。

諏訪ノ木第８テフラ（Sw-８）：ローム層中に散在する白色軽石である。岩相から、浅間山起源の浅間-大窪沢第１軽石（As-OP1、中沢他1984）に由来するものと考えられる。As-OP1は、約1.5万年前に浅間山から噴出した浅間-白糸軽石（As-SP、町田他1984）の上位、約1.3―1.4万年前に浅間火山から噴出した浅間-板鼻黄色軽石（As-YP、新井1962、町田他1984）の下位にあることが知られている（中沢他1984）。

諏訪ノ木第９テフラ（Sw-９）：厚い黄色軽石層（層厚26㎝）と、その上位にのる軽石と火山灰の互層（層厚26㎝）からなる。層相から、本テフラはAs-YPに対比される。

諏訪ノ木第10テフラ（Sw-10）：層厚12㎝のローム層を挟んでSw-９の上位にのる黄褐色火山灰層である。固結した粗粒火山灰層で、地元では「スリッコ」と呼ばれている。

４．スリッコ（Sw-10）の鉱物分析

⑴　分析の目的と試料

従来示標テフラとして知られていないSw-10（試料Ａ）について、その特徴を記載するため鉱物分析を行って、鉱物組成を明らかにすることにした。また、その下位にあるAs-YPと比較するため、Sw-９の下部の厚い軽石層に含まれる軽石（試料Ｃ）と、上部の粗粒火山灰（試料Ｂ）についても合わせて分析を行うことにした。

⑵　分析方法

鉱物分析は、次の手順で行われた。

１）試料30ｇを秤量。

２）試料Ａについて軽石を粉砕。

３）超音波洗浄装置により、泥分を除去。

４）80℃で恒温乾燥。

５）分析篩により、１/４―１/８㎜の粒子を篩別。

６）テトラブロモエタン（比重2.96）により、比重分離。

７）偏光顕微鏡下で重鉱物、軽鉱物各々250粒を同定。

⑶　分析結果

重鉱物組成をダイヤグラムにして図３に、その内訳を表１に示す。試料Ａには、斜方輝石(55.6%)、主に磁鉄鉱からなる不透明鉱物（26.4%）、単斜輝石（16.0%）などが認められる。ごく僅かであるが角閃石も認められる（2.0%）。すなわち「スリッコ」は斜方輝石と単斜輝石に富むいわゆる両輝石型のテフラであることが分かる。なお、試料Ｂには、主に磁鉄鉱からなる不透明鉱物が多く含まれている（56.0%）。他に斜方輝石（33.0%）や単斜輝石（10.0%）が含まれている。

また、試料Ｃには、主に磁鉄鉱からなる不透明鉱物（48.0％）の他、斜方輝石（46.0％）や単斜輝石（4.8％）が含まれている。

軽鉱物組成をダイヤグラムにして図３に、その内訳を表２に示す。試料Ａには、長石(51.6％)や石英（18.8％）が多く含まれている。また、火山ガラスも比較的多く認められる（21.2％)。火山ガラスには分厚い中間型ガラスのほか、少量のスポンジ状に発泡した軽石型ガラスも認められる。ない、試料Ｂにも、長石（52.0％）や石英（16.0％）が多く含まれている。また、火山ガラスの割合も大きい(30.4％)。火山ガラスには繊維束状やスポンジ状に発泡した軽石型のほか、分厚い中間型や平板状のバブル型も少量認められる。繊維束状に発泡した軽石型火山ガラスに富む点で、試料Ａとは特徴を異にする。試料Ｃでも長石や石英の割合が大きい。ただし、本試料については、分析の際に粉砕作業を行っていることから、火山ガラスの割合については検討できない。

５．まとめ

諏訪ノ木遺跡のローム層中には、合計10層のテフラが認められた。As-YP の上位、ローム層の最上部に位置する Sw-10は、地元で「スリッコ」と呼ばれるテフラである。鉱物分析の結果から、スリッコは両輝石型のテフラであること、分厚い中間型ガラスやスポンジ状に発泡したガラスで特徴づけられることが明らかとなった。スリッコはローム層中に存在することから、後期更新世末期の浅間火山軽石流期のテフラの一つと考えられる。従来よりこの時期のテフラとしては、下位より浅間-大窪沢第１軽石（As-OP1)、浅間-大窪沢第２軽石（As-OP2)、浅間―板鼻黄色軽石（As-YP)、浅間-草津黄色軽石（As-YPk)、さらに浅間-総社軽石（As-Sj、早田1990）が知られている。今後はスリッコと As-YPk および As-Sj との層位関係を明らかにする必要がある。

〈付記〉　本分析は1991年当時のものであるため、若干のデータ及び名称等に訂正する点もあるが、ここでは分析結果をそのまま掲載した。なお、姶良 Tn 火山灰等の年代については、最近では本分析結果の年代より測定値が古くなっている（AT：2.4-2.5万年前)。　（井上）

〈文献〉

新井房夫　1962 「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10

町田　洋・新井房夫　1976 「広域に分布ずる火山灰-姶良 Tn 火山灰の発見とその意義-」『科学』46

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫　1984 「テフラと日本考古学-考古学研究と関係するテフラカタログ-」『古文化財に関する保存科学と人文・自然科学』

中沢英俊・遠藤邦彦・新井房夫　1984 「浅間火山，黒斑～前掛期のテフラ層序」『日本第四紀学会　講演要旨集』№14

早田　勉　1990 「群馬県の自然と風土」『群馬県史』通史編１

写　真　図　版

諏訪ノ木遺跡　遠景

諏訪ノ木遺跡　全景

図版２

Ｙ－101号住居址　遺物出土状況

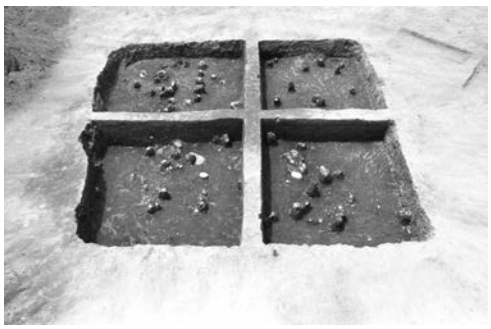
Ｙ－104号住居址

Ｙ－104号住居址　遺物出土状況

Ｙ－105号住居址

Ｙ－105号住居址　遺物出土状況

Ｙ－106号住居址



Ｙ－106号住居址　遺物出土状況

Ｙ－106号住居址　炭化材検出状況

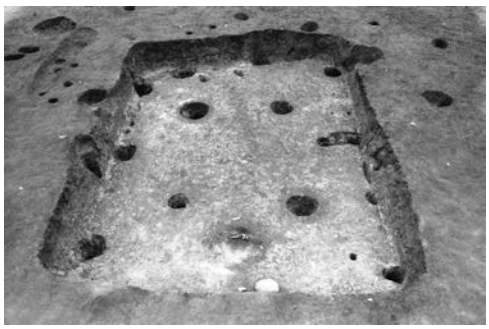
Ｙ－107号住居址

Ｙ－107号住居址　遺物出土状況

Ｙ－108号住居址

Ｙ－110号住居址

Ｙ－110号住居址　遺物出土状況



Ｙ－112号住居址

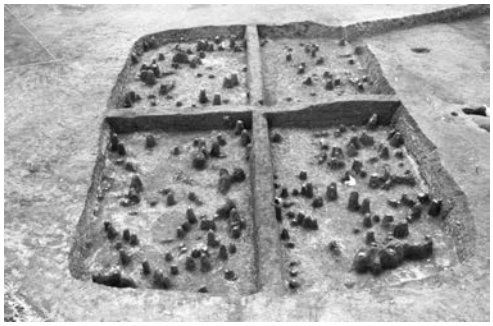
Ｙ－112号住居址　遺物出土状況

Ｙ－113号住居址

図版４

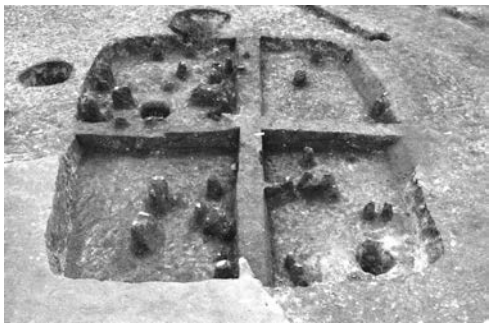
Ｙ－115号住居址

Ｙ－117号住居址



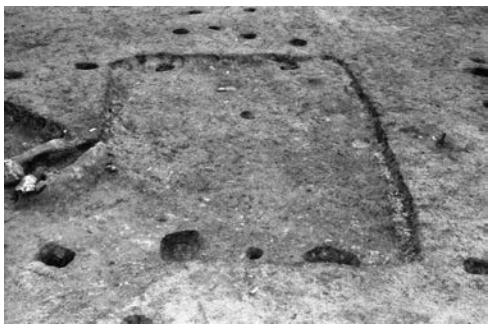
Ｙ－117号住居址　遺物出土状況

Ｙ－121号住居址

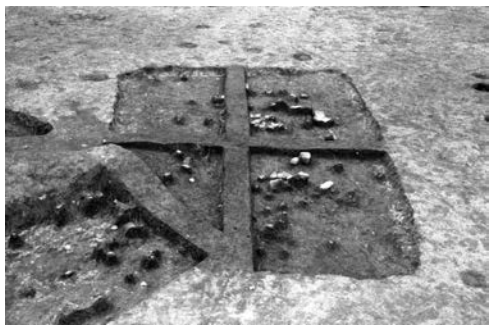


Ｙ－121号住居址　遺物出土状況

Ｙ－122号住居址

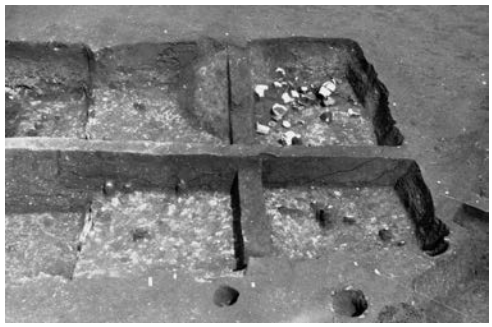


Ｙ－128号住居址



Ｙ－128号住居址　遺物出土状況

Ｈ－102号住居址



Ｈ－102号住居址　遺物出土状況

Ｈ－103号住居址

Ｈ－103号住居址　土層断面

Ｈ－103号住居址　竈

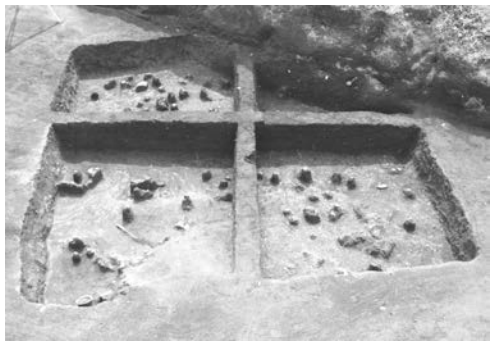
Ｈ－109号住居址

Ｈ－111号住居址

Ｈ－111号住居址　竈

図版６

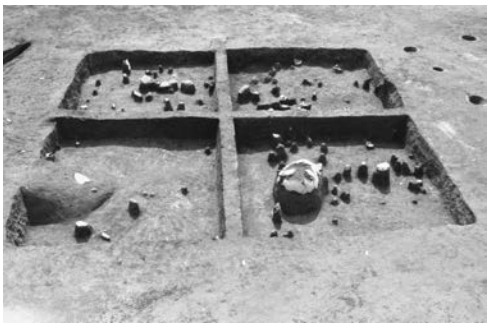
Ｈ－114号住居址



Ｈ－114号住居址　遺物出土状況

Ｈ－114号住居址　竈

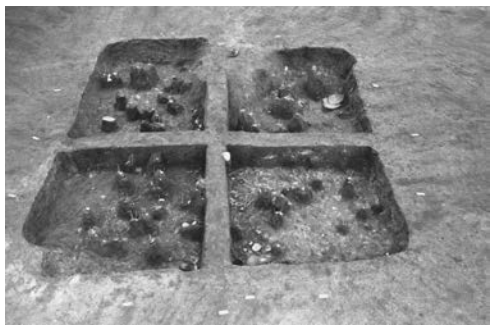
Ｈ－116号住居址



Ｈ－116号住居址　遺物出土状況

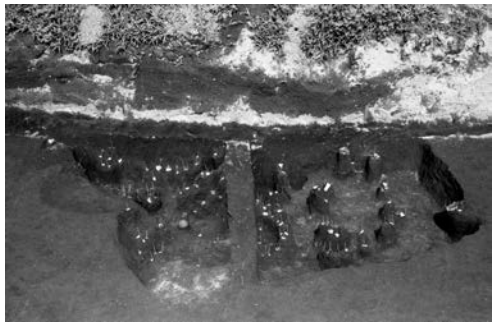
Ｈ－116号住居址　竈

Ｈ－118号住居址



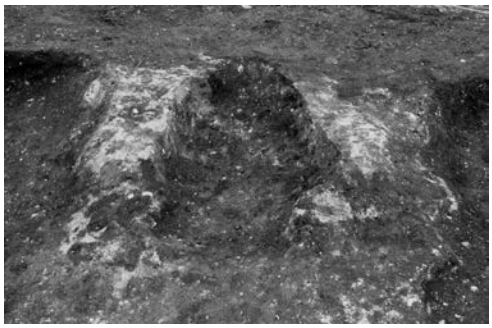
Ｈ－118号住居址　遺物出土状況

Ｈ－118号住居址　竈



Ｈ－119号住居址　遺物出土状況

Ｈ－120号住居址



Ｈ－120号住居址　竈

Ｈ－123・124号住居址

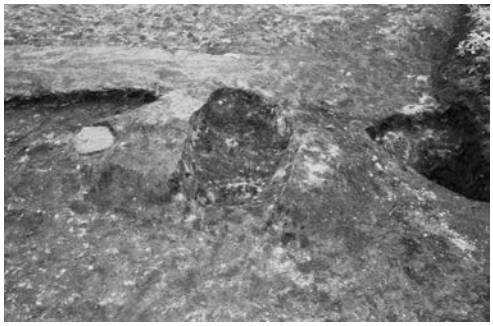
Ｈ－123号住居址　竈

Ｈ－124号住居址　遺物出土状況

Ｈ－124号住居址　竈

図版８

Ｈ－125号住居址

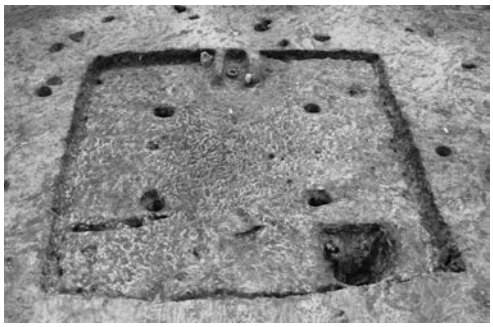


Ｈ－125号住居址　竈

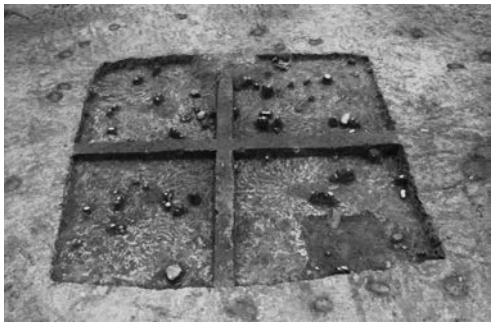
Ｈ－126号住居址

Ｈ－126号住居址　遺物出土状況

Ｈ－126号住居址　竈



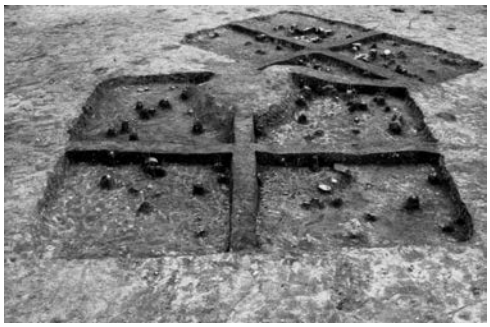
Ｈ－127号住居址



Ｈ－127号住居址　遺物出土状況

Ｈ－127号住居址　竈

Ｈ－129号住居址

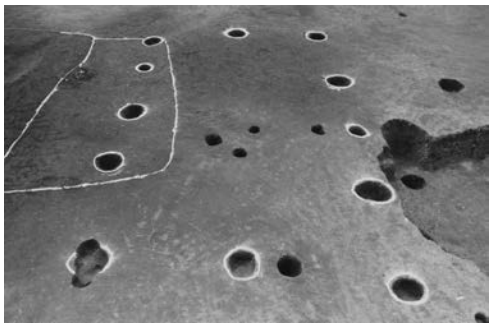


Ｈ－129号住居址　遺物出土状況

Ｈ－129号住居址　竈

Ｈ－130号住居址

Ｈ－130号住居址　遺物出土状況



ＨＴ－１号掘立柱建物址

Ｔ－３号竪穴状遺構

Ｓ－１号集石

図版10

Y－101号住　甕

Y－104号住　甕

Y－105号住　甕

Y－105号住　甕

Y－105号住　甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　小型甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　甕

Y－106号住　小型甕

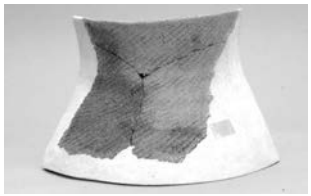
Y－106号住　ミニチュア土器

Y－106号住　高坏

Y－106号住　高坏

Y－106号住　有孔鉢

Y－106号住　鉢

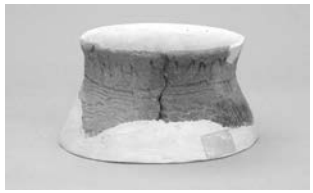

Y－107号住　甕

Y－107号住　小型甕

Y－107号住　甕

Y－107号住　甕

Y－107号住　甕


Y－107号住　甕

Y－107号住　鉢

Y－107号住　甕

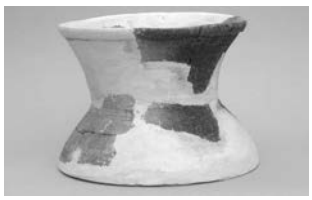
Y－107号住　片口土器

Y－107号住　小型甕

Y－107号住　甕

Y－107号住　甕

Y－107号住　甕


Y－107号住　甕

Y－108号住　ミニチュア土器

図版12

Y－110号住　甕

Y－110号住　甕

Y－115号住　甕

Y－128号住　壺

Y－110号住　台付甕

Y－110号住　高坏

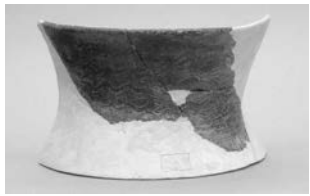
Y－110号住　甕

Y－117号住　甕

Y－117号住　壺

土製紡錘車

Y－110号住　甕



Y－110号住　甕

Y－110号住　有孔鉢

Y－117号住　甕

Y－117号住　甕

部分研磨石器

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　坏

H－103号住　甕

H－103号住　甑

H－103号住　小型甕

H－118号住　坏

H－118号住　坏

H－118号住　高坏

H－118号住　高坏

H－118号住　台付甕

H－118号住　小型甕

図版14

H－118号住　小型甕

H－127号住　坏

H－127号住　坏

H－127号住　ミニチュア鉢

H－127号住　甕

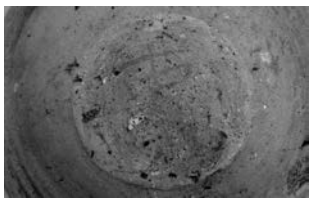
1トレンチ（H１）須恵器

H－118号住　甕

H－127号住　坏

H－127号住　高坏

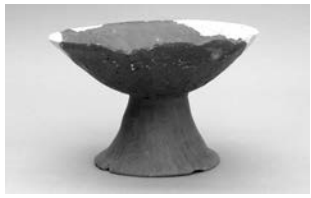
H－127号住　甕



墨書部分（底部）

H－118号住　甑

H－127号住　坏



H－127号住　高坏

H－127号住　甑

墨書部分（内面）

発掘調査報告書　抄録

ふりがな	すわのきいせき
書名	諏訪ノ木遺跡
副書名	工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編著者名	井上慎也　大工原　豊　若狭　徹　外山政子　㈱パリノ・サーヴェイ
編集機関	安中市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	379-0192　群馬県安中市安中一丁目23-13（安中市教育委員会内）
発行年	西暦2005年（平成17年）３月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
諏訪ノ木遺跡（すわのきいせき）	安中市大竹字諏訪ノ木（あんなかしおおたけ あざすわのき）	102113	F－4	36°18′17″	138°53′58″	19900507～19900718	1,900㎡	工場建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
諏訪ノ木遺跡	集落	弥生後期～古墳初頭	住居址　14	弥生土器（壺、鉢、甕、高坏等）・土製紡錘車・石器（部分研磨石器、砥石）	弥生土器は樽式系に赤井戸・吉ケ谷式系と東海系の影響をもつ。
		古墳中期～後期	住居址　17 掘立柱建物址　1 竪穴状遺構　3 集石　2	土師器（坏、高坏、甕、甑等）・須恵器、土製紡錘車	鏑川流域の土器群の影響をもつ。

諏訪ノ木遺跡

―工場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

発行日　平成17年３月31日

編集・発行　安中市埋蔵文化財発掘調査団
群馬県安中市安中一丁目23番13号
（安中市教育委員会内）

印刷　朝日印刷工業株式会社
群馬県前橋市元総社町67